

サルキハ、適當セル代人ヲ出スヲ許ス、即佛國及希臘各國ノ法是レナリ、他ノ一法ハ、甚嚴ナル者ニシテ、本人必ス兵士トナルヲ要シテ、決シテ代人ヲ出スヲ許サス、即普魯士等ノ如キ是レナリ、○國勢ノ更ニ強大ニ至ルヲ務メ、攻伐ヲ事トスル國、或ハ下民ヲ制御スルニ、政府強盛ノ威權ヲ要スル國ノ如キハ、右第二法ノ如キ嚴法ヲ用フルヲ緊要ナリ、去レハ此法ハ、私人ノ自由權ヲ十分ニ敬重スル、方今文明國普通ノ狀態ニハ、決シテ適應セサルナリ、

〔第四〕護國軍ハ、國內ノ防禦、及ヒ其兵和保護ノ爲ニ設クル者ニシテ、國境外ニ用フル者ニアラス、○護國軍ノ兵數充足シ、其編制宜シキヲ得、及ヒ其技術練熟スルキハ、能ク國民ノ銳氣ヲ養フテ、挫折セサラシメ、且同數ノ常備兵ニ比スルニ、其費用更ニ少許ヲ要シテ、以テ國家ノ勢力ヲ振起スルニ足ル可シ、○加之、護國軍ハ、常ニ國民中ニ在リテ之ト相合スルヲ以、政府ノ權トイヘ、此兵ヲ用ヒ、強ヒテ民人ノ自由ヲ壓制スル能ハサルカ故ニ、此兵却テ能ク國家ノ序次、民人ノ自由ヲ保護スルニ足ルト云フ可ク、且此兵モ亦、常備兵ノ如ク武官ノ恭順(ミリテリセル、ゲホールサーム)〔按〕武官ノ上命ニ恭順スルノ法ハ、文官ノ上命ニ恭順スルノ法ヨリモ、更ニ嚴ナリ、)ヲ守ラサル可ラサルノ法アリテ、全ク國家元首ニ行屬スル者ナルカ故ニ、能ク國內ノ反側不逞ノ徒ヲ鎮壓スルニ足ルト云フ可シ、

○或ハ護國軍ヲ國境外ノ戰爭ニ用フル國アレハ、此事決シテ護國軍ノ常分ニアラス、是故ニ單ニ政府ノ指令ノミヲ以テ、之ヲ國境外ノ戰爭ニ用フルハ、決シテ許サ、ル所ナリ、○西班牙一千八百三十八年(天保九年)ノ國憲第七十七章ニ云「己ムテ得サルコアルニ方リテハ、國君各州(ブロヒンツ)ノナチオナール(ミリツ)〔按〕護國軍ナリ、)ヲ本州内ニ於テ用フルヲ得ヘシ、但若之ヲ本州外ニ用ヒント欲スルキハ必ス先コルテス(按)立法府ナリ、)ノ許可ヲ得サル可ラ

ス」ト、○比耳時ノ國憲第百廿三章ニ云「ビュルゲルガルテ(按)亦護國軍ナリ、)ヲ他方ニ出送セシメント欲スルキハ、必ス憲法ヲ以テ之ヲ定ム可シ」ト、

護國兵ハ、常備兵ノ如ク、常ニ戰事ニ從事スルヲ以テ、其當務ト爲サス、無事ノ日ニハ、各々其本業ニ歸從ス、是レ其常備兵ト相異ナル所以ナリ、去レハ又此兵ヲ以テ、ランドスツルム(按)非常ノ時、唯其居住ノ近傍ノミヲ防禦スル兵、)ト同視ス可ラス、何者、護國兵ハ、主トシテ武技ニ練熟スル者ヲ簡用スルカ故ニ、專ラ弱年及ヒ壯年ノ者ヨリ揀拔スト雖モ、ランドスツルムハ、然ラサレハナリ、○護國軍ハ常ニ常備軍ト相連絡シテ、例ヘハ、猶常備軍ハ、菓核ノ如ク、護國軍ハ其莢殼ノ如クナルヘシ、而シテ護國軍ハ必ス常備軍ニ同シキ精神ヲ備ヘ、及ヒ常備軍或ハ其本性ヲ失ヒ、遂ニ平民(按)兵士ニ對シテ云「ニ對シテ、離スルニ至ルヲ預防スルヲ其責トス、然ルニ護國軍ヲ以テ、全ク政府ニ從屬セスシテ、常備軍ト分隔セル者トナシ、且、護國軍ヲ以テ國ノ兵トシテ、而シテ王ノ兵ナル常備軍トハ、方ニ相反對セル者ナリト爲スルハ、遂ニ軍隊ノ和同破ル、カ故ニ、必竟國家ノ勢力ヲ増大スヘキ軍隊ナル者、却テ其力ヲ減損スルニ至ルノ害アリ、常備護國ノ二軍ハ、例ヘハ、猶雙手ノコトシ、故ニ其相應護スルヤ、當ニ双手ノ相應護スルカ如クナル可シ、然ルニ此二軍相和同セスシテ、互ニ監視スルキハ、猶左手ノ右手ヲ妨碍スルカコトク、其害タルヤ甚クカラス、

○〔按〕護國兵ハ、通例國境外ノ戰爭ニハ、應用セサレ、國內ノ防禦ニハ、當然用フ可キ者ナルカ故ニ、必ス強壯精銳ヲ要シテ、大抵四十五歳以下ノ者ヲ撰テ、用フトイヘ、ランドスツルムハ、大非常ノ形勢ニ隨テ、唯其居住ノ近傍ヲ防禦セシムル者ナルカ故ニ、必ス強壯精銳ノミヲ撰ム可ラス、大抵六十歳以下ノ者ハ、皆取テ此兵ニ充ツ、

護國軍ノ中、自ラ等級ヲ設ケ、先ッ弱年ニシテ、妻子ノ養育ニ眷顧少キ者、及ヒ氣力盛ニシテ、戰爭ヲ喜フ者等ヲ徵集シテ、之ヲ第一軍トナシ、而シテ既ニ壯年ニ至レル者ヲ徵集シテ、之ヲ第二軍、及ヒ後軍ト爲スナリ、

〔第五〕ランドスツルムハ、唯非常ノ時ニ於テ用フ可キ者ニシテ、素ト眞ニ軍隊ニアラス、又大イニ武技ニ練熟セル者ニアラス、大抵未ク常備軍、若クハ護國軍ニ入ラサル者ニシテ、仍國家ノ防禦ニ耐ユヘキ氣力アル者ハ、皆此軍ニ充ツ可シ、強悍ノ民多キ山國ニテハ、婦人モ亦此軍ニ入リテ、男子ヲ援ケ、能ク強勇ノ功ヲ奏スルコトアリ、去レヒ此事ハ、唯異常ノ事トス、通例ハ獨リ男子ノミ、此軍ニ入ル可シ、

ランドスツルムモ亦、國家ノ全軍ト相連絡スルノ制アリテ、必ス國家元首ニ從屬セサル可ラス、又此軍隊中ニ就テ、精銳ナル者ト否ラサル者トヲ分ツテ、等級ヲ立テ、而シテ攻撃及ヒ軍陣運動ニ堪ヘサル兵ハ、隘路ヲ防禦セシメ、及ヒ既ニ擊破セル敵軍ヲ尾撃セシムルキハ、能ク其功ヲ奏スルコトアリ、

〔第六〕軍隊ハ、自ラ戰爭ヲ用フヘキト否トノ事ヲ、定決スル能ハス、又兵權ハ、通例自ラ民事ノ區域ニ侵入スルヲ得、必ス國家元首ノ命ヲ俟テ、始メテ動シ可シ、且ッ其令ニ由テ、兵事ノ端緒ヲ開キ、及ヒ方向ヲ取ル可シ、但ッ時アリ公衆ノ安寧ヲ保護スルカ爲メニ、兵力ヲ要スル時ニ於テハ、僅ニ數隊、政官ノ求ニ應シテ、其レヲ援ケ、戰爭ニ從事スルコトアリ、

○奧地利一千八百四十九年（嘉永二年）ノ國家第一百十四章ニ云「國內ニ於テハ、軍隊唯政官ノ求ニ應シテ、出發スルヲ得ヘシ、但ッ既ニ憲法ニ裁定セシ場合ニ於ケルノミナル可シ、且ッ必ス憲法ニ裁定セル規律ヲ用フ可シト、

第八款 警保（ポリツァイ）

第一 警保ノ本性（エーセン、デル、ポリツァイ）

此款ニ至リ、始メテ方今警保ノ旨意ヲ説明スルヲ得、○凡ソ國法ニ於テ、警保ヲ論スルノ學今時ニ及ヒテ、頗ル隆盛ニ至リシカモ、其弊害却テ甚ダシク、而シテ實際ニ於テハ、更ニ之ヨリ甚ダシキ者アリ、何者、或ハ警保權ノ區域ヲ限制スルコト、嚴密ニ過キテ、警保官タル者公衆安寧ノ爲メニ、當然施行スヘキ事、及ヒ照顧スヘキ事ヲモ、却テ職掌外ノ事トシテ、之ヲ閣キ、或ハ又其權ノ區域ヲ増大スルコト、度ヲ過キテ、^{キツケル}警保官タル者、其關係ス可ラサル臣民ノ私事ニ關係シテ、恰モ臣民ノ看護人ノ如クナリテ、遂ニ故ナク其自由ノ權ヲ、障害スルカ如キコトアレハナリ、

警保官ノ職掌ハ、本來刑罰ヲ施スニアラス、唯照顧ヲナスナリ、總テ警保官タル者ハ、公衆ノ安寧ヲ保全スルヲ以テ、全ク其目的トナスコト當然ナリ、是故ニ此官ハ其職掌ヲ盡スニ於テ、民事ニ親切ナルコト、實ニ他ノ諸權柄ニ超越セサル可ラス、然ルニ此ハ動モスレハ、民人ノ嫌疑嫉惡ヲ受ルハ何ソヤ、惡人タル者、或ハ却テ警保官ヲ畏怖セサルハ何ソヤ、ゲエテ（獨乙人、一千七百四十九年ニ生レ、八百三十二年ニ死ス、嘗テメヒストヘレス）（按）一種ノ惡鬼ノ名）ノ言ニ托シテ作レル詩アリ、「吾レハ能ク警保官ト和スルノ術ヲ知ル、然レヒ慘刻ナル刑官ト和スルノ術ヲ知ラスト」^{蓋シ}（按）

鬼言ニ托シテ、警保官ノ其職掌ニ堪ヘス、動モスレハ、惡人ノ爲メニ籠絡セラル、ヲ謗ルナリ、又温和柔順ニシテ、絶テ惡事ヲ爲サ、ル徒、或ハ却テ、警保官ヲ畏懼シテ、之ニ接スルヲ欲セサルハ何ソヤ、眞ニ怪ムニ堪ヘザリ、是等ノ事ハ、特別ニ論說證明セサレハ、悉ク解ス可ラス、（按）以下數條ニ於テ論說スル所即チ是ナリ、

舊羅馬ノ制度ハ、警保權ノ威力ヲ強大ニ爲セシカモ、未ダ曾テ民人ノ大イニ此官ヲ嫌疑嫉惡セシヲ開カス、此國、民主政體ノ時ニ方リテハ、尊貴ノ人ハ、榮譽ヲ買フカ爲メニ警保權ヲ委託セラレテ、之ヲ施行スルコトヲ希望セリ、當時モザールト稱スル官ハ、殊ニ警保權ヲ掌握セシ長官ニシテ、恰モ政府ノ高官ニ入ル門戸ノ如ク然リキ、而シテ德行全キ貴人ハ、行狀検査（ツィンストール）（按）民人

行狀ノ善惡ヲ検査スルナリ、ノ務ニ從事スルヲ以テ、甚々榮譽トナセリ、故ニ行狀ノ警保（シッテ
 ノポリツァイ（按）民人ノ行狀ヲ警保スルヲ云、即次款ニ詳ナリ）ハ、右貴人ノ掌ル所ナリキ、但シ國
 事警保（スタートツポリツァイ（按）國家ノ安寧健全ヲ警保スルヲ云、次款ニ詳ナリ）ノ權ハ、都府ノ長
 （ハウプト、デル、スタット、（按）羅馬ニテハ、都府ノ長ハ、即兼テ國ノ長ナリキ）ナルコトスルノ掌
 中ニアリキ、○當時ノ制度ニテハ、別ニ警保ノ一官局ヲ設クルコトナシテ、諸官局ノ長官等、各此權
 ナ分掌シタリキ、故ニ諸長官等ハ、僅ニ此權ノ一分ヲ握ルニ過キスト雖モ、之ニ由リテ、其榮譽
 威權ニツナカラ盛大トナレリ、凡ソ今時ノ警保權ノ景況ヲ取テ、當時ノ警保權ノ景況ニ比シテ、其
 優劣如何ヲ考フルルハ、方今ノ警保權ハ當時ノ警保權ニ及ハサルコト遠クシテ、實ニ恥ツルニ堪ヘ
 タリ、

中古日耳曼ニ於テハ、警保權ノ制度、頗ル陋劣ナリキ、蓋シ方今ノ警保權甚々其用ニ適シ難クシテ、
 真ノ大改革ヲ爲スニアラサレハ、其弊得テ救フ可ラサルハ、適ニ中古陋劣ナル警保權ノ弊ヲ承シ
 レハナリ、且、中古ニ於テハ、實ニ警保諸權ノ實心タル道義ノ旨意ハ、全ク國家ノ關セサル所ナリ
 キ、故ニ教會タル者、専ラ神教ノ意ニ由リテ、民人交際上ノ行狀ヲ警保スルノ權ヲ掌握シ、國家ハ
 民人ノ行狀ニ於テハ、全ク措テ問ハサリキ、○其他中古ノ慣習ニテ、各私人、各親族、各會社ノ自主
 自立ヲ貴重スルコト甚々シウシテ、遂ニ全ク公衆ノ同利同益ヲ忘失セシカ故ニ、民事ノ區域ニ侵入ス
 ルヲ主トナセル警保權ヲハ、務メテ微弱ニセサル可ラストセリ、是ニ於テ各私人、各親族、各會社ノ
 自主自立、次第ニ其踰越ス可ラサル區域ノ外ニ侵蝕シ、而シテ警保權ハ、遂ニ私人ノ爲ニ阻止セラ
 ル、ニ至レリ

然ルニ中古ノ末ニ至ルニ及テ、其形勢一變シ、全ク相表裏セル一弊ヲ生シタリ、蓋シ當時國家ノ威權
 漸ク復興シテ強大トナリ、以テ全ク各私人ノ權ヲ制馭シ得ルノ勢ヲ生セシカ故ニ、頻りに民人ノ幸
 福ヲ増益セント欲シテ、遂ニ深ク民事ノ區域ニ侵入シ、國家ノ全然關ス可ラサルコトニ關シテ、老成

人ヲ遇スル、殆ト兒童ヲ馭スルニ異ナラス、遂ニ全ク民人ノ自由ヲ束縛スルニ至レリ、即チ國家タル
 者天下民人ノ看護（アルゲマイテ、ベホールムンツング）ヲ司リテ全ク過度ノ政令（ヒールンギ
 レライ）ヲ爲スコトナリ、凡ソ神教ノ旨意、行狀、及ヒ衣食住ノ規制、并ニ工商諸業ノ方法等、一モ政
 府ノ指令ニ出テサル者アラサルニ至レリ、○國家是等ノコトヲ指令スルヤ、其意ハ全ク仁惠ニ出ツト
 雖モ、其處分不可ナルヲ以テ、却テ民人ノ害トナリ、加之、此法アルカ爲メニ、適ク警保權ヲ施行スル
 者、動モスレハ、不正ノ所業ヲ恣ニシテ、大ニ民人ヲ困シムルコトナリキ、然ルニ此大弊害、却テ又
 再變ヲ促スノ原因トナリテ、輒近ニ至リテハ、遂ニ大ニ警保官ノ權ヲ限制シテ、決シテ國家安寧ノ
 増益ニ從事スルコトヲ得サラシメ、唯僅ニ國家、及ヒ私人ノ安寧ヲ保護スルコトニ從事スルヲ得セシム
 ルノミトナレリ、

警保權ノ景況斯慶、變回セシカモ、終始偏倚シテ、未ダ曾テ中正ヲ得ルニ至ラス、蓋シ此權ノ景況、中
 正至當ヲ得テ、能ク靜止シ、且、能ク公義正道ニ合スルヲ得ルニ至ルハ、恐クハ後世始メテ能クス
 可キノミ、
 此目的ヲ達セント欲セハ、先ツポリツァイ（按）即警保ノ原語ニシテ、公衆ノ安寧健全ヲ照顧警保ス
 ルノ義ナリ、警保ノ譯字、原義ヲ盡シ難シト雖モ、未ダ妥當ノ譯字ヲ得サルヲ以テ姑ク之ヲ用フ）ナ
 ル名稱ノ本義ヲ、明晰ニスルヲ緊要ト爲ス、此稱ハ、素ト公衆ノ安寧健全ヲ目下ノ景況ニ應シテ、照
 顧警保スル一種ノ制御權、オブリグカイトリヘ、ゲワルト、）ヲ徵スルコト明カナリ、故ニ此權ハ目下ノ
 景況ニ隨テ、或ハ指令シ、或ハ禁止シ、或ハ強逼シ、以テ其能力ヲ顯ハス者ナリ、是レ即チ此權ノ本性
 ニ固有スル力ナリ、○是故ニ警保權ハ、他諸權柄トハ異ニシテ、須臾モ休止スルコトナシ、常ニ能力ヲ
 備ヘテ、必要ノコトアレハ、必、之ニ應シ其力ヲ顯サ、ル可ラス、此權ハ、絶ヘテ、靜坐スル能ハス、又
 絶ヘテ睡眠スル能ハス、此權若シ靜坐睡眠スルコトアレハ、則チ是レ公衆ノ交際破ル、ノ徵ト云フ可
 シ、凡、公衆ノ爲メニ已ム可ラサルコトアル毎ニ、此權概シ其能力ヲ發シテ、自ラ之ヲ助ク可シ、此
 權ハ必、自己ノ意見ヲ以テ、其務ヲ成シ、而シテ決シテ淹滞スルナカル可シ、故ニ此權ハ、實ニ一種特

別ノ權柄ト云フ可シ、
 預メ警保權ノ能力活動スル所ノ方向ヲ詳定シ、及其能力ノ品類ヲ細別セント欲スルハ、徒ニ無益ノ勞ニ屬スルノミ、凡ソ警保權ハ、國家ノ中心ニ興起シ、其周邊ニ向テ發動シ、而シテ今日千差萬別ノ事業ニ應シテ其能力ヲ顯ハス者ナリ、故ニ總テ預メ料可ラサル事ノ突然生スルニ方リ、其景況ニ應シテ、適宜ノ處分ヲ爲サント欲セハ、此權必ズ之ニ應スルノ自由ヲ具ヘサル可ラス、此權若シ此自由ヲ具ヘサルハ、決シテ之ニ應シテ、其用ヲ爲スニ足ラス、凡ソ此權ノ關係スヘキ事體ノ景況、千差萬別ナルニ隨テ、此權ノ活動スル景況モ、亦宜シク千差萬別ナル可シ
 是故ニ、預メ警保權施行ノ方法ヲ詳定セント欲スルハ、甚ダシキ謬見ナリ、必ズヤ此權ヲ掌握スル者、自由ニ其方法ヲ撰ヒ、以テ景況ニ適スル處分ヲ爲サ、ル可ラス、此事即チ此權ノ本性ニ慚ヘリ、然ルニ警法權ノ憲法ボリツァイゲセツツ、ゲーブンク(按)警保權施行ノ方法ヲ定ムル憲法ナリ、)ヲ以テ、預メ後來此權ヲ施行スルノ方法ヲ、悉皆確定セント欲スルモ、決シテ得ヘカラス、若シ強ヒテ之ヲ確定シ、之ニ由テ此權ヲ施行セシメント欲スレハ、必ズ弊害ヲ生ス可シ、○是故ニ此權ヲ掌握スル者ヲシテ、自由ニ其方法ヲ撰ハシメサル可ラス、去レヒ此自由亦、決シテ限制スル所ナキニアラズ、此權ヲ施行スル者、必ズ現存ノ法制ヲ遵守スヘキハ、固ヨリ當然ニシテ、唯實ニ已ムヲ得サルノ事生スルニアラサレハ、決シテ現存ノ私法、若シハ國法ニ背キ、或ハ之ヲ破ルヲ許サス、且チ私人ニ任セテ、却テ功益アルヘキ事ニハ、決シテ此權ヲ施行ス可ラス、○但シ其歸ヲ要スルニ、日々變化スル所ノ公衆ノ要務ニ應シ、今日ノ景況ニ隨ヒ、適宜ノ方法ヲ用フルヲ以テ、此權ノ大眼目ト爲ス可シ、是即チ此權ノ最上ノ憲法ナリ、最高ノ義務ナリ、
 去レヒ此權此ノ如ク自由ヲ得ルハ、遂ニ國家ニ害ナキ能ハス、且ツ殊ニ私人ニ害アルハ、更ニ大ニシテ動モスレハ、苛酷ニ至ルヲ免レズ、是故ニ預國法ヲ以テ、十分ニ之ヲ防制スルノ能アラサル可ラス、而シテ方今ノ世ニ於テハ、其法僅ニ二件アルノミ、即チ時アリ、上等警保局ニ告訴スルヲ許スノ法(按)私人下等警保局ノ處分ニ服セサルハ、則チ之ヲ上等警保局ニ告訴スルヲ許スナリ、)

ト、及ヒ警保權ノ憲法書ヲ設ケテ、此權ヲ限制スルノ二法ノミ、但シ第一法ヲ用フルニ方リテ、上等警保局、若シ告訴セル私人ノ論ヲ是トシテ、之ニ權利ヲ與フルハ、遂ニ下等警保局ノ威權ヲ損害スルノ恐レ、甚ダ少ナカラサルヲ以テ、此法ヲ用フルコトハ、通例爲シ難シトス、又第二法ノ如キハ尋常ノ混亂起ルニ方リ、及ヒ當ニ警保官ノ權ヲ以テ、罰スヘキ罪ヲ犯ス者アルニ方リテ、此官ヲシテ能ク常度ヲ守リ、恣ニ權力ヲ振フ能ハカラシムルニ足ルコト必然ナリ、去レヒ此法ニ由テ常ニ警保官ノ權力ヲ中正適度トナスハ、甚ダ難シテ、動モスレハ却テ、此權ヲ限制スルコト甚ダシキニ過キテ、遂ニ警保權ノ自由ナル活動ヲ、阻止スルニ至ル、是即チ是權ノ專恣ニ至ルノ弊ヲ矯メント欲シテ、却テ又此權ニ必要ナル自由力ヲ抑制スルノ一弊ヲ生スルナリ、
 以上論スル所、全ク方今警保制度ノ弊害ナリ、今復茲ニ羅馬ノ制度ヲ論說セサル可ラス、抑羅馬ノ法ニテハ、警保ノ權ヲ施行スル者ト同權力ナル他官吏、若シハ更ニ之ヨリ權力盛ナル他官吏等、警保權ヲ施行スル者ノ處分ヲ代稟スルノ法アリ、殊ニホルクストリブン(按)羅馬ノ議院ナリ)ナル者、當然此事ヲ爲シ得ルノ權アリシカ、蓋シ此法、能ク警保權ノ制度ニ適應ス、○凡ソ神速ノ果斷ヲ以テ、處決スルヲ要スルニ方リテ、警保官ノ處分、若シ至當ヲ得サルコトアレハ、又神速ニ此處分ヲ防制セサル可ラス、然ルニ私人警保ノ一局ニ於テ、現ニ不當ノ處分ヲ受ケシキ、更ニ上等ニシテ遠隔セル官司ニ登訴(イノスタンス)ンツグ(按)下局ノ處分ニ服セサルハ、更ニ上局ニ訴フルナ云、)スルヲ要スル法アルハ、決シテ不當ノ處分ヲ、神速ニ防制スルニ足ラス、蓋シ同等ニシテ接近セル官司ニ、警保官ノ不當ナル處分ヲ禁止スルノ權ヲ與フルハ、能ク其害ヲ防制スルニ足ル可シ、
 但シ自由ニ處分スルノ權ヲ警保官ニ許サント欲セハ、亦必ズ其處分ニ就テ、十分ナル保任ノ務ヲ負ハシメサル可ラス、若シ此務ナキハ、則チ其權遂ニ專恣ニ流ル、必然ナレハナリ、故ニ自由ノ權ヲ許スニ愈大ナレハ、保任ノ務モ亦隨テ、愈大ナルヲ要ス、然ルニ此保任ノ法ヲ用ント欲セハ、必今時ノ登訴法ヲ廢シテ、他ノ制度ヲ用ヒサル可ラス、○茲ニ相反セル二事ニ於テ、共ニ保護ノ道ヲ

カル可ラス、即其一、警保官ノ國家安寧ノ爲、施爲スル諸業ニ、必要ナル自由權ヲ保護シテ、之ヲ失ハザラシムルト、其二、私人ノ權利ヲ保護シテ、警保官ノ暴權ヲ避ケシムルト、是レナリ、凡ソ警保官自由ノ大權ヲ以テ、事ヲ處分スルヲ得ルハ、其處分ノ善惡ニ隨テ、法官ノ審判ヲ受ルコト當然ナル可シ、而シテ此法官ハ、決シテ訴訟法官(チヒール)レフテ、(按)訴訟法ヲ司ル法官ナリ)遵守スヘキ法律ヲ用ヒス、唯其處分ノ國家安寧ニ害アルト否トニ著眼シテ、其罪ヲ密判スルヲ緊要トナス、(按)警保官ノ處分、縱令少シシ法律ニ背ク所アリ、其事却テ國家ノ安寧ニ利アレハ、決シテ之ヲ罰セサルヲ緊要トナシ、又其處分縱令法律ニ背ク所ナシト雖、國家ノ安寧ニ害アレハ、必之ヲ罰スルヲ以テ、緊要トナシ、若シ警保官實ニ其權ヲ恣ニシテ、人民ノ害ヲ生スルニ方リテハ、害ヲ受ケタル私人ニハ、償金ヲ與ヘシメ、且ツ政府ニ罰金ヲ納メシメ以テ、權ヲ擅ニセシ害ヲ、切ニ其身ニ覺悟セシムルコト、最モ緊要ナリ、

警保權ヲ掌握スル人體ヲ撰フハ、最モ緊要ノコトニシテ、若シ此權ヲ掌握スルニ堪ユヘキ人體ヲ得ルハ、此權ヲ施行スルノ方法、始メテ、至當ヲ得ルニ至ル可シ、此事ニ就テモ亦、羅馬ノ制度タル實ニ今時ノ龜鑑トナスニ耐タリ、(○今時ノ警保權ヲ以テ羅馬ニ於ケルカ如ク、實ニ國家ノ道義ヲ保護スヘキ大權ト爲シト欲セハ、必道義ヲ具ヘテ、品行貴キ人物ヲ撰ヒ、此權ヲ掌握セシムルコト甚々緊要ナリ、フリードリヒ、ローメル、獨乙人、一千七百九十五年ニ生ル、)ハ、方今國家ノ急務タルハ、警保權ノ制度ヲ改革スルニ在ル所以ヲ論シタリシカ、其大旨ニ倭傑數員ヲ合シテ、オルデン(按)勳爵ヲ得タル會社ナリ、)ヲ設ク、(但シ之ヲ眞ノ官吏トナス可ラス、)警保ノ大權ヲ舉テ、悉ク之ニ委任シ、以テ此會社ヲシテ、實ニ其處分ヲ委任セシムルノ制度ヲ立ルコト、方今ノ急務ニシテ、此他決シテ宿弊ヲ除去スルノ術策アルコトナシト云ヘリ、

方今英國ノフリーデンズリフテル(按)一種ノ法官ナリ、卷之八第三款ニ詳ナリ)ト稱スル官ハ、才識德望ヲ兼備シ、決シテ他人ニ控制セラレサル人物ヲ合セル會社ニシテ、此官ニ委任スルニ、警保權ノ一分ヲ以テス、

第九款

第二 警保權ノ區分、及ヒ其專要ノ職掌、
ゾー、グリーデルング、ウンド、ゾー、ハウプト、
警保ナル旨意ニ著意シテ、考フルハ、其發動ニ就テ、二三個ノ重要ナル方向アリ、即チ陰ノ方向(チガチーヘ、リフツング)ト及ヒ陽ノ方向(ボシナーヘ、リフツング)ト、是レナリ、而シテ今日生シ來ル所ノ害ヲ防制シテ、自由ナル交際ノ障礙トナル者ヲ、除去スルハ、陰ノ方向ニ發動スト云ヒ、又特ニ公衆ノ安寧ヲ増益スルハ、陽ノ方向ニ發動スト云フ、凡ソ陰ノ方向ニ發動スル者ハ、唯公衆ノ安寧ヲ保守スル警保(コンセルヒレンデ)ナルヲ以テ、之ヲ保安ノ警保(シーヘルハイツボリツァイ)ト稱シ、陽ノ方向ニ發動スル者ハ、公衆ノ安寧ヲ増進スル警保(プロツクチーヘ)ナルヲ以テ、之ヲ増安ノ警保(チールハールツボリツァイ)ト稱ス、但シ此區別ハ、唯外觀上ニ於ケルノミ、實際ニ至テハ、決シテ此區別アルコトナシ、故ニ眞實ノ警保權ハ、必同時ニ陰陽ノ二方向ニ於テ、發動スル者ナリ、蓋シ唯現ニ公衆ノ障礙トナルヘキ者ヲ除去セシノミニテ、既ニ交際ノ自由ヲ増益スルニ足ルコト多シ、例ヘハ、警保官ナル者、竊盜、攫徒等ヲ驅逐シテ、市街ノ害ヲ除ケハ、即チ之ニ由テ其ニ交際ノ自由ヲ増益スルカ如シ、又其他陰ノ方向ニ發動スル方法ヲ施スニ方リテ、兼テ陽ノ方向ニ發動スル方法ヲモ亦共ニ施スコトアリ、例ヘハ、傳染病ノ流行スル時ニ方リテハ、啗ニ患者ヲ僻地ニ遷シテ、其傳染ヲ防クヲ照顧スルノミニ止マラス、尙且患者看護ノ事ニ就テモ、亦必注意ヲ用ヒテ、之ヲ照顧スルナリ、○方今ノ世ハ、警保權ヲ限制スルコト甚々シウシテ、警保官ヲシテ、唯妨害トナル者ヲ除去スル事ニミテ從事セシメ、其善ノ事ヲ増益セシムルコト、甚々稀ナリ、而シテ行狀風俗ノ警保ニ至テハ、此事更ニ甚々シ、是レ實ニ今世ノ通弊ト云フヘシ、是故ニ陰陽ノ方向ニ隨テ、警保ノ職官ヲ二分スルハ、甚々不可ナリ、若シ之ヲ分ツキハ、二方向ニ發動スル權、互ニ應護スルヲ得スシテ、其力遂ニ弛解スルヤ必然ナリ、

又警保權ヲ二分シテ、預防ノ警保、(一)「アレハナリ」及「防止ノ警保」(「レアレシ」)トナシ、而シテ將々ニ起ラントスル障害ヲ預防シテ、起ラサシムルヲ、預防ノ警保ト稱シ、又既ニ法制ヲ害スル者アルニ及ヒ、即チ現ニ障害ノ起ルニ及ソテ、始メテ之ヲ防止スルヲ、防止ノ警保ト稱スル説アリ、去レヒ此區別亦徒ニ外観上ニ在ルノミ、

此區別ハ、唯保安ノ警保ニ着眼シテ立ル者ナリ、故ニ直ニ増安ノ警保ニ關スル所ナシ、是レ即チ此區別ノ當チ失スル所以ナリ、○又唯預防ノミヲ以テ、警保諸權ノ本性ナリトスル論、盛ニ蔓延セシカレ(大ナル謬見ト云フヘシ、例ヘハ、警保官沈澗沼澤ヲ淨燥シ、狹隘幽暗ナル市街ヲ毀テ、廣寬開濶ナル隙地ヲ設ケ、大氣ヲ清淨ニシ、井泉ヲ鑿ル等、總テ人民ノ健康ニ注意照顧スルキハ自ラ將來ノ病患ヲ預防スルニ足リ、且ツ縱令ヒ從來ノ病患ヲ全ク驅除シ得サルモ、大イニ之ヲ減スルニ足ルハ必然ナリ、故ニ此ノ如キ警保事業ハ、決シテ單ニ預防ニアラス、又單ニ防止ニアラス、實ニ民人平常ノ健康ヲ增益スルノ事業ナリ、

今日警保權ノ主トシテ照顧スヘキ重要事件數種アルカ故ニ、之ニ隨テ警保權ヲ數類ニ區分設定スルハ、大イニ良善ノ法ト云フ可シ、而シテ各類其爲スヘキ事務ノ相殊ナルカ故ニ、必ズ別個ノ學習ヲ要シ、別個ノ規律ヲ要シ、及ヒ別個ノ方法ヲ要ス、○去レヒ此各類ヲ以テ、全ク相離分スル者ト爲ス可ラス、且ツ警保官ノ爲スヘキ事務、此各類ニ於テ、全ク盡セリト爲ス可ラス、凡ソ世上ノ事、千變萬化スルニ隨テ、自ラ此各類ニ屬セザル他務ノ須要トナルコト、必シモ無シト云フ可ラス、方今ノ形勢ニ於テハ、警保權ノ分類左ノ如シナルヲ要ス、

(第一)高宗ナル警保(「ホーヘ、ボリツァイ」)即チ狹義ノ國事警保、スタールツボリツァイ、イン、エンゲト云フキハ、警保ノ諸權ヲ總稱スト雖モ、狹義ノ國事警保ト云フキハ、私事ノ警保ヲ除テ、唯國事ニ係レル警保ノミヲ云フナリ、余カ國事警保ト目スルハ、即チ國內ニ於テ國家ノ存在、及ヒ安寧ヲ照顧警保スルノ事務ヲ指稱スルナリ、故ニ此警保中ニハ、専ラ政

令ノ性顯ハル、總テ國內ノ和平安全ヲ傷害スル事件起ルニ方リテハ、必ズ此警保權ヲ施行セサル可ラス、○凡ソ此權ヲ施行スルヤ、通常ハ現存ノ法制許ス所ノ區域内ニ於テ、道ニ係レル方術(モラリセス、ミツテル)及ヒ物ニ係ル方術(ヒシーセス、ミツテル)ヲ用フレハ、則チ足レリ、(按)「トヘハ風ニ、法令規律ヲ以テスルカ如キハ、即チ道ニ係レル方術ト云フヘク、又ト人ノ健康ヲ增益セシムルカ爲、ニ上ニ論セル如ク沼澤ヲ淨燥シ、隘巷ヲ毀ツカ如キハ、即チ物ニ係レル方術ト云ヘシ、○去レヒ若シ非常ノ事起ルニ至リテハ、高宗ナル警保權ナル者、方ニ國家ヲ救フヲ以テ、最急務トシ、斷然變シテ非常權トナリ、以テ國家ノ大威力ヲ顯ハサ、ル可ラス、

(第二)私事ノ警保、「インシヒツァール、ボリツァイ」則チ私人ニ屬セル權利ノ存在、及ヒ安寧ヲ照顧警保スルヲ云、左ニ其諸類ヲ舉グ、

(甲)民人糧食ノ事ヲ照顧スルコト、「ギー、ソルゲ、ヒニール、エルチールンク、デル、ベヘルケルンク」糧食ノ警保(「ナールンクス、ボリツァイ」)羅馬ハ頗ル實際上ニ練磨セシ國ナリシカ、糧食ノ警保ヲ以テ、政府長官ノ重要ナル事務ト爲シタリ、當時アレベールセル、アザール及ヒシリセル、アザールナル職官ハ、羅馬國中ニ儲糧充足シテ、常ニ缺乏ナカラシムルコトニ注意スルヲ以テ、最要ノコトナセリ、又其後帝國トナルニ至リテハ、帝躬ラ此務ノニ從事シテ、大ニ勉勵セシカ故ニ、賤民等大イニ心服スルニ至リタリキ、

凡ソ民人ノ私事ハ、通例民人ニ任カス可シ、然ルキハ、民人自ラ能ク勉勵シテ、之ニ從事スルカ故ニ、其成事最モ多ク、最モ良シトス、是故ニ國家ハ常ニ、其經濟ノ法則ニ從テ、唯其弊害ノ生スルヲ預防シ、及ヒ之ヲ蠲除スル(按)既ニ弊害ノ生シタル時ニ於テ施爲ス、)トニ從事スルヲ要ス、去レヒ時アリ、非常ノ事起ルニ至リテハ、民人ノ私事ヲ民人ニ全委シ、政府ハ唯其弊害ノ豫防蠲除ニノミ從事ス可ラス、若シ徒ラニ此ノ如キコトヲ爲スキハ、遂ニ非常ヲ救フニ足ラサル必然ナリ、大非常ノ事起ルニ至リテハ、國家ノ警保權實ニ強大ノ威力ヲ奮テ、始メテ稍一之ヲ救防シ得ルコトア

リ、故ニ此ノ如キ際ニ臨テハ、國家其威權ヲ以テ、民人ヲ救ハサル可ラズ、而シテ國家此事ヲ爲サ
ニハ、必ス國家ノ經濟ト、私人ノカトヲ假リ、之ト合併シテ、丁寧綿密ニ處分シ、以テ非常ノ事ノハ、
増進スルヲ防クヘシ。○其施設ノ術ヲ論スレハ、例ヘハ糧食ノ價、沸騰セル時ニ於テハ、之ヲ自由
ニ輸入スルヲ准許シ、(按)或ハ姑ク輸入税ヲ廢シ、或ハ姑ク之ヲ減スルナリ)又沸騰益甚シ
キニ至レハ、其輸出ヲ禁止シ、或ハ政府自ラ糧食ヲ買收シテ更ニ之ヲ民間ニ賣與シ、(按)蓋シ廉
價ヲ以テ賣與スルナリ)又ハ民人糧食ヲ耗費スルノ數ヲ節シテ、浪ニ許多ノ耗費ヲ爲スヲ禁スル
等、總テ政府ノ權ニアルコトハ、力ヲ盡シテ之ヲ爲サ、ル可ラズ、(按)近年獨佛戰爭ノ時、佛京巴里
斯等ニテ、是等ノコトヲ施爲セリ、

但シ又日常ノ交際上ニ於テモ、警保官儘糧食ノ事ニ關セサル可ラサルコトアリ、例ヘハ姦商アリ、一
時ニ無數ノ糧食ヲ買收シテ、頓ニ其缺乏ヲ起シ、以テ他日非常ノ利ヲ射ルヲ謀ルコトアレハ、則シテ
官決シテ之ヲ坐視ス可ラズ、凡此ノ如キ姦商行フ所ノ惡計ノ害タルヤ、譬ヘハ猶ハ瘡ノ全身ニ癩
延スルカ如クシテ、遂ニ民間ニ缺ク可ラサル汁液ヲ吸盡スルニ至ルカ故ニ、警保官必ス力ヲ極メテ
此ノ如キ惡計ヲ防制セサル可ラズ、○凡ソ民人タル者ハ、必相生シ、相居ルコト、天理ノ當然ニ出レハ
則チ一人ノ自由及ヒ權利ヲ助クルカ爲ニ、衆人ノ自由、及ヒ權利ヲ害スルノ理ハ、決シテアル可ラ
ス、國家宜ク此理ヲ認メテ、公衆ノ障害ヲ防制セサル可ラズ、

(乙)民人體軀ノ健康ヲ照顧スルコト、(一)ギ、ソルゲ、ヒュール、ギ、ライブリ、ゲスンドハイト、デ
ス、ホルクス、(健康ノ警保(ゲスンドハイツ、ポリツアイ))左ノ數條ニ舉ル者即チ是ナリ、
(イ)醫師、(アルツト)、(外醫、(ウインドアルツト))製藥師、(アポテケル)、(産婆、(ヘバムメ))等ノ技
術ヲ考察シテ、實ニ學術ニ練磨セル者ノミ、其事ヲ業トスルヲ許シ、庸醫下工ハ、其レヲ施スヲ禁ス、
去レテ此事ニ於テモ、亦他ノ諸事ニ於ケルカ如ク、必ク千變萬化ノ景狀ニ隨テ、適應ノ處分アラサ
ル可ラズ、故ニ時アリテハ、規則外ノ事ヲ行フモ、亦必要トナルコトアリ、○方今各國ニ於テ、多ク
ハ別ニ醫藥官吏(メヂチナル、ベアムテ)ノ一局ヲ設置ス、是レ一ハ、健康ノ警保ヲ掌ラシメ、

一ハ、政府醫藥ノコトニ關スヘキ時ニ於テ、其術ヲ施サシメシメカ爲ナリ、

(ロ)傳染病ノ流行スルニ方リテ、公衆ノ爲ニ之ヲ防拒スルノ方法ヲ施行ス、即チコンツマツ、及ヒカ
ランテーンノ方法、(按)傳染病流行スル地方ヨリ來ル船舶旅客等チ、國內ニ入ルヲ許スルハ、是
ノ如キ者ヲ設ケ、暫ク是處ニ
滞_ニ在_ニセシムルノ方法ナリ、
テ施行シ、又ハ種痘ノ令ヲ布クカ如キ是ナリ、
埃地利ノ土耳其ニ隣接
セル、ミリテールグレンツ(按)土耳其ノ侵來ヲ防拒スル處)ニ於テ、是等ノ方法、盛大ニ備ハレ
リ、

(ハ)糧食ヲ賣買スル墟場ヲ監視シ、人身ノ健康ニ害アル不熟物、及ヒ人命ヲ傷フ毒物等ノ賣買ヲ
禁ス、

(ニ)患者ノ治療及ヒ看護ノ爲ニ、公衆ノ館舎ヲ建設シ、而シテ戚族ノ力及ハサル者ハ、皆此館舎
ニ入ルヲ許ス、即チ病院、(スピタル)、(癲狂院、(イルレンハウス))産院、(ゲヘルアインスタ
ト、)浴場、(エツヘントリヘス、)バット、)教育院、(レツングスアインスタルト、)ヒュール、ヘルウン
グリュツッテ、ベルンリチン)是ナリ、

(ホ)人民ノ健康ヲ照顧セシカ爲ニ、復_ニ禽獸ノ傳染病ヲ預防シ、而シテ之カ健康ヲ保全スルノ方法
無_クル可ラズ、

(丙)安全ノ警保(シーヘルハイツボリツアイ)左ノ數件ニ舉ル者即チ是ナリ、
(イ)公衆ノ爲ニ番衛ヲ置ク(ギ、ソルゲ、ヒュール、エツヘントリヘ、)ワーヘン、)ゲンダメルメリー、
ノスタブレル、)シニツメンタル、)ナフトエフテル等(按)共ニ巡邏番衛ヲ掌ル輕卒ナリ)テ以テ之
ニ充ツ、但シ總テ警保ノ諸課ニ於テモ、亦此輕卒ヲ使役ス、蓋シ各課相關涉シテ離レサルハ、素ト警保
ニ固有スル性ナルヲ以テナリ、

(ロ)屍體ヲ検査シ、及ヒ墓地ヲ監視ス。(ト)デシヤウ、ウソド、デー、ユーベル、ダス、ベグレブニス、(二)ライヘンハウス、(按)未ダ死人ヲ埋葬セサル間、姑ク臨時スル所)キルヒホフ、グルフト(按)共ニ墓地ノ類、

(ハ)火災ノ警保(ホイエルボリツァイ)即チ竈爐ノ建築ニ就テ、預メ其規則ヲ公布シ、且ツ常ニ此規則ニ合フト否トテ監視シテ、將來ノ火災ヲ滅シ、消防法ヲ設ケテ、既ニ起リタル火災ヲ消滅シ、及ヒ火難保領ノ法、アツセクランツ)ヲ立テ、火災ノ爲ニ受ケタル損失ヲ償フ等即チ是レナリ、

(ニ)私人ノ權利ヲ警保照顧シテ、安全ナラシム、(デー、ソルゲ、ヒュール、デー、レフツシーヘルハイト、デル、プリハートン)之ヲ狹義ノ安全警保(シーヘルハイツボリツァイ、イン、エンゲルン、シンテ)ト云、

私人ノ權利ヲ警保照顧シテ、安全ナラシムルコトニ就テハ、警保權大ニ司法權ト關シテ、互ニ密涉ス、故ニ時トシテハ、此二種ノ境界ヲ分ツ、甚難キコトアリ、去レテ、決シテ分ツ可ラストハ云フ可ラス、左ニ論スル所ノ理由ニ由テ、乃チ之ヲ分ツテ要ス、

警保ノ職務ハ、決シテ正義公道ヲ保全スルニアラス、則チ平穩安寧ヲ保全スルニアリ、平穩安寧ヲ保全スルトハ何ソヤ、現ニ平穩安寧ノ妨碍トナル者ヲ防制シ、公衆和平ノ障害トナル者ヲ除却シ、及ヒ法制秩序ヲ破リテ、公衆ノ安全ヲ傷フ者ヲ驅逐スルヲ云フ、彼ノ罪狀ノ有無輕重ヲ査定シ、曲直ノ疑ハシキヲ判決シ、罪科ヲ斷定スルカ如キハ、決シテ警保官ノ職掌ニアラス、總テ是等正義公道ヲ保全スルノ處分ハ、必ズ警保官ノ關スル所ニアラス、(按)是等ノコトハ法院ノ主務ナリ)唯是レ等ノ處分ヲ補助スルコトハ、或ハ之アリ、

但シ警保官已ムテ得サルコトアルニ方リテハ、或ハ其權ヲ管區ノ外ニ施行セサル可ラサルコトアリ、是ヲ以テ各國皆警保官ニ限制セル懲戒法ツニフナグングスレフト)ヲ用フルヲ許スナリ、

但シ警保官ニ唯懲戒法ヲ施行スルヲ許シテ、刑法ヲ施行スルヲ許サ、ル所以ハ、蓋シ懲戒法ハ、殊ニ公衆ノ安寧ヲ保全スルカ爲ニ、施行スル者ニシテ、唯姑ク懲戒スルヲ目的ト爲スト雖モ、刑法

ハ、專ラ正義公道ヲ保全スルカ爲ニ、施ス者ナルヲ以テナリ、○然ルニ若シ警保官ニ懲戒法ヲ施行スルヲ禁スルキハ、其權力遂ニ振ハサルニ至リ、若シ又懲戒法ヲ施行スルニ於テ、綿密ナル治罪法ノ規律ヲ遵守セシメント欲スルキハ、其事務甚々困難ヲ生スルノ恐レ少ナカラス、故ニ此二件ハ、全ク警保官ノ職務ニ相合セサル者ト云フ可シ、○然ルニ近今佛國ノ制度ニ倣ヒ、元來警保官ノ懲戒スヘキ罪過ヲモ、此法ニ任セスシテ、法院ニ委任スルノ制度ヲ立タル國アリ、此制度アルキハ、實ニ警保官ノ專恣ニ至ルヲ防クノ益少ナカラス、但シ警保官ノ權力ヲシテ、衰弱痿痺セシメサルコト、甚々緊要ナルカ故ニ、常ニ此官ヲシテ、必ズ憲法ニ隨テ、警保刑(ボリツァイストラフ、(按)警保官ノ掌ル刑ト云フ義ニシテ、則チ唯懲戒ノ爲ニ施ス刑ナリ)ヲ施行スルノ權利ヲ失フコトナカラシム可ク、且ツ縱令ヒ法院ニモ、憲法ニ隨テ、警保ノ處分ニ關セル、命令指揮ヲ施ス權ヲ與フルモ、此官ヲシテ、唯正義公道ヲ害スル者ヲ罪スルヲ以テ、其本意ト爲サシメ、決シテ公衆便益ノ爲ニスル(按)即チ安寧平穩ヲ保全スルヲ云フ)ヲ本意ト爲サシム可ラス、

元來警保官ノ懲戒スヘキ罪過ヲ以テ、全ク法院ノ處分ニ委任セル國ニ於テスラ猶警保官ヲシテ僅ニ少罪過ヲ罪スルノ權ヲ握ラシム、若シ然ラザレバ、此官決シテ、其職ヲ盡ス能ハサルニ至ル、必然ナレハナリ、

警保官ハ其職掌ノ區域内ニ於テハ、決シテ法院ニ從屬スヘキ者ニアラス、即チ法院ノ其自己ノ區域内ニ於テ、決シテ警保官ニ隨屬セサルト同一理ナル可シ、故ニ人若シ警保官ノ處決ニ服セサル者アリテ、更ニ之ヲ法院ニ訴フルコトアリテ、決シテ法院ニ於テ、之ヲ改裁スルヲ許サス、但シ警保官實ニ法院ニ對シテ、其處分ヲ保任スルノ規律ハ、他官吏ノ保任規律ト、大約相異ナル所ナカル可シ、○但シ警保官安寧平穩ヲ照顧スルニ方リテハ、時ノ景況ニ隨テ、神速ニ強猛ノ威力ヲ施サ、ル可ラサルコトアルヲ以テ、儘已ヲ得ス、自己ノ意見ヲ以テ、法ニ合セサルコトヲモ爲サ、ル可ラス、去レテ、是レヨリ遂ニ其權ヲ弄シテ、私人ノ自由、及權利ヲ枉害スルノ恐レアル、亦少ナカラス、昇故ニ必ズ其處分ヲ十分ニ保任スルノ責ヲ負ハシメサル可ラス、但シ其處分ノ善惡當否ヲ判定スルヤ、必ズシモ唯其事ノ法律ニ合スルト否トノミヲ以テス可ラス、唯其事ノ治安上ニ恰當ナルト否トノコトニ、緊ク

若眼スルヲ要ス、然ラサレハ、大イニ警保官ノ權力ヲ壓制シテ、遂ニ振フ能ハサラシムルノ恐レアリ、去レハ又決シテ其專恣非理ノ所業ニ及フヲ許ス可ラス、蓋シ以上ノ理ニ由テ、警保官保任ノ規律ヲ立ルルハ、決シテ警保官ノ威力ヲ傷ハスシテ、兼テ其專恣ヲ防クニ足ルカ故ニ、此官及ヒ私人ノ爲ニ、共ニ良シトス、然ルニ唯警保ノ憲法ヲ、綿密ニ制定シテ以テ、此權ヲ限制セント欲スルモ、徒勞ニ屬スルノミ、何者、凡ソ將來變化窮リナキ世態ノ景況ヲ、悉ク測度シテ、之ニ適當スヘキ憲法ヲ預定スルハ、決シテ能ハサルコトナレハナリ。

所謂法院附屬警保官(ゲリフトリ)ハ、ポリツァイ)ナル者ハ、元ト刑法ノ施行ヲ補助スル者ナルカ故ニ、全ク法院ニ隨屬スル者ニシテ、決シテ之ト並立スル能ハサル者ナリ、故ニ其職務ニ就テモ、唯法院ノ指令ヲ遵奉スルノミナリ。

〔第三教育ノ警保(クルツールポリツァイ)教育ト教育ノ警保トハ、猶國家經濟(エカノミ)トシヤフト)ト經濟ノ警保(キルトシヤフト)ト、ポリツァイ)トノ如ク、必ス分テ二事ト爲ス可シ、何者、教育ハ、事務(プレーゲ)ニシテ、教育ノ警保ハ、權力(ゲワルト)ナレハナリ、總テ公衆交際上ノ「ニ於テハ、必ス警保權ノ關セサルコトナシ、故ニ教育事務、及ヒ經濟事務ニモ亦必ス關ス、但シ其關スルヤ、唯公衆ノ爲ニ、權力ヲ要スルノ故ヲ以テナリ、若シ之ヲ要セサル時ニ於テハ、此ノ權決シテ關スヘキノ理ナシ、但シ命令、或ハ禁止ノ權ヲ施行スルコト緊要ナルニ方リテハ、權力ナル警保、專ラ主トナリテ、事務ハ之ニ從屬ス、權力ナル警保、決シテ事務ニ隨行スルニアラス、○唯事務ノミヲ以テ、其事ヲ濟スニ至ル時ハ、決シテ警保官ヲ施ス可ラサルハ、固ヨリ論ナシ、去レハ是時ニ於テハ、警保官必ス教育官ノ處分ヲ監察シテ、其怠惰ヲ制スルヲ以テ、主務ト爲ス可ク、又權力ヲ用ヒサル可カラサルカ爲ニ、警保官其權力ヲ施スニ方リテハ、必ス事務官ノ禱補ヲ求ムルヲ要ス、總テ各官相助ケ、相救フノ規律ハ、必ス此ノ如クナル可シ。

〔甲〕公衆ノ行狀風儀ヲ照顧シテ、其善真ヲ保全スルコト、(ザー、ソルゲ、ヒュール、シットリ)ハ、チールハールト、デス、ホルクス)「行狀ノ警保(シットリ)フカイツポリツァイ)即チ羅馬ニテハ之ヲ行狀ノ檢査(ツェンズール)ト云ヘリ。」

教育ノ警保權ヲ施シテ、臣民一般ノ行狀風儀ヲ照顧シ、以テ益ク之ヲ善真ナラシムルハ、國家負フ所ノ務ナリ、去レハ素ト人タル者ヲシテ、今日交際上ノ行狀風儀ヲ善真ナラシムルコトニ心ヲ用フルハ、專ラ教會(キルフ)ノ預ル處ニシテ、教會能ク此責ヲ盡スルハ、人心ニ感應スルコト、更ニ深切ニシテ、其良功アルコト、絶ヘテ國家政治ノ及フ所ニアラス、教會タル者、能ク自己ノ務ヲ敬シ、以テ天神ヲ畏敬スルノ道ヲ明カニシ、而シテ能ク人ヲシテ、天神ト合體スルヲ得セシムルハ、自ラ仁義禮讓ノ源泉、國家民人ノヒニ溢流シテ、決シテ盡クルコトナカル可ク、○國家ナル者ハ、人ノ良心知識ヲ制馭スルノ權ヲ有セス、且、冥々ナル精神ヲ拘管シテ、之ヲ正善ニ遷スルノ權ヲ有セス、國家ノ權ノ及フ所ハ、唯外貌ニ顯ハル、事上ニ在ルノミ、故ニ國家タル者、決シテ民人ノ道義心ヲ、直ニ照顧スルノ權ヲ有スルニアラス、唯精神内ニ潛住スル者發出シ、顯レテ外面ノ舉動トナルニ至リ、始メテ國家ノ管スル所トナリテ、其權内ニ歸スルナリ、○教會ハ能ク神教ノ道ヲ以テ人ノ暴惡ナル心意ヲ改メ、之ヲ正善ニ遷スルヲ得トイヘ、國家ハ唯能ク人ノ暴惡ナル所行ヲ禁シ、及ヒ善行ノ障礙妨害トナル者ヲ滅除スルヲ得ルノミ、○但シ此事務ヲ盡スニ於テモ、動モスレハ指令煩多ニ過キテ、深ク民人私事ノ區域ニ侵入シ、其自由ヲ妨ケ、或ハ又指令ヲ怠リテ、全ク民事ニ著意セサル等ノ弊害生シ易シ、此二弊害モ亦猶例ヘハ二個ノ相對セル巖礁ノ如シ、當路者宜シク共ニ之ヲ避ケテ、其中路ヲ航ス可シ。

○按)國家ノ權ト、教會ノ權ト相岐分スル所、本文ニ論スルカ如クシテ、遂ニ相犯ス可ラサル者ナリ、然ルニ未ダ開明セサル國ニ於テハ、政府往々縱ニ人ノ精神心意ヲ拘管制馭セントス、豈迷誤ノ甚シキニ非スヤ、卷ノ九教育事務ノ部、及ヒ英人ミルカ著ス所ノ自由ノ理(中村敬太郎カ所譯ナリ)中、此理ヲ詳論ス、宜シク就テ看ル可シ。

羅馬國ニテハ、國家タル者、人民ノ行狀ヲ警保スルヲ以テ、貴重スヘキ事務トシ、且ツ其行狀檢査ノ法ヲ立ツルヤ、事厥綜攬シテ、一ツモ遺サ、ルノ意ヲ以テセリ、而シテ其檢査官ナル者ハ、總テ民人

ニ存スル仁義禮讓ノ心ヲ妨害スル所業アレハ、之ヲ制止スルノ權アリキ、但シ此官決シ將來ヲ預防スルカ爲メニ其權ヲ施スニアラス、必ズ不正ノ行ヒテ爲ス者アルニ至リテ、始メテ其權ヲ施シタリキ、是レ公衆ノ際ニ其風俗ノ行ハレシムルヲ欲スルカ爲メニシテ、現ニ此風俗ヲ傷メ所業了然タル時ニ於テスルノミ、大功績アリテ、衆望ノ歸シタル徒ヲ選テ、検査官トナセシカ故ニ、決シテ不當ノ事ヲ爲スコトナカリキ、去レテ其者ノ所業、若シ實ニ法制ニ背ケル時ハ、則チ之ヲ制止スルコト、全ク法院ノ處分ニ係ルヲ以テ、検査官ハ敢テ之ニ關セザリキ、○縱令高位大官ニ居ル者ト雖モ、若シ其風俗ヲ傷メ所業アルキハ、決シテ検査官ノ刑罰ヲ通カル、コト能ハサリキ、中古ノ世ニ於テハ、教會ナル者、民人ノ行狀風儀ヲ視察照順スルコト十分ナリキ、然ルニ今時ニ及ヒテハ、教會ノ權頗ル陵夷シテ、十分ニ人ノ精神精意ヲ控制スル能ハサル勢トナリ、又尋常ノ警保官ハ、決シテ此事務ヲ主管スル能ハサルカ故ニ、方今ハ此事務ニ於テ、十分ニ主管スル者アラサルニ至レリ、○警保ノ諸事務中、其最モ難キ者ニ至リテハ、實ニ卓見高識ヲ備ヘテ、大ニ衆望ノ歸向スル人傑ナル者、全ク自己ノ意見ヲ以テ、自由ニ處分スルニアラサレハ、決シテ其功ヲ成ス可ラス、羅馬ニ於テ若キ事務ヲ以テ、衆人敬重スル所ノ人傑ニ委託セシハ、蓋シ此國ノ警保制度ノ眞ニ卓絶セシ所以ナリ、然ルニ今時ノ諸制度中、最モ宜キニ適セサル者ハ、警保ニシテ、決シテ羅馬ノ如キ良法アラサルノミナラス、動モスレハ、警保官ナル者、漫ニ細些ノ事ニ關シテ、害チ人民ニ流シ、遂ニ其嫉惡嫌忌ヲ受クルニ至ル、加之、政府官吏ノ爲ス所モ亦、過半ハ殆ト警保官ノ所業ニ等シシ、共ニ民人ヲ困シムルカ故ニ、滿政府遂ニ其嫉惡嫌忌ヲ受クルニ至ルナリ、警保ノ編制ヲ改革スルニアラサレハ、此弊害決シテ除去ス可ラス、而シテ方今ノ世ニ於テモ、威權ヲ縱ニセント欲スル、偏見劣識ノ官吏ニ警保權ヲ任セシメテ、別ニ衆望ノ歸向セシムル私人ヲ撰テ、之ニ委託シ、而シテ全ク其自己ノ意見ヲ以テ、其權ヲ施行セシメハ、上ニ論スルカ如キ弊害ヲ除クコト、決シテ難キニアラス、凡ソ天爵ヲ得テ、天下ノ仰慕ヲ受クル諸士、若クハ一私人ニ、此權ヲ委託セハ能ク其功ヲ奏シ、民人モ亦必ズ之ニ敬服スルニ至ルヘシ、而シテ今時ノオルデン(按)勳爵ヲ得

ル夥伴ナシ、如キモ、若シ此權ヲ委託セハ、乃チ其功益アル可シ、國家タル者教會ヲ監視シ、及シ神教會同ノ景狀、或ハ教育ノ方法(卷ノ九ニ於テ詳論スヘシ)ヲ都察スルノ職務ヲ除ク外、方今ニ於テハ、行狀風儀ヲ照順スル警保權ノ種類ト稱スヘキ者、甚タ少シ、(イ)看護警保(ホーラムンドシヤフツ、ポリツアイ)及シ婢僕ノ警保(ゲシンデ、ポリツアイ)、家々能ク治マリ、其眷族相和スルコト肝要ナルヲ以テ、能ク此目的ヲ達センカ爲メニ此警保ヲ行フナリ、但シ止私法及シ尋常ノ看護事務(ホーラムンドシヤフツ)ノミニテハ未ダ此目的ヲ達スルニ足ラサル時ト、及シ法院保護ノ術ヲ用フルコト、條理ニ於テ當然ナラサル時、若シクハ法院ノ保護層ク能ハサル時トニ於テノミ、此警保ヲ施行ス可シ、(ロ)一種ノ行肆店舎ヲ視察スルコト(ギー、アウフシフト、ユーベル、ゲキツセ、プリハートアインスクルテン)、即チ猛烈ナル飲料ヲ賣ル舖行(セング、ヒュールガイス、ゲトレンゲ)、展觀舖(シヤウブーデ)、貸覽書館(ライービブリチテリク)、(按)書籍ヲ貸覽スル處ナリ、等ノ如キハ、動モスレハ風儀亂レテ、不正ノ所業ヲ生シ易ク、又賭博場(スビールハウス)、妓樓(ホルデル)ノ如キ者ハ、素不正ノ事ヲ爲スカ爲メニ設クル者ナレハ、能ク注意シテ、此等ノ店舎ヲ監視スヘシ、(ハ)出版ノ警保、ナリ(按)恐ラシハ第四款ノ誤リナリ、(乙)民人ノ相協同スル方法ヲ照順シ(ザー、ヒュール、ソルゲ、ダス、ゲセルシヤフトリヘ、レイベン、ダス、ホルク)、其情意ヲ快活ニナシ(ソルゲ、ヒュール、サイチ、エルハイテルング)、及シ其互相ノ交際ヲ便ニスルコト(ソルゲ、ヒュール、サイチ、ベルセンリヘン、ヘルケトル)ニ著意ス(エヤリテート、即チ民人協同、及シ交際ノ警保、ゲセルシヤフトリツアイ)、方今ノ世ハ、神說若クハ事業ヲ以テ、志同ウスル者、自由ニ會社ヲ結テ、相協同スルコト、愈々切要トナリ、且ツ人性ニハ、必相協同セント欲スル心情相具スルヨリ、自ラ從來協同ノ方法體裁ヲ更ニ考究發明シテ、其品類益々多トナリシカ故ニ、國家此等ノ協同會社ヲ核管シテ、照順ヲ加フルニ

就テモ、亦一層注心掛慮ヲ要スルコトナレリ。○私人互ニ會社ヲ結ビ、相協同スルニ就テハ、必ス其自由權ニ由テ事ヲ行フハ、固ヨリ當然ナリ、故ニ警保官亦必ス此自由權ヲ能ク認許ス可キハ、論ヲ俟ス、加之、公衆安全ノ爲ニハ、復タ能ク公衆ノ保利ヲモ保護シテ、敢テ私人ヲシテ、此公衆ノ權ヲ侵カサシメサルヲ要ス、是故ニ此警保ニ於テモ、或ハ時アリテハ、私人ノ自由ヲ限制スルヲ要シ或ハ時アリテハ、之ヲ助ケテ増進セシムルヲ要スルナリ。(卷ノ十二第八款ヲ參看ス可シ)

國民ノ情意ヲ快活ニセント著意スルハ、仁善ノ處置ナリ、既ニ羅馬ニ於テハ、下民「麵包及戯嬉」(「パチム、エト、キルゲンセス」)ト云ヘル語ヲ以テ、其當然ノ大願欲ヲ訟ヘタリ、而シテ當路ノ人ハ、下民ヲシテ此二個ノ願欲ニ充テシムルヲ以テ、頗ル榮譽トセリ、然ルニ今時ノ警保官ハ、演劇開宴及「歡樂等」ノコトニ於テハ、唯其放恣ニ至ルヲ制シ、及ヒ危害ヲ生スルヲ防ク等、總テ陰ノ方向ニ進ム處分ニ勉勵スト雖モ、大ニ民情ヲ鼓舞作興シテ、之ヲ快活優美ニナスカ如キ陽ノ方向ニ進ム所ノ處分ニ至リテハ、羅馬人警保ノ意ニ及ハサル霄壤ナリ。○羅馬人、頗ル治體ニ練熟セシカ、殊ニ此陽ノ方向ニ進ム所ノ處分ヲ以テ、甚ダ緊要ナルコトヲシテ、大ニ之ヲ勉勵シ、而シテ其英傑ナル者ハ、相競テ大演劇ヲ興シタリキ、既ニ此國、民主國ナリシトニ於テハ、麵包及戯嬉ノ事ヲ照顧セシニギールハ、最高ノ官ニ登ルノ階梯ナリキ。

〔丙〕救助警保(ウンテルスツツングス、ポリツァイ)及ヒ救貧警保(アルメンポリツァイ)モ亦、此部類〔按〕教育警保ノ部類ナク、ニ列ス可シ。

此警保ヲ施スニ就テハ、先ツ眞ノ貧人ト、唯非常ノ時ニ當テ、一時救助ヲ仰ク者トヲ區別シ、且ツ又貧人中ニ於テモ、天然ノ貧人ト、自ラ求メテ貧窮ニ陥リシ者トヲ、仔細ニ區別スルヲ要ス、然ルニ若シ是等諸類ヲ悉皆同視シテ、全ク其區別ヲ立テサルハ、必ス一個ノ害アルヲ免レズ、其一ハ、之ニ由テ動モスレハ、貧人ノ自ラ貧困ヲ免レント欲スル氣節ヲ挫折シ、其二ハ、現ニ存スル弊害ヲ、益増加スルコト、屢々之アルナリ、是故ニ之レカ區別ヲ立ル、左ノ如キヲ要ス。

〔イ〕凶年饑歲等、糧食大ニ缺乏シ、其價非常ニ騰貴スル時、或ハ大火災、若シハ戰爭等起リ、平常ノ

糧食頓ニ亡失スル時、又ハ工商ノ業、一時ニ止息スルコトアリテ、庶民其業ニ就ク能ハサル時、以上總テ非常ノ災厄起ルニ方リテハ、政府一時許多ノ民ヲ救助セサル可ラサルアリ、而シテ此ノ如キ時ニ臨ミテハ、平常貧窮ナラサル者ト雖モ、自ラ活計ヲ營ム能ハサルヲ以テ、已ムヲ能ス一時救助ヲ仰クニ至ル、去レテ此輩元來貧窮人ナラサルカ故ニ、非常ノ事歇ミ、平常ノ形勢ニ復スルニ至レハ、自ラ能ク生計ヲ營ムヲ以テ、決シテ救助ヲ要セサル可シ。○然ルニ政府若シ救助ノ方法ヲ誤ルコトアルハ、却テ是等ノ徒ノ志氣ヲ挫キ、遂ニ懶惰ニ流レシムルノ恐ナキ能ハス、故ニ宜ク意ヲ用ヒ、敬ンテ此弊害ヲ防ク可シ、加之、益々其志氣ヲ獎勵シテ、良民トナラシムルコト、最モ緊要ナリ、凡人タル者ハ、皆自ラ其力ニ食ムコト、天理ノ當然ニ出レハ、縱令ニ非常ノ災厄アルニ方リテハ、一旦之ヲ救助スルコトアリ、是ニ因テ決シテ其自食ノ心ヲ失ハシムルコトアル可ラス、是故ニ一時災厄ノ爲ニ、救助ヲ仰ク者ヲ以テ、決シテ眞ノ貧人ト混同ス可ラス、其之ヲ待遇スルノ方法ニ至テモ、亦自ラ相同シカラサルヲ要ス、若シ之ヲ混同シ、同方法ヲ以テ之ヲ待遇スルハ、遂ニ其廉耻ノ心ヲ失ハシムルコト必然ナレハ、宜ク切ニ意ヲ用フ可シ、蓋シ人ノ自ラ艱難災厄ニ耐ヘテ、能ク之ニ勝ツ所以ノ者ハ、獨リ廉耻ノ心ノ存スルニ依レハナリ。

凡人タル者ハ、自ラ力メ自ラ食ムコト、甚ダ緊要ナレバ、若シ災厄起リ、勉力自養スル能ハサルニ方リテ、之ヲ救助シ、其災厄ニ耐ヘシムルハ、素ト經濟ノ事務ナレハ、決シテ警保官ノ掌ルヘキ職任ニアラス、然ルニ時アリテ、經濟ノ術策未、全ク災厄ヲ除クニ足ラサルコトアリ、是時ニ方リテハ、警保官已ムヲ得ス、其強盛ノ威力ヲ奮ヒ、經濟ノ事務ヲ助ケ、以テ民人ノ災厄ヲ攘ヒ、其安寧ヲ得セシメサル可ラス。

〔ロ〕天然ノ貧人トハ、素性自ラ營養スル氣力ナク、且ツ戚族ノ救助スヘキ者モアラサルヲ以テ、已ムヲ得ス、公衆ノ救助ヲ仰ク者ナリ、即チ親戚ニ離レタル貧兒、未婚セサル幼童、氣力憔悴セル老人、及ヒ病者、癡人等ヲ云フ、而シテ國家是等ノ徒ヲ救助スルハ、素ト神教及ヒ道義ノ旨ニ基キシナリ、中古ノ世ニ於テハ、教會專ラ此救貧ノ務ニ從事シタリシガ、今モ尙基督教ノ旨ニ由テ、此仁恤ノ

務ヲテ、放擲スル能ハサルハ固リナリ。去レヒ今時ハ殊ニ救貧ノ方法ヲ以テ、國家ノ掌ルヘキコトナセリ。蓋シ戚族ノ救助スヘキ者ナキ貧人ヲ看護シテ、決シテ凍餒ノ憂ヒナカラムルハ、國家當然ノ職務ナルヲ以テ、國家敢テ此務ヲ、怠ルヲ得サルナリ。○但シ國家此事ヲ爲ス、亦教育ニ係レル事務ニ於ケルカ如ク、決シテ威權ヲ施スヲ以テ、先務ト爲ス可ラス、必ス先ツ事務ヲ行フヲ以テ、先務ト爲ス可シ。故ニ救貧事務(アルメンブレীগ)ト、救貧警保(アルメンポリツァイ)トハ、又必ス分テ二事ト爲スヲ要ス。而シテ若シ唯救貧事務ノミニテハ、未ダ全ク貧人ヲ救助スルニ足ラサル時ニ於テノミ、己ムヲ得ス、救貧警保ヲ施行ス可シ。故ニ警保官ハ、唯救貧事務ノ官、自ラ其務ヲ、盡スニ力足ラサル歟。若シハ其務ヲ、怠ル時ニ於テ之ヲ補助スルノミ。

其他救貧ノ務ハ、専ラ各邑(ゲマインデ)ニ委任シテ、國家ハ直ニ之ニ關スルコトナク、唯國家ノ警保官タル者、邑ノ事務ヲ監督シ、且ツ其力ノ及ハサル所ヲ補助スルヲ以テ、甚ダ良制ト爲ス可シ。何者邑ハ、譬ヘハ家族ノ憂延セシ者ノ如クシテ、國家ト家族ノ中間ニ位シテ、各自ノ人ヲ管スル者ナレハナリ。是故ニ能ク邑内ニ住居セル貧人ノ状態ヲ詳悉シテ、之ヲ救助スレハ、邑ノ長スル所ニシテ、國家ハ此務メヲ爲スヨリモ其功却テ大ナル可シ。

(ハ)自ラ求メタル貧人トハ、元來身體強壯ニシテ、自ラ其力ニ食ム能ハサルニアラス、唯惰懶ニ流レ、職業ヲ惡シ、徒手遊食ヲ欲スルカ爲メ、遂ニ貧困ニ陥リ、他ノ救助ヲ仰ガサルヲ得サルニ至リタル者ヲ云フナリ。是故ニ政府此貧人ヲ救助センニハ、専ラ警保權ヲ施行シテ、酷ク之ヲ懲戒セサル可ラス、只救貧事務ノミニヲ以テ、之ヲ處スレハ、絶ヘテ益ナシ。○此故ニ此貧人ハ、必ス操作場(アルハイツハウス)懲戒場(コルレクサオンスハウス)ニ入レ、操作ニ従事セシメ、以テ嚴ニ之ヲ懲戒スルヲ緊要トス。但シ是等ノコトハ、決シテ邑ノ掌ル所ニアラス、必ス國家警保權ヲ以テ、此事ヲ爲サ、ル可ラス。

○英國ニテ以利沙伯女王、一千五百三十一年ニ在位ノ時ニ、唯痿瘋病ヲ患ル者、癩疾ニ罹ル者老

人及ヒ替者等ヲ救助スルカ爲メ、救貧稅(アルメンダキス)ヲ設立セリ。然ルニ其後ニ至リテハ、能ク職業ニ堪ユル者ニテモ、懶惰ニシテ、其業ヲ勉メスシテ、貧窮人トナル者ハ、共ニ救貧稅ヲ以テ、救助シ、而シテ本文論スル所ノ三種ノ貧人ヲ以テ、全ク混淆シテ、相分タサリシカ故ニ、其弊害遂ニ言フ可ラサルニ至レリ。○獨乙及ヒ瑞士ニ於テモ、此三類ノ區別、未ダ全ク十分ナルニハアラスト雖モ、英國ノ制度ニ比スレハ、遙カニ優ルト云フヘシ。

(第四)國家經濟ノ警保(スターツキルトシヤフツポリツァイ、又ホルクシスキルトシヤフツポリツァイ)國家經濟ノ警保ハ、即チ制馭ノ權柄(オブリグカイトリヘ、ゲワルト)ナルヲ以テ、此權ニ隨屬セル國家經濟ノ事務(スターツキルトシヤフツプレীগ)トハ、自ラ相異ナルコト、猶教育警保(シールツルポリツァイ)ト教育事務(シールツルプレীগ)ノ相異ナルカ如シ、平常ノ形勢ニ於テハ、單ニ經濟事務ノミニテ、足ルカ故ニ、決シテ權柄ナル警保ヲ施スヲ須ヒス。唯實ニ權柄ヲ施スコト必要トナル時ニ臨テ、之ヲ施行スルヲ要ス。經濟ノ警保ナル者ハ、即チ左ノ諸類ナリ。

(甲)水利ノ警保(ワッセルポリツァイ)江河ヲ修理シ、堤防ヲ建築シテ、人ノ沈溺、物ノ流失ヲ預防シ、並ニ江河ヲ通船、或ハ捕魚ノ用ニ供シ、河水ヲ水工ニ用ヒ及ヒ之ヲ田野ニ灌ク等ノコトニ於テ、公衆利益ノ爲メニ注意照顧シ、且ツ公衆利益ヲ妨礙スル者アレハ、則チ必ス之ヲ制止シ、其他海港ヲ開キ燈明臺ヲ建テ以テ、船舶ノ便益ヲ謀ル等ナリ。

(乙)道路、及ヒ街衢ノ警保(エーゲポリツァイ、ウインド、ストラーセンポリツァイ)即チ道路、街衢、鐵道、橋梁等ノ築造、修繕ノコトヲ照顧シテ、其堅牢ヲ保全スルヲ云フ。○橋梁ノ修繕ヲ命スルハ、警保ノ務メニシテ、之ヲ適宜ニ修繕スルハ、經濟ノ任ナリ。

(丙)公衆ノ爲メニ設ケタル井水、及ヒ公衆ノ爲メニ設ケタル園圃ヲ警保スルコト。○井水、及ヒ公衆ノ爲メニ設ケタル園圃ヲ警保スルコト、ハ、(按)往來スル者ノ爲メニ設ケタル井水、及ヒ公衆ノ爲メニ設ケタル園圃ノ警保ヲ云フ。其他此等如キ園圃ヲ修飾スルカ爲メニ、樹木草花ヲ培植シ、牌坊ヲ建造シ、及ヒ公衆ノ爲メニ館舎ヲ築營ス、且ツ之ヲ美觀清潔ニ粧飾

七下三二

スル等ノ一ヲ照顧ス。○縱令ヒ私人ニ屬スル屋舎ト雖モ、亦能ク照顧シテ、若シ公衆ノ安全ヲ害シ
公衆ノ忌避ニ觸ル、者アテハ、必ズ之ヲ禁止ス。但シ其照顧甚ク過察ニシテ、遂ニ私人ノ所有、及ヒ其
快樂ヲ拘束スルニ至ル可ラズ。
〔丁〕國家經濟ノ警保 ホルクスオキルトニヤフトリヘ、ボリツァイ、〔按〕以上甲乙丙丁ノ四種總テ稱シ
テ國家經濟ノ警保ト云ト雖モ、又丁ノ一類ノミナモ、國家經濟ノ警保ト云フ。
此警保ノ事ニ就テハ、卷ノ十二於テ、經濟事務ヲ論說スル時、併テ論說ス可シ、〔按〕卷之十第八款
ニ詳ナリ、即チ專ラ製作ノ事ニ係レル警保ナリ、

大井潤一 校

國法汎論卷之七 下終

國法汎論卷之八 上 目錄

司法

第一款 司法權ノ性及品類

第二款 司法ノ通則

第三款 私法事務ノ編制

八上目錄

此書首卷及前數卷ハ、一千八百六十四年ニ刊行セル第三版ヲ以テ譯セシト雖モ、頃日六十八年刊
行本第四版ヲ得タルニ由リ、本卷以下之ヲ以テ續譯ス、既譯數卷ノ如キハ、他日餘暇ヲ以テ、補訂
スヘシト云フ、

明治六年五月

譯者誌

瑞士

イカ、ブルンナユリ 著
加藤弘之 譯

司法(ケリヒト)

第一款 司法權ノ性、及品類(ギ、ナツール、ウンド、ギ、アールテン、デス、ケリヒト、司法ノ權ハ、總テ法制ヲ傷害スル者アルニ至リテ、始テ施行スル者ナリ、凡テ法制ヲ傷害スル者アレハ、則司法權ヲ施行シテ、其傷害ヲ除去シ、以テ法ノ尊嚴ナル所ヲ顯ハスナリ、此故ニ司法ノ權ハ、以テ國家ノ正義公道ノ旨ヲ保全スル所ノ者ナリ、司法ノ職掌ハ、分テ二類トス、

(第一) 法ヲ認知スルコト(エルケントニス、デス、レヒツ)(中古ノ語ヲ以テスレハ、即チ法ヲ覓着スルコト、ヒンデン、デ)即チ判定、ウールダイル(按)判定ニ二類アリ、一チ事ノ判定ト云ヒ、二チ法且ツ之ニ次テ、其事ノ曲直、或ハ其罪ノ有無ヲ判定スルヲ云ヒ、又法ノ判定トハ、某事或ハ其罪ニハ、某法當ル可シト判定スルヲ云フ、

(第二) 法ヲ施用スルコト(ハンドハーベン、デス、レヒツ)(按)法ヲ實地ニ施用シテ、事ヲ處分スルヲ云)是レ即チ眞誠ノ司法ナリ、(按)汎ク司法ト云フキハ、第一第一ノ二事ヲ合稱スト

元來判定ノコトハ、必ス國家ノ權ヲ以テ、爲スヘキ務ト云フ可ラス、人々或ハ事ノ法ニ合スルト否トヲ辨識スルノ眞知ヲ以テ、此事ヲ爲シ得ルアリ、或ハ法ハニ通曉セル學識ヲ以テ、此事ヲ爲シ得ルアリ、是故ニ此事ハ、他諸般ノ學術ヲ以テ、爲シ得ル事業ト、殆ト相殊ナル所ナシ、○然ルニ若シ眞誠ノ司法ヲモ、此理ニ據テ論シ、而テ私人亦以テ、司法ノ權ヲ有シ得ヘシト爲セハ、是レ大ナル謬見ト云フ可シ、凡テ判定ハ、眞誠ノ司法ニ先ツテ、施スヘキ預事タルニ過キスト雖モ、眞誠ノ司法ハ、必法院ノ司ルヘキ務トシテ、全ク國家ノ權ニ在ル者ナリ、是故ニ判定ノコトハ、或ハ私人ニ委託ス

「ル」アリト雖モ、司法ノ權ニ至テハ、國家常ニ之ヲ掌握セサル可カラズ、而テ判定ノ「ト」私人ニ委
托スル時ト雖モ、決シテ私人ニ其全權ヲ與フルニアラス、必ス國家ノ權ヲ以テ、之ヲ控制スルナリ
私權利若シ屈害毀傷ヲ受ルコトアルハ、之ヲ除去シ、以テ私權利ノ安全ヲ追回復舊スルハ、全ク私法
事務（ナヒールヒツプレン）（按）又訴訟事務ト譯ス、即聽訟事務ナリ）ナリ、此時ニ於テ、國家ハ
唯此法ニ依テ、私人ニ屬セル權利ヲ保護シ、以テ損害ヲ受ケサラシムルナリ、而シテ國家此目的ヲ
達セシムルハ、甲人ノ乙人ニ對シテ爲セル背法ノ私事ヲ除去シ、一ハ甲人ヲシテ、其乙人ニ被ラ
セタル損失ヲ償ハシムルハ、則チ足レリ、即チ之ヲ約言スルハ、總テ屈害ヲ受ケタル私權利ヲ追回復
舊スルヲ以テ、則チ足レリトスルナリ、

是故ニ此目的ヲ達セシムルハ、國家通例唯其權ヲ以テ、私人ニ眞實ノ法ヲ告示スルハ、則チ足ルナリ
〔按〕法院ハ唯法ニ據テ判定シ、原告人ハ宜シク云々スヘシ、被告ハ若シ兩造（按）原告ノ一人、法院ノ
被告ハ宜シク云々スヘシト命スルハ、則チ足ルナリ、（按）原告ノ一人、法院ノ

判定ニ服セシメテ、猶自論ヲ主張スルハ、於テハ、已ムテ得ス（按）國家ノ權ヲ以テ、之ニ強逼ス、
而シテ斯強逼スルハ、即チ其正義公道ノ旨ヲ伸フル所以ナリ、故ニ此事ハ、法院當然奉行ス可シ、縱
令ヒ警保官ノ補助ヲ假ルコト、必要ナルトキト雖トモ、專ラ主トシテ之ニ從事スル者ハ、乃法院ナ
リ、

元來私法ハ、全ク私人互相ノ交際ヲ制スル者ナルカ故ニ、素ト國家ノ當然關スヘキ者ニアラス、是
故ニ私人互ヒニ其權利ヲ屈害スルコトアル毎ニ、必ス國家ノ權ヲ以テ其屈害ヲ除去スルハ、決シテ國
家當然ノ務ト云フ可ラス、若此事ヲ以テ、國家當然ノ務トナスハ、遂ニ大ニ私人ノ自主自由
ヲ限制シテ、全ク其交際ヲ妨礙スルニ至ルハ、必然ナリ、故ニ私人ノ事ハ、私人ニ任セテ、自ラ處分
セシメ、國家ハ宜シク之ニ關セサル可シ、（按）去レテ茲ニ甲乙二人アリテ、甲ハ乙ノ權利ヲ屈害セン
ト欲スルハ、乙之ヲ防テ、其權利ヲ保全セント欲スト雖モ、甲若シ之ヲ肯セシメテ、猶屈害ヲ行フハ、
乙亦甲ノ權利ヲ屈害スルニアラサレハ、決シテ其屈害ヲ免カル、能ハサルナリ、然ルニ若シ是

等ノ事ナモ、猶總テ私人互相ノ處分ニ任セテ、國家敢テ之ニ關セサルハ、遂ニ公衆ノ平和親睦、
輒ク乖離スルノ恐レアリ、是ヲ以テ、今時ハ是等ノコトヲ決シテ臣民互相ノ處分ニ任スルコトナク、必
法院ヲシテ、公明ノ心術ニ依リ、良善ノ規律ニ遵テ、兩個私人ノ曲直ヲ判定セシメ、以テ兩個私人
ノ私ニ爭鬪スルナカラシムルニ至レリ、是故ニ私法事務ハ、必ス一競主ノ訴訟ニ由テ、始テ施行ス
ル者ナリ、

然ルニ、刑法事務（ストラフレンヒツプレン）（按）又治罪事務ト譯ス、即斷獄事務ナリ、ハ、私法事
務ト相異ナリ、故ニ管私人ノ權利ヲ屈害スルノミナラス、尙亦暴惡所行ヲ以テ、國家ノ法制ヲ破リ
其害ヲ生スル者アルニ方リテハ、必ス刑法事務ヲ施スヲ要ス、凡ソ現存ノ法制ヲ紊亂毀傷スルノ所
行モ、或ハ私法ニ關係ナキ能ハス、去レテ此所行ヲ企ツルノ心意方法、併ニ暴惡ニシテ、遂ニ公衆ノ
平和ヲ傷害スルニ至ルハ、必スヤ刑法ヲ施サ、ル可ラス、是故ニ刑法ハ、必ス公衆ニ關セル事ノ爲
メニ施行スル者ニシテ、則チ亦公衆法（按）即チ國法ヲ云フナリ、ノ一部分トモ稱ス可シ、緒論ヲ參看
スヘシ、○是故ニ此ノ如キ暴惡所行ヲ爲ス者アルニ方リテハ、其損害ヲ除去シテ、只屈害ヲ受ケタ
ル者ノ權利ヲ追回スルノミヲ以テ、足レリト爲テ可ラス、但此ノ如キ暴惡所行ヲ爲ス者アルニ方
リテ、此者ニ償金ヲ命シテ、屈害ヲ受ケタル者ノ損害ヲ償ハシムル處分モ亦必要トナルコトナキニ
ハ非サレハ、此事ハ唯私法ノ關係ヨリ生スルコトナルカ故ニ、全ク私法ノ區域ニ屬ス、去レテ此ノ如
キ徒ノ償金ノ科ハ、唯罪犯ニ附屬スル者ナルヲ以テ、罪犯ヲ罪スルニ方リ、刑法官ニ於テ、共ニ此
償金ヲ命ス、但シ又時宜ニ由テ、罪犯ノ處決ト、償金ノ處決トヲ區分シテ、償金ハ、尋常ノ訴訟法
官ヨリ命スルコトアリ、

刑法ノ本意ハ、刑罰ヲ罪人ニ課ラシムルニ在リ、凡ソ國家ノ害ヲ釀成スル罪人アルニ方リテハ、國
家其正義公道ノ旨ニ由リテ、嚴ニ其罪人ヲ罰シ、以テ其威權ヲ保全シ、且公衆ノ和平安寧ヲ追回
セサル可ラス、○罪科ト刑罰トハ、必ス適當スルヲ要ス、若シ罪刑適當セサルハ、決シテ法制ノ尊
嚴ヲ示シ、其紊亂ヲ復スル能ハサルナリ、凡ソ罪人ヲ懲戒シテ、正善ニ遷ラシメ、且兼テ預テ他人ノ

同罪ヲ犯スチ警戒スルハ、即チ刑罰ノ目的ナリト云フ可シ、去レ此事乃チ眞ノ眼目ト云フ可ラ
 ス、眞ノ眼目ハ、即チ本人ノ罪科ヲ罰スルニ在リ、是レ蓋シ正義公道ノ旨ニ出ル所以ナリ、
 ○スタール 獨乙人、一千八百零二年
 行(國家ニ於テハ即チ罪犯ナリ)ニテ爲セル者、必ス刑罰ヲ蒙ルハ、即チ正義公道ノ旨ニ出ル所ノ千
 古不朽ノ法ナリ、故ニ人ノ良知自由ノ力ヲ失フコトナケレハ、皆此理ヲ知ラサルナシ、去レ此罪犯
 人ニ刑罰ヲ加ヘテ、其苦ミヲ喫セシムルハ、則チ此罪犯ニ由テ、管テ妨害ヲ受ケタ、國家ノ法
 制秩序、舊ニ復シテ、其安全ヲ得ルニ至ルハ、何ニ由テ然ルヤ、其理ヲ解スルニ至リテハ、決シテ
 易事ニアラス、○(按)以下即チ上文ノ理ヲ解スルナリ)凡ソ罪人ヲ刑罰ニ處スルハ、罪人自ラ其
 刑罰ノ道義ノ理ニ出ル所以ヲ識得ス可シ、是ヲ以テ罪人ヲ刑罰スルハ、道義ノ理、益灼然タル
 ニ至ル可シ、是故ニ國家ノ刑罰ハ、決シテ報怨ノ旨ニ出ルニアラス、凡ソ報怨ノ旨、罪人ヲシテ
 苦痛ヲ喫セシムルニ在リト雖モ、國家ハ決シテ、罪人ヲ苦シメンカ爲メニ、刑ヲ加フルニ非ス、唯
 其刑ヲ加ヘンカ爲メニ、苦痛セシムルナリ、報怨ノ爲メニ苦痛ヲ喫フルハ、其後劇輕重、只報怨
 スル者ノ隨意ニアリテ、絶テ一定ノ限界アルナシ、然ルニ刑罰ハ、全ク之ニ反シ、必ス其罪犯ニ應
 シテ、大小輕重ノ差ヒアリ、(按)以上スタールノ論ナリ)○法制ハ人ノ善ト惡トヲ問ハズ、總テ
 只其存在ヲ保護ス、故ニ國家ハ決シテ暴惡ノ心ヲ罪セフ、唯他人ノ權利ヲ傷害スル暴惡ノ所業
 ナ罪ズルナリ、(按)以上著者ノ論ナリ)

是ニ由テ之ヲ觀レハ、刑罰ナル者ハ、全ク國法ニ屬スル者ナリ、然ルニ古時羅馬及ヒ獨乙ニ於テハ、
 罪犯人ヲ罰スルスラ、尙私入ニ縱ルセシカレ、今時ハ全ク此私刑ヲ禁シ、刑罰ノ權ハ舉テ國家ニ
 歸スルニ至レリ、蓋シ近今法理ノ開明進歩セシ所以ナリ、其他權利ノ傷害ヲ受ケタル者ノ告訴ニ由
 テ、始メテ罪犯人ヲ刑スルカ如キモ、亦甚シ刑罰ノ理ニ戻ルト云フヘシ、罪犯人ヲ追捕刑罰スルハ
 最モ國家ノ公事ナリ、故ニ必ス國家自ラ此務ヲ掌ラサル可カラス、○古時日耳曼ノ法ハ、私ニ仇

怨ヲ報シ、及ヒ私ニ爭鬪チ生スルヲ許セシカレ、其後佛朗哥王國開明チ得ルニ至リテハ、公衆ノ和
 平ヲ傷ハサランカ爲メ、必ス私訴(プリハートカラーゲ)ヲ禁ジ、(按)害ヲ受タル者ヨリ、其旨ヲ法院ニ告
 訴シテ、罪犯人ヲ罰セシコトヲ請フナ云)ヲ爲スチ通則トナセリ、英國ノ刑法ニハ、今時尙此意ノ存
 スル所アリ、然ルニ歐洲大地各國ノ如キハ、既ニ數百年前ニ於テ、罪犯者ハ官必ス之ヲ追捕スルノ
 法立チ、(按)スターツァインワルト、稱スル官、此事ヲ掌ルナリ、爾來漸ク通則トナルニ至レリ
 蓋シ此法ノ起ルヤ、其始ハ教會ノ力ニ由ル者ニシテ、更ニ前法(按)私訴ヲ爲メノ法ナ云)ニ
 優レル良法ナリ、而シテ其審理ノ法ハ、或ハ、イングリスチオンス、ヘルハーレン(按)法士獨リ審
 理ヲ司ルノ法ナリ)ヲ用ヒ、或ハアインソカラーゲヘルハーレン(按)スターツァインワルト、亦審
 理ノ事ニ加ハルノ法ナリ)ヲ用フ、○但シ又時アリテ、自ラ法外ノ處分ヲモ許サ、ル可ニス、例ヘハ
 傷婚(エトブルッフ、(按)夫アル婦、或ハ婦アル夫、他ニ犯姦ノ所業ヲ爲スチ云フ)ノ事アルニ
 方リテハ、夫婦ノ倫ヲ重スルヨリ、法外ノ處分ヲ許シ、(按)例ヘハ、夫其婦ノ姦通ヲ見ルハ、私ヲ以
 テ刑セサ、或ハ他人ノ體面ヲ毀損スル等ノ所行ハ、國家ニ取リテハ、甚ダ小事ト雖モ、毀損セラレシ
 ルナリ、或ハ他人ノ身ニ在リテハ、頗ル大事ナルヲ以テ、復シ法外ノ處分ヲ許シ、(按)例ヘハ、人吾レヲ拳毆スル
 他決シテ罪、其他スターツァインワルト若シ政令上ノ利害ヲ觀察シテ、故ラニ其告訴ノ特權ヲ施行セ
 カル時ノ如キ、(按)スターツァインワルトハ、罪犯人ヲ追捕告訴スルノ特權ヲ有スル官ナリ、然ル
 捕告訴ヲ爲サ、亦法外ノ處分ヲ許ス、(按)害ヲ受ケタル者、私ニ罪
 ルヲ云フナリ、犯人ヲ罰スルヲ許スナリ)

私法事務ト刑法事務トハ、自ラ相離レタルコトナルヲ以テ、之ヲ司ル所ノ官吏モ亦、相區分セル國多シ。實ニ此二個ノ事務ハ、全ク相殊ナルヲ以テ、之ヲ司ル所ノ官吏亦、別個ノ才識ヲ備ヘサル可ラス。例ヘハ訴訟法士(按)即私法事務ノ官ナリ)タル者ハ、私人互相ノ交際ニ於テ、甚ダ錯雜紛亂セル事モ、機敏ノ才ヲ以テ、容易ニ辨解シ、正當ニ處決スルヲ得ルノ天稟ヲ具ヘサル可カラス。然ルニ刑法士タル者ハ、罪犯人ノ心思ヲ洞觀シテ、殊ニ罪犯ノ意ヲ究察シ、及ヒ其罪狀ノ大小輕重ヲ、判別スルノ才識ヲ備ヘサル可ラス。○私法事務ニ於テハ、兩造(バルタイ、按)原告被告ノ兩對主ナリ)ハ、自己ノ事ヲ爲スヲ以テ、憲法許ス所ノ區域内ニ於テ、自己ニ進退スル者ナリ。是故ニ其法士タル者ハ、心ヲ公平審明ノ心ヲ以テ兩造ノ事ヲ判定セサル可ラス。然ルニ刑法ノ事務ハ、既ニ罪犯人ノ爲ニ傷害セラレタル正義公道ノ旨ヲ保護シテ、之ヲ追回スルコト、甚ダ緊要ナルカ故ニ、法士及ヒ判定者(ウーラタイレル)ハ實ニ強盛ナル精神力ヲ以テ、審理判定セサル可ラス。

第二款 司法ノ通則(ゲマインシャーマーグロントセツツモヒニール、ザーレヒツプレーグ)

〔第一〕國家ニ於テ、法院ヲ政府ヨリ岐分シ以テ別個ノ者トナスハ、近今ノ要則ニシテ、各國大抵此法ヲ用フ。(卷之五第二款、及ヒ卷之六第十款ヲ參看ス可シ)但シ法院ト政府トヲ以テ、全ク離分シ、絶ヘテ關係ナキ者トスルハ、甚ダ不可ナリ。何者、國家元首ナル者ハ、諸權柄ノ由テ發スル所ノ中心ナルヲ以テ、司法權モ亦形貌ニ於テハ、必、此中心ヨリ發山スレハナリ。故ニ法院ハ、政府ヨリ岐分セル者ト爲ス可シ。決、全ク離分スル者ト爲ス可ラス。○法院ハ政府ヨリ岐分セシ者ナル故ニ、實事ニ於テハ、必獨立不羈ニシテ其司法ノ務メニ於テハ、敢テ政府ノ指令ニ從フヲ要セス。○凡ソ國家ノ正義公道ヲ保護スルハ、全ク法士ノ要職須務ニシテ、彼ノ利便ヲ謀リ、有用ヲ濟スカ如キハ、決シテ其職掌ニアラス。故ニ法士タル者ハ、己ムヲ得サルノ事情、及ヒ屢變幼スル衆論等ニ若眼スルコトナリ。現ニ確定セル憲法ヲ其職務ノ規矩トシテ、一向之ヲ遵奉スルコトアラサレハ、決シテ能ク其職ヲ盡スト云フ可ラス。凡ソ法士タル者ハ、自己ノ椅前ニ出ル者ヲ、貧富強弱等ニ由テ、愛憎好惡ス

ルコトナリ。偏ニ公明正大ノ心ヲ以テ、其曲且邪正ヲ裁判ルルヲ要ス。然リ而シテ縱令ヒ政府ノ權ト雖、敢テ此裁判ニ容喙スル能ハサルナリ。

○葡萄牙ノ國憲第百十八章ニ云、「司法權柄ハ、獨立不羈ナリ。又其第百二十二章ニ云、「法士ハ、罪犯ニ由テ、判定ヲ受ルニアラサレハ、決シテ其職ヲ失フコトナカル可シト。○普魯士ノ國憲第百八十六章ニ云、「法士ハ、國君ノ名號ヲ以テ、司法權柄ヲ掌握ス。但シ法士ハ、唯憲法ヲ遵奉スルノミ決シテ他ノ指令ヲ仰ク者ニアラス。」又其八十七章ニ云、「法士ハ、國君ノ命ニ由テ、終生間擔任セラル。故ニ憲法裁定スル所ノ事故ニ由テ、裁判ヲ受クル時ニアラサレハ、決シテ其職ヲ放ダレ。或ハ一時其務ヲ停メラル、コトナカル可シト。」

上ノ理ヨリ生シタル規律、左ノ數條ニ學ルカ如シ。

〔甲〕何人ニ論ナク、若シ自己ノ權利ヲ、傷害セラレタリト思惟スルキニ於テハ、官ニ請願シテ、之ヲ追回シ得ルノ權アリ。國家民人ノ爲メニ、其私權利ヲ保護スルハ、決シテ偏頗アル可ラス。縱令ヒ微賤ノ民、及ヒ外國人ト雖、國家必、亦其權利ヲ保護ス可シ。太古ノ世ニ於テハ、外國人ハ、絶、テ權利ヲ有セサル者トシテ、國家之レカ保護ヲ爲サ、ルノ法ヲ用ヒ、又中古獨乙ニ於テハ、傷和罪(フリブルツ)〔按〕平和ヲ傷リ、ヲ犯ス者アルキハ、必、全ク其權利ヲ褫クヲ以テ、刑罰ト爲セシカモ、方騷亂ヲ醸ス罪ヲ云フ。今ニ至テハ、決シテ此ノ如キコトヲ爲サス。故ニ人ニシテ全ク權利ヲ有セサル者、絶ヘテ之、アラズ。○故ニ自己ノ事ヲ了スルニ堪ヘサル者ハ、必、之ニ代ハリテ、其權利ヲ看護スル者ナカル可ラス。〔按〕或ハ狂人痴愚、及ヒ自己ノ事ヲ了スルニ堪ヘサル者ナルカ故ニ、父母親、且、審理ノ時ニ於テ、訴訟成等之ニ代リテ、其權利ヲ看護ス。故ニ訴訟等ノコトモ亦代者之ヲ司ル。且、審理ノ時ニ於テ、訴訟ノ法式煩シク、及ヒ其費用ニ多ク要スルルハ、自ラ貧窮人ノ爲メニ、訴訟ノ路ヲ塗閉スルノ思ヒアル

ナ以テ官ヨリ貧窮人ニ代テ訴訟ノ事ヲ爲スヘキ者ヲ命シ、務メテ訴訟ノ路ヲ洞開スルヲ佳シトス。○但シ又訴訟ノ事ヲ好ム徒、動モスレハ詭譎ノ術ヲ施スノ恐レ少ナカラス、且ツ又一腕主儘許多ノ損失ヲ被ルコトアルヲ以テ、國家預メ規律ヲ設ケテ、是等ノ害ヲ防制スベシ、例ヘハ保償ノ制度カウチオンス、ノ如キ是ナリ。(按)原告人若シ曲ナルハ、被告人ノ損失ヲ償ハシメンカ爲メニ、ステルルンク、ノ如キ是ナリ。訴訟ノ時ニ於テ、預メ原告人ヨリ金ヲ出サシムルノ制度ナリ。

(乙)何人ニ論ナク、其當然ノ法院ニ於テ、審理ヲ受クルノ權アリ。(按)或ハ臨時ニ設置スル法士中古日耳曼ニテハ、諸般ノ事ニ於テ、同品位ノ者、互相交關スルヲ貴フノ風アリシカ故ニ、判定ヲ受ルノ規律モ、更ニ綿密ニシテ、各人必、其夥伴ノ判定ヲ受クルノ法ヲ立テタリ、故ニ古時ノ獨乙國法院(ライヒスゲリヒト)ニ於テハ、ヒュルスト(按)侯爵ナリ)ハ、必ス他ノヒュルストノ判定ヲ受ケ、レヘン(按)封土ノ如キ者)ノ事件ニ付テハ、ハール(按)封土ヲ受有スル者)ハ必ス他ノハールノ判定ヲ受ケ、並ニシニ(按)一種ノ判定者)ニ隨屬セサル徒ニ至テモ亦、其夥伴ノ判定ヲ受ケタリ、其他平民ハ、唯其居住スル都市ノ裁判局ニ於テ、判定ヲ受ケ、又侯伯ニ屬セル農民(ホフヘーリゲル、バツメル)スニ、尙通例ハ唯其若家ノ裁判局ニ於テ、判定ヲ受ケタリキ。○然ルニ今時ハ品位ニ由テ、此ノ如キ區別ヲ爲スコト廢止セシカ故ニ、刑法及ヒ私法ニ於テ、萬民ノ權利、總テ皆同一トナリ、且ツ皆同一ノ法院ニ於テ、判定スルコトナレリ、凡ソ此ノ如キ變革アリシハ、全ク萬民皆同一ノ權利ヲ貴重スル者ニシテ、實ニ近今法理ノ大イニ開明セシ所以ナリ。是故ニ國民ノ品位ヲ論セス、皆同一ノ法院ニ於テ判定スルノ規律ハ、實ニ常法トシテ、遵守セサル可ラス、但シ今世ハ、唯漫ニ此常法ヲ遵守スルヲ貴テ、決シテ此常法外ノ規律ノ緊要ナル所以アルヲ知ラス、凡ソ世間ノ諸事件、諸職業ノ中ニ於テハ、儘尋常一様ノ理ヲ以テ、論ス可ラサル者、アリ而シテ是等ノコトヨリ事ノ生スルコトアルニ至リテ、其曲直邪正ヲ判定スルハ、亦唯是等ノ尋常ノ能練磨セ

ル者コアラヤレハ、決シテ能ハザルナリ、故ニ法院ノ編制ニ就テハ、決シテ此理ヲ忘失ス可ラス。而シテ近今各國共ニ、能ク此ノ如キ事ニ就テ、判定スル所ノ法院ヲカシテ、可ラザル所以ヲ悟リタシ、必ス宜シク別種ノ法院ヲ設立シテ、此ノ如キ別種ノ事ヲ判定セシム可シ、但シ別種ノ法院ヲ設置スルカ爲メニ、彼ノ萬民皆同一ノ法院ニ於テ、判定スルノ常法、及ヒ萬民皆同一ノ法ヲ以テ、判定スルノ規律ヲ傷フカ如キ弊害ヲ生ス可ラス、今上文ニ於テ、尋常一様ノ理ヲ以テ論ス可ラサル者アリト云ヒシハ、即チ殊ニ工商諸業ノ關係ヨリ生スル事件等ヲ指スナリ、但シ縱令ヒ是等ノ事件ト雖、決シテ悉皆尋常ノ理ヲ以テ、論ス可ラストハ、爲ス可ラス。

○荷蘭ノ國憲第百五十五章ニ云、「何人ニ論ナク、其當然審理ヲ受ヘキ法士ノ審理ヲ受クルヲ妨ケラル、コナシ」(按)一人審理ヲ受クルコトアルニ方リテ、當然審理スヘキ法

(丙)前章ニ論スルカ如キ埋アルカ故ニ、乃チ非常法院(アウスナームスゲリヒト)(按)臨時ニ設置スル法院ヲ云)ノ設置ヲ禁スルノ理、茲ニ於テカ生ス、抑非常法院トハ何ソヤ、即チ預メ司法ノ制度(ユスナツヘルハッスング)ニ裁定セスシテ、時ニ臨ミ特ニ設置スル所ノ法院ヲ云フナリ、故ニ軍隊ノ爲メニ設置スル所ノ尋常ノ軍陣法院(ゲユーンリヘ、ヨリテールゲリヒト)及ヒミニニステル等ノ罪科ヲ裁判スルヲ掌ルヘキ國事法院等ノ如キ者ヲ、指目スルニハアラス、但シ此等ノ法院モ亦、唯一種ノ人品ノ爲メニ設ケ、且臨時ニ其用ヲ爲ス者ナルハ、固ヨリ論ナシト雖、必ス預メ法制ニ於テ確定スル者ナルヲ以テ、其埋ハ平常設置スル所ノ法院ト相異ナル所アラサルナリ。○然ルニ常立法院ノ外ニ、之ニ代ハル所ノ一種ノ非常法院ヲ設ケ、以テ常立法院ノ當然掌ルヘキ務メヲ取テ、此非常法院ニ托スルカ如キハ、全ク禁止セサル可ラス。

八上九。但シ唯實ニ已ムヲ得サル時ニ於テノミ、此規律ニ戻レル處置ヲ許ス可シ、乃チ已ムヲ得ザル時トハ、例ヘハ、第一ニハ常立法院大イニ嫌疑ヲ受ケテ、實ニ司法ノ務メヲ盡ス能ハサルニ至レル時、若クハ常立ノ數法院ニ於テ、審問セル數事ヲ、更ニ一法院ニ統合シテ、再ヒ審問スルコト必要トナル時ヲ云

又第二... 國家ニ非常ノ事起リテ、尋常ノ司法ヲ施ス能ハサルニ至リ、加之、嚴猛ノ威ヲ以テ、神速ニ裁判ヲ施スニアラサレハ、決シテ國家全體ノ法制ヲ保護スルニ足ラサル時ヲ云フナリ。○右第一ノ場合ニ於テハ、臨時ニ設置セル非常法院ノ職掌、權利、及ヒ裁判ノ規律共ニ、全ク常立法院ニ同シカル可ク、且、非常ト云ヘル稱ハ、唯外貌上ノミニシテ、其實ハ全ク常立法院ニ異ナルナリ、且、非常法院ヲシテ、全ク同法規律ヲ遵守シテ、決シテ嚴猛ノ威力ヲ施サ、ラシムルニ足ルヘキ法アルヲ要ス。然ルニ第二ノ場合ニ於テハ、大ニ常規律ニ戻レル處置ヲ以テ緊要トナス、凡ソ戰爭、或ハ叛亂アル時ニ於テハ、ステンドレヒト(按)國家危難ノ時ニ於テ用フル、嚴猛ノ裁判法ヲ云フテ告示シテ之ヲ用フルニアラサレハ、決シテ國家ノ危難ヲ救フニ足ラス、故ニ此ノ如キ時ニ於テハ、故ニ臨時ニ設置セル軍陣法院、及其他ノ非常法院ニ、嚴猛ノ威力ヲ附托シテ、平日ハ決シテ罪スルニ抵ラサル所業ト雖ヒ、其時ニ方テ、妨害トナル可キ者ハ、悉ク之ヲ罪シ、或ハ平日常ニ嚴烈ナル刑法ヲ施用セシム可シ、且、平常ノ裁判ニ於テハ、大ニ法士ノ粗漏ヲ防キ、且、對手(按)罪犯ヲ告訴セラレタル者ヲ云フヲ保護シテ、之ヲシテ冤罪ヲ受ケサラシメンカ爲メ、設ケタル、數種ノ規律ノリト雖ヒ、此非常法院ニ於テハ、之ヲ廢止シ、而シテ務メテ、審判判定ノ迅速ナルヲ要スルヲ決シテ妨ケナシトス。○但、此非常法ヲ許スヤ、唯實ニ國家ノ危難アル時、及ヒ其未タ鎮定セサル時ニ限ル可シ、決シテ其他ノ時ニ於テ、之ヲ用フルヲ許サス、且、縱令此ノ如キ時ト雖、是ニ由テ、決シテ國家ノ正義公道ノ本旨ヲ害スルヲ許サス、是故ニ左ニ舉ル所ノ數件ハ、必ズ之ヲ確守セサル可ラス、即チ第一ニハ、將ニ罪セントスル人ヲ、敢テ自ラ防護スルヲ得セシムルヲ、(按)冤罪ヲ辨解セシムルヲ云フ第二ニハ、之ノ判定スルニ判定ノ本意ヲ失ヒ、遂ニ國家ノ意思ヲ述告スルカ如キニ至ラサルヲ、即チ司法ノ規律ヲ確守スルヲ、(按)判定ハ偏ニ憲法ニ依テ施スヘキ者ニシテ、決シテ國家ノ意思ニ由ル者ニアラス故ニ此ノ如キ、及ヒ第三ニハ、罪ノ疑ハシク、未タ其確證ヲ得サル者ハ、決シテ罪ヲ可ラサルヲ等ナリ。(第二)古時ハ總テ公衆ニ係レル事ヲ公然ニ處分スルヲ、今時ニ比スルニ覺カニ卓越シタルハ、當時

司法ノ務メヲ掌ルコトノ公然ナリシモ、敢テ異シムニ足ラス、既ニ羅馬ノ法士ハ、寬平ナル市街ニ於テ高座ヲ占メ、審判ノ事ヲ掌リ、又獨乙ノ法士ハ、菩提樹及橡樹ノ下ニ露座シテ獄訟ヲ掌リ、而シテ唯晝間ノミ之ニ從事シタリキ、其他又ビツァンツ(按)東羅馬帝ノハシリケン國(按)法院モ亦嘗テ其官署ヲ鎖閉スルコトナカリキ、

然ルニ第十五世期、及第十六世期ノ頃ニ至リ、始テ法院ノ官署ヲ鎖閉シテ、隱密ニ審理ヲ施スノ風起リ、漸ク各處ニ蔓延セリ、蓋、此風起ル所ノ因由、數種アリト雖ヒ、就中第一ニハ、教會ニ於テ、教旨ヲ信セサル徒ヲ懲戒スル嚴法ニ倣ヒ、查問ノ時ニ方リテ、罪人ノ心思ヲ究鞠スルニ、例ヘハ猛獸ヲ其潛伏セル窟洞ニ索テ、鈴ニ之ヲ捕獲スルカ如キ詐術ヲ用ヒシニ由リ、第二ニハ、羅馬ノ法學ヲ取リシヨリ、殊ニ私法事務ニ於テハ、專ラ實況ニ著眼スルコトナク、唯書籍上ノ學習ニ勉勵スルヲ、主トスルノ風習ヲ生セシニ由リ、第三ニハ、國民ノ國事ニ關スルノ權、大ニ衰殘セシニ由リ、第四ニハ、時勢君主專權ノ政、漸ク行ハレシニ由テ、今ノ勢ニ至レリ、然ルニ概近ニ至リ、各國皆、司法ノ公然ヲ復舊スルトナレリ、去レヒ既ニ古時ノ公然法ヲ視テ、其利弊ノアル所ヲ窮メシカ故ニ、只古時ノ如ク、漫ニ公然ヲ要トムルニアラス、必條理ニ由テ之ヲ索メテリ、○司法ノ務メハ、實ニ公然法ノ光線ヲ得ルニアラサレハ、決シテ生長スル能ハス、(按)此、比喩ノ言ヲ以テス且、又決シテ、公衆ノ信ヲ取ル能ハス、○凡、人ノ心思、及ヒ冥々不死ノ精神ヲ究追スルカ如キハ、決シテ國家ノ掌ルヘキ所ニアラス、精神動テ外貌ニ發シ、惡所業トナリ、以テ國家ノ法制ヲ傷害スルニ至リテ、始メテ國家ノ當ニ關スヘキ者トナルナリ、是故ニ國家ハ、敢テ精神ノ秘蘊ヲ究追スルノ權ヲ有セス、人ノ精神ニ就テ審判スル者ハ、獨リ、天神ノミ、唯精神動イテ外貌ノ所業トナルニ至リ、始メテ國家憲法ノ區域ニ屬スルナリ、
○荷蘭ノ國憲第百五十五章ニ云フ、法院ノ事務ハ、宜シク公然ナル可シ、但、若シ公然ニナストハ、之レ

ニ由テ、公衆ノ秩序禮義ヲ害スルノ恐レアルルキニ於テ、己ムテ得テ、法院ノ館舎ヲ鎖閉スルカ如キハ、必ズ憲法ニ從テ、之ヲ定決ス可シト、

但シ公然ト云フコトニ數意アリ、就中兩造及ヒ罪狀ヲ告訴セラレタル者ニ對シ、司法ノ公然ニシテ、敢テ隱秘スルコトナキハ、殊ニ緊須ナルコトナリ、私法事務ニ於テハ、兩造互ヒニ訴訟ノ情由其答辭ノ旨趣、及ヒ其証左ノ事山等ヲ、十分ニ究追詳悉シ、而シテ又自己ノ所業ニ於テ、過失ナキノ確證アレハ、則チ公然之法士ニ對シ、演述スルモ自由ナル可シ、并ニ其事ニ就テ、法院ノ裁判如何、及ヒ之ヲ裁判スル所以ノ理由如何チ、聽取スルヲ得ルノ權利ヲ有ス、又刑法事務ニ於テハ、罪狀ヲ告訴セラレタル者ト雖モ、尙此權利ヲ有スルコト當然ナリ、凡シ是等ノ公然ヲ障礙スル處分ハ、即チ人ノ正義公道ヲ掩翳スル所ノ蔭影ト云フ可シ、○兩造或ハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ハ勿論、其他國民一般ニ、司法ノ公平正直ナル所以ヲ信スルニ至ルハ、殊ニ此ノ公然法ノ在ルアルニ由テナリ、(按)本文論スル所、即チ公然ノ第一意ナリ、又唯法院ノ處分ニ由テ自ラ其利害ヲ受ル徒、即チ一般ノ民人(按)法院輩ノ罪科、或ハ訴訟ト雖ヒ、之ニ就テ正善ノ處分ヲ爲スルハ、則チ能ク國家ノ正義公道ヲ保護スルカ故ニ、是ニ由テ、一般民人、自ラ利害ヲ蒙リ、又若シ邪惡ノ處分ヲ爲スルハ、即チ正義公道ヲ傷害スルカ故ニ、是ニ由テ一般民人、自ラ利害ヲ蒙ルノ理ナリ、故ニ法院ノ處分ハ、ニ對シ、司法ノ公然ナルハ、悉ク一般民人ノ利害ニ關スルナリ、蓋シ和漢人未ダ曾テ此理ヲ悟ラス、ニ對シ、司法ノ公然ナルハ、則チ第二意ノ公然ト稱ス可シシテ、第一意公然ニ比スレハ、即チ其緊須ナルコトモ亦更ニ少シ、去レ

此公然アルルキハ、自ラ第一意ノ公然廢墜スルニ至ルヲ防クニ足リ、且、公衆ノ眼目、自ラ司法ノ善惡ヲ注視スルニ足ルノ利アルカ故ニ、此公然ノ法亦、決シテ廢ス可ラス、○刑法事務ニ於テハ、此公然ノ法、最モ利アリト云フ可シ、何者、刑法事務ノ當否ハ、殊ニ公衆ノ利害ニ關係アレハナリ、但シ私法事務ニ於テハ、此公然法ノ利クル、刑法事務ニ於ケルヨリモ更ニ少シ、蓋シ訴訟ノ事ハ、通例只兩造ノ利害ニ關係アリテ、公衆ノ利害ニ關係アルコト少ナケレハナリ、是故ニ私法事務ニ於テ、公然ノ法、若シ兩造ノ利トナラス、却テ害トナル歟、若クハ此法ヲ用フルカ爲メニ、却テ禮儀亂ル、ノ恐

レアルルキハ、必ズ法外ノ處分ヲ爲サル可ラス、(按)即チ公然ノ法ヲ用ヒス、人ヲシテ聽聞スルヲ得セシムルナリ、加之、刑法事務ニ於テスラ、尙公衆ノ聽聞ヲ許スノ法ヲ以テ、決シテ動カス可ラサル嚴法トハ爲ス可ラス、唯容易ニ此法ヲ動カシテ、敢テ公衆ノ聽聞ヲ禁セサルノミ、○公然ノ法ヲ用フルカ爲メニ、時アリテハ、罪過ヲ告訴セラレタル者ノ黨與、或ハ妄リニ其罪過有無ノ證左ヲ論シテ、之ヲ抗辨スルニ至ルカ如キ弊害アリ、此小大ニ正義公道ノ旨ヲ傷害シ判定官ヲ輕蔑シ、及、刑法ノ威權ヲ侮慢スルノ所行ト云フ可シ、去レ此弊害ハ、決シテ司法ノ公然法ノルヨリシテ生スルニアラス、法士ノ膽力脆弱ニシテ、且、自ラ其職掌權利ノ尊重ナル所以ヲ悟ラサルカ爲メニ、遂ニ此輕侮ヲ來タスナリ、然ルニ儘又司法ノ商議(グリヒツペラーツング)ニ至リテ、毫毛隱秘セサルノ法ヲ立テ國アレヒ、此法却テ宜シキヲ得ル者ト云フニ足ラス、總テ司法ノ處分(按)即チ查問判定ノコト云)ナル者ハ、必ズ公然明白ナルヲ要スト雖ヒ、未ダ此處分ニ及ハサル以前、施ス處ノ商議ニ至リテハ、決シテ然ラス、凡シ人悠閑ニ事ヲ商議スルルキハ、其思考モ自在ナルヲ以テ、自ラ亦明瞭ヲ得易ク、且、己ノ論ヲ未ダ公然ト、大衆ニ告論セサル間ハ、自己ノ謬見ヲ棄テ、他人ノ卓見ニ從フコトモ、自ラ爲シ易キノ理ナリ、

第三)司法公然ノ理ト、密ニ吻合スル者ハ即チ口述(按)法院ト、兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者トノ間、親近ニシテ、互相ノ情實、如意貫徹スルニ在リ、且、之ニ由テ、其情由チ穿鑿スルコトモ、自ラ易ク、判定ノ公正ナル所以モ、自ラ一般ノ依信ヲ興スニ足リ、及ヒ、司法ノ務メ、益々民人ノ性情ニ適スルニ至ル可シ、然ルニ口述ノ法ヲ用ヒシテ、筆述(按)法院ト、兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者トノ間、應酬問答、都テ口述ノ法ヲ用フルルハ、法院ト兩造若クハ罪狀ヲ訴ヘラレタル者ト、直ニ相接セサルカ故ニ、其情實、多少ハ文墨ノ間ニ隱晦シテ、殆、相通セサルニ至ル、是

ニ於テ、兩造若シハ罪狀ヲ告訴セラレタル者、暗ニ想フ、法士實ニ我カ述告セル意ヲ能ク了解シタルヤ、恥ヲ知ラサル狡猾ノ徒、其間ニ在リ、夫カ爲メ、法士或ハ欺騙セラル、トナキヤ、或ハ實ニ其職掌ヲ盡スヤ否ト、其於テ、大ニ疑團ヲ生スルコトアリ、法士屢ク公衆ノ信ヲ失フコトアルハ、蓋シ是等ニ由テナリ。○其他法士動モスレハ、其文書ニ法科ノ言辭ヲ用ヒテ、巧ニ舞文辨論シ、以テ其學識ヲ誇ルコトアルカ故ニ、兩造若シハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ハ、却テ其事理ヲ了解スル能ハサルノ弊害アリ、是ニ於テ、法ニ關スルコト會得シテ能ク之ヲ遵奉スル者ハ、獨リ博識ノ學士ノミナルニ至レリ、但、審理ノ歸結（按、即、判定ヲ云）及、費用簿（按、審理ノ爲メニ要セル費用ノ簿冊ヲ云フ歟）ノ如キハ、記スルニ平常ノ言辭ヲ以テスルカ故ニ、兩造及、罪狀ヲ告訴セラレタル者モ、通例解シ得可シト雖モ、其他總テ審理ノ事、及、判定ノ由テ出ル所以ノ理ノ如キニ至リテハ、縱令詳細ノ文書ヲ與ヘテ、看讀セシムルモ、此輩決シテ辨解スル能ハス、譬ハ、唯審理ノ歸結、及、費用簿ノ由テ出ル所以ノ理ニ至リテハ、總ヘテ兩造等ニ關係ナク、空シクアインワルト、（按、兩造等ニ代リテ辨論スル者ヲ云）及、法士ノ學習上ニ係レルコト如シ、勢ヒ此ノ如クナルモ、至リテハ總テ法制ニ屬セルコトハ、全ク學者ノ關スル法ニシテ、一般民人ノ爲メニハ、無用ノ者タルカ如ク然リ。○熟、今古ヲ歴覽スルニ、方々文明開化進ムシ以來、法學ノ術、古時ノ簡易ナル如キ能ハサルカ故ニ、民人一般之ニ通曉スルヲ得サルヨリ、自ラ上文ノ如キ形勢ニ至レリ、抑、方々今ノ勢ハ、先積年ノ學習練磨ヲ經ルニ非サレハ、決シテ法學ニ通曉スル能ハス、又實ニ法學ニ通曉セル法士ニ非サレハ、決シテ法學ヲ實地ニ用フル能ハス、故ニ未ダ曾テ法學ニ從事セサル者ハ、絶テ法ヲ論スル能ハサルハ、固ヨリ當ニ然ル可シ、然リト雖モ、斯ク法學ヲ練磨セシ法士クル者ハ、能ク不學無智、徒ニ論シテ、審理ノ次第、及、判定ノ理等ヲ、詳ニ了解セシムルノ法方ヲ用フルコト最モ緊要ナリ、而シテ此方法ヲ撰ハント欲セハ、口述ヲ以テ審理スルノ法ヲ用フルニ如クナシ、蓋シ口述ノ法ハ、法士ト兩造等トノ際、相近ウシテ、其情實意ノ如ク貫徹スレハナリ、是故ニ口述ノ法ハ、實ニ審理

ノ良法ト云フ可クシテ、諸國ノ法院ニ通シテ、適應スル所ノ要則ナリ、去レモ全ク之ニ偏倚スルハ甚可ナラス、何者、時アリテハ、筆述ノ法、却テ口述ノ失ヲ補フノ利アレハナリ、凡ソ筆記セルコトハ口述ニ比スレハ、更ニ確實ナルカ故ニ、口述ヲ以テスルハ、或ハ粗漏ニ聽過シ、又ハ容易ニ忘失スルコトアルモ、若シ筆記ヲ以テスルハ、之ヲ讀ムコト自ラ丁寧ナルカ故ニ、其事理ヲ確切ニ了悟シ得ヘク、又辨論者モ、口述ヲ以テスレハ、其辭氣ノ間、或ハ粗言謬語等アルヲ免レヌト雖モ、筆記ヲ以テスルハ、必、熟慮シテ敷陳スルカ故ニ、其事理自ラ確切著實トナルノ益アリ、○方々人世諸般ノ事、頗ル精密ニ涉レル世ニ在リテハ、筆述書記ノコトハ、辨駁論說ニ於テ、實ニ緊要ナル者ナレハ、若シ司法ニ於テ、全ク之ヲ廢セント欲セハ、其害殆ト少カラサル可シ、其故ニ時アリ、筆述ノ法緊ニナル時ニ於テハ、常法外ノ處置ヲ以テ、之ヲ併用セサル可ラス、例ヘハ訴訟及ヒ治罪ノ事ニ於テ、若シ爭論ノ決シ難キニ遇ヒ、互ヒニ綿密ニ辨論スルヲ要スル時、如シ、

（第四）又法院判定ヲナスニ方リ、其判定セシ所以ノ理應ヲモ、兼テ告示スルノ法ハ、近今各國ノ國憲上定ムル所ニシテ、實ニ近今法理頗ル開明セル世ニ適應スル者ト云フ可シ、蓋シ此法ノ利タルヤ、法院ヲシテ、正義公道ノ旨ヲ務ムル所以ニ、自己ニ對シ、並ニ兩造等ニ對シ、及ヒ一般國民ニ對シテ、明カニ保證セシムニ足リ、併セテ專恣妄行ヲ爲サ、ラシムルニ足ルナリ、

第三款 私法事務ノ編制
オルガニサチオン、デル、チヒール、プレ、ゲ、（按）
 又訴訟事務ト譯ス、即チ聽訟事務ヲ云フ、

○（第一）所謂和約ノ司法
フライ、キ、ル、ゲ、（按）私人互相ノ爭訟ニ就
 按、私人互相ノ合約ヲ保證スル事務ヲ云、ト、爭訟ノ司法、ストライ、ナ、ゲ、イト、（按）私人互相ノ爭訟ニ就、ト、ヲ以テ、方々、既ニ全ク離分セル國アリ、或ハ仍全ク相合セル國ヲ、法院ノ判定スル事務ヲ云、ト、ヲ以テ、方々、既ニ全ク離分セル國アリ、或ハ仍全ク相合セル國アリテ、其制一樣ナラス、凡ソ司法ノ本務ハ、決シテ私人互相ノ法ヲ制シテ、其權利ヲ定ムル爲メニアラス、唯毀壞セザレタル權利ヲ追回復舊スルニ在リ、是故ニ私人相合約シテ互相ノ權利ヲ設定スルカ如キハ、全ク兩個私人ノ權ニ在リテ、決シテ法院ノ當然關スヘキ所ニアラス、元來法院ノ事務

ニ屬セサルコトハ、決シテ法院ニ委託セサルヲ真善トス。○但シ例ヘハ土地田園ノ賣買典當等ニ係ル
 ル合同ニ於テ、公ノ監守、及ヒ保護ヲ要スル歟、若シハ免法、或ハ約定書類ニ於テ、公ノ保證ヲ要
 スルカ如キ、總テ唯外貌上ニ於テ、法院ノ相關スルコト緊要ナル時ハ、法士ヲシテ是等保證ノ事ヲ掌
 ラシムルコトハ、寧ロ別ニ是等ノコトヲ專掌スヘキ者ヲ任スルコト、更ニ良好利便ナリトス。而シテ此
 職務ヲ托シタル者ハ、決シテ職權ヲ與ヘテ、眞ノ官吏ト爲ス可ラス、唯私人ノ交際上ニ於テ、保
 證ノコトヲ掌ル者ト爲スヲ要ス、彼ノノミナル、及ヒメシレル、ノ職ノ如キ、即チ是ナリ、但良善ナル法
 制ノ安全ナラント欲スルカ爲メニ、是等ノ徒、實ニ能ク其職ヲ盡スヤ否ヲ監視スルハ、全ク法院
 ノ職掌ニ屬スト雖モ、此事ハ甚メ罕レニアルノミ。然ルニ私人互相ノ權利、實ニ其當ヲ得タリヤ
 否ヲ考察シ、而シテ若シ當ヲ得サルコトアレハ、是ニ由リ遠ニ現立ノ法制ニ障害アルヲ以テ、預メ防備
 シ、及ヒ他日ノ爭端ヲ未萌ニ消スル等ノ事、緊要ナルカ爲メニ、法院ナル者、私人互相ノ和約ニ關ス
 ル時ニ於テハ、其事務ノ情狀、殆ト爭訟ノ事務ニ相近シ、是ヲ以テ此ノ如キ事務ハ、必ク法院ノ兼掌
 スル所ト爲スヘシ、蓋シ此ノ如キ事務ハ、全ク權利ヲ確定スルカ爲メニ施ス者ナレハナリ、例ヘハラ
 イブツフトノ和約、(按)寡婦其夫ノ所有ノ數分ヲ得テ、終生間受有スルノ和約、及ヒデローコムニスノ定立、(按)私人ノ所有物中
 他ニ賣買授與ス可ラサル、等ニ就テ、其可否ヲ考察シ、及ヒ許可スルヲ云フナリ。
 部分ヲ定立スルヲ云、(第二)私法事務ハ、爭訟ヲ生シタル兩造、(按)原告被告ノ二人ヲ云、ノ請願ニ由テ、全ク兩造ノ爲メ
 ニ施ス者ナルヲ以テ、私判ノ法、(按)法院ニ告訴セテ、兩造互ヒニ相
 困ヨリ當然ニシテ、決シテ妨ケナシトス、國家ナル者ハ、私人ノ際ニ生セル爭論ノ判定ヲ願欲スル
 ノ理ハ絶ヘテアル可ラス、若シ兩造ノ際ニ生シタル爭論、國家ノ判定ヲ俟タスシテ、私ニ止息スル
 コトアレハ、却テ國家ノ爲メ、利トスル所ナリ、是故ニ法院タル者、私判者、(シ)ツリヒタル、ノ判
 定ヲ妬忌シテ、自ラ此事務ヲ執ラント欲スルノ理モ、亦決シテアル可ラス、加之、法院ハ、私判者ノ

判定ヲ補助スルヲ真好トス。
 但シ私判ノ法ニ於テ、曲トナレル者、若シ其判定ニ服セサルコトアルハ、官吏ナラサル私判者ハ、強
 ヒテ曲者ヲシテ、其判定ニ服セシムルノ權ナシ、是故ニ此ノ如キ時ニ於テハ、直チ得タル者ハ、必ク
 常法院ニ、其保護ヲ願セサル可ラス、何者、眞ニ司法ノ權ヲ有スル者ハ、獨リ常法院ノミナレハ
 ナリ。○但シ縱令ヒ勢ヒ此ノ如クナルコト雖モ、私判ヲ以テ、全ク無益ト爲ス可ラス、凡ソ兩造ナル者
 判定ノ權ヲ以テ、實ニ此私判者ニ委託セシキニ、私判ノ法宜シキヲ得、其判定ノ體裁明白ニシテ
 且シ其事理決シテ一般ノ信ヲ失フコトナケレハ、常法院ハ、必ク此判者ヲ保護シテ、其判定ヲ遂ゲシム
 可シ、決シテ從前ノ處分ヲ全廢シテ、更ニ改判セシム可ラス。
 (第三)私判ヲ許スノ制度ト相類スル者ハ、即チ解勸法(フリーデンスゲリヒト)ヲ施スノ制度ナリ
 解勸法トハ、通例未ダ審理ヲ施サ、ルニ方リテ、先ツ兩造ノ中間ニ入りテ、其解勸ヲ施スヲ云フナ
 リ、其制度宜シキヲ得ルハ、民人ノ爲ニ頗ル仁善ノ功アリ、彼ノ^レ痼疾セル解勸(マ)ゲレル、ヘル
 ケタイセ)ハ、肥大ナル審理(ヘ)ッテル、プロツセス)ニ優レリト云ヘル。眞ニ確言ト云フ可
 凡ソ何人ニ論ナク、其當然ノ權利ハ、縱令ヒ些少ノ部分タリトモ、失墜シテ可ナルノ理ナキハ、固ヨリ
 辨チ俟タス、去レ^レ國家タル者、臣民互相ノ爭論ニ就テ、力ノ及フ限りハ、解勸シテ互ヒニ和熟セシ
 メンコトヲ務ムルノ權ヲ握ルモ亦決シテ不可トス可ラス、但シ若シ之ニ由テ或ハ臣民ノ權利ヲ害スル
 如キコトアルハ、甚メ不可ナレハ、宜シク諷テ處置セサル可ラス。○若シ解勸ニ由テ、幸ニ和熟整フコ
 トアルハ、其功績或ハ廣博ナル學識ヲ以テ施セル審理ノ功績ト、全ク相台セサルコトナキニシモア
 ラサレバ、去レ^レ決シテ臣民ノ權利ヲ害スル不條理ノ處分トナルノ恐レアラズ、其他兩造若シ眞ノ
 審理ヲ受ルルハ、各々苦慮ヲ生スル少ナカラス、動モスレハ、互ヒニ不快ノ情ヲ含ムニ至リ、且ソ兩造
 ノ費用ヲ要スル、亦許多ナルニ至ル等ノ弊害ナキ能ハスト雖モ、解勸法ニ於テハ、是等ノ患ヒ自ラ
 生セズ、且ソ兩造相和熟シテ互相ノ權利ヲ回復スルニ至リ、及ヒ法院ノ費用モ、亦甚メ許多ヲ要セキ
 ル等ノ利アリ。

若シ解勸ノ處置ヲ以テ、常法院ニ委ヌルキハ、其審理法ニ由テ、兩造相争フ所以ノ原由、及其争論ノ情實ヲ詳ニスルヲ得ルノ利少カラス。去レ此利ハ、決シテ此制度（按）解勸ノ處置ヲ以テ、常法院ニ委ヌルノ制度ニ云）ニ固有セル善ニ勝ツ能ハス。尙者、別ニ專ラ解勸ヲ掌ルヘキ法士ヲ置テ、其事ニ從ハシムルキハ、前條ニ論シタルカ如キ、數弊害生スルコトナシト雖モ、若シ此制度ヲ用フルキハ、數弊害過半生ス可クハナリ。○若シ法院審理ヲ以テ、解勸ノ處分ヲ施スキハ、勢自ラ兩造和熟シ難キニ至リ、加之、其審理ノ時間ニ於テ互相ノ忿懣愈々積重シ、且ツ費用愈々増加スルニ隨テ、互ヒニ和熟スルノ心愈々減シ、却テ愈々相争ハントスルノ情ヲ増スニ至ル、但シ時アリテ審理ノ時日甚久シキハ、兩造相抗スルノ氣力倦怠疲老シテ、遂ニ其争論ヲ止ムルニ至ルコトアリ、是レ即チ互相ノ倦怠ニ由テ、其論ヲ止ムル者ニシテ、決シテ之ヲ以テ眞ノ和熟ト爲ス可ラス。○法士ノ本務ハ、決シテ解勸ノ處置ヲ施スニアラス、唯法ノ當否ニ由テ、之ヲ判定スルニ在リ、是故ニ法士若シ務メテ解勸ヲ施サント欲スルキハ、兩造遂ニ法院ノ實ニ正義公道ノ旨ヲ守ルヤ否ヲ疑フニ至ルハ必然ナリ、是ヲ以テ別ニ解勸法士ヲ、フリーデンズリトテ、ナル者ヲ設置シテ、專ラ解勸ニ從事セシム、而シテ此法士ハ、兩造ノ中ニ立テ、法ニ由テ判定スルコトナク、唯專ラ兩造ヲ解勸スルヲ掌ルノミ、凡ソ此法士ハ、初メ佛國ニ於テ設置シ、其後殊ニ瑞士並ニ獨乙教國及ヒ葡萄牙ニ於テモ、亦皆此官ヲ設置セリ、去レ其猶其制度ヲ改革スルコト緊要ナリ、凡ソ今時ノ制ノ如ク、法院ノ下等ニ列シテ、俸祿ヲ受クル官吏ニ、此職掌ヲ與フルキハ、未ダ全ク其務メヲ盡スニ足ラス、是故ニ民間ニ在リテ、能ク人情世態ニ老練スル者、若クハ門閥卓越スルカ爲ニ大ニ一般ノ尊崇信仰ヲ受ケ、而シテ自ラ眞ノ官吏タルヲ欲セス、唯好テ解勸等ノ一ヲ自任ス、徒ニ此職掌ヲ托スレハ、其功績頗ル大ナルハ、○方今ノ貴族ト雖モ、若シ解勸法士ノ職ヲ托シ、其意見ニ從テ自由ニ其事ニ從ハシムレハ、大ニ民情ニ適應スル處分ヲ爲スニ足ル可シ。

〔第四〕私法法士（按）又訴訟法士ト譯スノ編制ハ、各國各世皆相異ナリ、亞細亞各國ノ如キ、君主擅制ノ國

ボチセル、ニ於テハ、皆專任法士ノ制（按）專ラ一人ノ法士ニ全權ヲ委ヌルヲ云ヲ用フ、而シテ此法士ハ、君主ニ代ハリテ、司法ノ全權ヲ掌握スル者ナリ、凡ソ此制ハ、一人ノ法士全權ヲ掌握スルカ故ニ、能ク神速ニ諸般ノ争訟ヲ判決スルノ利アリ、去レ其權甚々強大ニ至リ易キカ故ニ、動モスレハ、司法ノ本意ニ戻リ、私意ヲ挿シ、遂ニ正義公道ノ旨ヲ害スルニ至ルノ恐レ少ナカラス、是ヲ以テ、自由ノ權ヲ貴重スル歐羅巴各國ニ於テハ、多クハ此制ヲ廢止セリ、但シ儘之ヲ用フル國アレハ、甚々罕レニ用フルヲ許シ、且ツ大ニ其權ニ限制スルノ規律ヲ立テタリ。

歐羅巴大地各國ニ於テハ、第十五世紀以來、專ラ合議法士ノ制（リヒテルコルンヤ）行ハレ、數員ノ法士、相共ニ法ヲ施用シ、併セテ判定ヲ掌ルコトナレリ、但シ其人員ノ多少ハ、各國古今ノ沿革、及ヒ方今ノ情實ニ由テ、相同シカラス、而シテ其授任ニ至リテハ、君主國ニ於テハ、國家元首之ヲ選任シ、民主國ニ於テハ、同僚モ亦之ヲ撰擧ス、（按）民主國ト雖モ、統領等ノ撰任ニ出ル者多シ。○或ハ獨リ法學者ノ一ヲ擧テ、法士ト爲ス國アリ、或ハ法學者ノ外ニ、猶未ダ曾テ法學ヲ研究セサル貴族、都人、及ヒ農民ヲモ共ニ、法士ニ撰任ス、國アリ、而シテ是等ノ諸法士モ亦、通例眞ノ法官ニ列ス。

此合議法士ノ制ヲ以テ、專任法士ノ制ト比較スルキハ、合議法士ノ制、遠シ專任法士ノ制ニ優ルヲ知ル可シ、何者、合議法士ノ制ヲ用ルキハ、各員互ヒニ其處分ノ善惡ノ否ヲ監視シ、且ツ互ヒニ自己ノ所見ヲ述告シテ相補助スルカ故ニ、自ラ其處分ニ私意ヲ挿ムカ如キ患ヒナク、皆偏ニ法ヲ遵守スルニ至リ、是故ニ兩造モ亦全ク其處分ヲ信シテ、決シテ疑ハサルノ大利アレハナリ、其他各員法學ノ研究、并ニ日常相共ニスル所ノ奉務ニ由テ、互ヒニ相匡翼佐佑セント欲スルノ情、益々深厚トナルハ、敢テ疑フ可ラサル所ナリ。○近今歐羅巴各國ノ法士ハ、皆自ラ法官タル職掌ノ甚々尊貴ナルヲ知ルカ故ニ、敬テ自重スルノ心アラサルハナシ、是ヲ以テ皆能ク正善ノ道ヲ守リテ、敢テ之ニ

背カント欲スル者殆ト希ナリ。蓋シ此自重ノ心ハ、從來ノ遺物ナリ。宜シク心ヲ用ヒテ、永ク之ヲ保全ス可シ。

合議法士ヲ置クノ制ト、專任法士ヲ置クノ制ト、其優劣此ノ如シト雖モ、合議法士ノ制ニモ亦數弊害ノ加ハルヲ免レズ、故ニ大ニ此制ヲ改革スルニアラサレハ、其弊殆ト除去ス可ラス、凡ソ司法ニ於テ判定ト、眞ノ司法（按）法ノ施用ナリ）トハ、素ト相殊ナル職掌ナレハ、宜シク各殊ノ人品アリテ、各個ニ從事ス可キカ如クナルニ、方今ハ此理ニ由ラス、異殊ノ二職掌ヲ把テ、同一ノ人品ニ委託ス元來眞ノ司法ハ、實ニ國家制取權ノ一ナルヲ以テ必ス官吏ノ掌ルコト當然ナリト雖モ、判定ノ一ニ至テハ、決シテ國家ノ權柄ニ屬スル者ニアラサレハ、私人ニ委託スルモ妨ナシ、然ルテ尙モ二個ノ職掌共ニ、必ス一個ノ官司ニ委ヌルカ故ニ、司法者（按）茲ニ司法ト云フハ、右二個ノ職ヲ合指スルナリ）タル者ハ、必ス皆官吏ノ列ニアラサルハナシ。○若シ唯法學者ノミヲ以テ、此二個ノ職掌ヲ兼攝セル合議法士ヲ設クルハ、法士タル者動モスレハ、唯學問上ノ理ニ泥ミ、以テ法ヲ論スルカ故ニ、民人容易ニ之ヲ了解スル能ハス、且法學者流ハ、日々變遷スル所ノ情態世故ノ景況中ニ、法ノ淵源トナルヘキ實境ノルヲ悟リ得サル者多キヲ以テ、其處分、全ク實際ノ景況ト合スル能ハサルノ害アリ、（按）法士ハ偏ニ法ヲ遵守シテ、其職ヲ盡スヘキ者ニシテ、決シテ今日ノ景況ニ應ジテ、其職ヲ盡スヘキ者ニアラサルハ、前數卷ニ於テ、屢論スルカ如シ、去レテ今日ノ景況ヲ洞察スル才力アラサルハ、動モスレハ、大ニ其審理ヲ

又若シ法士ヲシテ、民人一般ニ辨識シ易キ處誤ルノ恐少ナカラス、故ニ本文斯ノ如ク云フ歟。

分ヲ爲サシメント欲シテ、法學者ト、及ヒ未ダ曾テ法學ヲ知ラサル者トヲ混合シテ、合議法士ヲ設クルハ、徒ラニ有名無實ニ陥リ、絶ヘテ其功績ヲ見ス、加之、不學ノ法士ハ、自己ノ技能、遠ク法學ニ熟達セル法士ニ及ハサルヲ愧ツルカ故、徒ラニ之ヲ摸擬スルノミナラス、務メテ體裁上ニ於テ、其右ニ出ントヲ求ムニ至ルノ弊アリ、總テ此ノ如ク其任ニ適セサル者ヲ擧テ、法士ト爲スハ、實ニ實法ニ益ナキノミナラス、恐クハ之ヲ害スル少ナカラス。○且此ノ如ク唯官吏ノミヲ合シ、合議法士

ヲ設クルハ、遂ニ法士ノ辭却レクサチオン、アル、リヒテモ（按）兩造ノ一人若シ吾ク判定ヲ受ク請フチ辭却チ爲スコト自ラ行レ難ク、且大ニ限制セラル、勢ニ陥ルナリ、（按）判定者皆官吏ナルハ、其威權自ラ盛強ナルカ故ニ、民人縱令疑フ所アルモ、之ヲ辭却スル能ハサルニ至ルチ云フ歟、且私法事務ノ要則トスルハ、素ト兩造ノ信仰ヲ兼得スル者ニアラサレハ、決シテ判定セシム可ラサルノ規律ナルニ、（羅馬）國コテハ、最モ此規律ヲ貴重シタリ、法士辭却ノ法行ハレ難キハ、此規律モ亦、自ラ全キヲ得サルニ至ル可シ、○其他合議法士ヲ設クルハ、官吏ノ人固甚多キ要シ、司法ノ職掌適度ヲ失シ、法士ノ俸給、其品位ニ應ジテ十分ヲ與フルコト難シ、及國家ノ費用ハ、頗ル巨大トナル等ノ數患アリ、

（第五）前條論スルカ如キ理アルヲ以テ、古時司法ニ就テ、良好ノ制度ヲ設立スルコトニ練熟セシ國ニ於テハ、右司法ノ職掌ヲ區分セシ（按）判定ト、眞ノ司法トヲ區分セシチ云、）外ニ、猶之ニ從事スヘキ人品ヲモ、區分シタリキ、而シテ仍今時ニ於テモ、稍此區分ヲ存スル國アリ、宜シク注意スヘキ所ナリ、

（甲）古時羅馬ニ於テハ、審理ヲ二分シ、而シテ其一ハ法ヲ施用スル務トシテ、之ヲ國民ノ選擇セルマギストラト（按）長官ト云フカ如シ、）ニ委テ、其二ハ判定スル務トシテ、之ヲマギストラトトヨリ判定ノ任ヲ受ケタル判定者ニ托セタリ、但シ此判定者ハ、私人ニシテ官吏ニ列スル者ニハアラサリキ、○マギストラトハ、唯一人ニシテ、其威權頗ル強大ナリキ、但シ又此威權ヲ限制シテ、其專恣ニ至ルヲ防止セシ者數種アリ、即道義ノ心、從來ノ教令、在職年限ノ短小、及ヒ審理ノ區分等是ナリ、又判定者モ通例ハ一人ナリシカモ、備數員ヲ置キシヨアリ、加之、セソツムヒテールゲリ

ヒト(按)百人餘ノ判定者ヲ備ヘシ法院ニ於テハ、頗ル許多ノ判定者ヲ置テ、合議セシメヨリ、○
 ヲギストラートハ、法問ノヒツフラーゴ(按)某ノ處分ニハ、何ノ法ヲ
 ヲ用シテ可ナルヘキヤ、云々ノ問題ナリ。ナ判決スルノ務ヲ負ヒ、又
 ヲデキス(按)即判定者云フ歟、ハ事同。實如未等如何ノ問題ナリ。ナ
 ト云フ説ハ、甚當ラス、ユデキスハ、管ニ審理ニ由テ、事ノ虛實、及如未等ヲ探索シテ、之ヲ證ス
 ルノ務ヲ負フノミニ止マラス。猶且、法問ヲモ判定シテ、其當ルヘキ法ヲ示定スルノ務ヲ負フ
 タリキ。○但シマキストラート、及ヒユデキス等モ、殆判定スル能ハル難件アルニ方リテハ、法學
 者ノ論ヲ聽テ、處分スルヲアリキ。蓋シマキストラート、ユテキス共ニ、必スシモ法學ニ練熟セル者
 ニアラサルヲ以テナリ、去レモ法學者ノ論ヲ聽クハ、必之ニ由テ、處決セサル可ラスト云フノ
 制度ハ、絶ヘテアラサリキ。但シ又マキストラートハ、預メ教令ヲ以テ、法ヲ施用スル所以ノ原則ヲ
 公告シ、而シテ判定者現ニ判定ヲ爲ス毎ニ、必之ニ適應セル規律、及判定者ノ權ヲ限定スルニ足ル
 ヘキ規律ヲ諭示シ、以テ之ヲ遵守セシメヨリ、
 羅馬ニテハ數百年間、ブレントール(按)即マキストノ官止一人ニテ、萬般ノ審理ヲ總掌スルニ足リ
 シハ、全ク斯ノ如ク、司法ノ事務ヲ、二分セシニ由テナリ、而シテ方今之ニ類スル者ハ、唯英國
 司法ノ態勢ノミ、蓋シ此國ニ於テハ上等法士十二人ニシテ、全國ノ審理ヲ掌ルニ足レハナリ、
 但シ羅馬ノ法ヲ取テ、之ヲ今時ニ用ヒント欲スルモ、決シテ其益ナル可ラス、今時ノ如ク法學開明
 セル世ニ方テハ、法ヲ施用スル所ノマキストラートナル者ハ、必自ラ法學ニ熟達セサル可ラス
 何者、審理ノ事務ヲ開始スル時ニ於テ、自ラ其規律ヲ示スノミテ以テ足レリトス可ラス、必、審理終

決ノ時ニ至ル迄、終始之ヲ總管スルヲ緊要トナス、方今ノ世マキストラート及判定者等、縱令ヒ法
 學者ニ依頼シテ、親切ナル補助ヲ假ラント欲スルモ、恐ラクハ益ナカル可シ。

(乙)中古日耳曼ニ於テモ、亦法士ト判定者トヲ分テ、而シテ法士ハ司法ノ長官ニシテ、審理ヲ總管
 スル者トナシ、判定者ハ、唯私人ニシテ、兩造ノ伴侶タル者ニ過キサルヲ以テ、唯專ラ判定ヲ掌リ、及
 法士ノ顧問ニ備ハル者トナセリ。○此國ニ於テモ、法問ヲ判定スルノ務ト、事問ヲ判定スル務ト
 トヲ以テ、區分スルヲナシ、必、此兩個ノ事ヲ、共ニ判定スルノ規律ナリキ。故ニ法問ノ判定モ亦
 判定者ノ兼掌スル所ナリキ。○法士ノ威權ニ至テハ、羅馬ノマキストラートニ比スレハ、甚、微弱
 ナリキ、法士ハ決シテ司法ノ章程規律ヲ示令スルノ權ナク、唯形貌ニ於テ、審理ヲ總管スルト、及
 ヒ判定者ヲ顧問ニ用フルノ權アルノミ、而シテ法士或ハ判定者ニ顧問スルヲアルキハ、判定者ハ、自
 己ノ識得ニ由テ、乃チ法ナリト思惟スル所ヲ、自由ニ演述シタリキ、且、判定者ノ各員互ニ障礙セ
 ラル、ヲ防クカ爲、ニ皆、相離レ、自由ニ判定セソクヲ務メ、儘其職掌ノ區域ヲ除ヘテ進出シ、而
 シテ遂ニ法士スラ爲シ能ハサルヲモ、縱ニ之ヲ爲シタリキ。○但、此國ニ於テモ、亦羅馬ノ制ノ如
 シ、國民タル者、判定ノ務ヲ以テ、司法ニ關スルハ、國民當然ノ義務ナリキ、去レモ殊ニ貴族豪富等
 此務ヲ負フノ常ニシテ、羅馬ニテハ、貴族ノミ、此義務ヲ負ヒ、日耳曼ニテハ、兩造ト門地同等ナ
 ル者、此務ヲ負フヲ費ヒ、多クハ平民ヲ舉ケテ、之ニ充テタリ、(按)蓋シ平民中ノ豪富ナル者歟、
 (丙)英國ニ於テハ、訴訟ノ審理ニモ、亦誓士
 ノ法アリテ、必、官吏ナル法士ト、私人ナル誓士トヲ區分スルヲ、羅馬、日耳曼ニ同シ、而シテ北亞米
 利加ニ於テモ、復徧ク此誓士ヲ用フ、初、英國誓士ヲ用ラレシ法ヲ立ツルヤ、往古日耳曼ノ司法制
 度ニ倣ヒシカハ、英國亦自ラ、夙ニ此法ヲ完全セリ。○但、今時ハ、止審理ヲ總管スルノ務ノミナラ

ハ、其他法ヲ明示シ、及ヒ之ヲ守護スル等、即チ眞ニ法學ニ係レルコトハ、全ク法士ノ特掌スル所ナリ、蓋シ此制タルヤ、知識、學業、及ヒ地位ニ於テ、實ニ司法ノ權ヲ掌握スルニ足ルヘキ者ニ、此權ヲ委
 托スル者ナレハ、實ニ今時ノ開明及ヒ正義公道ノ本質ニ適セル者ナリ、
 歐洲大地各國ノ法ニ於テハ、誓士ヲ以テ、法士ヨリモ更ニ緊要ノ者トナスコト常ナレハ、英國ニ於テ
 ハ然ラズ、此國ノ法士ハ、全ク審理ノ權ヲ總持シテ、常ニ誓士ヲ管スルカ故ニ、其權力タルヤ、誓士
 ノ審理ニ關スル權力ヨリモ、更ニ強大ナリ、凡ソ法士ノ員數ハ、甚ク僅クニシテ且其職高貴ナルヲ以
 テ、嘗テアインワルト（按）兩造ニ代ハリテ辨論スル者ノ職ニ在リテ、特ニ訴訟ノ術ニ練熟シ、以
 テ拔衆ノ名ヲ尚クル法學者ノ、獨リ能ク法士ノ官ニ昇ルヲ得可シ、○誓士法院（アッセン）（按）誓
 士ヲ用フル法院）ニハ、法士唯一人アリテ、其務ヲ管ス、但シ全ク誓士ノ補助ヲ假ラサルニハアラ
 ス、去レテ數法院ノ法士復兼テ登訴法院（アッセルラチオン）（按）私人下等ノ判定ノ法士
 タルカ故ニ、皆相結テ全ク職ヲ、トナシ、互ニ其練磨スル所ヲ傳ヘ、及ヒ其判定セシ所ヲ示スヲ得、
 是ヲ以テ英ノ全國ニ於テ、司法ノ規律全ク一致シテ、決シテ矛盾スルノ患ヒアラサルナリ、○英國
 ノ憲法ニ於テ、各縣（ガラーフシヤフト）ノ法士ハ、其縣ニ生レ、若クハ其縣ニ住スル者ヲ舉テ、之
 ニ任セス、必シ他縣ノ人ヲ撰任シ、以テ縣内ノ誓士法院ヲ管セシムル法則ナリ、斯クテ法士ナル者
 ハ、時々縣ノ法院ニ趣イテ、其務ニ從事シ、以テ國家ノ正義公道ノ旨ヲ守護スル者ナルヲ以テ、固
 ヲリ尊嚴ナル威感ヲ帶ヒ、高博ナル知識ヲ備ヘ、且、公正ナル心思ヲ存ス、故ニ誓士及ヒ兩造共ニ能
 ク法工ヲ尊敬信仰シテ、其指令ヲ遵奉スルナリ、
 法院ノ長官ナル法士、全ク法學ニ係レル大權力ヲ握ルコト、既ニ前條ニ論スルカ如シ、去レテ必ス兩造
 ト門地品等相同シウシテ、且、平常衆人ニ依頼セラル、才識アル者ノ議論ヲ聽カサレハ、決シテ兩
 造ニ係レルコトヲ判定セサルカ爲メ、誓士ル者ヲ設ケ、而シテ時々之ヲ民間ヨリ交換
 セシメ、以テ判定ノコトヲ掌ラシム、是故ニ縱令法士ノ權力甚ク強大ナリト云フモ、之ニ由リ決シテ

弊害ノ生スルコトナシ、但シ又誓士ナル者、或ハ偏頗ノ判定ヲ爲スコト恐レ、少カテサルカ如シト雖モ、
 此誓士ノ素時々民間ヨリ舉任シテ、交換セシムルノ制アルト、及ヒ兩造ニ誓士ノ全員若クハ其中
 一二人ヲ辭却スルヲ得セシムルノ法、數種アルカ故ニ、其判定ノ公平ナルハ、却テ定任セル合議法
 並シ判定ニ於ケルヨリモ、更ニ確切ナリ、○或ハ又誓士ノ力、實ニ爭論ノ情實ヲ詳悉シテ、之ヲ判定
 スルニ堪ヘサルノ恐レナキニシテ、去レテ誓士ナル者ハ、能ク世事ニ練磨シ、且、法士其上ニ
 在リテ之ヲ管シテ、全ク誓士ニ任セサルカ故ニ、決シテ此ノ如キ恐レアル可ラス、而シテ若シ別個ノ事
 件ニ付テ、能ク通曉諳練セル者ヲ要ス、トコアル時ハ、別ニ特選誓士（スベチアール）（ト）ヲ選舉
 シテ、之ニ其判定ヲ任ス、○英國ノ法學ハ、從來外鏡ノ體裁ニ拘泥スルノ弊アルヲ免レシト雖モ、
 其司法事務ニ至リテハ、能ク民情ニ適シテ、下民モ亦能ク其理ヲ解スルヲ得ルハ、蓋シ誓士アリテ、
 此ノ務ニ關スルニ由ルナリ、然ルニ他各國ニ於テ、近今大ニ外鏡ノ體裁ヲ滅除セシカモ、此事決シ
 テ誓士ヲ用フルノ制ヲ立テシヨリ起ルシ、○アラブ（英國人ハ誓士ヲ以テ、大ニ英國司法ノ
 榮譽ヲ示ス）足ルトナシ、且、私人ノ自由、及ヒ私法ヲ保守スルカ爲メ、實ニ堅牢ナル支柱ト爲ス、
 而シテ此誓士ハ、決シテ法士ノ位ニ列スル者ニアラス、又常ニ其任ニ在ル者ニアラス、必シ時ニ臨ミ
 擧ケラレテ、其任ヲ受クル者ナリ、故ニ平時ニ唯民間ノ一人ハ、私事ヲ營作スルニ過キサルノ
 ミ、又其擔任ニ當ル時ト雖モ、唯事關ヲ判定スル職掌アルニシテ、法問ヲ判定スルノ職掌ナ
 シ、蓋シ是等ノ制ハ、中古自其最ノ誓士制度ト、全ク相異ナル所ナリ、
 獨乙ニ法學ヲ研究セシ者ニアラサ、決シテ獨乙ノ私法ヲ了解スル能クサルカ故ニ、私法事務
 ニ於テ、民間ヨリ舉任セル誓士ヲ用フルカ故ニ不可ナリト云ヘリ、但シ縱令此論ヲ以テ、實ニ理ニ當レ
 リトスルモ、英國ノ法ノ如ク、事關ヲ判定スルノ務トシテ、法問ヲ判定スルノ務トシテ、判シテ兩件

トナシ、法問ハ決シテ誓士ノ判定ニ任セス、必^レ法學ニ熟達セル法士ノ判定ニ任スルノ法ヲ用フルハ、決シテ不可ナルヲナカル可シ。○且^レ英國及^レ北亞米利加ニ於テ、法士タル者、其固有ノ法ノ由テ生シタル淵源ヲ究極シ、且^レ甚^ク錯雜紛亂セル現立法ヲ洞貫詳悉セント欲スルハ、獨乙ニテ尋常ノ羅馬法、獨乙法、及^レ獨乙各國ノ法ヲ通知セント欲スルヨリモ、更ニ難事ナル可シ。(按) 英法ハ專者多キカ故ニ、其事理、故テニ商議載定セル者ノ如ク、分明ナラス、故ニ之ヲ講求スル、亦甚^ク難シ然ルニ獨乙ノ法ハ、專ラ商議載定セシ者多キカ故ニ、其事理自ラ分明ナリ、故ニ之ヲ講求スル、亦自ラ易キ。然ルニ英亞ノ誓士判定ヲ爲スニ堪ヘサルカ爲^レニ、法士司法ノ務ヲ盡ス能ハサリシヨハ、未^レ曾テ聞カサル所ナリ。

丁) 獨乙ノ一二國ニ於テハ、別ニ商法院、ハンデルスゲリヒト(按) 商法ヲ司ル法院ナリ、但^レ俗言、商業ヲ指ス商法ト云フ、甚^ク誤レリ、商法ハ、商業ニ關スル法ナリ、ヲ設立シ、法學者一人ヲ以テ、其法院ノ主長トシテ、審理ヲ總管セシメ、而^レテ之ニ商買數員ヲ附屬シテ、共ニ判定ヲ掌ラシムルノ新法ヲ定制シタリ。○斯法學ニ熟達シテ、國家ノ官吏トナル法士一員ト、衆中ニ拔カレテ、民官トナル商買數員ヲ合シテ、共ニ事ヲ掌ラシムルノ法ハ、實ニ法學ヲシテ、能ク實際ニ利アラシメ、且^レ法ト民情ト、能ク相一致セシムルニ足ルト云フ可シ、後世恐ラシハ他ノ審理事務ニ於テモ、亦此ノ如キ制度ヲ用フルニ至ル可シ。(按) 眞ノ法學士ト、其事ニ老練セル者ト合シテ判定ヲ任スル制度

第六) 羅馬ノ古法及^レ獨乙ノ古法共ニ、訴訟審理ニ於テ、覆治ヲ爲スカ爲^レニ、數等ノ法院ヲ置クノ法ハ、曾テアテサリキ、然ルニ近今ニ至リテハ、高等ノ登訴法院ニ於テ、兩造ノ爭論ヲ數回覆治スルノ法ヲ立テ、之ヲ以テ法院ノ擅判ヲ防クノ良法ト爲ス、既ニ獨乙ニ於テハ三等ノ法院ヲ設ケ、覆治ヲ許スノ法ヲ撰定セリ、古時獨乙帝國ニ於テ、帝國法院(ライヒスゲリヒト)ナル者アリ、又其各小國ニモ、上下二等ノ法院アリテ、合シテ三等ノ法院相關スルノ法アリシヨリ、今時復^テ遂ニ三等ノ法院ヲ設置スルヲトナレリ、而^レシテ彼ノ審理ニ於テ、筆述ノ法(按) 前ニ出ツ、ヲ用フルノ制アルキハ、縱分ヒ三等ノ法院ヲ置クモ、其弊害自ラ亦顯然タルニ至ラサハ可シ、去^レレ縱分ヒ筆述ノ法ヲ用ユト云フハ、決シテ其弊害ヲ全除スル能ハサル可シ、況シテ口述ノ法ヲ用フルニ於テハ、全ク三等法院ヲ置クノ制ヲ改メサル可ラサル、固ヨリ論ヲ俟タス、(按) 本文筆述ノ法云々、余未^レ其理ヲ解スル能ハス、猶再考スヘシ。

然ルニ上下二等ノ法院ヲ置クノ制度ハ、三等法院ノ制度ニ優ルコト遠クシテ、實ニ司法事務ノ正善ヲ保存スル、一頁制ト稱ス可シ、凡^レ初等法院(按) 下等法院ヲ云、初、下等ニ於テ判ニ於テ、未^レ熟練セサル徒ノ判定セシコト、高等ノ法院ニ於テ、練熟セル徒、更ニ覆治スルノ制アルキハ、其判定ノ當ヲ得タル所以、益、明亮タルカ故ニ、止、兩造ヲシテ、大ニ司法事務ノ正善ナルヲ信セシムルノ益アルノミナラス、下等法士モ亦判定ヲ爲スニ臨ミ、大ニ敬思ヲ加ヘ、決シテ專橫粗暴ノ處分ヲ爲サ、ルノ益アリ、然ルニ若シ此制アラサルキハ、下等法士モ亦司法ノ全權ヲ握ルカ故ニ、動モズレハ不正ノ事ヲ爲スニ陥ルハ必然ナリ。○但シ國ノ版圖甚^ク廣大ナルキハ、一個ノ上等法院、焉ン能ク萬般ノ登訴ヲ總判スルニ堪ユ可クシヤ、故ニ此ノ如キ國ニ於テハ、必^レ別ニカッサチオンスホフ、或ハオベルホフ、(按) 其ニ登訴ヲ設置シ、於テ法ノ一致、及^レ司法規律ノ一致ヲ保護ス、(按) 全國ノ法、及^レ司法規律ヲ悉皆一致セシメテ、相矛盾ス、カッサチオンスホフナル者ハ、元來佛國ニ於テ、創メテ設立セシ者ニシ

テ、他法院ニテ判定セシ所ノ法ニ當ラサル所以ヲ登訴スル者アルニ臨ミ特ニ其訟ヲ聽クテ掌ル者ナリ、故ニ其職掌、大約獨乙ノオーベルホフノ職掌ト相同シ、但シ又相異ナル所アリ、即チカッサチオノスホフバ、他法院ノ審理、若シ其規律ニ背キ、或ハ判定僞、其法ニ背リキハ、併ニ皆チ之ヲ廢シ、而シテ同法院ニ命シテ、更ニ覆治ヲ施サシムルヲ掌ルト雖モ、オーベルホフハ否テス、他法院ノ判定ヲ全廢スルコトナリ、唯、務テ之ヲ改正スルヲ掌ル者ナリ、

訴訟審理ニ於テモ亦、誓士ヲ用フル法ヲ立テシ國ニ於テハ、登訴ヲ爲スノ規律、大ニ限制スル所アリ、就中唯法問ノ判定ニ就テ、登訴ヲ許スノミニシテ、事問ノ判定ニ就テハ、之ヲ許サズ、故ニ此法アル國ニ於テハ、僅ニ一ノ上等法院アレバ、諸般ノ登訴ヲ總判スルニ足ル可シ、此事即チ英國ヲ以テ證ト爲ス可シ、

大井潤一 校

國法汎論卷之八 上終

國法汎論卷之八 下 目錄

- 第四款 刑法事務
- 第五款 政務法事務
- 第六款 司法ノ疆域○政務法ニ屬スル爭訟

イ、カ、ブルンナユリ 著

加藤 弘 之 譯

第四款 刑法事務 ストラフペンヒツプアレーゲ(按)又治罪事務ト譯ス、即ち斷獄事務ナリ。

(第一)中古ノ世ニハ、羅馬人種及ヒ日耳曼人種ノ各國共ニ、刑法事務ノ施行ヲ三等ニ分テ、各其官司ヲ異ニセリ、蓋シ此制ハ、元來獨乙ノ國土人民ノ分割法ニ由リシ者ナリ、乃チ古時獨乙ニテガウフンタリ、及ヒワイネル(按)國土ヲ三等ニ分割セシ名稱ナリ、而シテガウチ大部トシ、之ヲ數フソタリニ分テ、又フソタリチ中部トシ、更ニ之ヲ數ワイネルニ分テリ)ノ分割ハ、軍事制度、及ヒ司法制度ニ應シテ、設ケシ所ノ法ナリ、其後佛國ニ於テモ亦法院ヲ上中下三等ニ區分シ、(按)即チ土地ヲ三等ニ分割シテ之ヲ置ケリ)復タ獨乙ニテモ高等ボグタイ(按)法院)下等ボグタイト、及ヒ地頭ノ司法局(按)封地ヲ受有セル地頭ノ自ラ立ツル者ナリ)若クハ邑(マルク)ノ司法局(按)地頭ノ司法局、及ヒ邑ノ司法局ヲ共ニ第三等トナス)トニ區分セリ、○且ッ罰スヘキ罪科ヲ其輕重ニ隨テ、三等ニ區分シ、併ニ法院ノ職掌ヲモ三等ニ區分シ、右三等ノ法院ヲシテ、其處決ヲ分掌セシメタリ、凡眞誠ノ傷和罪(フリーデンスブルッフ(按)平和ヲ傷リ騷亂ヲ醸スノ罪ナ云)ハ、實ニ平和安全ヲ傷害スル者タルヲ以テ、全ク此罪犯人ノ權利ヲ剝奪シテ之ヲ誅戮スルヲ要シ、及ヒヘル、フローヘン(按)大罪ヲ云、下文ニ於テ解説ス)ノ如キモ、必ス亦其生命ヲ假サ、ルヲ要シタリ、故ニ是等ハ總テ高等法院ニ於テ、判定處刑シタリキ、而シテ此法院ハ、國君ヨリ直ニ人倫ヲ司ルノ權ヲ

以テ、授與セラレタル者ナリキ、又フレールヘル（按）故意ヲ以テ犯セル罪、及ヒ偷盜ノ如キモ法制ヲ毀損スル少ナカラスト雖モ、之ヲ罰スルニ決シテ生命ヲ褫フヲ要セス、唯體刑、ケルベルストラフ

フ（按）體軀ニ施ス刑ト云フ義ニシテ即チ管轄等ノ刑ヲ云、方今文明開化ノ國多クハ此刑ヲ廢セリ、若クハ金刑、ケルドストラフ（按）ニ處シテ足ル者ナルカ故ニ、是等ハ皆中等法院ニ於テ、處刑シタリキ、○古時ノ司法常則ハ、大凡以上論スルカ如クナリキ、但シ唯輕罪過失等ノ如キ大ニ國家ノ法則ニ害ナキ者ハ、皆地頭ノ司法局ニ於テ處刑シ、或ハ地頭ノ管轄ニ歸セスミテ、尙自由ノ權ヲ保有セシ諸邑ニテハ邑ノ司法局ニ於テ處刑シタリキ、

今時モ尙ホ上ニ論スル所ノ罪科區分法ヲ從用ス、唯少シク變革スル所アルノ、故ニ今時ニ在リテモ、ヘルブレールヘン（按）大罪ヲ云故ニ下ニルケールヘン（按）尋常ノ罪科ヲ云、故及ヒボリツアイニイニベルトローツング（按）法院ノ罰刑ヲ受ケス、唯警保官ノ刑罰ノ三等ヲ分立シ、大罪ハ誓士法院ニ於テ判定處刑シ、常罪ハ中等ノ合議法院ニ於テ判定處刑シ、又警保官ハ下等ノ警保法院ニ於テ判定處刑ス、附屬スル法院ナリ、ニ於テ、判定處刑ス、但シ故アレハ時トシテ、二三ノ常罪ヲ、或ハ誓士法院ノ處分ニ任シ、或ハ警保法院ノ處分ニ任スルコトアリ、即チ此罪科ニ就テ若シ審理判定等ノ事務ヲ務メテ丁寧綿密ナラシメ、且、他ノ拘束ヲ受ケス、自由ニ處分セシムルヲ要スルトキニ於テハ、乃チ其處分ヲ誓士法院ニ托シ、或ハ此罪科甚々輕ウシテ、殆、小罪ニ類似スルカ如キトキニハ、其處分ヲ以テ警保法院ニ托スルナリ、但シ大罪常罪ノ區別ハ、人學ハスト雖モ、能ク辨別シ得ル者ニシテ、二罪共ニ刑法官ノ本職ニ屬ス、是ヲ以テ刑法事務ノ編制ニ就テハ、能ク此區分ヲ遵守スルヲ要ス、○去レヒ此二ハ共ニ國家ノ法制

ヲ毀損傷害スル者ナルヲ以テ、決シテ唯私法ニ背ケル不正ノ所行ト爲ス可ラス、又唯警保官ノ處分ニ屬ス可キ、罪科トモ爲ス可ラス、實ニ國家ノ正義公道ノ旨ヲ毀損スル罪科ト爲ス可キ、固ヨリ當然ナリ、故ニ此罪科ニ就テハ、訴訟法ニ於ケルカ如ク、唯僅ニ毀損セラレタル權利ヲ回復スルノミチ以テ足レリ、爲ス可ラス、又警保法ノ如ク、國家ノ正義公道ノ旨ヲ守護スルヨリハ、殊ニ一般ノ安寧秩序ヲ保護スルノ意ヲ以テ、處分スルニ實ニ一旦毀損ヲ受ケタル國家ノ正義公道ヲ、追回復舊スルノ意ヲ以テ、罪犯人ニ刑罰ヲ加フルコト緊要ナリ、蓋シ然セザレバ、正義公道ノ旨、決シテ安全ナルヲ得ル能ハサレハナリ、○但シ此二罪相分カル、所以ハ、其状況ノ尋常ト非常ト別アルニ由ルナリ、（按）常罪ハ尋常ノ罪、大罪ハ非常ノ罪ナルヲ以テ斯云フナリ）乃チ大罪ハ常罪ノ重大トナリタル者ト云フモ可ナリ、即チ左ニ論ス、

○罪犯ノ所行ハ國家ノ一部分ヲ害スルニ由ラズ、實ニ國家ノ全體ヲ害スル者ハ、重キ罪即チ大罪トナル可シ、（例）ハ逆謀ハ實ニ大罪ト稱ス可シ、去レヒ僅ニ政府上官ニ抗スルノ所行ハ、唯常罪ト稱ス可シ、○大ニ人ノ危難ヲ生スル所行、及ヒ道義ヲ傷メ所行ノ中ニ就テ、甚々惡ナル者ハ重キ罪、即チ大罪トナル可シ、（例）ハ行劫、強盜、及ヒ強姦、大罪ナリ、去レヒ、尋常ノ竊盜、及ヒ人ヲ侮辱シ、或ハ罵詈スル等、人ニ大害ヲ爲サレハ、重キ罪ト稱ス可シ、○時アリテ損害ヲ生スル甚々巨大ナルシ、其他過失ニ屬スル罪科モ、亦皆常罪ノ内ニ列ス可シ、（例）時アリテ損害ヲ生スル甚々巨大ナルニ至ルキハ、常罪變シテ遂ニ重キ罪、即チ大罪トナル可シ、譬へハ船水ノ火ヲ受ケル最大ナルニ至ルキハ、即チ變シテ蒸氣トナルカ如シ、（例）ハ尋常ノ竊盜ト雖モ、其盜ム所甚々巨大ナルキハ、即チ大罪トナルナリ、凡ソ大罪常罪ノ相分ル、所以ノ理、通例此ノ如シ、去レヒ尙ホ之ヲ綿密ニ區分スルニ至リテハ、各國其法ノ沿革、及ヒ制定ノ由ル者ニシテ、必ズ一定ノ法アルニアラス、○大常二罪ノ輕重、大約上ニ論スルカ如シ、故ニ大罪ニハ通例生刑（レトベンストラフ）（按）生命ヲ奪フ刑ト云フ義ニシテ、即チ死刑ヲ云フナリ、體刑（ライベンストラフ）（按）體軀ニ施ス刑ノ義ニシテ即チ

管杖ノ類ヲ云) 錠刑(ケッテンストラフ) (按) 鎖錠ヲ以テ手足云チ收縛スルノ刑ナリ、(徒刑場
(ツフトハウスストラフ) 放逐(デボルタナオン) 如キ刑、能ク適當スル者ナリ、故ニ是等諸刑ヲ
以テ、決シテ常罪ヲ罰ス可ラス、而シテ通例大罪ハ、誓士法院ニ於テ審理判定シ、常罪ハ下等法院
ニ於テ審理判定ス。

○(第二) スターツァーンワルトナル公官アリテ、罪犯人ノ追補告訴ヲ掌ルノ法ハ、實ニ刑法施行ノ
本旨ニ適スト云フ可シ、凡ソ罪犯ノ所行ハ、決シテ私事ニ關スル者ニアラス、實ニ國家ニ關スル者ナ
リ、是故ニ罪犯人ニ傷害セラレタル者、若シ罪犯人ノ爲メニ其罪ノ宥恕ヲ乞願スルコトアリテ、且ツ其
願意頗ル忠厚ナリト云フモ、國家決シテ之ヲ採用スル能ハス、苟クモ罪犯人アルキハ、國家ハ必ス
公衆爲メ、嚴ニ之ヲ罰シ、以テ其正義公道ノ旨ヲ昭明ニセサル可ラス、○元來治罪審理ハ、決シテ兩
個私人ノ相對シ相争フヲ裁判スルカ爲メニアラス、實ニ國家其公義正直ノ傷害トナル者ヲ除去シ、
更ニ之ヲ昭明ニスル所ノ處分ナリ、是故ニスターツァーンワルトハ、獨リ罪犯人ノ對手タル者ト思
フ可ラス、又唯罪狀ノ疑案起ル所以、及ヒ其確證アル所以ヲ推究呈案スルノミチ以テ足レリト爲ス
可ラス、必ス能ク思フ運ラシテ、其罪狀ノ無キ所以、及ヒ罪狀ノ減スル所以等ヲモ注思考察セサル可
ラス、○此官ノ居心苟クモ偏頗ナキヲ要スルハ、實ニ法士ニ同シ、但シ此官ハ殊ニ告訴ヲ掌ルヲ以テ
、自ラ國家ノ正義公道ノ旨ヲ負荷シ、之ヲ以テ罪犯人ト相對シ相争ヒ、而シテ罪犯人ノ對手トナル
ヲ、其主務トナスヘキ者ナルカ故ニ、其地位タルヤ、法士ニ比スルハ、自ラ自在ナル所アリ、是故ニ
此官ハ、必ス法院ヨリ分派シテ、別種獨立ノ官ト爲スヲ良シトス、然ルニ中古ノ世ニ於テハ、各國專
任法士ニ告訴ヲモ兼掌セシメシ者多カリキ、此法甚ク不可ナリ、

スターツァーンワルトナキ官ヲ設置セシ濫觴ハ、其迹既ニ中古各國ノ諸制度中ニ存ス、則中古獨
乙ライヒス、ダット (按) 獨乙帝ニ直隸セシ土地ヲ云、其ノナリフゲンゲル、及ヒナリフワヒテルノ
各國王ニ屬セシ土地ト相異ナリ、

如キ官、又瑞典ノコローンヘントノ如キ官、(此官法士ノ未タ審理ヲ施サ、ルニ方リテ、預メ査問ヲ
施スコトモ掌レリ) 并ニ佛國ノプロキエール、ツウ、ロアノ如キ官、(此官ハ、元來羅馬ノアドホカチ
ヒスキノ如ク、王室所有地ノ事ニ就テ、告訴ヲ掌ル者ナリシカ、又他事ニ就テ、私訴ヲ爲ス者アラ
サルキニ於テハ、其告訴ヲモ兼掌シタリキ、) ハ皆スターツァーンワルトノ萌芽ノ如クナル者ナ
リキ、○去レハ實ニ此官ノ制ヲ、完全ノ者ト爲シタルノ功ハ、全ク佛國ニ在リ、那破倫第一世、始メ
テゲチラールプロクテール(按) スターツァーンワルトノ佛語ナリ、) ト稱スル官ヲ設置シ、之
ヲ司法省ト合シテ、告訴ヲ掌ラシメ、且ツ之ニゲチラールアドホカート (按) 即チゲチラールプロク
ナル官吏數員ヲ附屬セリ、爾來他各國ニ於テモ、漸ク佛國ニ倣テ、此官ヲ設置スルニ至レリ、但
シ佛國ニテハ、此官ノ權力過大ニシテ、殆、法院ノ右ニ出ルノ弊ヲ生セシニ、他各國ニ於テハ、却テ
能ク、弊ヲ避クルヲ得タリ、

○(第三) 英國誓士法院(シユウールゲリヒト) ヲ用フルノ制度、漸ク他各國ニ單及セシカ、就中刑法事
務ニ於テハ、此制ヲ用フルコト最モ盛ニシテ、遠ク私法事務ニ超ニ、初メ亞米利加此制度ヲ取用シ、次
テ佛國及ヒ羅馬人種ノ各國ニ及ヒ、近世ニ至リテハ獨乙及ヒ瑞士等亦皆之ヲ取用スルニ至レリ、然
レモ此法各國ニ蔓延スルニ隨テ、漸ク數種ノ弊害ヲ生シタリ、蓋シ此制度各國ニ於テ、全ク民性ニ適
シ實ニ司法ニ緊要ナル者トナルニ至ル迄ハ、恐ラシハ、猶數歲月ヲ費スナル可キ、

誓士法院ノ本性ハ、殊ニ下ノ一件ニ在リ、其(第一件) ハ、判定ニ二分スルコトス、即チ其一ヲ事問
ハタートブラーゲ、ノ判定ト爲ス、及ヒ法ニ由テ罪ノ有無ヲ判決スルノ務メモ、亦必ス此判定ニ屬
シテ、離ル、コナシ、其二ヲ法問(レヒツプラーゲ)ノ判定ト爲ス、即チ刑法ニ據テ、罪科ニ適當スヘ

キ法ヲ決定スルヲ云フナリ、又其(第二件)ハ司法ノ官司ヲ全ク區分シ、法士ト誓士トヲ設ケ、而シテ事問ノ判定ハ、必、民間ヨリ舉ケタル私人(按)誓士ナリ、(必スシモ法學ニ練磨セル者ニアラス)ニ托シ、法問ノ判定ハ、必、能ク法學ニ練磨セル定任ノ官吏ナル法士ニ委任スルナリ、但、事問ノ判定ヲ掌レル私人ハ、決シテ中古日耳曼ノシニシテ、(按)誓士ノ如ク定任スルニアラス、必、時ニ

臨テ舉任スルカ故ニ時々交代スル者ナリ、

誓士ヲ用フル制度ノ利害ハ、左ニ論スル所、景况ニ由ル、凡ソ法士ト誓士トノ際、絶エテ嫌強テ生スルコトナク、能ク一致シテ共ニ司法事務ヲ掌リ、而シテ常ニ審理ヲ總管スル所ノ法士ハ、其事務ヲ掌ルノ卓越ナルニ由テ能ク法學ニ練熟ナル所以ヲ表ハスニ足レハ此制度甚ク利アリト云フ可シ、然ルニ若シ誓士ト法院ノ景况、全ク之ニ反スルハ其利害亦相反スル言ヲ俟タス、其他法士タル者、ア

下ホカト(按)對テニ代リ、若クハ兩對手(按)罪狀ヲ告訴セラレタル者ト、スノ爲メニ愚弄セラレ

テ、是等ノ能ク能ク司法事務ヲ以テ、自ラ相争ヒ相凌シノ具トナスヲモ、制スル能ハサル歟、若クハ法士十分ニ其務メヲ盡サント欲シ、自ラ兩對手ノ争論ニ關スルコト實ニ過當ニ渉ル等ノ弊生ス

ルキハ、誓士ヲ用フルノ制度甚ク害アリ、○凡、誓士ヲ用ヒテ審理ヲ施ス、當テ法學ハサル誓士ノ判定ヲ以テ、却テ法學ノ判定ニ阻レリトスルコトアラズ、唯諸科共ニ民間ヨリ舉任セル諸者

ノ自然ノ職得(按)法學ノ練磨ヨリ生スル、キ以テ、認メテ、罪トナセル、恐行ニアラサレハ、決シテ刑

セカラント夫欲スルカ爲メノミ、○總テ法ヲ論示シ、併セテ正義公直ソ旨ヲ保護ス、此カ如キハ、則

テ法士ノ職掌ナリ、法士タル者ハ固ク道義ヲ守リ以テ、審理ノ務メヲ堅固ニセサル可ラス、而シテ

法士實ニ此事ヲ盡サント欲セハ、告訴者、アインケレーゲル(按)即ス、自護者、ヘルタイゲル

セラレタル際ニ、苟クモ偏頗ノ情ヲ生スルコトナク、唯公平ノ心ヲ以テ、審理ヲ施スニアラサレハ、

決シテ能ハサルナリ、

其他誓士ヲ設置スルノ法ニ就テ、其利害ヲ論スルコトハ、最モ緊要ナルコトナリ、

英國ニ於テハ、尋常ノ誓士法院、アルゲマイチス、シニ、ト、別種ノ誓士法院、スベチメルレス、シニ、ト

以テ、全ク區別セントスルノ機、既ニ現然タリト雖、他國ニ於テハ、或ハ此區別ヲ以テ、却テ不可

ト爲スノ論アルヘシ、○凡、尋常ノ誓士法院ト稱スル者ハ、其誓士ナル者判定ヲ爲スニ絶ヘテ別

種ノ學習練磨ヲ要セサル法院ナク、尋常ノ審理ハ、大抵此法院ニ於テ掌ル所ナリ、然ルニ別種ノ

誓士法院ト稱スル者ハ、事問ノ判定シ、及ヒ罪ノ有無ヲ判決スル等ニ於テ、必、別種ノ學習練磨ヲ

要スル時ノミ、其務メニ從事スル所ノ法院ナク、而シテ尋常ノ誓士法院ニハ、唯尋常ノ才識

アル人物ヲ舉任スルノミニシテ足レリ、決シテ別種ノ學習練磨アルヲ要セス、故ニ尋常平民ノ中

等ニ於テ、其人物ヲ求ムルモ、決シテ得難キニアラス、然ルニ別種ノ誓士法院ニ舉ント欲スル誓士

ノキハ、必、別種ノ學習練磨ヲ要スルカ故ニ、其人物ヲ選フニハ、必、別種ノ業科ニ練磨セル徒中

ニ就テ、爲サ、ル可ラス、○例ハ、出版ノ事件ニ就テ、審理ヲ施ス時ニ於テ、ルカ如キ、元來、其事ニ

請熟スル者甚ク多カラスト雖モ、必、務メテ練磨セル者ヲ選ビ、以テ別種誓士ト爲サ、ル可ラス

凡、盜賊殺傷等ノ告訴アル時ニ於テハ、縱令當テ別種ノ學習練磨ヲ經サル都人農民等ト雖、唯

其事ノ景况、諸種ノ證左、及ヒ被告人ノ舉動等ニ據テ、其非科ノ虛實ヲ判定スルコト、決シテ難カラス

ト雖、法院若シ文章上ノ辨論、或ハ語言上ノ條陳等ニ於テ、才力アル自護者(按)被告人)ノ縱

談巧辭ヲ以テ、其非迹ヲ掩蔽セントスルハ、洞察シ、或ハ一個人、アインツェルテン、(按)又インヂヒ

ヲ指斥スルノ語ナリ、茲ニ一個ノ論說、縱令ヒ公衆一般ノ所見ト全ク相表裏スルキト雖、亦辨

論ノ自由權ヲ嚴重シテ、辨論ニ自由セシムルカ如キハ、尋常平易ナル都人農民等カ微力ノ決シテ及

フ所ニアラス、若シ此ノ如キ時ニ於テモ、仍、尋常平易ナル都人農民等ヲ舉テ、誓士ト爲スハ、動

モスレハ自護者カ縱談巧辭ノ詭譎ニ陥リ、遂ニ其判定ヲ誤ルヤ必然ナリ、總テ此ノ如キ誓士ハ、素

確乎タル學習ナキヲ以テ、其判定ニ於ケル、或ハ甚嚴酷ニ過キ、或ハ甚寛大ニ失シ、加之、私意ヲ挿カムカ如キ弊害ナキヲ得ス、

誓士ヲ舉任スルニ、拈鬮子ノ法ヲ用フルノ國最モ多シ、實ニ宜シキヲ得ル法ト云フ可シ、若シ他法ヲ用フルハ、必ス二個ノ相對セル嚴懲ノ危害ヲ避クル能ハサルヘシ、他法二種アリト雖モ、俱ニ誓士制度ノ真正ヲ障害スル者ナリ、即チ其第一法ハ、政府專ラ誓士ノ舉任ヲ掌ルノ法ナリ、凡ソ法士ノ如キハ、素高貴ノ官ニシテ、且ツ其人ハ、必ク法學ニ練熟スル者ナルカ故ニ、政府之ヲ舉任スト雖モ、決シテ政府ノ威光ニ眩惑セラル、カ如キ患ニナシ、然ルニ誓士ノ如キハ、素ト官吏ニアラス、亦盡ク能ク法學ニ通曉スル者ニアラサルヲ以テ、政府ノ舉任ヲ受クルハ多ク、唯政府ノ意旨ヲノミ奉承シ、動モスレハ其旨ヲ遂クルノ具トナルニ至ルノ弊害アリ、是レ即チ第一ノ嚴懲ナリ、又其第二法ハ、國民ノ選擇ヲ以テ、誓士ヲ舉任スルノ法ナリ、若シ此法ヲ用フルハ、勢ヒ誓士唯政論黨派〔按〕文明開化國ニテハ、政治方法ノ議論ニ就テ、衆民中ニ數黨派分レ、各其是トシ、可ト思フノ意所ヲ主長シテ、相競ヒ、以テ遂ニ政令ノ方向ヲ變セシムルノ勢力アリ、之ヲ政論黨派ト云フ、ノ意ヲ奉承シテ、之ニ依靡スルニ至ル、故ニ誓士タル者、殆政論黨派ノ奴僕ノ如クナリ、偏頗不公平ノ判定ヲ以テ遂ニ司法事務ノ純清ヲ汚スノ弊害アリ、是レ即チ第二ノ嚴懲是ナリ、故ニ此二個ノ嚴懲ヲ避ケント欲セハ、必ク拈鬮子ヲ以テ舉任スルノ法ヲ用ヒサル可ラス、○但シ此法ヲ用フルハ、被告者或ハ自ラ信セサル誓士ノ判定ヲ受クルノ患ヒテ免レサルカ如シト雖モ、被告者若シ誓士ヲ信セサルコトアラハ、直ニ之ヲ辭却シ得ルノ權利ヲ以テ、之ニ與フルノ法アレハ、此ノ如キ患ハ、全ク消滅ニ歸スル、敢テ辯ヲ俟タズ、

但シ拈鬮子ヲ以テ舉任スルハ、其事素偶然ニ出ル者ナレハ、決シテ人物ノ其任ニ耐ルヲ、保ツニ足ラサル者ナリ、故ニ必ク能ク其任ニ耐ユヘキ者ノミヲ以テ、拈鬮子ノ權利ヲ得セシムルコト、甚ク緊要ナリ、誓士タル者、其力若シ獨歩自立シテ、家計ヲ經營スル能ハサルハ、決シテ衆望ヲ得ル能ハス、且ツ通例成人ノ年齢ヲ過キテ、家事産業ニ由リ、世事ニ諳練スル者ニアラサルハ、決シテ其任ニ適スル能ハサルカ故ニ、以テ諸件ニ於テ實ニ問然スヘカラサル者ノミヲ舉任スルノ法ハ、實ニ公正ニシテ且ツ眞實ナル判定ヲ期スルニ甚ク緊要ナリ、○但シ誓士法院モ、必ク亦以テ正義公道ノ旨ヲ保護スヘキ者ナリ、故ニ之ヲシテ決シテ、政令ノ利害得失ニ着意セシメサルコト、甚ク緊要ナリ、

〔按〕英國ニテハ、一千八百二十五年ノ憲法ヲ以テ、誓士舉任ノ法ヲ確定シテ、年齢二十

一ニ至リ、且ツ土田ノ歲入十ポンド一ポンドハ、大約我カ五圓ニアタルコトヲ得ル者、若シハ所有物ノ貸賃一年二十ポンドヲ得ル者ニアラサルハ、誓士トナルノ權利ヲ有スル能ハサルコトセリ、

然ルニ儘此理ニ反スル論ヲ立ツル者アリ、其論ニ據ルニ、誓士タル者ハ、法制ノ上ニ在テ、法制ヲ自由ニ取捨行止スルノ全權ヲ握ル者ナリト云フ、實ニ迷誤ノ甚クシキニ非スヤ、凡ソ法院ナル者ハ、唯現立ノ制法ヲ司守シテ偏ニ正義公道ノ旨ヲ奉行スルノ外、他ノ職掌ヲ負フ者ニアラス、誓士ハ必ス誓約ヲ以テ、此義務ヲ其心ニ銘スル者ナリ、然ルニ誓士若シ自ラ其處分ノ法ニ合セサルアルヲ知ルコトアラハ、馬リ信實ノ法院アリト爲ス可クシヤ、○又佛國ノ法院ニ於テ、一暴論ヲ採ルシテ、誓士ナル者ハ宜ク罪狀ノ認定ヲ取ル可シト云フ、規律ヲ遵守スルヲ要セズ、唯其罪狀ノ未ク分明ナラサルハ、追究スレハ、是レリトナス、此事實際ニ於テ、殊ニ害アリ、但シ誓士ヲ設置セシ以來、之ヲシテ自由ニ判定セシムルコトナリシヨリ、古昔唯法學者ノミヲ以テ、合議法院(リヒテルコルレギ)ヲ設置セシ世ニ於テ、偏ニ證左ヲ取ルノ法ノミヲ墨守セシ風習、遂ニ全ク消滅セシハ、實ニ誓士ヲ用フルノ利ト云フベシ、且ツ誓士始メテ立テ、以テ、罪犯人多クハ其罪ヲ掩フ能ハスシテ、皆其刑ニ服スルコトナリシハ、各國共ニ實感ニ由テ知ル所ナリ、然レモ誓士ヲ用フル制度ノ祖國ナル英、及ヒ亞米利加兩國ニ於テ、未ダ誓士證左ヲ取ルノ法(即チ罪アリト判定セシ所以ノ理ヲ、被告ハニ明白ニ知ラシムルノ法)ヲ以テ、全ク無用ニ屬ストセシ論アルヲ聞カス、加之、此兩國ニ於テ

九下八

ナル英、及ヒ亞米利加兩國ニ於テ、未ダ誓士證左ヲ取ルノ法(即チ罪アリト判定セシ所以ノ理ヲ、被告ハニ明白ニ知ラシムルノ法)ヲ以テ、全ク無用ニ屬ストセシ論アルヲ聞カス、加之、此兩國ニ於テ

ハ、証左を探索スルノ術ヲ講求スルニ心ヲ用ニルヲ專旨トナシ、并ニ哲士ヲシテ、証左ニ注意セシムルヲ以テ、法士ノ務ト爲ス。○法士ナル者ハ、決シテ自ラ被告者ヲ無罪トシテ、赦免スルヲ得ス、及ヒ之ヲ有罪トシテ、刑罰スルヲ得ス、必スヤ哲士タル者ノ尋常平易ノ識見ニ由リ、判シテ有罪ト定メシ者ニアラズレハ、之ヲ刑スル能ハサルハ、即チ哲士法院ノ通則ナリ、去レテ法士タル者、正義公直ノ旨ヲ奉シ、且ツ自ラ學習ノ浸漸ニ由リ、悟得セシ識見ヲ、哲士ニ告諭シ、以テ哲士ヲシテ、之ヲ熟慮セシメ、及ヒ公正ニ判定セシムルハ、全ク其職掌ニシテ、之ヲ以テ不可トスルノ理ハ、決シテアル可ラス。○歐洲大地各國ニ於テハ、法士ノ權常ニ強大ニ過キ、遂ニ哲士ノ判定ヲ用ヒス、敢テ自ラ恣ニ判定ヲ爲カキ弊害アルヲ免レズ、是ヲ以テ、往々此弊害ヲ驅除セシメテ論スル者アリ、實ニ哲士法院ノ制度ニ於テ、有益ノ論ト云フ可シ、去レテ又審理ニ於テ、法學ニ熟達セシ法士ノ威權ヲ務テ抑壓シ、而シテ哲士ヲシテ、縱ニ判定スルヲ得セシムルヲ以テ、此法院ノ本意ヲラシメント欲スルカ如キモ、亦司法ノ眞理、及ヒ其尊嚴ナル所以ニ、全ク相戾ルト云フ可シ。

既ニ論シタルカ如ク、歐洲大地ノ各國ニ於テ、スターツァインワルトノ官ヲ設立セシハ、全ク英國ノ制度ニ由ラサル者ナルカ、又哲士法院ノ制度モ亦大地各國ニ傳播セシ以來、二個ノ改正ヲ得タリ、即チ第一ハ英國ニ用フルアーンカラーゲ、ゼニエーリ(大ギューリ) (按)英國ニハ、大小二種ノ哲士ナリ、而シテ大哲士ナル者ハ、預メ罪犯ノ豫況ヲ探索シテ、實ニ罪アリト思フトキ、之ヲ廢シ、而シテ別ハ、之ヲ小哲士ニ送致スルヲ掌ル者ナリ、但シ小哲士ハ判定ヲ爲スヲ掌ル者ナリ、テ廢シ、而シテ別ニ法學者ノミヲ擧テ、アーンカラーゲセナリトナル者ヲ設立シ、預メ告訴ノ次第ヲ查問スルノ務メテ以テ、之ニ假托スルノ法ヲ立テ、第二ニハ英國ニ於テハ、私法ノ意、今仍チ大イニ司法上ニ存スト雖モ、大地各國ニ於テハ、罪犯人ヲ追捕刑罰スル事ハ、漸ク國家ノ掌ル所トナリテ、今世ハ、司法上、絶エテ私法ノ意ノ存スルアルヲ見サルニ至レリ。

第五款 政務法事務 務法ト云、故ニ此公權利ニ就テ起レル諸爭論ヲ裁斷スルノ事務ヲ政務

法事務ト云、法院司ル所ノ私法、刑法ノ二事務ト相異ナリ。

公權利ニ就テモ亦爭論ノ生スルコトアリ、而シテ此時ニ於テハ國家其權ヲ以テ、之ヲ裁斷セサル可カラス、但シ今世ノ公法院 ヲツヘントリヒレヒトリヘルケハ、公法 ヲツヘントリヒレヒト (按)中ニ於テ、僅ニ其數部分ヲ司ルノ權アリ、故ニ其過半ハ、方今尙ホ未タ之ヲ司ル所ノ法院、并ニ制度アラズ、就中公法中ノ重要ナル部分ニ至リテハ、最モ然リトス、實ニ公法事件ニ係リテ起レル諸爭論ヲ、悉皆裁斷スヘキ法院ヲ設立スルハ、恐ラクハ後世始メテ能クスヘキノミ。

公法ノ事ニ係リテ起レル爭論ノ部類ハ、大略左ニ擧ルカ如シ。

(甲)列國法ニ係レル爭論、列國ノ權利ニ係リテ、其際ニ起レル爭論ヲ、裁斷スルニ堪ユヘキ法院ハ今時尙ホ未タ之レアラズ、故ニ二國相爭フキニ於テハ、儘調停裁判ノ國、相爭フ兩國ノ依托ヲ受ケ、其中間ニ入テ、之ヲ施スコトアレバ、必ス兩國縱議シ相ヒ共ニ之ヲ請フニアラサレハ、此事決シテ行ハル可ラス、其他アリセンゲリヒト (按)戰争ノ際、敵艦ヲ捕撃セルト、ノ如キハ、固ヨリ兩國ノ共議スヘキノ、當然ナルカ如シト雖モ、必ス獨リ其本國(按)敵艦ヲ捕撃スル者ノ本國ヲ云)ノミ、之ヲ裁斷スルナリ。

(乙)君位繼嗣ニ係レル爭論ノ如キモ、國事法院亦之ヲ裁斷スルノ權ナシ、而シテ列國復之ヲ裁判スル權ヲ有セス、國家ノ大事勢獨リ能ク之ヲ裁斷スルナリ、凡ソ權勢事業、兩ツナカラ全ク、舉國若クハ官司等ノ許可服從ヲ得ル者、遂ニ能ク君位ニ登ルヲ得ルハ、即チ勢ヒノ然ラシムル所ナリ。

(一)按)君位繼嗣ノコヨリ、爭鬪ヲ生スルコトアルキハ、權勢事業兩ツナガラ全クシテ、遂ニ全國ノ許可服從ヲ得ル者、自ラ勢ヒニ由テ、君位ニ登ルヲ得、故ニ國家ノ大事勢獨リ能ク之ヲ裁斷

スト云フナリ。

(丙) 國憲可否ノヨリ起レル争論ノ如キモ、亦必、法院ノ裁斷ヲ用フル能ハス、而シテ或ハ政論黨派ノ分争、能リ之ヲ裁斷スルヲ得、按權ヲ得タル黨ノ欲スル所ニ從テ、國憲ヲ廢、或ハ兩院ト政府ノ商議ヲ以テ、之ヲ裁斷シ、又ハ憲法及ヒ上諭ヲ以テ、之ヲ裁斷スルヲ得ルナリ、獨、亞米利加合邦ニ於テハ、通例合邦法院(ブンデスグリーヒト) 按合邦全國ノ法ヲ司レル法院) 能ク此ノ如キ争論ヲ裁斷スルノ權有リ、去レ此國ニ於テモ、國家諸權柄ノ意、互ヒニ相背反シテ、全ク一致相同セサル時ニ於テハ、法院縱令ヒ其裁斷ヲ施シテ、之ヲ行ハント欲スルモ、法シテ能ハサルナリ、蓋シ一千八百六十一年(萬延二年)ヨリ六十五年(慶應元年)ニ至ル五年間、國內ノ大戦争、及ヒ其後ノ形勢ヲ通視スレハ、此理自ラ明瞭ナル可シ、○去レ若シ此ノ如キ争論アルコト方リ、徒ニ形貌上ノ正真ナル法ニシテ、選テ裁斷スルルキハ、其弊史ニ巨大ニ至レ可シ、蓋シ自然ノ勢ヒニ合シ、且、日々進歩スル世態ニ適スル所ノ裁斷ハ、獨リ、經驗ノ才識ヲ具フル俊傑ニアラサレハ、決シテ爲ス能ハサルナリ、

(丁) 軍務ヲリテ、及ヒ戊戌警務保務 ポリツァイヘル 区域内ニ於テハ、其官司許多ノ法問ヲ判定裁斷セサル可ラス、而テ此判定裁斷ヲ以テ、更ニ法院ニ告訴スルヲ許サス、殊ニ此種ノ法問ハ、其便宜ニ從テ、武官及ヒ警保官ノ事務ニ屬ス、蓋シ此法問ハ、専ラ事ノ便益ト否トニ緊切スルヲ以テナリ、按唯正義公道ノミニ關セサルナリ) 例ヘハ、戦争ノ時ニ於テ、軍隊ニ民人ノ交際ヲ阻攔シ、或ヒ其連合ヲ隔斷シ、或ハ大砲ヲ自家ニ發射シ、又ハ禾田ヲ蹂行スル等諸件ノ實ニ緊要ナリヤ否ハ、皆専ラ軍事ニ係レルコトナリ、去レ此等諸件モ亦、法ヲ以テ論ヤサル可ラサルハ、固ヨリ當然ナリ、○又火災起ルニ方リ、家屋ヲ毀壞シ、或ハ傳染病アルニ方リテ、患者ノ他人ト接遇スルヲ禁シ及ヒ病獸ヲ屠殺スル等、必行スヘキヤ否ヤハ、警保官タル者、専ラ公衆ノ安寧ニ注意シテ裁定スル所ナリ、去レ此等ノコト、其便益ト否トノミヲ以テ論ス、可キニアラス、亦必ス法ヲ以テ論セサル可ラサルハ、固ヨリ當然ナリ、○斯法ノ區域ニ屬スル裁定ヲ以テ法院ニ托セス、却テ武官或ハ警保

官ニ托スルハ、殊ニ怪シム可キカ如シト雖モ、是等諸件ハ、必十分嚴猛ノ權力ヲ以テ、處分セサル可ラス、故ニ之ヲ單ニ武官若クハ警保官ニ托シテ、決シテ法院ヲシテ、之ニ關セシメサルナリ、若シ法院ヲシテ是等諸件ニ關セシムルノ法ヲ立ルルキハ、兵權警保權共ニ、遂ニ痠痺衰弊スルノ恐レナキ、能ハス

但シ右等ノ處分ニ由テ、武官及ヒ警保官等、若シ私人ニ損害ヲ爲セシカ爲メニ、私人或ハ其償金ヲ乞フコトアレハ、其請願ノ當否曲直如何ヲ判定スルハ、固ヨリ私法院ノ職掌ナル可ク、又右等處分ヲ爲スノ時ニ於テ、警保官ノ施シタル警保刑 ポリツァイストラフ 按警保官ノ施シタル刑罰ヲ云、當否ヲ判定スルコト必要ナルキ、之ヲ判定スルハ、固ヨリ刑法院ノ職掌タルコト辨テ俟ツス、

(己) 元來諸官司ノ設立スル所ニシテ、且、其管轄ニ屬スル公法モ、亦殊ニ許多アリ、故ニ此公法ヨリ起ル争論ハ、必ス其諸官司ニ於テ、之ヲ裁斷スルノ權アリ、例ヘハ選擇權利(ワールレヒト)ニ係レル争論ノ如キハ、或ハ此權利ノ規律ヲ設立セル上官、之ヲ裁斷シ、或ハ選擇セラル、徒、(兩院ノ如キ是レナリ)之ヲ裁斷ス、其他總テ下等諸官吏ノ職掌ニ就テ、争訟起ルルキハ、乃、其上官之ヲ判定ス、

佛國ニ於テハ、狹義ノ政務法 ヘルワルツングスレヒト、ト稱スル者ノ區域ヲ、前條舉ル所ノ公法イム、ニンケルン、シンニシテ、

(按) 即チ(己)ノ條ニ舉ル者ヲ云)ヨリ復タ區分シテ、別種ノ者トナシ、而シテ此法ニ係レル事務ヲ舉ケテ、全ク別個ノ法院ニ委托セリ、近世各國復々之ニ倣フ者多シ、○狹義政務法ノ區域ハ、殊ニ宛カモ會社若クハ一個人ノ身上ニ因著セル公權利、及ヒ公義務ヲ含有ス、故ニ此權利ハ、殆、私權利ノ如クニシテ、殊ニ特別ノ保護ヲ要スルナリ、何者、此權利ニ就テハ、眞誠ノ兩對手、其意思ヲ主張シテ、相争フコトアリ、故ニ法院ニ於テ、其審理ヲ受クヘキコト、當然ナレハナリ、按他ノ公權利ニ就テハ、兩私人相對シ、相争フコトナシト雖モ、此公權利ニ就テハ、兩私人相對シ、相争フコトアリト云フノ意歟、

去レ此權利ヲ以テ、決シテ私權利ト認ム可ラス。元來此權利ハ、決シテ全ク一個人ニ屬スル者ニ
 アラス、必、國家ニ屬スル公權利ナルヲ以テ、國家ノ法制ト密合スルコト當然ナリ、但シ此權利ハ、常
 ニ一個人ニ固著セル、一種別個ノ權利ノ如クナリテ、一個人自ラ之ヲ護リ得ルカ故ニ、宛カモ其私
 權利ニ類似ス、○狹義ノ政務法ニ屬スル者ハ、例ヘハ邑民タルノ權利、ケマインデビュルゲルレヒ
 ノ權利ナリ、卷ノ
 十一、詳ナリ。及ヒ國民タルノ權利、スターツビュルゲルレヒト(按)國事ニ關スル
 ノ疆界ヲ分割スルコト、(按)事理解シ難シ、猶再考スヘシ)公路(按)公衆ノ往來スヘキ道路ナリ)
 ヲ私用ニ充ツルコト、街路ヲ建築修繕スルノ義務、學校及ヒ教會館ヲ造營スルノ義務、公務職官ヲ奉
 承スルノ義務(按)公務諸職官中ニ就テ、各人ソノ奉承セサル
 軍事ニ役事スルノ義務、及ヒ公衆利益
 ノ爲メニ、私有ヲ放棄スル等是ナリ、
 軍事ニ役事スルノ義務、及ヒ公衆利益

狹義政務法ノ區域ハ、從來甚ク狭小ナリト雖モ、固ヨリ廣潤ニナシ得可ク、加之、之ヲ廣潤ニスルコト、
 甚ク緊要ナリ、○但シ從來政務官獨リ狹義ノ政務法ヲ司ルノ全權ヲ有シテ、決シテ法院ノ監察ヲ受ク
 ルコトアラザリシカ、此全權近今次第ニ減絶スルノ時至レリ、

政務法事務ノ良善ナルヲ庶希セハ、必、之ヲ別種ノ法院ニ委任シ、且、別種特別ノ審理規律ヲ設ケ、
 之ニ由テ、審理セシムルヲ最要トス、佛國ノ政務法ハ、頗ル完備シ、且、其規則明亮確實ナルコト、大ニ
 他各國ニ超越ス、蓋、政務法ヲ司ルレ法院ノ編制、殊ニ宜シキヲ得ルカ爲メナリ、

方今獨乙各國ノ如キハ、政務官直ニ此法ヲ司ルカ故ニ、公權ヲ有スル會社、及ヒ私人ヲ保護スルコト、
 全ク十分ナラス、且、動モスレハ、政務官私意ヲ以テ、處分スル等ノ弊害アリ、然ルニ若シ元來私法
 ノミナ司レル訴訟法士ヲシテ、兼テ政務法ヲ司ラシムレハ、必、二個ノ弊害ヲ生スヘシ、何者、此法
 士ハ、政務法ニ係レル事ノ實ニ公事ナル所以ニ注意セシテ、動モスレハ、徒ニ私法ノ規律ヲ遵守
 シ、誤リテ公事ヲ害シ、或ハ此法士、政務法事務ニ於テ、必要ナル自由ノ思慮考按ヲ取テ、遂ニ之ヲ

其本務ナル訴訟事務上ニ移シ、以テ訴訟事務ヲ害スルノ患、アレハナリ、○

①(按)訴訟審理ノ如キハ、備ニ法ヲノミ、遵守スヘキコト當然ナレド、政務法ニ係レル審理ニ至
 リテハ、素、法ヲノミ、遵守スヘキニアラス、必、其事ノ便益ナルト否トヲモ、併セテ注意セサ
 ル可ラス、故ニ此審理ヲ掌レル法士ニハ、必、自由ニ思慮考按スルヲ許スコト、甚ク緊要ナリ、然
 ルニ訴訟法士ヲシテ、政務法ニ係レル審理ヲモ兼掌セシムルハ、自ラ之ニ習慣シテ、知ラス
 覺ヘス、訴訟審理上ニモ、亦自由ノ思慮考按ヲ施シ恐レナキ能ハサルナリ、
 ○政務法院(ヘルワルツングスゲリヒト)ノ編制ニ就テモ、其法ニ通曉セル官吏ト、及ヒ民間ノ私人
 トヲ合スルハ、大ニ益アリ、殊ニ初等法院(按)下等ナリ)ニ於テハ、最モ然リトス、佛國ニ於テ
 ハ、アレヘクト(按)即、官吏ナリ)ナル者、此法院ノ首領ニシテ、民間ノ私人數輩、アレヘクト
 ラート(按)商議者ナリ、トナリテ之ニ列ス、又大公爵國(ゴロースヘルツォグツーム)ナルバードン
 ニ於テハ、官吏ナルヘナルクサムトマント、民間ノ私人ナルヘナルクストラート(按)即、商議者ナリ、

ト相合シテ、政務法事務ヲ掌ル、○但シ上等法院ノ如キハ、佛國ニ於テハ、議政官(スターツラート
 (按)卷之七第六款ニ詳ナリ)ノ分課ヲ以テ、之ニ充テ、又バードンニ於テハ、別ニ一種ノ政務法
 院(按)即、上等ナリ)ヲ設置ス、
 第六款 司法ノ疆域(ザー、グレンツ、デル、ゲリヒツ、パールカイト)○政務法ニ引スル爭論、(レ
 ヘルワルツングス、ストライナグカイト)

近今ニ及ヒテハ、政府ト法院ト區分シテ、法院ハ政府ノ管内ニ歸セサルヲ以テ、良制度ト爲シ、且
 政府ノ自由ニ、其能力ヲ及、ス所ノ區域ト、法院ノ其務メヲ施設スヘキ區域トヲ、嚴ニ分畫スルヲ甚
 切要ナリトスルニ至レリ、然ルニ太古及ヒ中古ニ於テハ、此分畫ヲ立ルコトノ緊要ナル所以ヲ、十分
 ニ悟得セザリシカ故ニ、太古ニ於テハ、政令ト司法ト合併シテ、全ク一個ノ者トナシ、又中古ニ於

テハ、政府ヲ以テ、適ニ法院ト同一ナル者ノ如クナセリ。○但シ今時ニ於テモ、此ノ如キ分畫ヲ爲ス
 一、決シテ容易ナリト謂フ可ラズ、蓋シ政府ト法院ノ區域ヲ綿密ニ分畫セント欲スルニ方リテ、政
 府ニ屬シテ可ナルヤ、將法院ニ屬シテ可ナルヘキヤ儘決シ難キ部分アリ、是故ニ其區域ノ分線ヲ
 畫スル、人々皆異ニシテ、甲ハ此處ニ於テシ、乙ハ彼處ニ於テシ、丙ハ又他處ニ於テシ、其他人々學術
 業務ノ相異ナルニ隨テ、分畫ノ論更ニ大ニ異ナリ、是ヲ以テ法院ノ徒ト、政府ノ徒ト、其論至ク一致
 スルハ、甚々容易ナラス。○法院ノ徒ノ所見ハ特ニ一個人(インヂヒツトム)ニ按)即チ各個ノ人ヲ指シ
 云ナリ)ノ權利(按)即チ私法ニ屬スル權利也)ヲ主要トナスカ故ニ、苟クモ私法ヲ侵犯スル處分、若
 クハ論說アルヲ知ルキハ、則、直ニ私權利ヲ損害スルト視做シ、必、常ニ之ヲ保護セサル可ラスト爲
 ス、然ルニ政府ノ徒ハ、之ニ反シテ特ニ國家ト、及ヒ國家ノ權利トニ著意シ、實ニ公衆ノ安寧ヲ増益
 スルノ事ニ至テハ、一モ遺策ナク、悉ク之ヲ遂ケント欲ス、故ニ一個人アリテ、苟クモ其權利ヲ主
 張シ、政府ノ命令ニ抗スルキ、及ヒ法院亦此一個人ノ權利ヲ保護セント欲スルキハ、乃チ直ニ斥シ、
 以テ國家ノ威嚴ヲ侮瀆シ、其權力ヲ阻攔スルノ所行ト視做シ、常ニ嚴ニ之ヲ禁セント欲ス。○又法
 院ノ徒ノ通見ハ、凡、法ニ係レル諸爭訟ハ、全ク法院ノ裁斷ニ屬スヘキ者ニシテ、而シテ政務官ノ裁
 斷ニ屬スヘキ爭訟ハ、罕ニ之レアリト爲ス、是ヲ以テ此比動モスレハ、一個人ノ縱ニ政權ニ抗爭シ
 テ、其施行ヲ阻攔シ、及ヒ此種ノ區域ヲ減縮セント欲スルノ非理ニ屬スル所以ヲ忘失シ、及ヒ政府ノ
 區域モ、亦法院ノ區域ノ如ク、常ニ確定スル者ニシテ、此區域ハ議論生シテ、而後ニ始テ生スル者
 ニアラサル所以ヲモ忘失ス、然ルニ政府ノ徒ハ、之ニ反シテ、常ニ謂ラク、苟モ國家ニ關セルコト
 ハ、政務官獨リ專ラ之ヲ裁斷スヘキヲ、固ヨリ當然ニシテ、唯罕ニ之ヲ法院ニ托スルコトアルノミ、
 ○以上諸論皆非ナリ、凡、法院及ヒ政府ノ裁斷共ニ、必、常ニ確定スル所ノ區域アリテ、各之ヲ確
 守スヘキ者ナルカ故ニ、互ニ他ノ職掌ヲ以テ、唯罕ニ之レアリトナスカ如キハ、甚ク不可ナリ、元
 來政府ト法院ト、相岐分スル所以ノ理勢ニ注意シ、及ヒ其本性ノ全ク相異ナル所以ノ理趣ニ著眼シ
 テ熟思スルキハ、其區域相分カル、所以ノ理モ、亦當ニ明亮ナルヘシ、佛國ニ於テハ一千七百八

十九年(寛政元年)顛覆起ルニ方リテ、法院ノ掌ルヘキ裁斷ト、政務官ノ掌ルヘキ裁斷トヲ以テ、全
 ク相分割シタリ、此國ハ從來司法議院(ケリヒトリ)ヘス、バルラメント)ナル者、政務官ノ掌ルヘ
 キ裁斷ニ參預スルノ制アリシカ、此顛覆ノ際ニ至リ、國家從來ノ制度ヲ全ク破壊シ、更ニ之ヲ一新
 スルヲ以テ至急ノ務トナシ、加之、公衆ノ安寧ヲ謀ルヲ以テ至高ノ法トスルノ論、更ニ其間ニ生
 スルニ隨ヒ、此制ヲ以テ、愈、有害ノ者トナスニ至レリ、是ニ於テ顛覆黨ノ暴威ヲ以テ、法院ノ過強
 權ヲ挫折スルノ勢力非常ニ増加シ、遂ニ一千七百九十年(寛政二年)ニ於テ、左ノ憲法ヲ示令セリ、
 曰ク「政務ノ處分、縱令ヒ如何ナルモ、法士敢テ之ヲ障礙スルヲ許サズ、且、政務官吏ノ奉務、縱令ヒ
 如何ナルモ、決シテ之ヲ法院ニ召スヲ許サズト、○是ニ於テ許多ノ獄訟ヲ舉テ、政務官ノ裁斷ニ
 歸シ、及ヒ實ニ法院ノ管轄ニ屬スヘキコトヲモ、之ヲ法院ヨリ奪ヒ、以テ政務官ノ裁斷ニ托スルニ至
 レリ、且、那破倫(按)第一世ナリ、)亦法院ヲ以テ、政令ノ大障礙タル者トシ、愈、法院ノ權力ヲ減
 損シ、以テ政務官ノ權力ヲ増大セシカ故ニ、政務官ノ掌ル裁斷ノ區域、遂ニ頗ル寬宏トナレリ。○
 然ルニ獨乙ニ於テハ、其法學ノ旨、殊ニ私權利ヲ尊重スルヲ主ト爲スカ故ニ、憲法ノ制立、及ヒ實地
 ノ處分共ニ、其爲ス所、全ク佛國ト相反セリ、而シテ人民ノ權利、及ヒ其自由ノ權ハ、法院ノ管轄ニ屬
 セシムルキハ、大ニ堅確ヲ得ルカ故ニ、愈、法院ノ權力ヲ盛大ニ爲スニ至レリ、蓋シ良好ノ處直ト云
 フ可シ、去レハ此事又甚クシキニ過キ、實ニ國家ノ權利ヲ以テ、裁斷セサル可ラサル事件ヲモ、併セテ
 法院ノ管轄ニ歸シケレハ、遂ニ大ニ政府ノ權ヲ減削スルニ至レリ、是レ即チ法院ノ權ノ微弱トナル
 ヲ矯メント欲シテ、遂ニ又政府ノ權ヲ屈撓セシメシナリ、
 凡、政府ハ公衆ノ安寧ヲ保持シ、及ヒ之ヲ增長スルヲ以テ、其主務トナシ、法院ハ國內一個人(私人)
 ノ上ニ在テ、國家ノ正義公道ノ旨ヲ施行スルヲ以テ、其主務ト爲ス者ナリ、是故ニ政府ノ議判指令
 ハ、其旨常ニ國家公衆ノ爲メニスルヲ歸ト爲シ、法院ハ殊ニ私人ノ私權利ニ屬スル者(私法)ヲ保
 護シ、及ヒ不正ノ所行ヲ爲セル一個人アルニ方リテハ、必ス之ヲ刑シ、以テ國家ノ正義公道ノ旨ヲ
 著ス(刑法)ヲ以テ本旨ト爲ス、故ニ法院ノ職掌ハ、必ス私人ニ對向スル者ナリ、今更ニ他ノ語言ヲ

以テ、政府ノ職掌ト、法院ノ職掌ト相異ナル要旨ヲ述ヘン、凡ソ國家ノ法ニ係レルコトハ、政府宜シク之ヲ掌ル可ク、又私人ノ法ニ係レルコトハ、法院宜シク之ヲ掌ル可ク、○國家ノ法ニ係レルコトハ必ス公衆ノ安寧ニ著意スルノ緊要ナル所以ヲ失フ可ラス、從來ノ法ハ、通例唯政令ノ規律限制ナルノミ故ニ決シテ其政令ノ精神ト稱スルニ足ラス、(按)法ハ唯規律限制ナルノミ、故ニ唯法ニ由ルモ、決又私人ノ權利ハ、偏ニ正義公道ノ旨ニ由テ、判定スルヲ貴フ、若シ此權利ノ判定ニ就テ、兼テ亦公衆ノ安寧ニ著意スルコトハ、却テ害アリ、(按)公衆ノ安寧ニ著意スルコトハ、縱令決シテ正義公道ヲ傷ムト云フ、是レ即チ眞誠ナル國法、(按)博ク國法ト云フハ、政務法、刑法、亦其中ニ在リ雖モ、眞ノ性トナリ、私法、刑法ノ性ト、全ク相異ナル所以ナリ、○唯眞誠ナル政務法(第五款ヲ參看ス可シ、(按)第五款ニ、即チ狹義ノ政務)ノ如キハ、私刑兩法ノ中間ニ位シテ、此兩區域ニ關涉スル者ナリ、何者、公法(按)則チ政務法ヲ云)ト、及ヒ公衆ノ安寧トニ、兼テ著眼スルコトハ、一個人ノ身上ニ在テモ、決シテ矛盾スル所ナク、并ニ公衆ノ爲メニモ、亦決シテ害ナキカ故ニ、政務法ノ判定ニ就テハ、先ツ規律、憲法(按)私法及ヒ刑法ヲ云フナリ)ニ著意シ、而シテ後公衆ノ安寧ニ著意スルヲ以テ甚緊要トナセハナリ、(按)是レ即チ政務法ノ國法及ヒ私法、刑法ノ中間ニ位スル所以ナリ、)前條論スル所ノ原則ヨリ、左ニ舉グル數件ノ規律ヲ生ス、

〔第一〕國家ノ高尊ナル權利(ホーハイツレヒト)ハ、決シテ法院ノ管内ニ屬スル者ニアラス、故ニ高尊權利ニ係レル爭論ノ如キ、凡ソ其當然ノ區域内ニ屬スル者ハ、必ス政務官之ヲ裁斷スルノ權アリ、例ヘハ警保權、兵權及ヒ其他諸權利ノ如キ、其當然ノ區域内ニ於テハ、決シテ法院ニ屬スルコトナシ、故ニ法院ハ止一個人ニ對シテハ、能ク其權ヲ施行スト雖モ、以上諸權利ニ對シ、決シテ其大權ヲ施行スル能ハサルナリ、○是故ニ政府ハ其政權ヲ施行スルニ於テ、決シテ法院ノ權威ノ爲メニ

阻攔セラル、者ニアラス、政府ノ指令スル事ノ正ト不正ト、及ヒ要ト不要ト、或ハ其處分ノ公ト不公ト、及ヒ當ト不當トニ至テハ、政府自ラ之ヲ裁定スルコト當然ナル可ク、法院モ亦其職掌區域内ノ事ニ於テハ、自ラ之ヲ裁定スルコト、全ク政府ニ異ナラサルベシ、○國家ノ諸權利ニ係レル爭論アルニ方リテ、一個人若シ此制度(按)政府決シテ法院ノ管下ニ屬セス法院ヲ拒ムカ爲メニ、法院遂ニ警保權及ヒ兵權ノ處分ヲ阻攔スルニ至ルコトアルハ、政府ハ唯其當然ノ區域内ニ於テスラ尙ホ法院ノ管下ニ在ルカ如クナリテ、其權力之カ爲メニ減削セラレ、殆ト其要務ヲ施ス能ハサルニ至ルハ必然ナリ、

〔甲〕然ルニ此常法外ノ事、復緊切トナルコトアリ、例ヘハ其爭論ハ法院ノ裁斷スヘキ所ナルヤ、若クハ何レノ法院ノ裁斷ニ任スヘキヤ、之ヲ判決スルハ、全ク國法ニ係レル處分トスベシ、決シテ私法ニ係レル處分ト爲ス可ラス、何者、此ノ如キ定決ハ、全ク國憲ニ由ルヲ以テナリ、○但シ法院若シ獨立ノ權アラサレハ、國家ノ正義公道ノ旨ヲ司ル、甚タ能ク難キヲ以テ、獨、政府ノ手ヲ假ラス、自己ノ職掌區域ヲ確定シ、而シテ此區域内ニ於テハ、十分ニ自己ノ權力ヲ用フルコト、甚タ緊要ナリ、是故ニ此二權(按)政府ト法院トナ云)各自己ノ意ニ隨テ、其區域ヲ請定スルノ權力ヲ有ス、

是故ニ時アリテハ、政府ト法院ト、其職掌區域ニ就テ、互ヒニ爭フコトアリ、今一事起ルニ方リ、政府ハ以爲ヘラツ、此事ニ就テ緊要ナル指令ヲ施シ、且ツ此レヨリ起レル爭論ヲ裁斷スルハ、全ク自己ノ本務ナリト、然ルニ法院ハ又以爲ヘラツ、此爭論ハ己レ審理ノ規律ヲ以テ、判定ス可キコト當然ナリト、政府法院斯互ヒニ其職掌ニ就テ相爭フコトアリ、之ヲ職掌ニ係レル陽爭(ボシナーヘ、コムペテメツコンフリクト)ト云フ、或ハ又一事裁斷スヘキコト起ルニ方リ、政府法院各其裁斷ヲ以テ、當サニ自己ノ掌ルヘキ者ニアラストシ、互ヒニ相推諉スルコトアリ、之ヲ職掌ニ係レル陰爭(チガナトヘ、コムペテメツコンフリクト)ト云フ、

然ルニ政府法院ハ、併ニ獨立自行スル者ナルカ故ニ、互ヒニ此ノ如キ爭論ヲ裁判スルノ權ナシ、是故ニ國憲ニ隨テ、此爭論ヲ裁判セント欲セハ、必ス別種ノ一大權アリテ、之ニ臨マサル可ラス、而シ

テ此一大權ハ、必ス此二權ノ上ニ位シテ、絶エテ、拘制セラレサル者ニアラサレハ、決シテ能ハス、今若シ此一大權ヲ以テ、立法府ニ托スレバ、甚ク益アルカ如シト雖モ、元來此類ノ裁判ハ、後來ノ定則トナルヘキ者ヲ、設定スルニアラサルカ故ニ、當然立法府ノ掌ルヘキニアラス、何者、通例立法府ハ、時ニ臨ミ、事ニ應ジテ、實院ニ切要ナルコトヲ處分スヘキ者ニアラス、且ツ此ノ如キ爭論ニ至テハ、多クハ事態錯綜セル者ナレハ、能ク其精實ヲ探索シテ、判定ヲ施スカ如キハ、決シテ立法府大會ノ爲シ得可キ所ニアラサレハナリ、○國家元首ハ、諸國權相聚會同スル所ノ尖頭ナルヲ以テ、此ノ如キ裁斷ヲ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリト云フ可シ、去レモ若シ、ニステルサシテ、之ニ參預セシムルハ、ミニステルハ、則チ政府ノ長官ナルヲ以テ、現ニ相爭競スル座階ノ一ナル政府ヲシテ、其爭論ヲ裁斷セシムルノ理ナリ、而シテ政府ノ權、此ノ如ク偏重トナルモ、法院有スル所ノ獨立自行ノ權、并ニ決シテ拘制セラレサル者、宜ク裁斷ス可シト云フノ規律、共ニ至ク有名無實ニ歸スルニ至ル、○是故ニミニステルヲシテ、國家元首ノ裁斷ニ參預セシムル規律ヲ用ヒス、或ハ議政官一此官ハ能ク事ニ考練スル者ニシテ、且ツ日常ノ政令ニ關係セサル者ナルカ故ニ、裁斷上ニ於テ、能ク公正至當ノ處分ヲ爲スニ足ル必然ナリ、○シテ、元首ノ裁斷ヲ匡輔セシメ、或ハ政官ト法士トヲ合シテ、一局ヲ設ケ、以テ元首ノ裁斷ヲ匡輔セシムルハ、政府ノ權偏重トナリテ、遂ニ法院ノ獨立自行ヲ妨害スル等ノ患ヒアル可ラス、

〔乙〕モスリス(按)國家ノ所有)ノ争訟起ルニ方リテ、法院之ヲ裁斷スルノ法モ、亦常法外ニ屬スルカ如シ、(按)前(第一)ニ國家ノ高尊ナル權利ハ、決シテ法院ノ管轄ニ屬セシムルカ如シト云フノ意、去レモ國家ノ所有ハ、素ト私法ニ屬セル者ニシテ、絶エテ公法ニ係レル者ニアラサレハ、此法決シテ實ニ常法外ニ屬スト云フ可ラス、凡ソ國家タリハ、其所有ニ就テ見ルハ、全ク一個ノ私人ト相異ナラス、國家果シテ一個ノ私人タルハ、眞ノ私人ト同シシ、法院ノ管下ニ屬シテ、其裁斷ヲ受クヘキコト、固ヨリ當然ニシテ、決シテ法院ト相並立スルノ權ナシ、但シ國家所有ニ係レル權利ハ、概シテヒスリスノ法(私法)ヲ以テ論スヘシト云フニハアラス、國

家其臣民ヨリ取ル所ノ租稅ノ如キニ至テハ、實ニ私人ノ所有ヨリ出ル者ニシテ、全ク錢財ニ係ルカ故ニ、此公權利(按)即チ租稅ヲ取ルノ權利)ノ如キハ、通常ノ諸公權利ト異ナル所アルハ、固ヨリ辨テ俟タス、去レモ國家其臣民ヨリ租稅ヲ取ルノ權利ハ、債主ノ負債者ニ對セル私權利トハ、全ク異ニシテ、國家實ニ臣民ノ上ニ在テ、施行スル所ノ權柄ナリ、是故ニ租稅收取ノ一ニ就テハ、國家ハ全ク上ニ在リテ、十分ニ臣民ヲ馭スルノ權利ヲ握ル、決シテ臣民ト並立シ、其對手トナリテ、法院ノ裁判ヲ受クルノ理アル可ラス、○是故ニ或ハ租稅收取ノ規律公正至當ナリヤ否、或ハ臣民中某品位宜シク納稅ノ義務ヲ負フヘキヤ否、或ハ私人所有ノ中ニ就テ、此種類ニ租稅ヲ命スヘキヤ、將彼種類ニ租稅ヲ命スヘキヤ等ノコト、若シ決定シカタクキハ、臨ミ、之ヲ裁判スルハ、決シテ私法ノ事務ニアラス、全ク公法ノ事務ナリ、故ニ政務官宜ク之ヲ裁斷スヘキ、固ヨリ當然ト云フ可シ、(按)政務法官之ヲ裁判スレハ、更ニ良シトス、○政府或ハ取稅ノ權利ヲ恣行シテ、政ヲ施シ、遂ニ臣民ヲ困シムルノ恐レアルヲ以テ、租稅ノ規律ヲ設定スルノ初メ預メギョーリ(按)即チ哲士、若クハ民間ニ於テ、其事ニ練熟セル者ヲ選テ、共ニ之ヲ商議セシムレハ、即チ大ニ善シトス、

但シ又租稅ニ係レル争訟ト雖モ、或ハ又私法事務ニ屬シテ、其官ノ判定ニ從フヘキ者アリ、即チ其争訟租稅ノ理、及ヒ其收取ノ規律ニ關係ナリ、(即チ其争訟、國家取稅ノ權柄上ニ關セス)唯一私人ノ所有物上ニ就キ、實ニ租稅ヲ命スルニ足ルヤ否ヲ、判決スルコト緊要ナルハ、訴訟法士之ヲ掌ルコト當然ナリ、例ヘハ一私人或ハ自ラ論シテ、吾カ所有品ハ、一ツモ租稅ヲ納ムヘキ品種ニアラスト云ヒ、或ハ吾レハ貧ウシテ、未タ租稅ヲ納ムルニ足ルヘキ所有アラスト云ヒ、以テ納稅ノ義務ヲ免レト欲スルハ、如キハ、其論私法ノ事ニ係ルヲ以テ、必ク法院ヲシテ之ヲ判決セシメサル可ラサルナリ、○但シ或ハ私人縱ニ自論ヲ主張シ、以テ大ニ國家取稅ノ權柄ヲ侮瀆スルニ至ルノ恐レナキ能ハサルヲ以テ、必ク別ニ此事ヲ判決スルニ適當セル審理規律ヲ設立シ、以テ國家ノ取稅權ヲ保護スルハ、實ニ緊要ナリト雖モ、此等ノコトヨリ起レル争訟ヲ判決スルハ、決シテ國法ニ屬セサルヲ以テ、全ク法院ノ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリ、

〔丙〕又警保官其處分ヲ私法上ニ施シ、以テ私權利ノ自由ヲ限制スルコトアリ、但シ警保官ノ處分ヲ

爲スニ於テ、能ク憲法ニ違フヤ否、或ハ其規律ヲ守ルヤ否、又ハ其處分ノ事理實ニ緊要ニシテ、且ツ公正ナリヤ否等ノコトハ、全ク國家ノ公權利ニ係レル事ニシテ、私法ニ屬セサルカ故ニ、是等ノコトヨリ起レル爭論ヲ判決スルハ、決シテ、法院ノ掌ル所ニアラスト雖モ、若シ警保官ノ處分スヘキ私事ニ就テ、爭論ノ起ルコトアルハ、即チ例ヘハ、警保官一個人ニ對シ、汝ハ家主ナリ、汝宜シク汝カ屋舎内ニ於テ、火災ヲ生シ易キ物ハ、悉ク除去スヘシ、ト云ヒ、或ハ「水ノ流通ヲ便ニスルコトニ注意スヘシ、ト警ムルニ方リ、一個人敢テ警保官ノ指令ヲ承諾セサルニハアラサレド、其身元、家主ナラサルノ故ヲ以テ、此指令ヲ遵奉セサルカ如キハ、全ク私法ニ屬セル爭論ト云フ可シ、故ニ此判決ハ必、法院ノ掌ルヘキ事件ナル、固ヨリ當然ナリ

〔一〕私有ヲ收取シテ、國家ノ有トナスコト（モキスプログリアチオン）ヨリ起レル爭論モ、私法上ニ關スル所アリ

但シ此爭論ニ就テモ、國家ノ權ヲ以テ爲スヘキコトヨリ起レルモノハ、總テ政府、處決ニ屬スト雖モ、唯此取ル爲ニスル償金ノコトヨリ起レル爭論ハ、必、法院ノ判決ニ屬スルナリ、（卷之二第二十六款ヲ參看ス可シ、）

〔第二〕國家ノ高尊權利ヲ私人ニ授與シテ、私人ノ權利トナセシヨリ、此權利乃チ純粹ノ公權利タル所以ヲ失ヒ、而シテ私權利ノ一トナレリ、是故ニ此權利ヲ授與セラレシル私人ト、他ノ一私人トノ際ニ、權利ノ爭論生スルハ、法院必、之ヲ裁判スルコト當然ナリ、（即チレガリテ、〔按〕政府造幣、驛遞、證印等、其他諸種ノコト掌ルノ特權ヨリ出テ、政府ニ其私權利トシテ、授托セラレタル諸種ノ權利、殊ニ此區域ニ屬シ、其他國家時アリ、一個人ニ特權ヲ授與シテ、一種ノ公義務ヲ赦免スルコトアリ、即チイム、ニテ、ト、〔按〕兵事ニ役仕シ、或ハ職官ヲ奉務スル等ノ義務ヲ免カル、自由チ云、及ヒ納税ノ自由（按、納税ノ義務ヲ免カル、自由チ云）亦此區域ニ屬ス、中古レヘンスシテム（按、封建ノ制チ云）アリシ世ニ於テハ、總テ公權利ト私權利ヲ混淆セ

シカ故ニ、國家ノ高尊權利ヲ以テ、屢ク私人ニ授與スルコト之レアリキ、然ルニ輒近ハ大ニ此二權利ヲ分カテ、眞誠ノ私權利ヲ以テ、全ク私人ノ權利ト爲スヲ貴ヒ、而シテ、國家ノ高尊權利ニ係レルコトハ、始、國家ノ掌中ニ在リテ、私人ノ手ニ移傳セサルヲ貴フニ至レリ、是故ニ今時ハ此ノ如キ規律（按、國家ノ權利ヲ私人ニ授與スルチ云）ヲ用フルノ區域、大ニ減縮セリ、

〔第三〕眞誠國法ノ區域ハ、決シテ私法院ノ管轄ニ屬セサルカ如ク、私法ノ區域ハ、又決シテ政府ノ管轄ニ屬セス、全ク私法院ノ管轄ニ屬スルナリ、凡ソ私法ノ區域ニ屬セルコトニ就テ、爭論起ルニ方リテハ、全ク正義公道ノ旨ニ由テ、之ヲ裁判ス可シ、決シテ國家ノ意旨ヲ以テ、之ヲ裁判スルチ許ス可ラス、何者、私法ノ事ハ、絶エテ國家ニ屬セス、唯私人ニ屬スル者ニシテ、國家ハ唯私人ヲシテ、其權利ヲ保有セシムルノ務メヲ負フノミナシハナリ、

素ト實ニ私法ニ屬スヘキコト、明亮ナル者ト雖モ、時アリ疑惑ノ生スルコトアリ、宜シク考思セサル可ラス、即チ茲ニ一個人アリ、他人若クハ國家ヨリ償金ヲ取ルノ權利有テ、之ヲ要求スルカ如キハ、全ク私法ニ屬スヘキコト、其理其事ニ於テ、全ク瞭然ナリ、敢テ辨チ費スヲ要セス、是故ニ之ヲ判定シテ、其曲直ヲ決スルハ、必、私法院ノ掌ルヘキコト當然ナリ、○私人償金ヲ要求スルノ曲直ハ、判定チ施スニ於テ、最モ著意セサル可ラサル所ナリ、去レテ法院此判定チ掌ルコト當然ナルヤ、

將政府之ヲ掌リテ當然ナルヤト云ヘルコトニ就テ、議論ノ生スルコトナキニアラス、例ヘハ、政府私人ノ租稅ヲ徵スニ、或ハ權法ノ規律ニ由ラス、又警保官或ハ恣ニ私人ノ工業ヲ障礙シ、之ヲシテ損失ヲ蒙ラシムルコトアルヲ以テ、私人政府ニ要シテ其ヒスンス（按、政府ノ所有ナリ、）ヨリ償金ヲ取ラント欲スルハ、若クハ一個人其身官吏ニ列スルチ以テ、他ノ一個人ニ對シテ、不正ノ所行チナシ、以テ之ニ損害ヲ與フルカ故ニ、乙ノ一個人（按、損害ヲ受ケタル者）甲ノ一個人（按、損害ヲ與ヘタル者）ニ對シ、償金ヲ要求スルハ、如キ兩件アルニ方リテハ、之ヲ法院ノ判定ニ任スル當然ナルヘキヤ、將政府ノ判定ニ任スル當然ナルヘキヤ、或ハ此ノ如キ時ニ於テ、若シ法院ノ職域ヲ傷ハサラント欲シテ、專ラ之レヲ爲シ謀ルハ、自ラ政府ノ職域ニ害ナキ能ハサルニ非ス、或

權利ハ、純乎タル公權利ノ性ヲ得ルニ從テ、其國權ニ屬スルコト亦甚嚴ナリ、然ルニ此諸權利、若シ私權利ニ近似スルモ、法院之ヲ保護スヘキヲ、最モ當然ナルノモノナラス、且ツ選擇ノ自由、(按)議

他ノ一足ヲ國法ノ區域ニ入ル、カ如ク相似タリ、是ヲ以テ、此制度及ヒ法タルヤ、政府ノ管轄ニ屬スル部分ト、及ヒ法院ノ管轄ニ屬スル部分トヲ以テ、綿密ニ區別スルコトヲ、殆、難シ、今特ニ左ノ諸件ニ舉ル者、即チ是レナリ、

(甲)邑會(ゲマインデ)及ヒ公事ノ會社ニ於テ、此ノ如キ制度及ヒ法殊ニ多シ、而シテ公事會社ノ如キハ、古時ハ全ク私法ニ屬スル者ナリシカ、近今ハ大ニ公法ニ係レル者トナレリ、凡ソ邑ノ所有權利、或ハ促進、負債ノコトヨリ、生スル爭論ノ如キハ、私法ニ係レル者ナルカ故ニ、邑亦法院ノ保護ヲ受クル權利ヲ有スルコト、又他ノ一人ニ異ナラス、而シテ此ノ如キ爭論、邑ト一人トノ際ニ起リ或ハ邑ト國家トノ際ニ起ルニ論ナク、此理ハ總テ相異ナルコトナシ、○但シ邑ノ所有ハ元來全ク公衆利益ノ爲メニ備フル者ナルカ故ニ、政府其處分ヲ指令スルノ理ニ於テモ、純乎タル私事ヲ指令スルノ理トハ、全ク相異ナリ、故ニ政府公衆安寧ニ著意シ其權ヲ以テ、之カ處分ヲ指令ス可ク、且ツ若シ此所有ヨリ爭論ノ起ルアラハ、僅又其權ヲ以テ之ヲ裁斷スルコトアルヘシ、○二邑若シ自己ノ權力ノ區域、或ハ道路橋梁ヲ修繕スヘキ義務等ニ就テ互ニ爭論ヲ生シタルキハ、如キ、之ヲ審理裁斷スルハ、政務官ノ職掌ナリ、而シテ若シ知務法院ヲシテ之ヲ裁判セシムルハ、更ニ良好トス、但シ道路橋梁修繕ノコト、專ラ私人ノ掌ル者ニ係レハ、乃チ此例ニテラス、其他一邑内若クハ一會社内ノ衆員ト寡員ト、事ノ可否ニ就テ、爭論ノ生スルニ方リテハ、其事當然國家ノ管轄ニ屬スル者ナレハ、政務官若

クハ政務法院、宜シク之ヲ裁判スヘシ、其事當然私法ニ屬スル者ナレハ、私法院宜シク之ヲ裁判ス可シ、○公事會社ノ編制、并ニ創立、解散等ハ勿論、縱令ヒ純乎タル私會社ノ編制、創立、解散等ト雖モ、其事公衆ノ爲メニ利害アルヲ顧思スルコト必要ナレハ、則チ必ズ政務官若クハ政務法院ノ管轄ニ屬スヘシ、例ヘハ、證書會社(按)卷之六第十八款、臨監ノ章ニ出ツ、)ノ如キハ、縱令ヒ私會社ナリト雖モ、必ズ其證書ノ實ニ確信ナルト否トヲ顧思スルコト緊要ニシテ、且ツ又獨リ政務官若クハ政務法院能ク之ヲ顧思スルニ堪ユ可シ、但シ私會社ニ於テ、此ノ如キコトノ緊要トナルハ、甚々罕ナルノミ、(乙)身分ノ關係(スタండスヘルヘルトニス)モ、亦公私ノ二法ニ分屬ス、例ヘハ出生ノ兒童ニ就テ、爭訟起ルニ方リ、其兒正出(按)公然婚媾セル夫婦ノ間ニ生ル、)ナリヤ、將私生(按)私通セル男女ノ間ニ生ル、)ナリヤ、審判シ、及ヒ父子ニ於ケル關係、親族互相ノ關係、并ニ其族黨(按)例ヘハ、父族、母族、伯叔、甥姪等ノ諸類ヲ云、)及ヒ其等階(按)例ヘハ、本邦五等親ノ如ク、親族中ニ等階ノ區別アリ、)等ニ於テ起レル爭訟ノ類ハ、實ニ私法ニ屬スルコトナルヲ以テ、法院ノ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリト雖モ、彼、インザゲナート、(按)各人出生ノ地ニ於テ得ル權利ヲ云、)國民權利(スターツビュルゲルレヒト、)按)國事ニ關スルノ權利ヲ云、)及ヒ邑民權利(ゲマインデビュルゲルレヒト、)按)邑事ニ關スルノ權利ヲ云、)ニ就テ起レル爭訟ノ如キハ、公法ニ屬スル者ナルカ故ニ、必ズ政務官若クハ政務法院ヲシテ、之ヲ掌ラシムルヲ良法ト爲ス、但シ此爭訟若シ唯專ラ私法ニ屬スル者ナルキハ、(中古ノ世ハ殊ニ此ノ如クナリキ)某私人ハ當ニ此身分ニ屬ス可シト云ヒ、或ハ當ニ彼身分ニ屬ス可シト云フ爭訟ハ、從來ノ制度ニ由テ、必ズ法院之ヲ裁判スルヲ掌ル、去レヒ身分若シ專ラ國憲ニ關シ、公法ニ屬スル者タルキハ身分如何ノコトヨリ起レル爭訟ハ必ズ政務官若クハ政務法院ノ裁判ニ屬スヘキコト、固ヨリ當然ナリ、例ヘハ、商賈ノ身分ハ、私法ニ關シテ法院ノ裁判ニ屬シ、貴族ハ、宮ニ門閥ノ平民ニ超ユルノミナラス、又國家政令ノ事ニモ參預スルヲ得ル國ニ於テハ、身分如何ヨリ起レル爭訟ハ、必ズ政務官若クハ政務法院ノ裁判ニ屬スルナリ、

(丙) 産業ニ係レル權利(ゲエルベスベフーゲニス)ハ産業ヲ營ムヨリ得ル者ナルカ故ニ、必私法ニ屬スル者ナリ、去レハ儘公衆安寧ノ爲ニ謀リテ、私人ニ此權利ヲ與ヘタルキニ於テ、若シ此權利ニ就テ裁判ヲ要スルコトアルキハ、政府官若シハ政務法官之ヲ掌ル可シ、

(丁) 後見ノ權利(ホールムンドシャフツレヒト)モ亦、公私ニ法ニ涉ル者ナリ、此權利ハ元來親族法(ハミリーシレヒト)及ヒ私法ニ屬スト雖モ、後見ノ務ハ、又公義務トナル者ナリ、是故ニ例ヘハ後見ヲ命シ、或ハ免スルコト、後見人ニ某事務ヲ許可スルコト、及ヒ保任ノ辨解ヲ爲サシムルコト、并ニ政務官常規ニ從テ、後見人ヲ監督監察スル等ノ諸事ニ於テハ、決シテ唯正義公道直ノ旨ヲ守ルノミヲ以テ、本旨ト爲ス可ラス、必又公衆ノ利害ニ著意スルヲ要ス、故ニ苟シモ法ノ區域ヲ超過スルハ許サスト雖モ、必俱ニ便宜適宜ヲ旨トシテ、處分スルヲ眼目ト爲サ、ル可ラス、○是ヲ以テ近今ニ至リテハ、便宜適宜ノ處分ハ、政務官ニ屬スル所ノ後見事務官(ホールムンドシャフツレヒト)ニ委託スルコトナレリ、甚良法ト稱ス可シ、

(第六) 刑法ト、警保官ノ懲戒法ト、相異ナル所以ハ、既ニ上卷(卷之七第九款)ニ於テ論說セリ、近今各國共ニ刑罰憲法(ストラフゲセツ)ヲ以テ、此ニ法(按)尋常ノ刑法ト懲戒法トナシ、ノ區別ヲ詳定セリ、

譯者曰、本卷首尾事理殊ニ了解シ易カラス、疊々思チ彈スト雖、尙恐ラクハ誤謬頗多カラン、他日間隙ヲ以テ、再ヒ訂正ヲ加フ可シ、讀者請フ之ヲ諒セヨ、

大井潤一 校

國法汎論卷之八 下終

國法汎論卷之九 上 目錄

國家ノ教育事務ニ就テ論ス

- 第一款 國家ト神道ノ關係
- 第二款
- 第一款 一個人信仰自由ノ權ヲ保護スルコト○奉教ノ自由
- 第三款 法ヲ以テ奉教自由ノ權ヲ限制スルコト
- 第四款
- 第二款 國教

瑞士

イ、カ、ブルンヂュリ 著
加藤弘之 譯

國家ノ教育事務ニ就テ論ス。(ホン、デル、シルツール、アレーゲ、デス、スターテス、ツール、レリギオン)
第一款 國家ト神道ノ關係(ヘルヘルトニス、デス、スターテス、ツール、レリギオン)

レリギオン(按)神道ノ原語)ト、キル(按)教會ノ原語)ナルニ語ノ意、或ハ互ヒニ混用スルコトアリト雖モ、其義元來全ク相異ナリ、レリギオンナル語ハ、神人合體ノ義ヲ徵シ、キルヘナル語ハ、信者等敬神ノ爲メニ相合同スル一國ヲ徵ス。○神道(按)以下皆レリギオンヲ神道ト譯シ、キルヘナル語ハ、教會ト譯ス。ナル者ハ、人ノ靈魂ヲシテ幽界中ニ於テ大神ト相合契セシメ、而シテ其感格ニ由テ、遂ニ完全具備ノ者ヲラシムルヲ以テ、其本性トナス、然ルニ教會ナル者ハ、信神ノ道ヲ行ヒ、及ヒ之ヲ清淨ニ爲スカ爲メニ立ル所ノ顯界上ノ會社ナリ。

太古ノ世ニ於テハ、未ク此緊要ナル區別ヲ明悟スルコト能ハサリキ、太古草昧ノ民ハ、何レノ國ニ論ナク、人世ノ事ハ總テ一神及ヒ數神ノ管理ニ歸スル者ナリト思覺セシカ故ニ、國家ノ理、及ヒ其法制等ニ至リ、一ツモ此心根ニ基實セサル者ハアラサリキ、是ヲ以テ草昧ノ世ニ於テハ、國家ノ主タル者ハ神ニシテ、神ニ代リテ、神意ヲ奉行スル者ハ、即チ教士ナリトセリ、之ヲ目シテ神主政體ト云フ、神主政體ハ、即チ太古草昧ノ世ノ初政體ナリ。

然ルニ後世ニ及ヒ國家ノ主タル者ハ、實ニ人ニテ神ニアラサルノ理ヲ悟リ、而シテ政權ヲ以テ、實ニ人主ニ寄托スルコトナレリ、去レテ神道ハ依然トシテ仍チ國教(スターツレリギオン)ナリキ、
國家

九上
神道ヲ掌ルノ制度ハ、仍チ依然トシテ存
○此時ニ當テ各國各個ノ神ヲ尊敬スルコト、猶各個ノ制度セリト云フノ意、即チ祭政一致ナリ、
憲法ヲ遵用スルカ如ク、而シテ他國ニ於テ尊敬スル所ノ神ニ至テハ、敢テ之ヲ尊敬スルノ意ナカリ

キ、加之、各國共ニ、一定ノ規律アリテ、其國神ヲ尊敬スルヲ以テ臣民ノ義務トナシ、而シテ若シ之ヲ
 尊敬セサル者アルハ、則チ之ヲ國家ノ威權ヲ潰辱スル大罪トシテ、刑ニ處シタリキ、○羅馬ノ
 侵掠ヲ被リタル各國ニ於テハ、其威力ニ強迫セラレ皆羅馬ノ神ヲ尊敬セサル可ラハルトナレ
 リ、去レテ敢テ其國固有ノ神ヲ廢除スルヲ要セス、併テ共ニ之ヲ尊敬スルヲ得シ、猶羅馬ノ法制
 ト共ニ、其固有ノ法制ヲ併存スルヲ得シカ如シ、○是故ニ羅馬ノ巨大ナル版圖内ニハ、諸種ノ民種
 、諸種ノ神道互ヒニ雜居混同シテ、相容忍セリ、去レテ一個人ノ爲ニハ、敢テ相容忍スルコトナク、唯一
 民種ノ爲ニノミ、容忍シタリ、
 (按)一個人各異教ヲ奉スルハ許サス、唯一民種
 舉テ一異教ヲ奉スルハ、許シタリト云フノ意、○カピトリニシテ、
 エビートル(按)羅馬ノ第一等ノ神ナリ)ノミ、獨リ諸神ノ上ニ、位ヲ占メテキ、

基督降世ニ及テ、始テ全ク此ノ如キ旨意ヲ變革シタリ、抑テ基督ノ傳ヘタリシ神道ハ、嘗テ羅馬
 或ハ猶太國ニ於テ、其政府ヨリ布施セシ神道トハ、全ク異ニシテ、基督ハ決シテ國教ノ道士及ヒ宣
 士トナラズ、且ツ絶エテ國家ノ事ヲ掌リ、及ヒ國家ノ權柄ヲ握ルコトアラザリキ、基督常ニ謂ヘリ、「吾レ
 敢テ自ラ此現世界ニ來リシニアラス、天神吾レヲシテ、特ニ此處ニ來ラシメタリ、吾レハ唯吾カ父(按
 按)天神ヲ云)ノ教フル所ニ從テ論述ス」ト、○基督ハ眞ニ天神ノ己レテ現世界ニ派遣セシ意ヲ悟
 リ、及其身天神ト同一體ナルヲ了セリ、故ニ基督ノ神靈ハ、實ニ天神ト相異ナル所ナカリキ、此ヲ以
 テ他ノ預言者(フロヘート)按)將來ノ言ヲ前言シテ神意ヲ人民ニ宣告スル人)ノ如ク絶エテ(上帝
 曰云々)ノ語ヲ用ヒス、必ス「吾、實ニ汝ニ語ラン云々」ノ語ヲ用ヒ、且ツ「吾レハ眞ト及ヒ活ナリ」ト安
 シテ云ヘリ、○基督ニ精神ヲ稟賦セシ神ハ、即チ猶太國太古ノ耶和華(按)一眞神ナリ)ト同ウシ
 テ、決シテ一國ノ神ト稱スヘキ者ニハアラザリキ、基督ハ唯一眞神ヲ推尊シ、之ヲ以テ宇宙萬物ノ

造主、世界蒼生ノ父ト爲セリ、

是故ニ基督ノ神道ハ絶エテ國家ノ管轄ヲ受ケス、加之、唯一眞神ノ啓示言(オツヘンパールンク)按
 「天神其意ヲ啓示スル所ノ言」ナルヲ以テ、當時國家ノ意思ニ背テ起リシ者ナリ、是ヲ以テ此教當
 時ニ在テハ、大ニ國家ノ爲ニ侮辱セラレ、遂ニ驅逐セラレ、ニ至リシカハ、夙ニ此教ニ歸依セシ
 門徒ノ心志ヲ深ク感化シテ、大ニ區域ヲ擴ムルヲ得タリ、○教祖(按)基督ヲ云)ハ猶太國ノ神ヲ
 誹謗スルノ大罪アリトシテ、遂ニ死刑ニ處セラレタリ、然レテ其徒弟等ハ、此眞道ノ廣ク傳播セン
 カ爲メニ心ヲ竭シ力ヲ極メテ、當時ノ國教ヲ排撃シ、靈魂永遠滅セサルノ眞理ニ安シテ、此道ノ爲
 メニ遂ニ潔ク現世ノ生命ヲ失ヘリ、

基督教起立セシ所以ノ原由、此ノ如クナルカ故ニ、此教ヲ奉スル者、遂ニ左ノ二大原則ヲ悟ルニ至
 レリ、即チ(第一原則)神道ハ元來國家ノ創立セシ所ニアラサルカ故ニ、教旨ハ決シテ國家ノ管轄
 ニ屬スヘキ者ニアラズ、(第二原則)神道ハ一個人ヲシテ天神ノ心靈ヲ悟ラシメ、而シテ永遠不滅ノ人
 魂ヲシテ、天神ト合一ナラシムルモノナリ、○是故ニ神道ナル者ハ、絶エテ人世ノ法ニ關係スル者
 ニアラス、全ク永遠不滅ノ精神界ニ屬スル者ナリ、基督云ヘルアリ、「吾カ事ハ此現世界ニ係ルコトニ
 アラス」ト、

右第一ノ陰原則(チガチー)ハ、サツ、(按)唯國家ノ管理ヲ
 拒防スルヲ主トス、故ニ陰原則ト云、
 第二ノ陽

原則(ボシチー)ハ、サツ、(按)人ヲシテ天神ト合體セシムルヲ主トス、故ニ陽原則ト云、)ノ弘通
 ニ用ヒラレシヨリモ早カリキ、基督教始メテ起リシヨリ、教會ヲル者、其教旨ノ國家ノ意思及ヒ指令
 ニ從屬スルニ至ルヲ防ガント欲シ、常ニコノ事ニ盡力シ、以テ國家ニ對シテ、自ラ神道ヲ擁護シ、又
 兼テ自己ノ獨立ノ基礎ヲ保護シタリキ、○但シ其後ニ至リテモ、仍チ國教ト稱スル語アリト雖ヒ、古
 時稱スル所ノ國教トハ、其義全ク相異ナレリ、新義ノ國教ハ、決シテ、國家ノ神道、若クハ一民種ノ

神道ニアラス、故ニ其教旨及其規律タル、曾テ其基ヒテ國家ノ憲法ヨリ資取セス、唯全ク國家ノ權柄ニ從屬ス可ラサル啓示言(按)前ニ出ツ)ヨリ資取シテ偏ニ之ニ依頼スルコトヲ務メタリ。○此神道ヲ國教ト稱スル所以ハ、蓋シ國家ノ爲ニ尊信敬仰セラル、ヲ以テナリ、此神道ハ國家ノ准許ヲ得テ、始テ立チシニアラス、故ニ敢テ國家ノ制馭ニ就ク者ニアラス、國家却テ此神道ヲ尊信敬仰シテ、全ク其教旨ニ恭順スルコトナレリ。

第二ノ原則ハ、所謂一個人、天良是非ノ自由、ゲキッセンヌフライハイト(按)人々天賦ノ良心ヲ以テ、事ヲ是非スルノ自由ヲ云フ、殊ニ吾カ是トスル神

道ヲ奉スルノノ理、因テ生スル所ノ本源ナリ、然ルニ古來ヨリシテ教會或ハ此原則ヲ遵守セサリ自由ヲ云フ。

シノミナラス、若シ一個人、信神ノ事ニ於テ、世間一般ノ教論ト相異ナル所見ヲ抱クコトアレハ、則教會直ニ國家ノ兵力及國家ノ刑法ヲ假テ、之ヲ嚴罰シ、以テ不滅ノ靈魂ヲシテ、妄ニ己カ意ニ從ハシメシムルコトヲ務メタリ。○去レテ、教會ノ威權甚ク強盛ニシテ、國家ヲシテ、敢テ神道ニ其權力ヲ施サシムルコトナク、教會却テ數百年間國家ヲ使役シ、其力ヲ假リテ、以テ一個人ノ信神心ヲ擅制シタリキ、但シ後世ニ至リ、教會國家兩ツナカラ此ノ如キ處分ノ甚ク、基督敎ノ本旨ニ背戻セルヲ自

悟スルヲ得タリシハ、蓋シ全ク數回ノ大事件、及ヒ大戦争ヲ經過シタルニ由ルナリ。是故ニ國家敢テ其權柄ヲ神道ノ旨意ニ施シテ、決シテ許ス可ラサルコトナリ、但シ斯云フノミニテハ、未ク國家ト教會トノ關係ヲ明カニ論定スルニ足ラス、之ヲ論定セント欲セハ、必左ノ二問ニ對應セサル可ラス。

(第一)國家ノ權ト一個人ノ信神心トノ關係如何、第二國家ノ權ト、神道ノ爲ニ結ヘル會社(教會)及ヒ政黨(セクト)ノ存在、及ヒ行爲トノ關係如何。

第二款

第一 一個人神道ヲ信仰スル自由權ヲ保護スルコト、デル、シエツ、デル、インゲヒツエル、レリギオンヌフライハイト、(按)神道トハ

天神ノ道ト云フ ○奉教ノ自由 ベケントニスフライハイト(按)人々は是ト

(第一)人ノ天神ヲ信スルノ心ハ、總テ其精神心意ニ係レル諸件ト同一理ニシテ、全ク人世ノ法ニ關セズ、及ヒ國家ノ管理ニ屬セサル者ナリ、蓋シ國家ハ其權力ヲ人ノ心思意見上ニ施行ス可キ者ニアラザルノ理ヲ知ルキハ、信神心ノ國權ニ屬ス可ラサルノ理モ、亦瞭然タル可シ、總テ國權及フ所ノ疆界ハ顯明ナル者ナリ、(按)國權決シテ人ノ精神内ニ及ハサルヲ云フ、)國家立ル所ノ法制ハ、形貌上ニ顯ハル、者ナリ、(按)國家ノ法制亦精神上ニ關セサルヲ云フ、)唯一個人其信神心ヲ外貌ニ發表スルキハ、則シ始テ人世ノ法ニ屬スル者トナルナリ、○是故ニ神道ヲ信仰スルノ自由、即チ天良是非ノ自由(按)第一款ニ出ツ)ハ、決シテ近今法學ノ開明ニ由テ始メテ生シタルニアラス、元來決シテ人世法ノ東縛ヲ受ク可キ者ニアサルナリ、何トナレハ此自由ノ權ハ、天神ノ直ニ人ノ靈魂ニ賦與スル所ナレハナリ、蓋シ冥々中ニ人ノ靈魂ヲ制馭シ、且之ヲ完全ニナス者ハ、獨リ天神ナリ、天神此事ヲ爲スカ爲ニ、自己ト人ノ靈魂トノ間ニ、冥々ノ通路ヲ開キタリ、○天神人ノ靈魂ニ天神ヲ信仰スルノ自由權ヲ賦與シ、終ニ此權ヲシテ幽冥ノ權ヲシメ、以テ國家ノ暴權ヲ脱セシメタレハ、此權ハ決シテ現世ノ國ニ屬スル者ニアラス、必、永遠不滅ノ天國ニ屬シテ、全ク天神ノ制馭ヲ受クル者ナリ、是故ニ國家ハ、敬神ノ道ニ於テ、此自由ヲ認許シ、且之ヲシテ、安全ナラシムルノ義務ヲ負擔セサル可ラス、凡シ國家ハ此自由權上ニ就テ、此義務ノ外決シテ他ノ權力ヲ用フ可ラサルノ理ヲ知ラサル可ラス。

(第二)是故ニ一個人信仰ノ自由ハ、全ク靈魂ニ屬スル者ニシテ、決シテ國家ノ法制ニ出ル者ニアラスト雖也、彼、奉教ノ自由(按)人々自ラ是トスル所ノ教派ニ歸依スルノ自由ナリ、)ノ如キハ、既ニ外貌ニ顯ハル、コナルカ故ニ、自ラ人世ノ法ニ屬セサル能ハス、而シテ此自由權ハ殊ニ信仰ノ自由ヨリ生シ來ル者ナルヲ以テ、國家此自由權ヲモ、亦必ス信仰ノ自由ノ如ク容易ニ認許スルヲ要ス、彼ノ一人々自ラ是トスル教旨ヲ自由ニ道ヒ出スハ、即其人ノ權利ナリ、何者、此事亦人ノ義務ナレハナリト云ヘル語ハ、按)瑞士人、一千七百九十九年、カ熱心ニ演述セル者ニシテ、決シテ

之ヲ抗抵スル所ノ論說アルコトナシ。○去レテ奉教ノコトハ、即チ外貌ニ顯ハル、コトナルヲ以テ、必ス國家ノ法制ヲ以テ或ハ之ヲ保護シ、或ハ之ヲ限制セサル可ラス。是故ニ此事ノ自由元來無限ナレド、亦法制ノ爲ニ保護限制セラル、ニ至リテ、遂ニ法制ノ區域ニ屬スル者トナルナリ。
〔第三〕國家總令ヒ人々自ラ是トスル教派ヲ奉スルノ自由ヲ保護スルコトアラサルモ、人々信仰ノ自由ニ於テハ、決シテ妨ケナキコト明カナリト雖モ、其信仰チ外貌ニ表シ、言辭ニ發スルヲ得サルノ害アルカ故ニ、必ス國家ノ權ヲ以テ、之ヲ保護スルコト甚ク必要トナルナリ。是故ニ國家ハ宜シク意ヲ用ヒテ、人々自ラ是トスル教派ヲ奉スル自由權ノ妨害トナル者ヲ、悉皆驅除セサル可ラス。其方法即チ左ノ數件ニ舉ルカ如シ。

〔甲〕國家ハ一個人ニ強迫シテ、其信セサル教派ニ從ハシムルノ權ナシ、然ルニ中古基督教漸ク蔓延スルノ時ニ於テハ、未ダ曾テ此理ヲ知ラザリシカ故ニ、頻リニ火及ヒ劍ヲ用ヒテ此神教ヲ傳播スルコトヲ務メ、〔按〕中古ノ世ニ於テハ基督教ヲ傳播スルノ方法、甚ク暴戾慘刻ニシテ、強ヒテ此教ニ從ハシムルヲ常トセリ。若シ服從セサル者アルハ、直ニ兵ヲ用ヒ火ヲ放チ之ニ逼故ニ火及ヒ劍ヲ用ヒテ云々ト云フナリ。而シテ勝者ハ、必ス敗者ヲシテ、己レカ信スル所ノ教ニ服從セシメヨリ、是故ニ其始ハ敗者決シテ基督教ニ心服セス、唯之ヲ口ニ誦スルノミナリシカモ、其後ニ至リテハ勝者敢テ暴力ヲ用ヒス、實ニ神道ノ真理ヲ論シ、敗者ヲシテ之ニ心服セメント欲シ、力ヲ盡セシニ由リ、遂ニ十分其功ヲ奏スルニ至レリ。去レテ此ノ如ク強迫シテ神道ヲ傳播スルカ如キハ、全ク基督教ノ本意ニ背キ、〔基督ハ外面ノ權力ヲ用フルコトハ、總テ之ヲナサ、ルノミナラス、其徒弟ニ至リマテ、之ヲ禁シテ爲サシメザリキ〕且ツ國家眞誠ノ法ト全ク相戾ル者ナリ。是ヲ以テ今時ハ一般ニ真正ノ原則ヲ認用スルコト、ナレリ。○
○普魯士ノ憲法ニ云、〔國內ノ住民ハ各信仰ノ自由、及天良是非ノ自由權ヲ十分ニ有ラス可シ、國家敢テ憲法ヲ以テ之ヲ障礙スルヲ得ス、凡ソ何人ニ論ナク神道ニ就テ私ニ自己ノ所見ヲ述ルハ、必ス國

家ノ規律ニ違フヲ要セス〕又同國ノ國憲第十二章ニ云、〔奉教ノ自由、神道ニ就テ會社ヲ結フノ自由、及ヒ尋常家内ニ就テ禮拜ヲ爲スノ自由、公然ニ禮拜ヲ爲スノ自由等、悉皆國家之ヲ保護ス可シ、凡ソ民人タルノ權利及ヒ公民タルノ權利、〔按〕民人タルノ權利トハ、國家ノ一民タルノ權利ヲ云フ、權利ヲ得ルト否サルトハ、其人奉スル所ノ教派ニ關係スルコトナシト。○佛國一千八百十四年一文化十一年〕ノカルテ〔按〕國憲ノ條款〕ニ云、〔各人皆同ク自己ノ教派ヲ奉スルノ自由權ヲ有シ、且ツ其敬神ノコトニ於テ皆同一ノ保護ヲ受ク可シト。○然ルニ歐洲南方ノ羅馬人種各國ニ於テハ、今仍ホ全ク此自由ヲ與フルニ至ラスシテ、大ニニ限制スル所アリ、例ヘハ葡萄牙一千八百廿六年〔文政九年〕ノ國憲第六章ニ云、獨羅馬加特力教ハ終始前國ノ大教タル可シ、其他ノ教派ハ唯外國人其家内ノ禮拜ニ於テ奉スルヲ許ス、但シ決シテ公然タル標牌及ヒ殿堂ヲ建ルヲ許サズ、ト
○瑞士台邦ニ於テハ、一千八百四十八年嘉永元年ノ國憲ニテ仍ホ奉教ノ自由ヲ全ク許可セザリシハ、世ノ普ク知ル所ナリ、即チ其六十六章ニ云、〔既ニ認許セラレタル基督教派ニ從テ禮拜ヲ爲スノ自由ハ、合邦中悉ク之ヲ保護ス可シト〕、然ルニ其二三邦ニ於テハ、既ニ其邦憲中ニ決シテ教派ヲ論セス、十分ニ認許スルノ法ヲ立テタリ、

國家ハ臣民ヲシテ、必ス某ノ一教ヲ奉スヘキ旨ヲ指令スルノ權、並ニ必ス禮拜堂ニ詣リテ禮拜ヲ行ヒ、或ハ罪科ヲ懺悔スヘキ旨ヲ指令スルノ權、決シテ有ルコトナシ。去レテ此自由權ハ、唯此自由權ヲ有スルニ堪フヘキ成人以上ノ者ニ與フルノミ、是故ニ神道ヲ以テ幼童ヲ教育スルコトニ至リテハ、獨、此理ノミヲ以テ推論ス可ラス。總テ人ノ父母タル者ハ、通例其子ニ代リテ其奉教ノ自由權ヲ有ス可シ、去レテ父母若シ其子ノ教育ニ注意セス、或ハ其教育ノ方法甚ク不長ナルハ、於テハ、時宜ニ因リ國家幼童ノ看護ニ心ヲ用ヒテ、父母ノ教ヘサル子ヲシテ、神道ノ教育ヲ受ケシムルコト

ル可シ、一

○所謂強洗ハシメテ、基督教ニ入ラシムルヲ云、其子ヲ基督教ニ歸依セシムルノ心ナケレハ、國家其子ヲシテ強ヒテ此教ニ歸依セシムル固

リ當然ナリ、一按方今歐洲ニ猶太人ノ子孫多ク雜居スト雖、然ルニ父ハ既ニ基督教ニ入ト雖、

甚々懶惰ニシテ其子ニ洗禮ヲ行ハシメス、且絶エテ神道ノ教育ヲウケシメサルキニ於テハ、國家必

ズ之ヲ看護ノ強ヒテ教育ヲ受ケシメ、以テ其子ノ眞ノ自由權ヲ保護スルヲ要ス、○奧地利一千八

百六十八年三月廿五日ノ憲法ニ、父母タル者ハ、其子ヲシテ教育ヲ受ケシムヘキ旨ヲ記載シ、且

此義務ヲ以テ、兼テ權利ト爲スヘキ旨ヲ規定セリ、

〔乙〕教會ナル者、人々ニ奉教或ハ敬神ヲ勸誘スルニ就テ、暴ニ其權力ヲ施行セント欲スルコトアレ

ハ、國家必之ヲ制止スルノ權アリ、但教會自ラ奉教ノ制ヲ確定シ、及ヒ靈魂精神ニ屬セル諸方法ニ

由テ、神道ノ益、隆盛ナラントシテ、權ヲ有スルハ、固ヨリ當然トス、是ヲ以テ教會懲戒法(キ

ルヘンツァト)按、教士及門徒ヲ戒スルノ法ヲ云フ、)ヲ施行スルノ權ハ、必ス教會ノ掌中ニ在ル

ヘキコ固ヨリ當然ナリ、故ニ一箇人若シ、其教派ヲ信セサルニ方リ、教會之ヲ其徒中ヨリ逐フコトアリ

然リト雖、教會甚々狭小ナル胆量ヲ以テ、此ノ如キ處分ヲ爲スルハ、却テ自己ヲ害スルニ至ル可シ、

凡諸教派ノ如キハ、皆時勢進歩ノ度ニ應スル者ニシ、一ツコト不易ノ教派ト稱スヘキ者アルコトナ

シ、是故ニニ時勢進歩ノ度ニ應シテ、上進開明セル教旨教制モ、亦必認許セサル可ラス、(按)時勢ニ

應セル教旨教制起ルコトアレハ、決シテ之ヲ妨ケスシテ許スヲ要スト云フノ意、)波羅特士且教派ノ

如キハ、殊ニ時勢相應ノ教旨ヲ主妥トスル者ナリ、○教會若シ、其權ヲ恣ニシテ、國憲ヲ凌キ民權ヲ傷

ヒ、及ヒ騷亂ヲ起ス等ノコトアルハ、國家其權力ヲ以テ、此暴權ヲ拒防スヘキコ固ヨリ正理ノ當然

ナリ、

〔丙〕ビツァンツ國(按)東羅馬 及ヒ中古ノ各國ニ於テハ、基督教ニ歸依セシメテ異端ヲ信スル者ハ

必ス大罪人トナセリ、故ニ異端ヲ信スルコト甚々シキ者ハ、畜ニ之ヲ其門徒中ヨリ逐フノモ、止マラ

ス、尙ホ其所有ヲ沒收スルノ法アリキ、○然ルニ教皇(パプスト)ノ威權最モ盛大ニ至リシ以來ハ

基督教ヲ奉セシメテ異端ヲ信スル徒ヲ刑スルコト甚々慘刻ヲ極メ、通例ハ火刑ヲ以テ之ヲ教スコト

ナセリ、是故ニ一箇人自ラ眞確ナリトシテ信奉スル所ノ教旨、若シ公衆一般ニ奉スル所ノ教旨ニ背

戻スルハ實ニ重罪人トナルニ至レリ、而シテ此罪ヲ免カル、ヲ得ル者ハ、獨リ己レカ眞確ナリトセ

ル教旨ニ從ハス、自ラ欺イテ偏ニ世間ニ媚從スル者ノミナリキ、○教會改正(レホルマツオン)按、一

テ爾ツキソングリ及ヒカルヒン等ノ諸英傑、教皇ノ處分大ニ基督教ノ教旨ニ背キ、慘刻暴虐ノ事多キヲ

愛ヒ之ニ抗抵シテ波羅特士且教派ヲ創開シ、以テノ首魁等(按)即チルテハツソングリ、ハ久シク湮

滅シタル天良是非ノ自由ヲ更ニ興復シテ、各ハチシテ自ラ眞確ナリトスル所ノ教旨ニ、自由ニ、信

從セシメンカ爲、ニ、力ヲ極メテ加特力教ノ暴權ニ抗抵シ、以テ波羅特士且ノ一新派ヲ開キシ者ナ

レト、其後此一新派ノ普ク行ハル、各國ニ於テスラ、猶ホ天良是非ノ自由ノ理ヲ失誤シテ、更ニ之

ヲ屈害スルニ至レリ、○エスーハートレン(按)獨乙ハ講和(按)所謂三十年間ノ戰ニテ、加特力及ヒ波

羅特士且ノ兩派ヲ同一ニ認許スヘキノ和約始、テ立チシカハ、其後ニ至リテモ、猶ホ此兩派ノ外ニ

他教ノ獨乙國ニ入ルコトハ、總テ之ヲ禁シタリ、○路易第十四(佛國王、一千六百三十八年ニ生レ、四

ハ、頗學問詩文ノ進歩ニ力ヲ盡セシ君ニシテ、且文明開化ノ佛國ニ王カリシカハ、猶嚴刻ノ處分

ヲ以テ、波羅特士且教ヲ驅逐セリ、又自由權ノ最盛ナル英國ニ於テスラ、加特力ノ門徒ハ悉ク民

權ヲ奪フテ、賤奴(スカラーフ)トナスニ至レリ、彼、一千六百八十九年(元祿二年)ノ容忍令(ツルツ
ングスアリテ(按)異教ヲモ拒防セス、共ニ之ヲ容忍シテ許可スルヲ云フ)ニ於テ、波羅特士且ノ教
旨ヲ信セサル者ト雖モ、之ヲ背教ノ罪ニ處セサルコトナセシハ、畢竟開明進歩ノ致ス所ト云フ可シ、
去レテ加特力教ヲ奉スルヲ許スコトハ未タアラサリキ、

奉教ノ自由ヲ與フルヲ以テ、始テ國家ノ要則トナセシハ、實ニ北亞米利加ノ功ト云フ可シ、カル
ヒン教派(按)カルヒンカ加特力教ニ抗拒シテ創立セシ教派ヲ云、カルヒンハ、一
千五百零九年佛國ノノモンニ生レ、其六十四年瑞士國ノケンラニ死ス、ノ教士ニシテ、敬
神ノ心最モ深厚ナルロゲル、キルリアムス一千六百三十六年(寛永十
三年)英ノ一藩屬地アロヒテシツ

ニ於テ、自今奉教ノコトニ就テ、決シテ強威ヲ施スコアル可ラサル旨ヲ布令セリ、然ルニ其他ノ諸藩
屬地ニ於テハ、當時各教派相惡ムコト敵讐ノ如クナリシカ故ニ、大イニロゲル、キルリアムスカ意表
ノ法令ニ驚愕セリ、去レテ英國王ハ能ク此法令ノ善惡可否ヲ思老シテ、遂ニ一千六百四十八年(慶
安元年)ニ、之ヲ採用シテ眞實ノ法令トナセリ、○加特力教派ノロルド(按)簡名)ハールチモール
ハ、一千六百四十九年(慶安二年)ニ於テキルリアムスノ處置ニ傲ヒ、メリノンド(按)亞米利加ノ
英ノ藩屬地タリ、即今ハニ法令ヲ布キ、人々基督教ヲ奉スレハ可ナリ、決シテ其門派ヲ論ス可ラス
合衆國ノ一邦ナリ、ニ法令ヲ布キ、人々基督教ヲ奉スレハ可ナリ、決シテ其門派ヲ論ス可ラス
ト云ヘリ、又クエッケル派(按)ハックスノ創立
チ奉シタルキルリアム、メンハ、一千六百八十二年
天和二年)ニ於テペンシルハニ(按)亞米利加ノ地ナリ、當時英ノ藩屬
ニ法令ヲ布キ、人々宜シ

ク天地萬物ノ造化主ニシテ、且、大昔ナル惟一神ヲ信スレハ、則、可ナリト云ヘリ、
此ノ如キ自由ノ理、更ニ廣博ナル區域ヲ得ルニ至ル迄ハ、猶、一百餘年ノ星霜ヲ經タリ、○一千七
百四十年(元安五年)以來ハ、性理ノ學漸、開明シシカハ、世界更ニ一新ノ機ニ邁テ、次第ニ中古
ノ東縛羈絆ヲ脱シ、遂ニ遠ク進歩スルヲ得ルニ至レリ、昔魯士王ワリドレヒ、アル、ゴローセハ
、此ノ如キ自由ノ理ヲ世ニ告諭シ、及ヒ之ヲ施行セシ嚆矢ナリキ、此王カ「吾カ普魯士國ニ於テハ、
各人背自己ノ式樣ニ由テ、靈魂ノ幸福ヲ得可シ、(按)各人自ラ是トスル所ノ道ニ由テ神ヲ敬スレ
東縛セラハ、ヲ要
セスト云フノ意」ト云ヒシハ、眞ニ確言ト云フ可シ、凡、此時代ヨリ此自由ノ理、漸、進歩ノ路ヲ得
ルコトナレリ、去レテ其間史ニ障礙ナキニハアラサリキ、○國家當テ神道ニ關シテ他教派ヲ制
禁セシハ、實ニ暴虐ノ處分ナリシヲ自悟シ、且、國家ハ元來各人ノ爲ニ、奉教ノ自由ヲ保護スルノ
義務ヲ負擔スルコト、當然ナルノ理ヲモ自悟スルニ至レリ、是故ニ爾後ハ人ノ或、神道ヲ疑フハ、即チ
其靈魂ノ健全ヲ失フ者ナリトナシ、而シテ決シテ之ヲ自シテ、罪犯トナヌカ如キコトナキニ至レド、
〔丁〕一教會ヲ離去シテ、他ノ一教會ニ歸スルカ如キハ、固ヨリ各人ノ自由ノ權ニ任
ス可シ、國家敢テ其權ヲ以テ之ヲ制スルコト許サス、却テ國家ハ各人ノ爲ニ、天良是非ノ自由ヲ保護
シテ、其離去歸就チ自由ナラシム可シ、是、即チ天良是非ノ自由ノ理ヨリ山ル所ノ要務ナリ、
但シ今時ト雖モ、離去歸就ノ自由、未、全ク行ハレト云フ可シ、何者、國家ノ憲法ハ方今實ニ此自
由ヲ保護スルニ足ルト雖モ、唯一般ノ輿論仍、此自由ヲ妨害ムレハナリ、蓋、輿論動モスレハ、各人ノ
離去歸就チ嫌忌シテ、遂ニ其自由ヲ障礙スルニ至ル、蓋、國家ノ憲法遠ク民情ニ先行スルノ證ナリ
○例、ハ一人他教ニ歸就スル者アルニ方リ、甲ハ之ヲ嘉賞シ、乙ハ之ヲ憎惡シ、甲ハ此歸就者ノ大功
ヲ希望シ、乙ハ此歸就者ヲ以テ、輕薄無恥ノ徒トナシ、其所行ヲ以テ私利ヲ營ミ、私欲ヲ縱マニスル
ノ處置ト爲スカ如シ、是時ニ方リ、實ニ不偏不黨ノ心ヲ以テ、此歸就者ノ所行ヲ批評判定スル者ハ
、僅ニ數人ニ過キサルニ、○但シ一般ノ輿論更ニ其歩ヲ進メテ、不偏不黨ナル憲法ノ地位ニ著ス

ルノ時至ラハ、隨テ眞確ノコト自増益スヘク、且ツ輕薄無恥ノ徒、唯私利私欲ノ爲ニ他教ニ歸就スルカ如キ惡行モ、亦自ラ減少スルニ至ルヘシ、一般ノ輿論此ノ如ク進歩シテ各人ノ自ラ是トナセル教派ニ歸就スルヲ平心ニ許シ、決シテ之ヲ常規ニ反シ、輿論ニ背キタル所行ト視做スカ如キコトナキニ至ラハ、必ズ離去歸就ノコトヲ以テ、或ハ功勞ト爲シ、或ハ惡行ト爲スヲ得可ラサルナリ、○凡ソ教道教派ノ數、枚舉スルニ違アラスト雖モ、之ヲ通觀スレハ、畢竟其本旨一ニシテ、其權利モ亦一ノミ、然ルニ人ノ天性ヲ察スルニ、衆人略相同シト雖モ、之ヲ細別スレハ、則チ人々些少ノ差異アルヲ見ル可シ、是ニ於テ元來教ヲ同シウシ志ヲ共ニスル伴侶ニテモ、其人眞衆多ナルキハ、其中ノ數人、自ラ他ノ數千萬人ト異ナル意見ヲ生スル無キヲ得ス、數人ノ意見果シテ他ノ數千萬人ト異ナルニ至ルキハ、此事遂ニ他ノ數千萬人ノ害トナラサルヲ得サルノ理ナリ、去レハ僅々數人偶々異ナル意見ヲ主張シテ、此教派ヲ離去シ他ノ教派ニ歸就スルコトアリ、未タ曾テ此教派ノ盛衰存亡ニ關スルニ足ラス、若シ實ニ數千萬人ノ悉皆一時ニ他ノ教派ニ歸就シテ、其勢ヒ宛モ水ノ卑キニ就クカ如クナルキハ、始メテ此教派ノ情勢ヲ變スルニ至ルヘシ、是故ニ教會タル者僅々數人ノ離去歸就チ或ハ希望シ、或ハ憂慮スルカ如キハ、決シテ堪アリト云フ可ラス、

教會タル者、離去歸就セシ者ノ權利ヲ減少スルノ方法數種アリ、之ヲ民權ノ侵害(ビュルゲルリヘル、ナーフタイル)ト云フ、甚タ不正不善ナルコトナリ、必ズ嚴罰ヲ以テ之ヲ防制セサル可ラス、例ヘハ本人自ラ居地ヲ撰フノ自由ヲ限制シ、或ハ其產業ヲ營ムノ自由ヲ限制スル等ノ如シ、若シ教派ノ異ナルニ從テ、或ハ民權ヲ異ニシ、或ハ其教派ニハ民權ヲ限制スル等、公然タル國法アルキハ、此教派ヲ離去シ、彼ノ教派ニ歸就セル者、此派ニテ受得タル權利ヲ決シテ仍ホ保有スルヲ得ス、必ズ唯彼ノ教派ニ准許セラレタル權利ノミヲ受ケ得ヘキコト、固ヨリ當然ナリ、○例ヘハ猶太人種ハ猶太教ヲ奉スルニ因テ、其權利ヲ限制セラル、ト雖モ、若シ基督教ニ歸就スルキハ、必ズ此限制ヲ免カルヘシ、但シ從來基督教ヲ奉スル者、若シ又之ヲ離去シテ猶太教ニ歸就スルコトアレハ、必ズ唯猶太教ニ准許セラレタル權利ノミヲ得可シ、加特力教ヲ奉スル夫婦、及ヒ加特力教ノ教士、若シ波羅特士且教ニ歸就スルキハ、則チ波羅特士且教派ニ准許セラレタル婚姻法及ヒ離婚法ニ從フヘキ者トナルハ、(但シ教派ニ從テ、此法ノ差異ヲ立ルノ規律アル間ノミ、此ノ如クナルヘシ)又波羅特士且教派ヲ奉スル夫婦若シ加特力教ニ歸就スルキハ、必ズ相離婚スル能ハサル者トナルナリ、(按)加特力派ハ離婚ヲ許サ、ルチ通則ト爲ス、○然ルニ儘專ラ此ノ如キ變化(按)歸就ヨリ、權利及ヒ法ニ於テ變化ノ生スルチ云フ)ヲ、目的トシテ、歸就チ企ツル者ナキニアラス、此ガ全ク不正不善ノ心思ヨリ生スル者ニシテ、蓋シ精神ニ係レル自由權ノ通弊ナリ、去レハ此通弊ヲ矯正セシカ爲ニ、全ク歸就チ禁スルカ如キハ、甚ダ精神ノ自由權ヲ限制スル者ト云フ可シ、若シ政府歸就チ許スカ爲ニ、縱令ヒ公然嘲笑ヲ受ルコトアリ、決シテ心ニ關ス可ラス、

(戊)各人其家内ニ於テ、敬神禮拜ヲ爲スノ自由權ヲ保護シテ、衆民等カ此自由ヲ妨害スルチ制止スルハ、即チ國家ノ義務ナリ、而シテ此義務ハ實ニ天良是非ノ自由ノ理ニ基ツク所ナルカ故ニ、決シテ、之ヲ以テ國家好テ、施ス所ノ仁惠ト視做ス可ラス、但シ天良是非ノ自由ノ理ヨリ生スル所ハ唯家眷相共ニ家内ニ於テ、家法ニ從ヒ、禮拜ヲ行フノ自由權ノミ、(但シ管ニ一家ノ父子夫婦等ノミナラス、親友及ヒ婢僕等モ亦相共ニシテ可ナリ)若シ管ニ一家眷ノミナラス、衆人相合シテ、奉教ノ爲メニ會社ヲ結フキハ、國家之ヲ私人一家ノ事ト同視ス可ラス、必ズ公衆一般ニ係レル事ト視做シテ、宜シク之ヲ適切ナル規律ヲ選用ス可シ、

又一個人外國ニ於テ、自己ノ教派ト同一ナル教派ノ禮拜公社ニ加入スルノ自由ニ就テモ、亦宜シク此規律ヲ用フ可シ、(按)公衆一般ニ係レル事ノ規律ヲ用ツルチ云フ、

第三款 法ヲ以テ奉教自由ノ權ヲ限制スルコト、(按)レヒトリヘン、シユラメゲン、デ

(第一)人或ハ謂フ、奉教ノ自由ヲ許スハ、獨神(按)惟一眞神ニ限ルニアラス)ヲ認メテ、之ヲ畏敬信仰スル諸教門中ニ於テスルノミ、苟ヤアタイスムス(按)神ヲ疑テ畏敬セサル異端ノ義)ヲ奉

スルカ如キハ、必ス踏ス所ニアラスト、去レ神ヲ畏敬信仰スル教門ト、實ニ天地萬物ヲ造化セル神ナル者ハ、決シテ之レアラスト爲セル教門トテ全ク分別シテ、其許スヘキト否トヲ判決スルハ、甚ダ不可ナリ。蓋シ其分齒ス可キ境界殆ト判然タラサルヲ以テ、之ヲ分別スルコト殊ニ容易ナラサレハナリ、○試ミニパンタイスムスル者アラサル旨ヲ主張スル學派ナリ、（按）天地萬物即チ神ニシテ、此外更ニ神ナヘキニヤ、ト云フ 獸脚木

等チ神トシテ、及ヒ今時ノ大教ナル基督教ヲ視テ、此諸教各畏敬信仰スル所ノ神アリト雖モ、或ハ大ニ拜スル教門、神德ヲ畏敬セサルコトモ亦絶テナキニアラス、然ルモアタイスムス（前ニ出ツ）ノ如キハ、人之チ實ニ神ヲ疑フ異端ナリト稱スト雖モ、是レ全ク非理ノ言ト云フ可シ、蓋シ此教門ト雖モ亦自ラ造化ノ能力ヲ認ムル所アリ、果シテ造化ノ能力ヲ認ムル者ナレハ、豈全ク神ノ賞罰ヲ知ラサル者ト云テ可ナランヤ、○但シ以上論スル所ノ當否如何ニ拘ハラス、彼ノ「靈魂ヲ制驭スル者ハ、現世ノ國家ニアラス、獨リ天神ナリ」ト云ヘル理、既ニ瞭然疑フ所ナキニ至ラハ、常ニ光テ避ケ暗ニ就カント欲スル靈魂（按）靈魂ハ專ラ現世ノ顯界ニ屬セスシテ、永遠ニ離合ヒ洋溺スルコトアルモ、國家敢テ之ヲ罰スルノ權ノ階界ニ屬スル者ナルカ故ニ斯ク云フナリ、 縱令ヒ洋溺スルコトアルモ、國家敢テ之ヲ罰スルノ權ナキコト論テ俟ツス、且ツ靈魂ノ大ニ「迷溺」ヲ生スルコトアルハ、是レ或ハ其進シテ明覺ノ地位ニ達スルノ階梯ト云フ可キノミ、凡ソ各人自ラ眞確ナリトスル所ニ必ク背ク可ラス、是故ニ神ヲ信仰スル者ハ勿論、縱令ヒ之ヲ疑フキト雖モ、敢テ自ラ欺イテ其眞確ナリトスル所ニ背ク可ラス、（按）人若シテ疑フノ心アレハ、必ス此心ヲ公然ト發露シテ可ナリ、決シテ輿論ニ媚從シテ、陽ニ信神ノ人トナル可ラス、若シ陽ニ信神ノ人トナルモ、自ラ欺キ又人ヲ欺クノ小人ナリト云フノ意、猶再考スルベシ、

〔第二〕是故ニ各人皆自ラ是トスル所ノ教ヲ主張スルノ權ヲ有スト雖モ、教旨ヲ道ヒ出スニ於テ、或ハ國家ノ認許セル教會制度（按）自ラ信ヤサル教會ノ制度ナリ）ヲ排斥シ、或ハ其存在ヲ妨害スルカ如キハ、決シテ許ス所ニアラス、蓋シ一個人ノ權利ハ、他ノ權利及ヒ公衆一般ノ權利ノ爲メニ限制セラル、一固ヨリ當然ナリ、是ニ於テ國家ハ必ス二個ノ義務ヲ相合シテ、之ヲ恪守セサル可ラス、二個ノ義務ヲ相合ストハ何ソヤ、即チ一個人奉教自由ノ權ヲ保護スルト、及ヒ教會并ニ其權利ヲ保護シテ、共ニ安全ヲ得セシムルヲ云フナリ、○例ヘハ猶太人ハ基督ヲ以テ、實ニ天神ヨリ差遣セル救世主ト爲サスト雖モ、國家敢テ之ヲ罪スルヲ得ス、スケアケル（按）蓋シ先ツ疑ヲ生シ、而後ニ其理ヲ探討考窮スルヲ貴ク學派ナリ、 縱令ヒ吏傳ノ啓示言ヒストリシニオツヘンバ、（按）約書ノ吏傳ニ、 疑フト雖モ、國家敢テ之ヲ罪スルヲ得ス又パンタイスムス（前ニ出ツ）ノ學者ハ、人ヲ以テ天神ノ造化セル所ト爲サス、却テ天神ノ現出セル者トナスト雖モ、國家敢テ之ヲ罪スルヲ得サルナリ、○但基督教ノ行ハル、國ニ於テ、若シ猶太人公然ト基督ヲ罵辱シ、或ハスケアケル基督ノ祭日ニ於テ啓示言ヲ罵辱シ、以テ公然欺詐詭譎ヨリ出ル者トナシ、暗愚昏迷ニ屬スル者ト爲シテ、其門徒ノ信神心ヲ損害シ、又ハパンタイスムスノ學者、教會ノ天神造化ヲ誹シノ故ヲ以テ、教士ヲ罵辱シテ、或ハ暗愚人ヲ以テ目シ、或ハ妄語人ヲ以テ目スル等ノ如キハ、即チ一個人公然教會ノ權利ヲ屈害スル者ト云フ可シ、故ニ此時ニ於テハ、國家其權ヲ以テ此屈害ノ所行ヲ罰スルヲ當然トス、

但シ教旨ヲ辨駁誹謗スルノ諸方法中ニ於テ、許スヘキ者ト罰スヘキ者トノ分界ヲ立ルコト、儘容易ナラサルコトアレハ、凡、教旨ヲ妨害シ、又ハ教會ノ權利及其體面ヲ毀損スル等ノコトハ、必、外面ノ確證アラサルハナシ、故ニ是時ニ方リテハ、國家ハ必ク司法ノ大權ヲ以テ之ヲ罰シテ能ク教會ヲ保護スルノ義務ニ適スヘシ、其他若シ辨駁誹謗ノ宜シク許スヘキ者ナルヤ、將之ヲ罰スヘキ者ナルヤ、甚、分別シ難キト雖モ、大抵審理ヲ施スニ方リテ、辨駁誹謗ノ情勢ヲ探索スレハ、其分別日ラ容易

ナルヲ得可シ、○書籍上ニ於テ、教旨ノ是非善惡ヲ辨論スルコトアリ也。敢テ教會ノ體面ヲ毀損スルヲ主旨トセス、或ハ少シク教會ヲ誹謗スルノ語アルモ、其語辨論ニ就テ甚ク緊要ナルキノ如キハ國家敢テ之ヲ罪スルノ權ナシ、但シ辨論ノ意專ラ條理ヲ主トセス、故ラニ教會ノ體面ヲ毀損スルヲ旨トスルキハ國家必ス之ヲ罪セサル可ラス。

〔第三〕奉教宜シシ其人ノ自由ナルヘキコト、既ニ論說セシカ如シト雖モ、若シ公衆ノ安寧ヲ損害スルノ處置ヲ施ス者アルキハ、必ス之ヲ許可セサル可シ、且ツ其情勢ニ由リテハ、或ハ之ヲ罰セサル可ラズ、國家ハ、必ス先ツ公衆ノ安寧ヲ保護ノ損害ヲ受ケサラシムルヲ以テ其主務トナシ、一個人ノ自由權ヲ決シテ公衆ノ安寧ヲ妨害スルニ至サラシム可シ、國家若シ此權力ヲ施用セサルコトアルハ、則チ自テ主務ヲ放棄スト云フ可シ、○但シ事ノ公衆安寧ニ害アルト否トチ決定スルノ權力及ヒ權利ハ即チ國家ノ掌中ニ在リテ、固ヨリ一個人ノ掌中ニアラス、縱令ヒアタイスムスノ性理學士其辨論ヲ以テ、天神ノ能力ヲ非ナリト爲スコアリ也、國家之ヲ許シテ保護スヘキコト當然ナリ、去レヒ、此學士若シ此ノ如キ論ヲ以テ、衆民ヲ聚集煽動スルカ如キハ、國家敢テ之ヲ許ス可ラス、又宣教者(ブレシゲル)及ヒ新聞述作者(モウリナリスト)等、道義ノ原理(國家ノ法範モ亦由テ出ル所ノ原理)ヲ公然誹謗シテ、衆民ノ心志ヲ迷亂シ、以テ其暴惡ナル情欲ヲ發動セシムルキノ如キハ、國家敢テ之ヲ許ス可ラス、

第四款

第二 國教 (按) 國家

太古ヨリ近世ニ至迄、人皆神道ヲ以テ、管國家法制ノ爲メニ最要ノ基礎タル者ト爲スノミナラズ、國家ハ決シテ神道ヲ離ル、能ハサル者ト爲セリ、故ニ羅馬國太古偶像教ハイデンツーム(按)眞神教ヲ云、即チ猶太教基督教及ヒ馬哈賦教ヲ除クノ外ハ皆、信セスシテ、偶像ヲ拜スル偶像教ト稱ス、馬哈賦教一ニ固ク教ト云フ者はレナリ、チ奉シタル時ニ方リ緊要ノ政務ハ必ス先ツ神意ヲ窺ヒ、其准許ヲ願フノ後ニアラサレハ、決シテ之ヲ施行スルコトアラサリキ、○且ツ後世歐羅巴

ニ於テモ、國家必ス自ラ基督教ヲ奉セサル可ラスト規定スルノ理ハ、宛モ歐洲ノ仇敵ナル馬哈賦國ムハメダニセル、スタート(按)馬哈賦教ヲ奉スル各ニ於テ、必ス馬哈賦ノ神道ヲ奉セサル可ラサル國チ云、即チ土耳其及ヒ其近隣ノ各國チ指スナリ、ニ於テ、必ス馬哈賦ノ神道ヲ奉セサル可ラサルノ理ト全ク相同シカル可シト云フノ論頻リニ憂延セシカ、之ヲ非トスル者ハ絶エテアラサリキ、然ルニ近世始メテ、政教ノ一致ヲ全ク破壊セント欲スルノ論起リテヨリ、國家ハ敢テ自ラ神道ヲ奉ス、神道ヲ勸ムルヲ要セスト云フノ論、盛ニ生スルニ至レリ、初、此論ヲ立テシ者ハ、大抵「自己ニ神道ヲ好マサル者ノミナリシカ、遂ニハ決シテ自己ノ好惡愛憎ヲ用ヒス、專ラ理ノ當否ニ由リ、奉教自由ノ名ヲ以テ、此論ヲ主張スル者漸ク増加スルニ至レリ、○此論ハ元來國家ノ活動(按)首卷第一款ヲ參考スヘシ)ニ關シテ、專ラ國家ノ法制ニ關スルニ非ス、故ニ其得失可否ヲ決定スルハ、專ラ國政(ポリチック)按)國政ト國法トノ別ハ、首卷第一款ニ出ツ)ノ處分ニ在ルヘキナリ、但シ國家或ハ偏ニ某一教ヲ以テ國教トナシ、或ハ偏ニ某一教ニ因テ國家ノ法制ヲ設立スル等ノコトアルキハ、政教一致ヲ破壞セント欲スル議論ノ得失可否ヲ決定スルコト、實ニ國政上ノミナラス、又國法上ニ關係スル固ヨリ論ヲ俟タス、

國教(スタートツレリギオン)ト國教會(スタートツキル)トハ、其旨全ク相殊ナリ、決シテ混同ス可ラス、國家ハ某一教ニ歸依シ及ヒ之ヲ信奉スルヲ得可シ、例ヘハ基督教ニ歸依シ之ヲ信奉スルカ如シ、去レヒ此一教内ニ於テ專ラ某一派某一教會ヲ國家ノ教派教會ト爲スハ固ヨリ不可ナリ、基督教ノ諸派各其教旨及ヒ其式禮ヲ異ニスル所アリト雖モ、是等ノコトハ、決シテ國家ノ利害ニ關スルコトラス、縱令ヒ國家ニ利害ヲ生スルコトアルモ甚ク僅々ノミ、○基督教分レテ數派トナルト雖モ、神道ノ眞確ナル原理ニ至リテハ、數派皆同一ナリ、決シテ彼此ノ派ヲ取捨スルヲ要セス、是故ニ國家ハ能ク基督教ヲ以テ自己ノ教道ト爲ス可シ、特ニ其末派ナル加特力若クハ波羅士旦ヲ取テ自己ノ教派教會ト爲スヲ得ス、

古時ハ各國必ス專ラ一教派ヲ信奉シ、之ヲ以テ國家ノ主派ト爲シタリシコト、歷史上ニ瞭然タリ、是故ニ基督教始メテ世ニ行ハル、ニ至リシ頃ニハ、或ハ加特力ノ國ト稱スル者アリ、或ハアリアニスムス〔按〕紀元四百年代ニ於テアリウスノ創立セシ、基督教ノ一派ナリ、此ノ國ト稱スル者アリ、又教派ニテハ、基督ヲ以テ天神ノ子ト爲サス、唯一個ノ人トナセリ、其後ニ至リテハ、或ハ希臘加特力派〔按〕ギリヒス、カトリシムノ國アリ、或ハ羅馬加特力派〔按〕ローマノ國アリ、或ハ加特力ノ一派ナリ、其後中古ノ時代ニハ、遂ニ各國皆專ラ信奉スル所ノ一教派アラレルナキニ至レリ、又教會改正〔前ニ出ツ〕ノ後ニ至リテモ、猶各國多クハ加特力派或ハ波羅特士且派ヲ主トナシ、而シテ專ラ其主トスル所ノ教派ニ信從シタリキ、○獨リ瑞士聯邦及ヒ獨乙帝國ニ於テハ、二派〔按〕加特力波羅特士且ノ二派ヲ云フ〕ヲ合併セント欲ムレドモ、此ハス、又二派ノ一ヲ主派トセント欲スレドモ、能ハサリシカ故ニ、遂ニ二派若クハ三派ト共ニ認許シテ、之ヲ同等ノ者トシ相並立セシムルコトナセリ、○去レドモ其例メハ己ムヲ得ルニ出シタル處ニナルヲ以テ、其制度甚ク完全ナテサリキ、然ルニ北亞米利州始メテ國ヲ建ツルニ及テ、國家一教派ヲ主トシテ、專ラ之ヲ信奉スルノ制度ヲ全ク取用セサルコト定メシヨリ、方今開明セル各國此制度ニ倣テ主派ヲ立ツルコト廢シタリ、○千七百九十一年〔寬政三年〕ノ憲法ニ於テ此法ヲ定メタリ、○按シ亞米利加國憲法ナリ、○方今開明セル各國斯ク主派ヲ立ルノ制ヲ廢セシカモ、未ダ曾テ主教ヲ廢シ信神ノ道ヲ廢スルニ至ラス、加之歐羅巴及亞米利加ニ於テハ、今猶必ス基督教ヲ以テ其開明ノ大基礎タル者トナシ、且ツ信神ノ道ヲ定メ道義ヲ勸ムル大活動力トナシ、大ニ之ヲ尊信ス、○獨リ自己ノ教旨ヲ固執シ、及ヒ自己ノ規制法則ヲ墨守スル基督教ノ如キハ專ラ主派ヲ立テサル國ノ爲メニ甚害アリト雖モ、實ニ活用ニ適セル基督教ノ如キハ決シテ否ラス、是故ニ基督教ヲ以テ國家ノ主教ト爲スハ可也、加特力又ハ

波羅特士且ヲ以テ、主派ト爲スカ如キハ、甚ク不可ナリ、必ス此二派ヲ同等ノ者トナスヲ緊要ト爲ス

○瑞士ニテハ一千五百二十九年〔享祿二年〕ニ於テ、諸派ヲ同等ノ者ト爲スノ制度ヲ立テ、又獨

乙帝國ニテハ甲利第五世在位〔按〕一千五百十九年ヨリノ時ニ於テ、諸派ヲ同等ノ者ト爲ス、

既ニ胚胎セシカモ、其制度ノ確定シタルハ、一千六百四十八年〔慶安元年〕ニストハールンノ議和ニ由レリ、

○ランゲノ著書ニ云、基督教ハ漸ク行ハル、ニ從テ、各國ノ富強隆盛ノ基礎ヲ開キシカモ、其門

派ヲ主張スル處分ノ如キハ、各國共ニ其國家ノ忠害ヲ生セサルハ無カリキト、

○獨乙人、一千六百三十二年〔佛人、一千七百十二年〕ニ生、一個ノ學派ヲ

アッヘンドルフニ生シ、其九十四年ニ死ス、及ヒルウサウレ、其七十八年ニ死ス、

創立セシヨリ以來ハ、國教ト云ヘル語ニ一種ノ新義ヲ生シタリ、○凡ソ國家ハ元來諸權利ヲ保護ス

ルカ爲メニ結ヒタル會社トシテ、基督教ト他教トノ差別ナシ、總テ保護ノ術ヲ盡スヘキ、○當然ナリ

故ニ其法制ニ於テ、天理神道ナツルリヘ、レリギオン、〔按〕惟一眞神ヲ畏敬スルハ猶太基督諸

專ラ天理人性ニ從テ神道ヲ説クヲ云フ、即チアッヘンドルフ及ヒルウサウ等〔按〕啓示言ヲ用フヲ以テ啓示言ヲ用フ

ガ始テ唱フ所ナリ、但シ此神道別ニ一種ノ教門トナリシニハアラス、

ル諸教ノ根本タルヘキ者トシテ、專ラ之ヲ取ルハ可ナリ、○按シ啓示言ヲ用フ、諸教ノ一ニ偏セス

取スルハ可ナリト、去レドモルウサウノ論ノ如ク、國家其憲法ヲ以テ、自ラ此天理神道ノ原則ヲ確定

スルヲ好シト爲スハ、大ナル謬見ナリ、國家若シ此ノ如キ處分アラハ、遂ニ自ラ忠害ヲ招クニ至ル必

然ナリ、國家縱令ヒ此ノ如キコトヲ爲スモ、畢竟衆民ヲ教化スルニ足ラス、且ツ教ト法トハ元來相合シ

難ク、又幽界ニ於テ天神ト人ノ靈魂ト相交關スルノ理モ、亦顯界ノ國家法制トハ全ク相合シ難キ

者ナルニ強ヒテ之ヲ相合併セシメント欲スルハ、謬見甚シキ者ト云フ可キノミ、○是故ニ國家基督教ニ偏セズ、專ラ天理神道ヲ取ル可シト云ヘル語ノ義ヲ以テ、國家ハ宜シク基督教ニ偏セズ、專ラ天理人性ノ當然ニ從ヒ、各人ヲシテ其是トスル所ノ教道ヲ自由ニ奉セシム可シト云ヘル義ト視做スヲ要ス、此ノ如クナレハ、則チ國家其臣民ヲ待ツニ、基督教ヲ奉スルト否トニ由テ、區別ヲ爲サス、全ク兆民ヲ同視スルノ正理ニ合スルナリ、而シテ國家若シ其政令ニ於テ、教道ノ規制ヲ取用スルヲ要スルコトアラハ、何教ノ規制ヲ論ナシ、其政令ノ目的ニ最モ適合セル者ヲ擇ヒ取用スヘキナリ、例ヘハ其規制基督教猶太教馬哈賦教若シハ、佛敎等ニ屬スルモ、決シテ妨ケナシトス、○右論スル所ノ如クナルハ、國家其國內ノ諸教及ヒ諸教論ニ對シテ、全ク不獨獨立ノ地位ヲ占ムルヲ得（按）一教ヲ偏取セサルカ故ナリ）且決シテ教門ノ朋黨或ハ仇敵トナルノ患害ナク、唯專ラ諸權利ヲ保護スルカ爲ニ結ヘキ會社タルヲ得ルナリ、故ニ國家タル者ハ、其法制ヲ以テ、實ニ神道ノ開明上進ヲ保護スルノミナラス、之ニ由テ遂ニ自己ノ開明上進ヲモ増進スルヲ得ヘシ、○國家教道ニ關スルノ方法此ノ如クナル者ヲ稱シテ、國家開教ノ自由ト云フ、スグートリ、レリギオン、スフライ、ハイト（按）國家專ラ一教ニ從フヲ要セルルノ法ナルカ故ニ自由ト云フナリ、

然ルニ各國古今ノ沿革ニ由テ、教道ニ關スルノ方法相異ナリ、既ニ漸ク開明セル者アリ、或ハ未ク開明セサル者アリ、其別即チ左ニ舉ルカ如シ

（第一）歐洲各國ノ中ニ就テ、僧專ラ某一教派ヲ奉スル者數國アリ、例ヘハ俄羅斯及ヒ希臘ノ二國ハ專ラ希臘加特力教ヲ奉シ、西班牙及ヒ葡萄牙ノ二國ハ專ラ羅馬加特力教ヲ奉シ、以太利各國モ亦輒近ニ至ル迄專ラ之ヲ奉シ、又瑞典及ヒ那威ノ二國ハルテル派（按）ルテリ創立スル所ノ派ヲ奉シ、英國ノ如キハ仍チ專ラホーフキルヘ派（按）波羅特士ヲ奉ス、但チ此國ハ王國以太利ト同シク、輒近新法

ヲ創立シテ、基督諸派ヲ同等ノ者ト爲スノ制度、即チ開教自由ノ制度ヲ次第ニ全備セント欲ス、○

希臘ノ國憲ニ云、希臘ノ教道ノ主派ハ希臘加特力教ナリ、但チ其ノ他ノ教派モ亦之ヲ容忍

シテ其教育ヲ保護ス可シ、○那威國ノ國憲ニ云、ルテリ派ハ本邦ノ公教ナリ、此教派ニ歸依スル住民ハ、其子ヲシテ必チ此教派ノ教育ヲ受ケシメサル可ラス、エースイテン、オルデン及ヒメノフ、オルデン（按）加特力派中一種ノ教社）ハ國內ニ在ルヲ許サス、并ニ猶太教徒ハ國內ニ入ルヲ許サスト、

（第二）基督諸派ヲ同視スル（殆、同等ノ者トナス）制度ハ北亞米利加ハ勿論、其他獨乙各國及ヒ埃地利、普魯士（但、埃地利ニテハ殊ニ加特力ヲ重シ、普魯士ニテハ殊ニ波羅特士且チ重ス）佛國、比耳、時瑞士、丹那等ニ於テ殊ニ之ヲ用フ、○

獨乙同盟法ニ云、獨乙同盟各國ニ於テハ基督教ノ諸派ニ由テ、民權及ヒ公權ニ差別ヲ立ツルコトナカル可シト

（第三）佛國ニ於テハ初ニ民主政體ヲ立ルニ方リテ、頓發病ノ激熱ニ發セシカハ、（按）譬喻ノ語ナリ）遂ニ一時全ク諸教ヲ廢止シテ、畏敬ス可キ神ナル者ハ絶ニ之レアラストナセリ、去レヒロベ、スヒエール、佛、八、一千七百五十七年ニ生レ、其九十四、ス、テ、尙必、至高至尊ノ一物ヲ畏敬スルノ緊要ナルヲ悟リケレハ、遂ニ天理神道ヲ立テサル可ラスト爲セリ、

（第四）近今開明進歩セル各國ニテハ、國家其法制ニ於テ獨リ天理神道ニ遵從シ、而シテ實ニ諸派ヲ同等ノ者トナスノ制度ヲ全備セント欲スル多少ノ志情アリト雖モ、亞米利加ヲ除クノ外ハ、未ダ曾テ此理ヲ國憲上ニ明記セシ者之レアラズ、○

○亞米利加合衆國一千七百九十一年(寛政三年)ノ國憲ニ云、「コングレス(按)立法府ナリ)ハ敢テ國教ヲ立ルノ憲法ヲ設クル能ハス、或、奉教自由ノ妨害トナル可キ憲法ヲ設クル能ハス」ト、
 國家躬ヲ神道(殊ニ基督教)ニ從事スルノ方法ハ、左ニ示スカ如シ、
 (按)蓋シ各國皆左ノ數方法ヲ用皆用フル國アリ、或ハ僅ニ其二三ヲ用フル國アリ、各一様ナラス、

〔第一〕將ニ大政令ヲ創始シ或ハ之ヲ施行シ、及ヒ新制度ヲ設立セントスルニ方リテハ、必ス先祭典ヲ行ヒ之ヲ天神ニ告ク、例ヘハ立法府ノ會議ヲ開ク時、嗣君即位スル時、或ハ新國憲ヲ創立スル時ニ於テ祭典ヲ行ヒ、又戰爭若クハ天下一般ノ災害起ルニ方リテハ、公然祈禱ノ禮ヲ行ヒ、又國內一般ノ爲ニ悔悟祭、謝恩祭、及回想祭、
 (按)例ヘハ往古始メテ國ヲ建テシ盛業ヲ回想シ、或ハ外寇ヲ拂攘シテ、國家ヲ泰山ノ安キニ置キシ大功ヲ回想スルカ爲ニ施行スル

祭典ノ類ヲ行フノ類ヲ云フナリ、○凡ソ國家自ラ道德ヲ重スル所以ヲ明示セント欲シ、且ッ自ラ仁義ノ治ヲ爲サント欲セハ、必ス先ッ自ラ祭典ヲ行ヒ、自ラ天神ヲ敬拜スルニ如クハナシ、

〔第二〕基督教ノ眼目要旨ニ從テ憲法ヲ立ツ、

〔第三〕基督教ヲ保護勸誘及ヒ播布センカ爲メニ、國家自ラ其諸般ノ制度ヲ設ケ且ッ其事ニ關ス、

〔第四〕基督教若クハ他教ノ敬神禮拜ヲ妨害シ、或ハ衆民ノ信仰ヲ公然罵辱スル者アルニ方リテハ、國家之ヲ詭罰ス、

〔第五〕國家一個人奉教ノ誓約、
 (按)壓ク教旨ヲ遵奉ス、
 爲スノ方法ヲ設立ス、但シ縱令ヒ基督教ヲ奉セサル者ト雖モ、自己ノ教門ノ制度ニ從テ誓約ヲ爲シテ、其教道ノ要旨ヲ遵奉スルハ、國家之ヲ許可保護セサル可ラス、

〔第六〕許多ノ國ニ於テハ、基督教ヲ奉スル者ニアラサレハ、政府若クハ法院ノ官ニ登用シテ、政務

司法等ノ權ヲ掌ラシメサルノ制度ヲ立ツ、○但シ縱令ヒ基督教ノ國ト雖モ、此制度ハ必ス緊要ナ

リト云フ可ラス、若シ民人過半基督教ヲ奉セスシテ、他教ニ歸依スルコトアルニ方リ、此徒チシテ政府及ヒ司法ノ官ニ任スルヲ得サシムルコトアラハ、是レ則チ不正非理ノ制度ト云フテ可ナリ、何者、基督教ヲ奉セサル者ハ必ス其善ノ命令、公正ノ裁判ヲ爲ス能ハサル者トスルハ、甚ク非ナレハナリ、

○北亞米利加ニ於テ職官授任ノコトニ就テハ、決シテ本人奉スル所ノ教門如何ヲ論ス可ラスト爲スノ制度ハ、元來主派ヲ立テサル國、
 (按)基督教ヲ以テ國家ノ主教ト爲スト雖モ、其分派ナル加特ヨリモ一層進歩シタル者ナリ、
 (按)亞米利加國ハ專ラ天理神道ニ從

テ信セシテ神ヲ疑フ者ハ、決シテ官吏トナルヲ得可ラス、何者、官吏ノ國憲誓約文、
 (按)ハ「スングスアイデス(按)職官ヲ奉承スルニ方リ、ハ元來天神ニ誓フ者ナルニ公然神ヲ信仰セサル徒ノ、此誓約ヲ爲スヘキ理、絶テアラサレハナリ、

○卷之二十二款ヲ參看ス可シ、○北亞米利加ノ制度ハ全ク之ニ反セリ、曰ク「國家ノ諸職官ヲ授任スルニ、決シテ本人奉スル所ノ教道如何ヲ問フテ要セス」ト、

長川新吾 校

國法汎論卷之九 中 目錄

第五款

第三

國家ト教會トノ關涉

第六款

方今國家ノ教會ニ相對シテ有スル權利

第七款

監督ノ權利

瑞士
イ、カ、ブルン、ナ、ユ、リ
加藤弘之 譯

第五款

第三 國家ト教會ノ關係

國家ト教會トナテ相分別シ、全ク獨立シタル二個ノ會社(按)即チ政教ヲ二途トナス者ナリ、トスルハ、凡ソ基督教ヲ奉セル各國ノ通制ナリ、唯二三ノ國ニ於テ、民情偶安全ヲ失ヒ、暴動ヲ生セシ時ニ方リ、或ハ政教ヲ二途トナスノ真理ヲ、却テ非ナリト爲セシヨアリ、其他ハ獨リ神道ニ惑溺セル信者、若クハ空理ニ心醉セル學者ニアラサレハ、決シテ此真理ヲ以テ非トスル者ナシ、實ニ方今開化ノ大ニ進歩セシト、自由權ノ隆盛ナルトチ得シハ、殊ニ此真理ノ實地ニ行ハレシニ由ルナリ、然ルニ國家ト教會トノ關係ヲ定ムル制度ノ如キハ、古今各國皆相異ニシテ、今時ト雖モ未タ全ク一定スルニ至ラス、依テ古今ノ沿革ニ從テ生シタル、諸制度ノ顯著ナル者ヲ左ニ舉ク、

(第一)基督教漸ク歐洲ニ行ハル、ニ至リシ頃ニハ、頻リニ驅逐ニ遇ヒ羈縛ニ囚ミシカ、其後羅馬希臘帝國(按)即チ東羅馬、一稱ビツァンツ帝國ト云フ者ニ於テ始テ、國家ノ准許ヲ得テ、遂ニ國教トナリタリ、去レテ此國ノ如キモ、猶未タ太古ノ陋見ヲ脱セサリシカ故ニ、神道ヲ以テ國事ノ一端トナシ、而シテ國家必ク政務ト共ニ神道ヲモ制馭スルノ全權ヲ握レリ、故ニ國家ノ專權ヲ掌レル帝ハ、必ク其大權ヲ教會上ニ施行シタリキ、○帝ハ教會ヲ保護シテ之ヲ盛大ニナスカ爲メ、緊要ナル憲法ヲ制定シ、教會ノ遵守スヘキ大憲及ヒ教育ノ方法ヲ設定シ、又ハ教道ノ箴規ヲ撰ヒ、且ツ異端ニ陷ル者ヲ處置シ、或ハ之ヲ懲罰スルノ規律ヲ定ムル等、權ヲ掌握シ、加之、帝自ラヒシヨフ(按)大教長等ヲ徵シテ會議セシメ、自ラ自己ノ代出者ヲ命ジテ、此會議ヲ管理定決セシメ、以テ眞實ノ法ヲ設定スルノ權ヲ握レリ、是故ニ帝ハ實ニ國家ノ元首タルノミナラス、兼テ教會ノ主長タリキ、

帝教會ノ主長タリシト雖モ、是レ唯其外部上ニ關スルノミナリキ、〔按〕教會ヲ制馭スルノ權ノミニシテ、教道教旨ヲ管轄制馭スルノ權ハ、絶レテアラ 帝國ヨリ基督教ノ門徒ナルカ故ニ、其教道ヲ以テ自己ノ權勢ヨリ出ル者ト爲ス能ハス、必ス基督ノ高尊ナル權勢ヨリ出ル者トシテ認メサルヲ得ス、故ニ帝モ亦聖徒〔アボステル〕按基督教ノ徒弟〔云〕ノ道統ヲ承繼セルビシヨフヲ以テ、基督教ノ教頭ト認識シテ、之ヲ尊敬セラル可ラサルノ法ナリ、但シ帝ノビシヨフヲ尊敬スルヤ、帝自カラビシヨフノ教道ヲ好ミセシカ故ニアラス、唯帝ビシヨフヲ以テ眞實ノ基督教徒ト認識セシカ故ナリ、○基督教驅逐ニ遇ヒシ頃ヨリ、既ニ教會ノ爲メニ別種ノ職官ヲ立ルノ基ヒ開クタリ、而シテ此職官國家ノ職官トハ全ク相離レタル者ナリキ、

初、シレルス〔按〕教徒ノ身分ト云フ義即チ僧徒ト云フカ如シ、ノ身分立チシカ、此身分ハ國家官吏ノ如ク、其職掌ヲ帝ヨリ受領スル者ニハアラサリキ、而シテ此身分凡ソ精神靈魂ニ係レル事ニ就テハ、全ク國家制馭ヲ受ケス、唯自ラ信從スル所ノ基督ヲ主長トシテ其旨意ニ恭順セシカ如ク、外面ニ顯ハル、事業ニ就テモ、亦國家元首ノ制馭ヲ脱シテ、別ニ國家ニ從屬セサル一會社トナラシメテ企望セリ、當時シノ一〔按〕教徒ノ會議院ナリ、ノ制度ヲ立テシハ、即チシレルス國家ニ從屬セサル一會社トナラシメカ爲メニスル所以ナリ、去レヒ衆相會スルコトハ甚タ稀ナリキ、○聖徒ノ代者タルパトリアルク〔按〕希臘加特力教ノ大教長及ヒ聖徒ベトルスノ繼道者ナルビシヨフ〔基督教行ハル、各國ノ首府トスル羅馬ニ於テ、帝宮ヨリ遠隔セル宮殿ニ居住セシビシヨフ〕教會ノ父ト云ヘル尊號ヲ得テ、其主長トナリ、而シテ帝ト相對セル高位ニ在リテ、教會ノ獨立自主ヲ保護スルヲ以テ自ラ任シタリキ、

是ニ於テ政治法制ノ爲メニ結ヘル會社〔按〕即チ國家ナリ、及ヒ教道ノ爲メニ結ヘル會社〔按〕即チ教會ナリ、ナルニ個ノ會社並ヒ立テ、各存任ノ理、職官ノ制、及ヒ業務ノ方法等ヲ異ニシ、以テ互ニ獨立自主ノ權ヲ掌握セリ、○但シ此二個ノ會社唯外部上ニ於テノミ、相共ニ基督教ノ信者ナル帝ヲ主長トシテ其管下ニ屬シタリ、是故ニ外部上ニ於テハ、國家其權ヲ以テ教會ヲ制馭シ、而シテ之ヲ國家ノ教會トナシタリ、去レヒ國家ハ遂ニ衰運ニ赴キシカ故ニ、外貌ニ於テハ、頗ル大權ヲ握ルカ如クナリシカモ、其實ハ全ク孱弱トナレリ、然ルニ教會ハ猶強壯ニシテ其氣力甚ク盛ナリシカ故ニ、外部上ニ於テハ國家ノ管下ニ屬セシカモ、教道ニ係レル實權ニ至リテハ、遠ク國家ノ右ニ出ヅリ、是ヲ以テ自ラ能ク其獨立自主ヲ保護スルヲ得タリ、

此ノ如ク國家ノ元首兼テ教會ノ主長トナルノ制度、今時猶行ハル、國アリ、方今俄羅斯帝ノ如キハ、ビツァンツ〔按〕前ニ羅馬希臘國ト云フ者是、ノ如ク、兼テ其國教會〔按〕俄羅斯ノ國教會ハ、希臘加特力教會ナリ、

ノ主長ナリ、但シ俄羅斯國ハ頗ル強壯ニシテ、猶次第ニ隆盛ニ赴クノ勢ヒアルカ故ニ、帝自ラ強大ノ威力ヲ以テ教會ノ權ヲ施行スルコト、遂カニビツァンツ國ニ優レリ、

英國ノ如キモ顯理第八世〔一千四百九十一年ニ生レ、五百零九年ニ即位シ、其四十七年ニ殂ス〕在位ノ時ニ於テハ、國君エングリシモ、キル〔按〕英國波羅特士旦〔一派ナリ〕ノ主長トナリテ、全ク教會ヲ制馭スルノ權ヲ握ルコト、宛

モ羅馬教皇ニ異ナラサリキ、去レヒ此ノ如キ強權ハ僅ニ一時ニシテ廢滅シ、其後ニ至リテハ、國君唯教會ヲ管スルニ過キサルコトナレリ、

甲ノ制度〔按〕俄羅斯ノ如ク國君強大ノ威力ヲ以テ教會ノ權ヲ施行スルノ制度ナリ、ハ、方今ノ世論ニ合セサルコト勿論ナリト雖モ、或ハ之ヲ良制トナス者ナキニアラス、去レヒ條理及ヒ實際上ニ於テ併ニ大弊害アルコト、敢テ辨テ俟タスシテ明カナリ、凡ソ國家ト教會トハ、各自ニ内外ノ二權ヲ有スヘキコト、固ヨリ當然ナリ、故ニ必ス各

相分テ獨立自主ノ者ト爲スヘキヲ亦當然ナルニ、全ク此理ニ背キ獨一國家ノ一君主、此二會社ヲ統治スルハ、其狀狀宛一頭二身ノ不具人ニ相似タリ、○國家ノ元首ハ素ト唯國家ノ政令ヲ掌ルノ主務アリテ、且ツ唯能ク此職掌ヲ負擔スルニ堪フヘキ者ナルニ、又兼テ教會ヲ制馭セント欲スルハ、是即テ元首其當然ノ權域ヲ超ル者ト云フヘキノミナラス、決シテ此兩會社ヲ統治スルニ堪ヘサルヤ必然ナリ。

此ノ如ク獨一國家ノ元首、國家及教會ノ二會社ヲ統治スルノ權ヲ掌握スルノ制タルヤ、或ハ君主擅制(テスボチスムス)ノ政ニ起リ、或ハ却テ此政ノ原因トナル者ナリ、凡ソ各種ノ自由權ヲ壓抑シ、及ヒ世道ノ開明上進ヲ障礙スルヲ、獨リ此政ヨリ甚シキハナシ、○兆民及ヒ一個人若シ國家ノ爲メニ苛虐ヲラル、コアルハ、則チ悲憫ヲ教會ニ乞ヒ、或ハ教會ノ爲ニ驅逐セラレ、コアルハ、則チ保護ヲ國家ニ求ムヘキヲ當然ナリ、然ルニ兆民及ヒ一個人斯ル望ヲ失フニ至ルハ、遂ニ自己ノ災害ヲ免カル、ニ道ナシ、國家若シ兆民及ヒ一個人ヲ奴視シテ、自己ノ威權ヲ弄スルコアルハ、則チ教會ハ神道ヲ以テ兆民及ヒ一個人ノ靈魂ヲ救育シ、又教會若シ兆民及ヒ一個人ノ知識ヲ壓屈セント欲スルコアルハ、則チ國家其權ヲ以テ此災害ヲ脱免セシムルハ、共ニ甚ク緊要ノコナリ、○方今西洋各國ノ文明開化、遙カニ東洋諸州ニ卓越スルヲ得タルハ、其原因一ナラスト雖モ、西洋各國夙ニ國家ト教會ト相分テ、二個ノ獨立會社トナセシ、大事業ヲ以テ、殊ニ其尤ナル者ト云フヘキ、又東洋諸州ニ於テ、今時猶擅制ノ政ヲ存スルヲ得ル所以ノ理亦一ナラスト雖モ、一君常ニ政教ノ二種ヲ統一スルノ制ヲ以テ、殊ニ其尤ナル者ト云フ可シ、蓋シ馬哈默各國(按)土耳其及ヒ其近隣ヲ云フ、ノ遠ク其督各國(按)歐洲各國ヲ云フ)ニ企テ及ハサルヤ、職トシテ之ニ是山ルナリ。

(第二)中古佛朗哥國隆盛ナル時代ノ如キハ、太古羅馬希臘國ノ制度ヲ承繼シテ、更ニ中古ノ新制度ヲ創始セシ時ナレハ、(殊ニ當時預定セル巴力門ノ制度ノ如キハ、數百年ノ後ニ至リテ、始テ實際ニ用ヒラレシ)國家ト教會ト全ク相分別スルノ制度未ダ曾テ全カラサリシカハ、其後ニ至

リテハ、此二會社相離レ、全ク獨立自主ノ者トナリ、各個ノ主長之ヲ統治シ、而シテ各會社其權ヲ基督教ノ行ハル、全土ニ施サント欲スルニ、ヲ抱ケリ、乃チ國家ニ主タル者ハ、(按)即チ獨乙帝ナリ、ニシテ、教會ニ主タル者ハ、教皇ナリキ、○

○(按)夙ニ國家ト教會ト相分レテ、獨立自主ノ者トナリシコト、前(第一)ニ論スルカ如シト雖モ、其初メニ在リテハ、國家ノ元首タル帝、猶外部上ニ於テ教會ヲ兼管スルノ制アリシカ、其後ニ至リテハ、國家教會ノ二會社、各主長ヲ異ニシテ、眞ニ二個ノ獨立會社トナリシナリ。

國家及ヒ教會ノ二會社全ク相分レテ、實ニ獨立自主ノ者トナルヲ非トスルノ論ハ、當時全ク廢絶シタリキ、從來帝ハ教會ヲ以テ國家ニ從屬シテ、其指針ヲ仰クヘキ者トナシ、教皇ハ亦國家ヲ以テ教會ノ管下ニ屬ス可キ者トナシテ、互ニ輕蔑スルノ風習アリシカハ、當時既ニ此弊全ク消滅シタリキ、○天神二個ノ劍ヲ二員ノ主長ニ賜ヒ、以テ二個ノ大權ノ標記トナセリ(一、國權ノ標記トシテ、帝ニ賜ヒ、一ハ教權ノ標記トシテ、教皇ニ賜ヘリ)ト云フノ説ハ、曾テギベリチン(按)帝ニ左祖セシ黨、及ヒギユエルン(按)帝ノ仇敵トナレル黨)カ俱ニ信スル所ナリキ、(卷之一第四款ヲ參看スヘシ)

國家及ヒ教會ノ二會社相密接シ、且ツ時アリテハ、全ク相混和シ、而シテ二會社相合シテ各國ヲ統治シタリ、是故ニ國家ノ法院、公衆ノ平和ヲ損害セル民人ヲ罰シ、其權利ヲ奪ヒ、決シテ赦宥セサルハ、教會亦キルヘンバン(按)教會施ス所ノ刑罰ヲ云、又教罰ト譯ス)ヲ以テ、此者ヲ門徒ヨリ放逐スルヲ常法トナセリ、故ニ國家ニ於テ權利ヲ失フ者ハ、天上ノ安樂ヲ受ルノ望ヲモ共ニ失フニ至レリ、○又教會教道ヲ信セサル門徒ヲ、教會ヨリ放逐シ、決シテ赦宥セサルハ、國家亦之ヲ罰スルノ法アリキ、故ニ教會ニ於テ天上ノ罰ヲ受ケタル者ハ、必ス國家ニ於テ地上ノ罰ヲモ免カル、一能ハサリキ、○國家教會此ノ如ク相結テ施行セル權力ハ、實ニ恐怖ス可クシテ、決シテ限量アラ

サル可ク見エタリキ、何者生キテハ、地上ノ刑ヲ免カル、能ハス、死シテハ天上ノ罰ヲ免カル、能ハサリケレハナリ、

然ルニ其後ニ至リ、教國二權(按)教會ノ權ト國家ノ權ト云)ノ關係ニ就テ、大爭闘起レリ、蓋シ帝ノ權力ハ、元來教會ノ權力ニ超過セシカレ、帝ハ自テ此強大ナル權力ヲ滅縮シテ、教會ノ權力ト平均セシコトヲ嫌ハサリシニ、教皇ハ却テ自己ノ權力ヲ擴張シ、帝ノ權力ヲ壓抑セント欲セシカ故ニ遂ニ爭闘ヲ生スルニ至リタリ、○中古ニ於テハ、羅馬教會實ニ基督教ヲ奉スル西方各國ヲ統管スル

ヲ得カシ故ニ、其威力大ニ日耳曼帝國ノ威力ニ超過セリ、然レニ帝ハ其位尙各國ノ王公侯伯ニ超ユルト雖、其實權ニ至リテハ、決シテ西方各國ヲ統治スルニ足ンカレシヲ以テ、各國皆獨立不羈ニシテ、殆ト帝ノ管馭ヲ受ルコトナカリキ、○教會ハ實ニ神道ニ係レル權ヲ掌握スルノミニ止マラス、猶且學問ヲ振メ、及ヒ古方ノ教育ヲ施ス全權ヲ掌握シタリ、而シテ當時專ラ國家ノ用ヲ爲シ、及ヒ國家ノ理ヲ明ニスルニ足ルヘキ學問アラトリシカ故ニ、教會專ラ理論ヲ以テ其威權ヲ張リ、其勢力ヲ求ムルコトヲ得タリ、○教會常ニ云ヘリ、(吾カ教會ハ宜シク靈魂界ナル可ク、國家ハ宜シク體

軀界ナル可シ)ト、若シ教會ト國家ト相交關スルノ理ヲ以テ、靈魂體軀ノ相牽涉スル理ト、全ク相同シト爲ヒハ、教會ハ實ニ國家ノ上ニ立ツノミナラス、實ニ之ヲ制馭スルノ權ヲ握ルヨリ好キハナシト云ノ可シ、威力強大ナリシ教皇ハ、其權ヲ以テ實ニ國家ヲ制馭センコトヲ謀リテ、國家ヲ教會區域ノ一部ト爲サント欲シ、且ツ國家ノ權ヲ施行スル所ノ帝ハ、宜シク教會ノ封侯ノ如クナル可シト云フノ論ヲ主張シタリ、○グレゴール第七世 羅馬教皇一千零二十年印度ニ生レ、其七八、獨

乙帝顯理第三世 一千零十七年ニ生レ、其三十九年(此帝強大ナル權力ヲ以テ、能ク教皇ヲ廢立シタリ)ニ即位シ、五十六年ニ歿ス、(一)ノ殂セシ後ニ至リテ、始テ靈魂體軀ニ一界ノ兩權ヲ教會ニ統一シ、而シテ帝ニハ唯全ク教會ノ監督ヲ受ケテ、國權ヲ施行スルコトヲ許シタリ、并ニインノケンツ 第二世 教皇一千一百六十二年羅馬

十六年ニ歿ス、モ、亦同シク右ノ兩權ヲ教會ニ統一スルヲ得タリキ、○教會其權ヲ以テ國家ヲ管理スルキハ、殊ニ左ニ舉ル所ノ數事件隨テ生ス可シ、(一)教道ニ於テ、信神ノ爲メ及ヒ教會制度ニ就テ緊要ナル法、則チカノニセス、レヒト(按)教會ノ法ヲ云)ヲ以テ第一等ノ法ト爲ス、(二)教徒ヲ以テ俗人ヨリ尊貴ナル者トナシ、而シテ國家ヨリ教徒ニ特權ヲ授與ス、(按)租稅ヲ赦免シ、其他俗人ニ准許セサル特權ヲ授與スルヲ云、(三)實ニ教會ノ罪ヲ受ケタル者ハ、選舉セラレテ王位ニ昇ルヲ得ス、且ツ帝若シ教道ヲ疑フコトアルハ、則チ直ニ教罰ヲ受シ、○帝若シ教會ニ恭順セサルコトアルハ、則チ直ニ位ヲ黜ケラレ國ヲ奪ハレ、且ツ其臣僚ヲシテ敢テ帝ニ恭順スルヲ得サラシム、(四)基督教ノ正道ヲ傳播シ、而シテ火及ヒ劍ヲ以テ異端邪說ヲ驅逐スルノ處置、國家ノ義務トナル、

中古ノ教會ハ、其知識ノ國家ニ優ルヲ以テ、實ニ國家ノ上ニ位スルヲ得シカレ、遂ニ全ク國家ヲ制馭スルヲ得ルニハ至ラサリキ、

國家ノ法院儘教會示ス所ノ規律ニ容喙スルコトアリキ、勇膽アル貴人エーク、ホン、レプロウ(獨乙人、一千二百年代ノ人)ナル者ハ、其編作セルルルシケル(按)中古獨乙ノ中ニ、勇壯ナル

語ヲ記セリ、曰ク縱令ニ教會ト雖、敢テ吾邦ノ常法若クハ籍土法ヲ損害スル所ノ法ヲ設置スルヲ得ス、ト、又佛國ノ英主路易第九世 一千二百十五年ニ生レ、其二十年ニ即位シ、其七十年ニ歿ス、ハ教會ヨリ教罰ヲ受クル者アル

毎ニ其者實ニ教罰ヲ受ク可キ罪アリヤ否ヲ、自己ノ法院ヲシテ預メ探索セシメタリキ、○國家ノ法院ハ、教會法院ノ恣ニ威權ヲ振フテ惡ミ、力ヲ極メテ之ヲ防拒シ、且國王若シ教罰ヲ蒙ルコトアリキ、決シ柔順ニ之ヲ奉スルコトヲ爲サス、又其臣僚若シ教罰ヲ蒙ルコトアリキ、敢テ之ニ屈セスシテ、猶其君ノ爲メニ忠節ヲ存セシ者少カラサリキ、○又時アリテハ、教罰ヲ受ケタル公王及都人等、教會ノ專權ヲ

惡ミ、大ニ憤怨シテ復讐ヲ謀リ、而シテ赦罪ヲ肯セザリシ教士ヲ驅逐シタリキ、其他又時アリテハ教士ヨリ租稅ヲ收取シ、及ヒ罪犯アル教士ハ、國家ノ法院ニ於テ之ヲ罪セシモアリキ、○去レテ其大勢ヲ觀レハ、教會ノ勢力頗ル強大ニシテ、常ニ國家ノ右ニ出テタリ、蓋シ國家ノ知識ハ猶淺クシテ、自ラ教會ノ學ニ抗抵スルノ術如何ヲ知ル能ハサリシニ由テナリ、教會ハ常ニ自ラ國家ノ上ニ位セント欲シテ專ラ勉勵シ、而シテ教會ハ天神ノ立ル所ナレハ、宜シク人ノ立テシ國家ノ上ニ位スヘキヲ、固ヨリ天理ノ當然ナリト自ラ誇稱セリ、然ルニ國家ハ僅ニ世事ニ係レル自由權、(一按)精神靈魂ニ係レル自由權ト相異ナリ)ヲ増益シ、及ヒ天神直ニ賜フ所ノ二劍(一ハ教皇ニ賜ヒ、一ハ帝ニ賜フ、一ヲ、殆ト同等ノ者トナスヲ以テ足レリト爲シタリキ、(一按)蓋シ國家ハ教會ノ上ニ位セント欲スル、○

其後ホーヘンスタウヘン氏 (一按)獨乙帝ノ位ヲ得タル一氏族ノ名ナリ、此氏族一滅亡セシヨリ、世編シ教會ヲ以テ國家ノ上ニ位スル者トシテ認ムルニ至レリ、但シ威權放テ教會ノ制馭ヲ仰ク可カラサル旨ヲ主張スル者ハ、儘之レアリキ、即チ佛王非立第四世 (一按)一千二百六十七年ニ生、一千三百零四年、乾元ニ當リ、教皇ホニハツツ 在位ノ時、一千二百九十年、抗抵シテ此論ヲ主張シ、并ニ獨乙帝路元年ニ當リ、一千二百八十六年ニ生レ、三百十四年、及ヒ獨乙國會相俱ニ、一千三百三十八年、延元佛朗佛ノ會議ニ易年ニ即位シ、其四十七年ニ殞ス、

於テ、此論ヲ主張シタリキ、去レテ國家ト教會トノ關涉、遂ニ右論スルカ如キ景況ニ止マリシニハアラス、既ニ第十四世期ヨリ國家次第ニ外權(一按)外面ニ對抗スル權力ヲ云、)ヲ復興シテ、教會ノ制馭ヲ脱セシメテ謀ルニ至レリ、蓋シ國家專ラ太古羅馬國ノ政令ニ則リ、且ツ勉メテ羅馬ノ法ヲ取リシカ故ニ、自己ノ甚ク高尊ニシテ、決シテ教會ノ制馭ヲ受クル者ニアラサル所以ヲ悟リシニ由テナリ、○學問モ亦教會ノ用ヲ濟ス者ト、國家ノ用ヲ濟ス者ト相分レ、加之從來全ク教會ノ看護ヲ受ケシ學問、次第ニ此看護ヲ

脱シ、自ラ國家ニ屬スル者ト也、唯テ羅馬ノ法學ヲ講求スル所ノ學士儘ニ輩出シ、教會ノ法學ヲ講求スル學士ニ對敵スルヲ得ルコトナレリ、是ニ於テ國家ハ當テ教會ノ恣ニ自己ヲ以テ靈魂トナシ、國家ヲ以テ體軀トナセシ比較論(例ヘハ自己ヲ以テ晝明ニ光ヲ放テル太陽ニ比シ、國家ヲ以テ夜間ニ光ヲ放テル太陽ニ比スルカ如シ)ヲ、非ナリトシテ取ラサルニ至レリ、○然ルニ教會ハ自ラ盛大ノ威力ニ由テ全ク國家ヲ制馭スルヲ得タリト思惟シ、遂ニ其權ヲ國事トシテ施行セシメテ謀リ、愈々此事ニ勉勵シタリキ、去レテ教會此等ノ爲ニ、決シテ自己ノ外權ヲ加ヘ、自己ノ榮光ヲ増ス能ハサリシノミナラス、却テ神道ノ純清ヲ汚シ、及ヒ其能力ヲ減シ、加之教會ノ精力次第ニ衰弱セシカ故ニ、日々ニ強盛ニ赴ケル國家ニ對抗スル能ハサルニ至レリ、○既ニ第十五世期ニ至テハ以太利ノヘテヤクノ如キ小國ノ貴族政府(アリストカラチ)一(按)貴族政權ヲ執レル者)ト雖モ、其近地ニ在ル所ノ教皇ニ對抗シテ其侮ヲ禦キ、以テ自己ノ威權ヲ全ウスルヲ得タリ、蓋シ當時ヲ去ル二百年前ニ在テハ、帝ノ權力ト雖モ、決シテ此ノ如キコトヲ爲シ能ハサリキ、僅ニ二百年ニシテ教皇ノ威權漸ク變化セシハ、眞ニ驚クニ堪ヘタリ、是ニ於テ教會ノ其地位ヲ國家ノ上ニ占ムルハ、實ニ天理ニ反シ、正道ニ背ケル所以ノ理、及ヒ此事實ニ國家ニ害アルノミナラス、教會ニモ亦甚ク害アル所以ノ理、自ラ明瞭トナルニ至レリ、

第十六世期以來ニ至リ、(一按)加特力教會ニ於テ、一種ノ傳教會社ナリ)等、教皇イソノケンツ三世(前ニ出ツ)ノ論旨ヲ繼テ、更ニ教皇ノ威權ヲ以テ國家ヲ制馭セシメテ謀レリ、但シ當時ニ在テハ教皇ノ威權、決シテ往昔ノ如ク無限ノ大權ヲ掌握スルニ堪ヘサルヲ悟リシカ故ニ、敢テ無限ノ大權ヲ庶希セス、唯教會ノ威權ヲ維持センカ爲メ、ニ、教皇ヲシテ國家ノ事ニ其權力ヲ施行セシムルコト、甚ク緊要ナリト云フノ論ヲ立テ、以テ大イニ人心ヲ得ント欲シタリ、蓋シ此論ハ自ラ教會ノ威權ヲ減削スルニ似タリト雖モ、頗ル時勢ヲ知レル者ト云フ可シ、然ルニ其初メニ於

テハ、教皇シキスツス第五世一千五百二十一年ニ生レ、其八十五年ニ教皇ノ位ニ即キ、九十年ニ歿ス。モ、亦此論ヲ以テ頗ル弊害アル認見ト爲シテ擯斥セシカ也。其後ニ至リテハ、教皇政府此論ノ至當切要ナル所以ヲ悟リ、遂ニ之ヲ認許スルニ至レリ。○是故ニ其後ニ至リテハ、教皇政府此ノ如キ處分ヲ以テ、各國王ニ信ヲ取リ、之ヲシテ教會ノ事ニ服従セシムルヲ得タリ。就中歐洲南方羅馬人種ノ各國ニ於テハ、殊ニ此ノ如クナリキ。去レテ其大勢ニ就テ觀レハ、此ノ如キ處分、決シテ永シ其功ヲ奏スルニ足ラサリキ。何者、今時猶二三ノ國ニ於テハ、公事ニ就キ儘教會政府ノ指揮ニ從フヲ以テ、國ノ爲メニ大ニ便益ナリトスルコトナキニシモアラスト雖モ、按蓋シ衆民猶教會ノ政ニ悅服スル情アレハ也。去レテ各國全ク教會ノ制馭ヲ受ケント欲スルノ心絶エテアラサレハナリ。是故ニ今時ハ、教會政府モ亦勢ニ自ラ各國ヲ制馭スル能ハサルヲ知ルト雖モ、猶尊大ヲ主トシテ、自ラ各國政府ノ上ニ位スルノ權利ヲ握ルト誇稱ス。

(第三)第十六世期ニ於テ、教會改正アリシヨリ、國家ト教會ト相關涉スル景狀一變シテ、更ニ進歩ヲ加ヘタリ。但シ此進歩ノ端緒ヲ謂キタル者ハ、國家ノ英傑ニアラスシテ、教會ノ改正ヲ謀リシ人傑ナロキ。即チ獨乙國波羅特士且派ノ始祖タルハ、特ニ神道ノ旨意上ニ心ヲ用ヒ、偏ニ其正善ヲ復興スルヲ以テ教會ノ主務トナシ、而シテ教會ノ自ラ國家ヲ制馭セント欲スル心情ヲ以テ、甚ク邪惡ナル者トナシ、大ニ之ヲ賤メリ。○是ニ於テ波羅特士且派ハ、偏ニ教會ノ改正ヲ遂ケンカ爲メ、唯實直ナル處女ノ如クナリテ、國家ノ補助擁護ヲ求メ、而シテ決シテ、自ラ國君ノ如キ威嚴榮光ヲ得ント欲セス。總テ世事ニ就テハ、好テ國家ノ指令ニ從フヲ旨トシ、獨ニ神道ノ旨意ニ就テハ、自分ノ自由體ヲ保有シテ、決シテ國家ノ爲メニ妨礙セラレザランコトヲ願フタリ。是ヲ以テ此教派ハ、自ラ務メテ神意ヲ奉シテ、自己ノ靈魂及ニ國家ノ靈魂ヲ神意ニ合セント欲セリ。蓋シ波羅特士且派ハ、國家ノ成立モ亦元來神意ニ出ルノ理ヲ悟リ、而シテ基督教ヲ奉スル各國ノ如キハ、最モ此理ニ從

テ神ヲ畏敬セサル可ラスト爲シ、且ツ縱令ハ偶像敬ヲ奉スル各國ト雖モ、決シテ此理ヲ敢如スル能ハスト爲セリ。

但シ爾來教國ニ會社相關涉スルノ景狀、各國日テ相異ナレリ。二三ノ國ニ於テハ二會社相關涉ノ景狀、古時ビツァンツ國ノ景狀ニ復シテ、教皇ハ國家ノ下ニ在テ、其制馭ヲ仰ク者ノ如キ勢トナリ、且ツ時アリテハ、國家ノ域内ニ屬スル一會社ノ如クナルニ至レリ。但シ基督教ノ旨意ハ、絶エテ國家ノ制馭ヲ受クルコトヲサリキ。○是故ニ當時ノ各國ニ於テモ、猶今時開明セル各國ニ於ケルカ如ク、羅馬人ノ精神ヲ繼テ、專ラ政ト法トニ係レルコトヲ主ト爲セシナリ。故ニ當時國家ノ權ト教會ノ權ト

相關涉スル景狀、宛モ羅馬ノ國權ト其教權ト相關涉スル景狀ノ如クナリキ。但シ國權ハ殊ニ國內ニ限リ、教權ハ各國ニ通達スル者ナリキ。然ルニ各國ノ權力次第ニ強盛ナルニ隨テ、遂ニ國家ヲ治ムル者、宜シク兼テ教會ヲ治ム可シト云ハル論說起レリ。而シテ加特力派ニ信從セル君主等モ、亦此說ヲ以テ加特力派ヲ挽回スルニ緊要ナル者ト爲セリ。

去レテ當時ノ世態及ヒ輿論ハ大ニビツァンツ國ノ古昔ト相異ナリケレハ、教國ニ會社ノ關涉モ、亦自ラ相異ナラサルヲ得タリキ。當時ノ國家ハビツァンツ國ノ如ク、專治ノ權ヲ握ル能ハサリキ。故ニ國家ハ、實ニ教會ノ上ニ地位ヲ占メタリト雖モ、其本意タル、決シテ之ヲ制馭スルニアラス。唯之ヲ監督看護スルノミナリキ。

波羅特士且派ノ如キハ、加特力派ノ如ク一主長ノ統治ヲ受クルコト、絶エテアラサリキ。按加特力教會ハ、教皇其主長トナリテ、之ヲ統治シタリ。但シ此新教派按即チ波羅特士且派ヲ云フト雖モ其教旨ニ係レルコトニ就テハ、各國ノ教會互ニ相通シ相結ヒシカ也。其教會大憲キルヘンハ

ハツスング)ニ至リテハ、各國全ク別個ニ之ヲ設立シタリ。○是ニ於テ、邦土教會(按)國家特別ニ保護スル所ノ教會ヲ云フ、但シ國家自ラ之ヲ信奉スルニ及ビシノ一テ(按)其ニ高貴ナル教官)ノ如キ官ハ、各國別個ニ之ヲ置ケリ、故ニ各國ノ同官全ク別個ニ存在セシメ、古時各國ノ加特力教官別個ニ存在セシメ、比ニアラサリキ、蓋シ各國ノ教會ヲ統一スル主長アラサルニ由テナリ。○各國共ニ國君自ラ教會主長ノ如クナリテ、其外面ニ顯ハル事ノ權ヲ掌握シタリキ、(按)即チ教會ヲ制驭スルノ權力ヲ云、教旨ニ係レル權ニアラス。

〔第四〕又專ラ加特力派ヲ奉セル國ニ於テモ、教國ニ會社相關涉スルノ景狀變化スルニ至レリ、佛國人民及ヒ其君主等羅馬教會ノ擅ニ佛國ヲ制驭スルヲ惡ミ、夙ニ之ヲ免レンコトヲ謀リシカ、其勢力他各國ヨリモ更ニ強ク、加之ガルリカニシテ、(按)佛國ノ加特力教會ヲ云、亦佛國ノ教會トナリテ其自立ノ權ヲ保有セント欲シケレハ、此教會ノビシヨフハ、自己ヲ以テ先ツ佛人タル者ト認メナシ、而シテ第二ニ羅馬教會ノ貴官タル者ト認メナシタリ、并ニ此國ノ法七(按)裁判官ナリ)及ヒ巴力門ハ、勇敢ト英才トナリテ、能クケルニス(按)教徒ヲ云、ノ暴慢ヲ防阻シテ、民法及ヒ教法ヲ維持スルヲ得タリ。○佛王路易十四世(一千六百三十八年ニ生レ、其四十二年ニ即位シ、十百十五年ニ歿ス、ハ實ニ全ク加特力派ノ旨ニ從テ其政令ヲ施行セシカレ、政テ自ラ教皇政府ニ謙遜セント欲スルノ意絶エテナク、且ツ佛國ニ於テ自己ノ權力ヲ、遂カニ教皇ノ權力ヨリ強大ニナスコトヲ得タリ、故ニカルリカニシテ、(前ニ出ツ)モ

亦全ク路易十四世ニ服從シタリキ、○第十八世期ニ至リテハ、獨乙及ヒ奧地利ニ於テモ、亦國家實ニ教會ノ制驭ヲ脱シテ、自立セント欲スルノ志情盛ニ生シタリ、獨乙女帝マリア、テレツシア(一千七百年ニ生レ、其四十年ニ即位シ、八十年ニ歿ス、ハ、其ミニステルカウニツ(按)一千七百十一年ニ於テ、奧地利ノト共ニ、國家ハ必ズ教會ノ上ニ立テ之ヲ管督スヘキノ論ヲ銳意ニ主張シ、且ツヨトセフ第二世マリア、テ子ニシテ、其嗣君ナリ、一千七百四十一年ニモ、亦粗暴敢テ顯ミルナキノ性ヲ以テ此ノ論ヲ繼キ、全ク生レ、其六十五年ニ即位シ、九十年ニ歿ス、モ、亦粗暴敢テ顯ミルナキノ性ヲ以テ此ノ論ヲ繼キ、全ク之ヲ遂クルヲ得タリ、又一千七百八十九年(寬政元年)獨乙教會ノ高官等亦エムソ(獨乙ノ地名)ニ相會シテ、獨乙ノ加特力教會ハ、自今羅馬教會ノ專權ヲ脱シテ自立セシコトヲ商議シタリ、○當時性理學漸ク開明シ、且、民智モ亦漸ク增長セシカハ、之ニ由テ國家遠ニ教會ノ管督ヲ免ケル、ヲ得テ、全ク自己ノ威權ヲ伸ルコトナレリ、去レヒ之カ爲メ、(按)中古ノ如ク、國家ト教會トノ間ニ、一時爭鬪ヲ生セシカ、此爭鬪ハ大ニ國家ノ爲メニ幸福トナレリ、○是ニ於テ、國家ハ全ク教會ノ管督東縛ヲ免レテ、法制ニ係ル全權ヲ掌ル者トナレリ、而シテ此事遂ニ全ク方今ノ通則トナレリ、是故ニ方今ノ國家ハ、諸教會ニ相對シテ獨立不羈ノ者ニシテ、實ニ教會ノ外ニ其地位ヲ占ムル者ナリ、(第五)但シ以上舉ル所各國ノ如キハ、皆國教會(スクリューキル)或ハ邦土教會(ランデスキル)ハ、

〔按〕國教會ト邦土教會トノ相異ナル所以ハ、前〔第三〕ノ註解ニ詳也、ト、密ニ相聯合シタル者ノミ然ルニ獨、北亞米利加ノ如キハ否ラス、夙ニ國家ト教會トノ聯合ヲ解テ、全ク相離分スルヲ旨トナシ、而シテ繼令ヒコングレンス(按)立法府ナリ)ト雖モ、敢テ一教門ヲ以テ、天下ノ公教ト爲スノ憲法及ヒ臣民ノ自由ニ他教ニ歸依スルヲ禁スルノ憲法ヲ立ル能ハサル旨ヲ、國憲ニ裁定シ、以テ確乎不拔ノ制度ト爲セリ。○但シ北亞米利加ノ此制度ヲ立ルノ本意タルヤ、決シテ基督教ヲ度外ニ措テ

敢テ省ミサラント欲スルカ爲ニアラス、又馬哈默教、猶太教、若クハアタイスムス(按)神ヲ信セサル學派)ヲ、勸メント欲スルカ爲ニアラス、唯古來各國ニ於テ、教門ノ爲ニ屢ク起リタル争鬪ノ覆轍ヲ聞マンコトヲ恐レ、且ツ宗國(按)英國ヲ云フ、英國ハ亞米利加人ノ本國ナレハナリ)ニ於テ、曾テ其君主ノ信セサル教派ニ歸依セシ者ヲ、恣ニ驅逐セシ暴政ニ倣ハントナリシカ故ニ、偏ニ基督派ノ争鬪ヲ制止シテ、特ニ其一派ノ遂ニ國教會トナルヲ、防阻セシメタルカ爲ナリ○或ハ國家己ムテ得サルコトアラスシテ、教會ノ事ニ關シ、或ハ教ヲ恣ニ國事ニ容隊スルカ如キハ、實ニ弊害ヲ生スル少カラサルヲ以テ、曠ク全ク此二會社(按)教會ト國家トヲ云)ヲ離分シ、徒來弊害ヲ解クヲ優レリト爲シ、且諸教派ヲ悉皆容忍スルヲ以テ、實ニ真理ニ合スルコト爲セシカ故ニ、皆同一ニ認許シ、而シテ各教ノ事ハ各派ニ任シ、國家ハ敢テ此事ニ苦心セサラント欲シタリ、但シ此制度ハ、全ク亞米利加人ノ素志ヨリモ進歩シタル者ナリ、元來亞米利加人及ヒ其諸邦共ニ、基督教ヲ度外ニ措キ、敢テ省ミサラント欲スルノ念慮ハ絶テアラザリキ、然ルニ其制度ヲ立ルニ及テハ、遂ニ教國二會社ヲ、全ク離分シ、而シテ、國家ハ教會ヲ以テ、唯敬信ノ爲ニ結ヘル會社ト視做シ、全ク之ヲ度外ニ措クコト爲セリ、是蓋シ國人ノ素志ニハ合セリシコトナリ、但シ教會ヲ、度外ニ措テ敬テ省ミストハ、唯國家自ラ教會トノ關涉ヲ止、而シテ如何ナル教派ト雖モ其意ニ隨テ自由ニ存在スルヲ許ス(容忍スル)ヲ云フ也、然ルニ此他猶交關ヲ止ムルノ一方方法アリ、而シテ此方法ハ甚シク激烈ナル者ナリ、即チ基督教ヲ憎惡シテ、之ヲ驅逐スルヲ云フナリ、彼佛國頗覆ノ時ニ方リ、國家暴ニ教會ヲ毀テ、基督教ノ教育ヲ禁シ、教徒ヲ殺シ、天神ヲ蔑ニシ、及ヒ道義ヲ傷ヒシカ如キ、皆是ナリ、○是故ニ諸教會ヲ容忍スルト、暴ニ之ヲ驅逐スルトハ、其方法相異ナリト雖モ、國家ト教會トヲ、離分スルノ法ニ至リテハ、全ク相同シ、國家自ラ教會ノ關涉ヲ止メント欲スルノ心ハ、例ヘハ右ニ方法(按)容忍スル)ノ父ノ如ク、又之ヲ憎惡スルノ心ハ、例ヘハ右ニ方法(按)容忍スル)ノ父ノ如ク、例ヘハ第一方(按)容忍スル)ノ父ノ如ク、又之ヲ憎惡スルノ心ハ、例ヘハ

第二方(按)驅逐スル)ノ父ノ如ク然リ、(按)二方法ナル兄弟、父ヲ異ニシ、母ヲ同シウス)容忍ハ度外ニ措クノ心ヨリ生シ、驅逐ハ憎惡スルノ心ヨリ生ス、

(第六)亞羅巴各國輒近北亞米利加ノ教國離分トレノ事、(按)二方法ナル兄弟、父ヲ異ニシ、母ヲ同シウス)ノ制度ヲ設ケタリ、

○凡ソ教國二會社ノ區域ヲ分畫スルルキハ、國家ノ權力ハ實ニ全ウシテ決シテ効得セラル、所ナキヲ得、教會モ亦全ク獨立不羈ノ權ヲ保ツテ得可ク、且ツ之ヲ以テ二會社此關涉スルノ景狀、全ク此二會社ノ威風及ヒ體面ニ適シテ、毫モ此二者ヲ害スルコトナシ、

○(按)北亞米利加ハ前章及ヒ本款ニ於テ論スルカ如ク、專ラ天理神道ニ從フコトヲ旨トシテ決シテ、專ラ某一教派ヲ國教會ト爲スコトナシ、且ツ教會ヲ度外ニ措テ、殆ト之ヲ省ミルコトナシ、是レ蓋シ教國二會社ヲ離分スル者ト云フ可シ、然ルニ歐洲各國ノ如キハ、因襲ノ久シキ勢自

ラ米國ノ制度ヲ全取スル能ハス、是ヲ以テ眞ニ教國ノ二會社ヲ離分シ、國家自ラ教會ヲ、度外ニ措テ、敢テ之ヲ省ミサルノ制度ヲ立ル能ハス、唯此二會社ノ區域ヲ分畫スルニ過キサルノ

第十八世期ノ頃ハ、各國共ニ國家其舊儀舊禮ノ權ヲ以テ、教會ヲ制馭セント欲セシカ也、既ニ文明開化ノ第十九世期(按)一千八百零一年ヨリ以後ヲ云フ)ニ至リテハ、此事決シテ良善適切ナリト云フ可ラス、方今開明ノ世ニ在テハ、國家及ヒ私人共ニ自由ノ權ヲ有スルノ最モ緊要ナレハ、教會

ニモ亦教事ニ就テハ、必ス自由權ヲ與ヘ、且ツ自由ニ教會事務ヲ掌ルノ權ヲ執ラシムルノ緊要ナルコト、固ヨリ辨チ俟タス、カホウル以テ、利人、一千八百十年ニカ「自由ナル國家ニ於テ、自由ナル教會アル可シ、」ト云ヒシハ、全ク方今明世ノ至當論ト云フ可シ、但シウルトラモンターン(按)教皇ノ專權ヲ主張スル徒)カ、希望セシ如ク、教會若シ其自由權ヲ恣ニシテ、遂ニ國家ヲ制馭セント欲スル

ニ方リテハ、國家宜シク力ナ極メテ之ヲ防制セサル可ラス。○國家ハ自己ノ事ニ於テハ、必ス自己ノ靈魂ヲ用ヒ、及ヒ自己ノ體軀(國憲)ヲ役スルコト當然ナレハ、教會ニモ亦教會ノ事ニ就テハ、自己ノ靈魂ヲ用ヒ、及ヒ自己ノ體軀(教會大憲(キルヘンヘルハッスング))ヲ役スルヲ許ス。固ヨリ當然ナル可シ、中古ノ世ニ於テハ、基督ノ神道ヲ以テ、教ト政トヲ統合セル者トナシ、又教會ヲ以テ靈魂ニ比シ、國家ヲ以テ體軀ニ比シ、而シテ此靈魂體軀相合シテ、始テ唯一ノ基督神道ヲ爲ス者ト考ヘシカレ、是全ク迷誤ノ甚シキ者ト云フ可シ、故ニ近世ニ至リ、始テ國家ト教會トノ全ク二物ナルヲ悟リ、且二物各靈魂ト體軀トヲ兼具スルノ理ヲ知ルニ至レリ。○但シ國家ハ自由ナル靈魂ヲ以テ自ラ脩ムルノ權アリ、然ルニ教會ハ專ラ天神ノ啓示言ニ依賴シ、殊ニ之ニ從テ道義ヲ行ヒ以テ自己ノ事ヲ修ムル者ナリ、凡ソ人類男女ノ二性ハ、元來其權ヲ異ニシ其務ヲ殊ニスト雖モ相合シテ始テ完全ノ者トナルカ如ク、國家ト教會モ亦造化ニ於テ相反スル者ナルカ故ニ、實ニ相分ル、一當然ナレハ、又必相須テ始テ完全ノ者トナルナリ、乃チ國家ハ專ラ自己ノ意ヲ以テ自己ノ事ヲ脩ムル會社(人民會社)ナレハ、宛モ男子ノ如シ、教會ハ專ラ天神ノ意ニ從テ、道義ヲ行フ會社(信者會社)ナレハ、宛モ女子ノ如シ、

方今教國二會社ヲ、分盡スルノ制度ヲ立テシヨリ自ラ左ノ數條ノ理、國家ノ爲ニ生スルヲ知ル可シ、

〔甲〕國家ハ教會ノ域内ニアラス、全ク其域外ニ在ルカ故ニ、決テ教會ノ管轄ニ屬スルコトナシ、是以テ國家其憲法ヲ制立スルニ方リ、敢テ教會ノ遵奉セル啓示言ノ旨ニ從フヲ要セス、又敢テ爾太教ノ憲法、及ヒ中古ノカノニシニヒト(按)教會ノ憲法)ヲ敬守スルヲ要セス、**加之**總令ヒ基督教ノ道義ノ旨ト雖モ必ス取リテ國家ノ憲法トナサ、ル可ラスト云フノ理ハ、決シテアルコトナシ、國家其憲法ヲ制立スルニ方リテハ、唯爾ニ正直且其利益ノ事ヲ撰取スルノ權、全ク自己ノ掌中ニ在リ、國憲特ニ某一派ヲ主派トシテ奉ルノ制度(按)即チ國教會ヲ立ルヲ云、猶未タ亡ヒサル間ハ其憲法ヲ制立スルニ於テ、敢テ教會ノ權ニ依賴セス、全ク自己ノ意見ヲ以テ、偏ニ正直及便益ヲ撰

ハント欲スルコト容易ナラス、去レニ加特力派ヲ主派ト爲セル國ニ於テスラ、尙婚婦ノ憲法等ヲ立ルニ方リテ、儘トリードンチコシエス、コンナル(按)一千五百四十五年、以テ利ノトリントト云ニ於テ、議定セシ規律ニ從ハサリテ緊要トシタリシ、全ク之ニ反セ、尙爾ヲ立テシヨアリキ、○但シ特ニルテル派或ハ其他改正派(按)ツギンダリ及ヒカルヒンノ創立セシ派ヲ云フ)ヲ主派トナセル國ニ於テハ、國家元首別、教會ニ入ルカ故ニ、國家ノ憲法ヲ制立スルニ方リテ、縱令ヒ教會ノ權ニ依賴セサルモ、決シテ忠害ヲ受クルコトナシ、○又希臘加特力派ヲ主派トシテ奉スル所ノ希臘國ノ如キモ、國君兼テ教會ノ主長タルカ故ニ、其憲法制立ニ於テ、敢テ教會ノ權ヲ畏懼スルヲ要セス、去レニ國君特ニ此派ニ親附スルカ故ニ、他ノ教派ヲ信奉スル臣民ノ爲メニハ甚ク害ナキ能ハス、

○波羅特士且教會ハ、今時仍舊國君ニ教長ノ權柄ヲ歸ス、但シ國君ノ此權柄ヲ掌握スルヤ、決シテ國憲ヲ掌握スルノ理ヨリ生シ來ルコトアラス、唯古來國君教會ノ權柄ヲ兼掌セシ風習ノ遺レル者ナルハ、衆人ノ敢テ疑ハサル所ナリ、

〔乙〕國家ノ官吏或ハ公民(スグロツビュルゲル)按)國家ノ公權利ヲ有スル臣民ヲ云フ)等、唯自己ノ有セル公權利ヲ施行スルニ就テハ、決シテ教會ノ檢査(按)人物行狀ノ檢査ヲ云フ歟)ヲ受ルヲ要セス、凡ソ教會ナル者ハ、自ラ道義ヲ勸誘シ、國家ヲ獎勵シテ治安ニ盡力セシムルコト、甚ク緊要ナリト雖モ、教會自己ノ權力ヲ以テ、國家ヲ指揮セント欲スルカ如キハ、決シテ許ス可ラス、果故ニ教會ナル者、國家ノ代者(ヘルトレ)ニ按)官吏及ヒ立法府議員ヲ云)ヲ檢査可否スルカ如キハ、全ク自己ノ權力ヲ恣太ニシテ、國家ノ權柄及ヒ國家ノ自由權ヲ毀損スルノ所行ト云フ可シ、

〔丙〕國家ハ諸國權ヲ自己ニ收攬ス、故ニ外面ニ發顯スル強權ハ、悉皆國家ノ掌握スル所ナリ、凡ソ立法、施政、及ヒ司法ノ權柄ハ、當カニ國家ノ掌中ニ在ルヘキ者ナリ、故ニ國家ハ、教會ノ恣ニ是等

諸權柄ヲ施行セント欲スルヲ、禁スルノ權利アリ、但シ國家總令ヒ是等諸權柄ノ幾分ヲ施行スルノ權利ヲ以テ、一時教會ニ准許スルコトアリ、更ニ此權利ヲ追奪スルハ、固ヨリ國家ノ自由ニスル所ナリ、○但シ教會ナル者、道義ノ教育ニ就テ懲戒ヲ施スカ如キハ、全ク其主任ナレハ、決シテ權外ノ處分ト爲ス可ラス、去レテ教會若シ國家ノ准許ヲ受ケズシテ恣ニ人民ヲ罰シ或ハ強ヒテ租稅ヲ取ルカ如キハ、實ニ國家ノ權利ヲ犯スノ所行ト云フ可シ、總テ教會ノ權域ヲ定限スルノ權ハ、全ク國家ノ掌中ニ在リ、

(丁)國家ハ教會ヲシテ國事ニ預ラシメ、且ツ殊ニ教育事務ニ於テハ、自己ト共ニ從事セシムルノ權アリ、去レトモ國權ハ必ス常ニ自己ノ掌中ニ保持シテ、決シテ之ヲ分割ス可ラス、且ツ決シテ教會ノ恣ニ國權ヲ弄スルヲ許ス可ラス、若シ教會ノ權、此ノ如ク強大ナルニ至ルキハ、法制遂ニ二途ニ分レ、且ツ並立セルニ大權(按)國家ト教會トヲ云フ)ノ等閑遂ニ息ム時ナカル可シ

第六款

方今國家ノ教會ニ相對シテ有スル權利、ギート、レヒテ、デス、モデルチン、スターテ

(第一)方今國家ノ情勢ニ隨ヒ、教會ニ相對シテ施行スル所ノ權利及ヒ義務ヲ稱シテ、キルヘンホーハイト(按)教會ニ對シテ施行スルキ、高尊權利ノ義)ト云フ、但シ國家唯世事ヲ治メ勳義ヲ守ルノ主務(按)即チ國家ノ主任ナリ)ヲ以テ、施行スル所ノ權利ヲ云フ、故ニ國家其權ヲ直ニ教會ノ政令(キルヘンレギメント)按)教會ノ事ニ就テ、教會ノ施行スル政令ヲ云)上ニ施行スルカ如キハ、敢テキルヘンレホーハイトノ語ヲ以目ス可ラス、是ヲ以テ此キルヘンホーハイトナル權利ハ、縱令ニ其督教ヲ奉セサル國ニ於テモ、之ヲ行ヒ得可ク、且ツ如何ナル教門如何ナル教派ニ相對シテ之ヲ行ヒ得可シ、但シ此權利ノ區域ハ、殊ニ國家ト教會トノ相關涉スル方法ヲ、考定スル意見ノ同シカラサルニ隨テ、其廣狹ヲ異ニス、故ニ各國此意見ノ同シカラサルニ隨テ、或ハ此權利ノ區域ヲ廣大ニナシ、或ハ之ヲ狭小ニナセリ、

(甲)北亞米利加ノ制度ハ、教會ヲ度外ニ於テ、悉ク之ヲ容忍シ、而シテ國家ト教會ヲ全ク離分スルヲ主トスルカ故ニ、國家ノ教會ヲ視ルヤ宛モ學問會社(按)學問ノ勳會獎勵ヲ旨トスル會社ヲ云、即チ學校等ノ如シ)或ハ仁善會社(按)仁善ノ施行ヲ旨トスル會社ヲ云フ、即チ病院貧院等ノ如シ)ヲ視ルニ異ナルナリ、又國家ノ教會ニ對シテ施行スル權利ハ、宛モ右ニ會社ニ對シテ施行セラル權利ニ異ナルコトナキノ理ナリ、(按)米國ニテハ歐洲各國ノ如ク、教會ヲ以テ特別尊貴ノ者トシテ以テ此國ニ於テハ、キルヘンホーハイトナル權利ノ遺變シテ、尋常ノ諸會社ニ對シテ施行スル權利、即チ國家諸會社ヲ警保審願スル權利ト、全ク同一ノ者トナレルカ如シ、故ニ此國ニテハ、教會ノ教會タル所以ハ、全ク廢滅シテ、國家ヨリ之ヲ視レハ、唯教道ノ爲メニ相結ヘル一會社ノ如ク然リ、

(乙)然ルニ歐洲波羅特士旦派ノ各國ニ於テハ、一種ノ說起リテ、國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトナル權利ノ外ニ、國家猶其權ヲ、直チニ教會ノ政令上ニ施行スルヲ良好ト爲サント欲スル者アリ、此說ニ從フキハ、國家ハ實ニ教會ヲ監視シテ其政令(按)教會中ノ政令ナリ)ノ國家安寧及國家法制ニ妨害障礙アルヤ否ヲ觀察シ、且之ヲ防制スルノミヲ以テ足レリト爲ス可ラス、必又其政令實ニ神道ノ本旨ニ協ヒ、教會ノ法ニ合スルヤ否ヲモ、俱ニ斷定スルヲ要スルナリ、

(丙)加特力教會ハ、今時猶國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトナル權利ヲ認許シテ全ク國家ノ監督ヲ受クルヲ好マスト雖モ、許多ノ加特力國(按)專ラ加特力派ヲ奉スル國)ニ於テハ、教會近世未ク曾テ國家ノキルヘンホーハイトニ抗拒セシコアラヌ、故ニ國家常ニ此權利ヲ施行スルニ於テ、決シテ妨害ヲ受ケシコ之レアラス、○去レテ國家若シ實ニ教會ノ區域ヲ犯シテ其權ヲ施行セント欲スルコトアルニ方リテハ、加特力教會必自己ノ自由權及ヒ高尊權利ヲ以テ、嚴ニ之ヲ拒防セ

ノト欲スルハ固ヨリ疑フヘキニアラス。去レヒ方今ノ國家ハ或ハ絶エテ自テ敬道ヲ奉セサルヲ本意トシ、(按)米國ノ如キヲ云フ)或ハ自テ敬道ヲ奉スルモ、敢テ基督教ノ一派ヲ專奉セシテ其諸派ヲ共ニ信奉スルヲ本意トスレバ、實ニ教會ノ當然施行ス可キ政令上ニ、容喙スルノ權利アラサルカ故ニ、決シテ教會ノ權域ヲ犯スナ得サルノ理ナリ。

(丁)但シ國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトノ權利ハ、實ニ方今普ク行ハル、者ナリ、而シテ近今各國種々ノ盡力勉勵ニ由テ、始テ能ク之ヲ創立シ及ヒ改革スルヲ得タリ。是故ニ儘此權利ヲ用ヒサル國アルカ如シト雖モ、其實ハ殆、然ルニアラス。例ヘハ國家教會ニ相對スルニ、唯學問或ハ仁善ノ會社ニ對シテ、施行スヘキ權利ヲ以テスルカ如ク見ユルアルモ、詳ニ其實ヲ探レハ殆ト然ルニアラス、必、亦國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトヲ以テ、教會ニ相對スルコト固ヨリ明ナリ。何者國家若シ敬道ヲ度外ニ措ク能ハサルノ勢アルカハ、又決シテ實ニ教會ヲ度外ニ措ク能ハサル、固ヨリ辨テ俟タサレハナリ。○國民過半專ラ某教會ニ信從スルコトハ此事遠ニ國家ノ政令及ヒ國ノ存在ニ、大交感ヲ起スコト必然ニシテ、此時ニ至リテハ、縱令ヒ國家自ラ教會トノ關涉ヲ好マスト云フモ、遂ニ己ムヲ得ス、之ト相關涉察合セサルヲ得サル可ク、且ツ若シ敬道ヲ信仰スル黨與等ノ情欲、熾ニ發動スルカハ、之ニ由テ強盛ノ勢力ヲ得テ、遂ニ國家ヲシテ教會ノ事ニ關涉セサルヲ得サラシムルニ至ルカ故ニ、縱令ヒ國家之ヲ欲セスト云フモ、勢ヒ又之レヲ避クル能ハサルニ至ル。是レ蓋シ國家真ニ教會ヲ度外ニ措ク能ハサル所以ナリ。○然ラハ則チ國家ノ教會ニ對シテ、其權利ヲ施行スルハ、全ク教會政令ノ一部分ヲ行フナルヤ、曰ク決シテ然ラス、必唯國家ノ當然有スルキルヘンホーハイトヲ施行スルノミ、何者、若シ國家ヲシテ教會ノ政令ニ關セシメント欲スルカハ、此二會社ヲ分畫(離分ト相異ナリ)シテ各會社ヲシテ全ク獨立自主ノ者トナラシムルコト決シテ能フ可ラス、且、國家自ラ某一教會ニ歸依シテ其一部トナル能ハス、若シ其一部トナラント欲スルカハ、遂ニ他ノ諸教會ニ相對シテ敵愾ノ如クナルニ至レハナリ。○且、國家若シ此ノ如ク其權利ヲ教會ノ區域ニ施サント欲スルカハ、必加特力教會ノ中ニ於テ、大爭鬪ノ起ル必然ナリ。(按)加特力教會

會ノ中ニ於テ、羅馬教皇ノ黨ト國家ノ黨ト、大爭鬪ヲ生スルナリ。

○歐洲ニ於テハ今時仍ホ教會ノ事ニ就テ、大擾亂ヲ生スル少ナカラス、而シテ其擾亂ノ起始スルニ方リテハ、國家絶、テ之ニ關係スルコトアラサルモ、結局必ス之ニ關セサルヲ得サルニ至ルコト常ナリ、加之北亞米利加ノ如キモ、教會ニ就テ事ノ起ルコト、絶エテナキニハアラス、故ニ時アリテハ國家必ス教會ノ事ニ關シテ、大ニ盡力セサル可クアラリ、此國教會ヲ度外ニ措クノ制度アリト雖モ、之ヲ熟考スレバ、此制度決シテ堅固ナリト云フニ足ラス、蓋シ政府モルモ一テ(按)亞米利加ニ於テ、輒近起立シタル教會ニシテ、甚タ陋惡ナル者ナリ)ノ黨ヲ其故土ヨリ驅逐セシハ、即其明證ナリ。

○(按)此教會ノ開祖 スミットナル者一千八百四十年、シシッピ河ノ傍ニ於テ、此教會ヲ創立セシカ、甚陋惡ナル教會ナルヲ以テ、政府人民共ニ之ヲ惡ミテ、遂ニ之ヲ其故土ヨリ驅逐シタリケレバ、其後サルツセイト云ヘル海ノ側ナル荒蕪ノ地ニ遷移セリ、去レヒ爾來歸依者漸ク増加シテ、今ハ既ニ數萬人ニ及ヘリト云フ。

(第二)國家基督教派ノ中ニ於テ、某派ヲ邦土教會(前款ニ出ツト爲シ、以テ其他ノ諸派及ヒ、外教(按)基督教ニ非ル者ヲ云フ)ト相特別スルハ殊ニ國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトヲ施行スル者ト云フ可シ、

基督教行ハル、國ニテハ、國家必ス先ツ其教會ノ存在、沿革ノ景况、及ヒ其教化ノ得失ヲ觀察シ、且ツ其教會管ニ容忍スルコト足ルノミナラス、必ス十分ニ准許シテ、邦土教會ト爲スニ足ルヤ否ヲ思考シ、而シテ是等諸件ニ於テ、聊カ間然スル所ナキ者ハ必ス拔テ、邦土教會ト爲スヲ要ス。○但シ又邦土教會ト稱旨教會、イッシデンツキルヘ(按)邦土教會ト稱旨ヲ異ニスル教會ノ義)トノ別アリ

而シテ今其別アル所以ヲ論センニ、諸教會ノ中ニ於テ、教化ノ方法能ク基督ノ神道ヲ傳播シテ、民人ノ開明ヲ增益スルノ故ヲ以テ、國家其法ヲ以テ之ヲ擁護スルニ足リ、並ニ國家ト共ニ教育ノ事ニ從事セシムルニ足ルヲ明カナル者ハ、之ニ高大ノ權利及ヒ榮光ヲ與ヘテ、以テ邦土教會ノ名ヲ命ス、然ルニ教化ノ方法ニ於テハ、聊カ間然スヘキ所ナキモ、國內ニ行ハル、未ダ甚ク久シカラズ、且ツ人民ノ信スル者モ未ダ甚ク多カラスシテ、未ダ高大ノ權利及ヒ榮光ヲ授クルニ足ラサル者ハ、之ヲ異旨教會ト爲シテ、以テ邦土教會ト相異ニス、故ニ異旨教會ニモ亦教育ノ自由權ヲ許ス、ハ固ヨリ可ナリト雖モ、之ヲ邦土教會ト相匹敵スル者トシテ或ハ其費ヲ償フニ國財ヲ以テシ、或ハ教育ノ事ニ就テ、國家此教會ノ議ヲ取ルヲ要スル等ノ理ハ、決シテアル可ラス、○例ヘハ獨乙各國ニ於テ、加特力教會、ルテル教會、及ヒ改正教會(按)カルヒン派ツ井グリ派ヲ云フナリ)ノ三教會(或ハルテル派ト改正派ト相合セル教會)ヲ以テ、俱ニ邦土教會ト定ム、然ルニ其他ノ數國ニ於テハ、或ハ獨リ加特力教會ヲ以テ邦土教會ト定ム、波羅特士且教會ヲ以テ異旨教會ト爲シ、或ハ波羅特士且教會ヲ以テ邦土教會ト定ム、加特力教會ヲ以テ異旨教會ト爲ス、○國家國內ノ景況ニ隨テ、此事ヲ裁定スルハ、全ク其自由ニスル所ナリ、而シテ家國若シ許多ノ教會ヲ以テ、俱ニ邦土教會ト定ムルハ、國家ノ此諸教會ニ對セル權利タルヤ、宛モ中古ノ世ニ於テ、加特力教會ノ各國ニ對シ、及各政體ニ對シテ常ニ施行シ、且ツ今時現ニ施行スル權利ト全ク相同シ、(按)左ノ一條即チ此旨ヲ説明ス)

教會ハ云フ、「吾レハ敢テ獨リ君主國ヲ善シトセス、又獨リ民主國ヲ善シトセス、國家唯吾カ教會ノ事ヲ認許スレハ、吾ハ好テ之レト相親睦ス可シ、決シテ其政體如何ヲ問フヲ要セス、又基督教ヲ信仰シ、教會ニ忠信アル人民ハ、縱令ヒ其者君主政體ニ左祖スルモ、貴族政體ニ左祖スルモ、若クハ民人政體ニ左祖スルモ、吾カ教會ヨリ之ヲ視レハ、皆同一ノ信者ナリ、」ト、然ルニ國家モ亦云フ、「吾レハ

敢テ獨リ加特力教會ヲ善シトセス、又獨リ波羅特士且教會ヲ善シトセス、吾レハ唯吾カ國家ノ法ヲ遵守スル者ヲ保護ス可シ、決シテ教派如何ヲ論スルヲ要セス、吾カ國事ノ眼目ハ特ニ政務ノミ、決シテ神道ニアラス、又偏ニ國家ニ忠厚ナル臣民ハ、其者縱令ヒ加特力派ヲ信スルモ、若クハ波羅特士且派ヲ信スルモ吾ヨリ之ヲ視レハ、皆同一ノ臣民ナリ、是故ニ教會若シ國政ヲ妨害スルコアラザレハ、吾レハ敢テ其門派ヲ論セス、好テ之レト親睦ス可シト、

是故ニ邦土教會ノ義ハ、國教會ノ義ト相異ナリ、(按)本卷第四款及ヒ第五款ヲ參看スヘシ)邦土教會ナル者ハ、國家ト教會トヲ分畫セル國ニ於テ存在シ、又國教會ナル者ハ、教會ヲ國家ニ從屬セシムル國ニ於テ存在ス、故ニ邦土教會ノ存在セル國ニ於テハ、決シテ國會自ラ某一派ヲ信奉スルヲ緊要ト爲サスト雖モ、國教會ノ存在セル國ニ於テハ、國家必ス某一教會ヲ信奉スルヲ緊要ノコトナス、

教道ノ爲メニ結ヘル一會社、若シ教化ノ實効ヲ奏スヘキヤ否ノコト、未ダ全ク明カナラス、或ハ其規律未ダ全ク整ハサルノ故ヲ以テ、眞ニ獨立教會トナスニ足ラサルハ、國家敢テ之ヲ邦土教會ト爲シ、若クハ異旨教會トナシテ認ムルヲ要セス、去レヒ此會社絶エテ國家ニ害ナキヲ明カナレハ、則チ教會(セリテ)ト視做シテ、其存在ヲ認許スルヲ善シトス、是即チ國家其臣民ノ奉教自由ノ權ヲ保護スルカ、爲メニ、此會社ヲモ俱ニ容忍スル所以ナリ、但シ此容忍ノ限界ハ、國家先ツ自己ノ利害ニ着眼シ、之ヲ確定スルヲ得可シ、○縱令ヒ國家大ニ之ヲ容忍スルモ、之レガ爲メニ弊害アルコトハ甚ク罕レナリ、一然ルニ他教他派ヲ驅逐セントスル徒ハ、多クハ十分ニ容忍スル能ハス、去レヒ此教黨若シ道義ニ背キ、及ヒ法制ヲ害スルコト明カナルハニ於テハ、國家之ヲ毀壞シ、以テ其結合ヲ防遮スルノ權利、必スナカル可カラズ、

國民ノ一部信奉スル所ノ外教(按)基督教コアラサル者ヲ云フ)ヲ、認許容忍スルノ規律モ、亦教黨ヲ容忍スルト、同シカルヘシ、外教能ク道義ヲ存シ、及ヒ國家ノ正理ニ背カサルコト愈々確實ナルハ、其容忍モ亦愈々博大ナル可クシテ、愈々基督教ノ容忍ニ類似スルニ至ル可シ、○去レヒ專ラ基

督教ノ行ハル、歐洲各國ナシテ、外教ヲ愛慕スル、全ク基督教ヲ愛慕スルト同シカラシメント欲
 スルハ、甚ク條理ニ展レルコトニシテ、彼ノ教會ヲ全ク度外ニ措テ、敢テ省ミサラント欲スルノ制度
 ト合スル者ナレハ、決シテ實際ニ行ハル可キコトニアラス、(按)前ノ「丁」ヲ參看スヘシ)

〔第三〕國家ノ邦土教會ヲ保護スルノ方術ハ、異旨教會及政黨ヲ保護スルノ方術ヨリモ、更ニ細密
 ニ渉ル、蓋シ國家ハ邦土教會ノ守護者ナリ、

國家ハ邦土教會ヲ以テ、公會社ニシテ認ム、故ニ之ニ國家ノ
 公權利ヲ授與スル國アリ、例ヘハ其代議者ヲ兩院ニ派出スル公權利ヲ授與シ、或ハ一二ノ官司ニ
 加入スルノ權利ヲ授與スル等是レナリ、其他又教會ノ爵位職官ヲ受領セル者ニ、更ニ國家ノ爵
 位職官ニ附屬スル等階及ヒ權利ヲ加授スルコトアリ、然ルニ異旨教會及ヒ政黨ノ如キニ至リテハ
 之ヲ公會社トシテ、國家ノ公權利ヲ授與スルヲ要セス、故ニ通例ハ唯之ヲ諸種ノ私會社ト同シク
 視做シテ、特ニ私權利ヲ握ラシムルコトナリ、

禮拜ノコトニ就テモ亦同シ、邦土教會公然ノ禮拜ヲ行フニ方リテハ、國家必ス十分ニ之ヲ保護スル
 コト固ヨリ當然ナリ、凡ソ邦土教會ノ禮拜ニ於テハ、國家當ニ其障得防害トナル者ヲ防拒スルノミ
 ナリテ足レリト爲スコラス、故ニ其祭日ニ方リテハ、縱令ヒ私人ニ屬スル事ト雖モ、十分ニ若意眷顧
 スルヲ當然トナス、例ヘハ齋戒祭(ハストハイエル)ヲ行フノ日ニ方リテ、喧嘩賭博ヲ戒メ、歌舞宴
 飲ヲ停メ、貿易賣買ヲ禁シ、及ヒ葡萄酒舖酒店ヲ嚴ク鎖閉セシムル等ノコトハ、即チ國家其邦土教
 會ヲ特別ニ保護セシメ、爲メニ施ス所ノ事務ナリ、

然ルニ異旨教會ノ如キニ至リテハ、唯其禮拜堂ニ於テ公然ノ禮拜ヲ行フヲ許シ、而シテ此禮拜ヲ妨
 碍スル者アルキハ、國家之ヲ防制ス、去レヒ他ノ教會ニ屬スル人民ト相對セル權利ニ至リテハ、國
 家大ニ限制ヲ用フルヲ當然トス、例ヘハ異旨教會ニハ打鐘ヲ許サス、又其寺觀外ニ於テ巡行誦經ヲ
 爲スヲ許サ、ル等ノ如シ、○在昔ハ彌小狹窄ノ心ヨリ、他教他派ヲ敵視スルコト甚クシカリシカ故
 ニ、此ノ如キ限制ヲ用フルヲ貴ヒシカトモ、今世ノ如キハ文明開化ノ時ナレハ、民人ノ妨害トナル

コトノ外ハ異旨教會ニモ亦自由權ヲ與ヘテ、教化ヲ施サシムルヲ善シトス、

然ルニ又國家外教(按)基督教ニアラサル者ヲ云フ)及ヒ政黨ヲ保護スルニ方リテハ、限制ヲ用フ
 ル更ニ大イナリ、凡ソ人々天良是非ノ自由(ケキツセ)ノスフライハイト)ヲ具有スルハ、既ニ前ニ論
 スルカ如クト雖モ、又衆人相結テ教道ニ從事スルコト自由ハ、決シテ直ニ此自由權ヨリ生シ來ルニ
 ラス、故ニ諸家眷諸親族相結テ一會社トナリ、以テ一教道ヲ奉スルハ、固ヨリ其自由ニ任ス可シト
 雖トモ、國家全ク之ニ若意眷顧セシメテ可ナルノ理ハ、決シテ之アル可ラス、凡ソ國家ハ世事ヲ總
 管スルノ大權ヲ有スルモノナレハ、常ニ此ノ如キ會社ニ注目シテ、其爲ス所公衆ノ爲メニ利害如何
 ナ探索考思スルノ權利ヲ握ルコト亦固ヨリ當然ナリ、○國家之レヲ探索考思スルモノ、未ダ曾テ其利
 害如何ヲ知ル能ハサレハ、姑ク此會社奉教ノ自由權ヲ認許セサル可ラス、然ルニ若シ此會社殆ト
 現時ノ政令ニ妨害アラサルモ、遂ニ國家ノ存在及ヒ治安ニ妨害アルコト明瞭トナルトキニ至リテハ
 國家ハ或ハ會社ヲ禁止シテ解散セシメ、或ハ其景況ニ隨テハ、全ク之ヲ禁止セサルモ、特ニ嚴密
 ニ其爲ス所ヲ監督シ、及ヒ大イニ此會社ノ權利ヲ限制スルコト、固ヨリ其當然ノ權ト云フ可シ、○
 傳教ヲ全ク禁止スルト、自由ニ之ヲ認許スルトノ中間ニ數階級アリ、例ヘハ家眷親戚唯其家内ニ
 於テ、敬神禮拜ヲ行フヲ許スコト、及ヒ會社ヲ結テ禮拜ヲ爲スヲ許スモ、唯寂靜ニ之ヲ行ハシメ、及ヒ
 他教他派ヲ奉スル者ノ共ニ其處ニ到ルヲ禁スルコト、及ヒ公然ノ敬神禮拜ヲ許スモ、敢テ洗禮盟禮
 等ノ如キ教會ノ處分ヲ施サスヲ許サス、或ハ其他民事ニ係レル處分(按)禮拜堂ニ於テ婚姻ノ禮ヲ
 行フ等ヲ云フ歟)ヲ施サスヲ許サ、ル等ノ如シ、

一二ノ國ニ於テハ、概近ニ至リテ公然ノ禮拜ヲ許スヲ一般ノ通則ト爲シ、而シテ外教會及ヒ政黨
 ニモ亦之ヲ許スコトナシタリ、蓋シ此大イナル自由權ヲ許スハ、實ニ基督教國方今ノ開明ニ適スル者
 ト云フ可シ、但シ縱令ヒ國家此自由權ヲ許スモ、唯其欲スル所ニ任シテ全ク監督検査セス、且ツ外
 教會及ヒ政黨ヲ以テ、邦土教會ト絶エテ差等ナキ者トスルハ甚不可ナリ、

〔第四〕國家邦土教會ノ爲メニ盡力從事スル所ノ諸件、左ニ舉グルカ如シ

〔甲〕邦土教會國家ノ救助ヲ要スル事ニ就テハ、國家其財ヲ以テ教會ノ費用ヲ償フ、即寺觀堂宇ヲ

造營シ、及ヒ之ヲ粧飾シ、教會ノ職官ヲ設置シ、教會ノ學校ニ要スル費用ヲ償ヒ、及ヒ傳教師ヲ救濟ス、但シ國家ハ他ノ教會ヲモ同シク補助救濟スルノ權ナキニハアラサレド、此教會ハ敢テ之ヲ請求スルノ權ナシ、○基督國ニ於テハ、方今必ス外教ノ存在ヲ認許スト雖モ國家ノ最モ好テ心ヲ用フルハ、實ニ人民ノ爲メニ偉功ヲ奏シタル基督敎ニ限ルノミ、

(乙)國家自ラ教會ヲ尊敬シテ之ニ榮光ヲ與フ、即チ國家教會ノ頭領ヲ尊敬シ、且ツ國家自己ノ法制ヲ設ケ、及ヒ大政令ヲ施行スルニ方リテ、教會ノ祭典ヲ請願スルヲ等チ云フナリ、○敎國ニ會社ヲ分畫セル國ニ於テハ、國家敢テ教會ニ祭典ヲ命スル能ハス、唯之ヲ教會ニ請願スルヲ得可ク、而シテ教會ハ自己ノ意ヲ以テ其請願ニ應スルヲ得可シ、蓋シ教會ノ自己ノ意ヲ以テ、甘シテ行ヘル祭典ニアラサレハ、決シテ眞ノ祭典ト稱スルニ足ラス、

(丙)公衆ニ係レル事件ニ於テ、教會ノ共議補助ヲ請求ス、例ヘハ學校ノ制度或ハ公衆ノ風儀行狀ニ係レル規律ヲ商議スルニ方リテ、先ツ教會官吏ノ議ヲ聽ク等是ナリ、
(丁)邦土教會ノ權利及ヒ利益ヲ保護スルカ爲メ、此教會ヲシテ國家ノ立法權ニ參預セシム、殊ニ其代議者ヲ立法府ニ派出セシムルカ如キ是ナリ、
第七款 監督ノ權利(アウフシヒツレヒト)按)教會ヲ監督スルノ權利ナリ、
國家ト教會トハ、二個ノ眞ニ獨立セル會社ナリ、是故ニ國家若シ自ラ教會ノ政令ヲ施行スルカ如キハ、即チ其當然ノ權域ヲ超過スル者ト云フ可シ、往昔波羅特士且派ヲ主派トナセシ國ニ於テハ、

國家盛ニ此ノ如キ權ヲ施行シタリキ、但シ國家唯教會ノ政令ヲ監督スルカ如キハ、即チ其當然ノ權ニ限ルホトハ、イトナル權利ノ樞要部分ヲ施行スル者ナレハ、全ク其權域内ノ處分ト云フ可シ、
○但シ國家ハ敢テ教會ノ幽冥事(按)即チ精神靈魂ニ係レル事ヲ云フ)ニ關係スルノ權ナケレハ、亦決シテ此事ヲ監督スルヲ得ス、唯其顯明事(按)教會ノ法制政令等總テ外貌ニ顯ハル、チ云)ヲ監督スルヲ得ルノミ、凡ソ外貌ニ發スル顯明事ノ如キハ、教會ニ於テハ一大要事ト稱スルニ足ラス、(但シ決シテ缺ク可ラサルハ、固ヨリ論ヲ俟タス)ト雖モ、此事殊ニ國事ニ關係ヲ生スル少

ナカラサレハ、國家ハ、此事ノ得失利害ニ充分着意シテ、嚴ニ之ヲ監督スルノ權ヲ握ルヲ要ス、○但シ此事ニ就テモ、敎國ニ會社ノ權ヲ適宜ニ分割スルヲ甚ダ緊要ナリ、蓋シ然セサレハ、各會社ノ當然ニ具有スヘキ自由及ヒ權利、共ニ全キヲ得難ケレハナリ、
(第一)心靈ニ屬スルヲ及ヒ信仰ニ係ルヲハ、實ニ教會ノ掌ル可キ所ニシテ、國家ハ決シテ之ニ關係スルノ權ナケレハ、敢テ此事ニ容喙ス可ラス、是故ニ國家恣ニ教會ノ教旨ニ係レル爭論ヲ、裁判セ

ント欲スルカ如キハ、決シテ許ス可ラス、但シ教會若シ教事ニ就テ、新ニ憲法規律ヲ示令スルハ、若クハ教務ノ決議ニ就テ嚴法ヲ設クルヲ要スルハ、等ニ於テハ、國家必ス教會ヲシテ是等ノ處分ヲ報知セシメ、而シテ是等ノ處分若シ國家法制ノ妨害トナルヲ知ラハ、則チ之ヲ防阻スルノ權アリ、○國家此防阻ヲ施スノ權利ニゴブラセ(按)准許スルト否トノ權利)ノ名ヲ命シテ、之ヲ國法ニ屬スル權利ノ部ニ加入シ、而シテ動モスレハ國家此權利ヲ非常ニ擴張シタリ、但シ此權利ニゴブラセ(按)立法府ノ議定名ヲ命スルハ甚ダ誤レリ、蓋シ此誤謬タルヤ宛モ君主ノサンクヤオンノ權利(按)立法府ノ議定チ或ハ准許シ或ハ准許セサルノ權ヲ云フ)ヲ誤認シテ、唯ヘトノ權利(按)立法府ノ議定ヲ禁止スルノ權利ヲ云フ)ト視做ス者ト、全ク相表裡セル誤謬ナリ、何者國家タル者、教會ノ處分ヲ防阻スルノ權利ハ、教會ノ議定チ或ハ准許シ、或ハ准許セサルノ權利ニハアラス、唯教會ノ處分ノ國家ニ妨害アル者ヲ防阻スルノミ、權利ナレハナリ、是故ニ國家此防阻ノ權利ヲ施行スルハ、必ス憎惡ノ情ヨリ出ル者ナリ、○教會ト雖モ亦同シク人ナレハ、自ラ神聖ノ如ク十全完備ヲ得ル能ハス、且ツ動モスレハ私欲發動シテ遂ニ教權ヲ弄シ、以テ大イニ國家ノ治安及ヒ私人ノ權利ヲ妨害スルニ足ル可キ處分ヲ施スノ恐レアリ、加特力教會ノ首長ナル教皇ハ、他教官ノ如ク國家ノ臣民タル者ニアラス、其國家ノ司法權ニ制セラル、者ニアラサルカ故ニ、動モスレハ其大權ヲ恃ミテ專恣ノ事ヲ爲スノ恐レナキヲ能ハサルヲ以テ、在昔歐洲ノ數國ニ於テ、國內ノ教徒等ト教皇ノ官屬ト

ノ公事ノ交際ハ、國家必ス自ラ監督監視スルヲ常法トナセリ、然ルニ近世ニ及ヒテ、多クハ此法ヲ全ク廢止スルニ至リ。

近世ニ及ヒ國內ノ教徒ト教皇ノ屬官ト、自由ニ公事ノ交際ヲ爲サシムルニ至リシハ、前條論スルカ如シト雖、國家タル者敢テ教會ノ憲法及ヒ議定ヲ、聽知監督セシテ可ナリト云フノ理ハ、決シテアル可ラス、國家必ス之ヲ聽知監督セサル可ラサルハ、固ヨリ論ヲ俟ク、去レヒ其法自ラ古時ノ法ト相異ナル所アリ、蓋シ古時ハ教會其憲法ヲ議定セント欲スルコトアルニ方リテハ、國家先ツ預メ其得失利害ヲ監督シテ、而後ニ之ヲ准許スルノ法アリシカハ、今時ノ法ニテハ全ク教會ニ屬スヘキ事件ハ、教會ノ意見ヲ以テ直ニ之ヲ議定スルノ自由ヲ教會ニ任シテ、國家ハ關セス唯教會若シ其權ヲ弄シテ不正ノ事ヲ爲スハ、國家必ス手ヲ下シテ之ヲ防阻スルノ權アリト爲ス、是故ニ古時ハ預防法ヲ用ヒシニ今時ハ之ヲ變シテ禁遏法ヲ用フルコトナセシナリ。

○古時ノ預防法ハ、國家ノ制馭ヲ受ケサル教皇政府トノ發障ヲ生シ易キ法ナリシカ故ニ、今時ハ此法ヲ廢シテ、禁遏法ヲ爲セシカハ、此法ヲ用フルハ、動モスレハ國家ノ忠害ヲ生スルノ恐レナキ能ハサルヲ以テ此法ヲ用フルニ就テハ、必ク教會ノ弄權ヲ制ス可キ綿密ノ規律ヲ設ケ、而シテ教會若シ此規律ニ背クハ密ニ之ヲ赦宥セサルノミナラス、或ハ之ヲ罰スルコトモナカル可ラス、例ハ古時ノ檢書法ル一按「書籍ヲ公布セント欲スル者アルハ、政府必ク先ツ之ヲ檢査シテ、可トテ廢シテ、出版ノ自由ヲ准許スルハ其公布ヲ許シ、不可トスレハ許サ、ルヲ得ルノ法ナリ。

ルニ就テ、出版憲法(プレスゲセツ)ヲ制定スルコト甚ク緊要トナリシト、其理全ク相同シ、○凡ソ國家ノ教會ニ准許セル自由權愈々大ナレハ、教會ノ弄權ニ係レル罪犯ヲ治ムル憲法愈々緊要トナルコト、決シテ疑フ可ラス、然ルニ或ハ此罪犯ヲ治ムルニ就テモ、近今ノ尋常憲法ヲ以テスレハ、則チ足レリト云フ論アレハ、甚ク甚ク誤レル者ト云フ可シ、凡ク教會ト國家トノ關涉、及ヒ教道ト民事トノ交感ハ、實ニ大ニシテ且ク全ク他事ト旨趣ヲ異ニスルコト、眞ニ人意ノ表ニ出ツ、是故ニ唯一個人及ヒ公

衆ノ權利世々自由確制限制スル所ノ尋常一様ノ憲法ヲ以テ、全ク此關涉交感ヲ制セント欲スルモ、決シテ能クスヘキニアラス、○近今ノ國家ハ、既ニ教道ノ門派ヲ拘執スルヲ貴シトセサルニ至レリ、然ルニ方今ノ教會多クハ未ダ舊テ、其門派ヲ拘執スルノ心ヲ去ル能ハス、是故ニ國家ハ先ツ諸教會ノ互ヒニ其門派ヲ拘執シ及ヒ其教旨ヲ主張シテ、相是非スルノ自由權ヲ認許セサル能ハスト雖モ、決シテ全ク其自由權ニ任ス可ラス、動モスレハ各教會ノ爭論ヨリ遂ニ國家ノ安寧ヲ害シ、及ヒ國家ノ保護ニ由テ得タル教會ノ體面ヲ汚スニ至ルコトアルカ故ニ、國家常ニ諸教會ヲ監視シテ互ヒニ爭論ヲ生スル甚クシキニ至ラサラシム可シ、是即チ國家ノ權利ナリ、及ヒ義務ナリ、例ハ教義問答書等ニ於テモ、亦各教會互ヒニ自己ノ教義ヲ是トシ、他ノ教義ヲ非トスルカ如キコトアリ、國家宜シク之ヲ監視ス可シ、何者一箇人其著書ニ於テ、專ラ一門派ヲ拘執シテ其是ヲ主張ス、而シテ他ノ門派ヲ譏謗スルカ如キハ、大害アラスト雖モ、教會自ラ暴虐ヲ以テ入ニ他ノ教會ヲ憎惡スルノ所爲ヲ施シ、或ハ教旨ヲ以テ民人ヲ煽動シ、以テ國家ノ命令ニ抗衡セント欲スルカ如キ(方今比且時バテン及ヒ埃地利ニ於テ此ノ如キコトアリ)ハ、其害甚ク大ナレハナリ、總テ此ノ如キ所爲、公衆ノ平和及ヒ安寧ヲ妨害スル愈々大ナレハ、國家ノ之ヲ防制スルモ、亦宜ク急ニ且ク愈々嚴ナル可シ。

○按古時ハ教會ノ未ク憲法ヲ議定セサルニ方リ、國家預メ其得失利害ヲ論シテ其許ス可キト否ラサルコトヲ定ムルノ法アリシカ故ニ、之ヲ預防法ト稱セシカ、今時ハ國家預メ利害得失ヲ論スルコトナク、唯教會ノ議定セシ後ニ至リテ、不正ノ事アレハ、之ヲ禁遏スルノ權ヲ有ス、故ニ禁遏法ト云フナリ。

〔第二〕敬神禮拜ニ係レル事件ヲ處置スルモ、亦全ク教會ノ權ニ在ルヘキコト、固ヨリ當然ナリ、或ハ宜シク教國ニ會社相合併シテ、此事件ヲ處置ス可シト云フノ論アレハ、甚ク非ナリ、但シ此事件ハ生平外貌ニ顯ハル、コトナルヲ以テ、殆ク國務ニ類似シ、且ク國務ト相近接スルヤ、彼ノ心靈ニ屬スル事、及ヒ信仰ニ係レル事ヨリモ更ニ大ナリ。

敬神禮拜ニ係レル事件ハ、必ス先ツ教會ノ處分ニ任ス可シ、國家ハ殆ト此事ノ規律ニ關ス可ラ
ス、但シ教會ノ此事ヲ處置スルノ得失ニ由テ、國家ノ爲メニ大ニ利害ヲ生スルコトアルカ故ニ、國家
ハ最モ嚴ニ此處分ヲ監督セサル可ラス、其監督ノ方法ハ、即チ左ノ數件ニ舉グルカ如シ、
〔甲〕教會祭典ヲ行フニ方リテ、民人ノ職業ヲ停止シ、市賣ヲ禁制スル等、民人ニ係レル事ヲ指令ス
ルト否トハ、全ク國家ノ權ニ在リ

〔乙〕敬神禮拜ノ爲メニ會社議會ヲ結ビ、及ヒ傳教師ヲ派出スル等ノコトハ、國家大抵之ヲ教會ノ權
ニ委テテ自ラ關スルコトナシ、但シ國家ハ教會ヨリ此等ノコトヲ報知セシムルノ權ヲ握ルハ、固ヨリ
當然ナル可ク、加之此ノ如キ會社等、若シ國家或ハ臣民ノ體面及ヒ權利ヲ妨害シ、並ニ公衆ノ平
和及ヒ風儀ヲ毀傷セント欲スルコトアルハ、即チ此會社ノ權利ヲ限制シ、或ハ時アリテハ其結合
ヲ禁止スルノ權、全ク國家ニ在ル可シ、

〔丙〕寺觀ヲ築造シ、及ヒ教道ノオルデン（按）會社ナリ）ヲ建立スルコト、並ニ此寺觀及ヒオルデンニ
於テ制定スル所ノ規律ヲ准許シ、及ヒ總テ其所爲ヲ監視スルコト等ハ、必ス先教會ノ權ニ在リ、然ル
ニ近世ニ至リテハ歐洲各國ノ政府動モスレハ恣ニ是等ノ事ニ關係シテ、大ニ諸弊害ヲ除去セシ功モ亦少
デノノ所有ヲ劫奪スルコト謀リタリ、但シ國家此事ニ關係シテ、大ニ諸弊害ヲ除去セシ功モ亦少
カラス、蓋シ國家古今ノ事蹟ヲ視テ、寺觀及ヒオルデンノ弊害ヲ察セシカ故ニ、專ラ之ニ着目注意シ
テ、其弊害ヲ防阻セタル可ラサルノ義務ヲ悟リ、專ラ之ニ從事セリ、蓋シ從來民人禮拜祈禱ノ式ヲ
遵守シ、及ヒ教會ノ規律ヲ敬守セサル可ラサルカ爲メニ、大ニ其一個ノ自由權ヲ妨害セラレシニ
國家特ニ意ヲ用ヒテ、此弊害ヲ除去シ、又從來寺觀及ヒオルデン等其近隣ニ於テ巨大ノ土田ヲ併セ
テ之ヲ所有ト爲シ、以テ其遊食ノ財本ニ充ツルコトアリシニ、（按）教會暴ニ巨大ノ土田ヲ奪フニハ
アラサレト、陰ニ信者ノ心ヲ得テ之ヲ奪フナリ）國家暴ニ之ヲ禁止シ、并ニ右ノ會社等從來國家

ノ法制ニ背キ、其權ヲ恣ニセント欲スルコトアリシニ、復タ全ク此恣行ヲ壓制スルコトニ勉勵シタリ
キ、○國家ノ法制ニ背キ其權ヲ恣ニセント欲スル會社、今時仍全ク亡ヒス、例ヘハ、エーライテンオ
ルデン（按）加特力教會ノ一會社ナリ）ノ如キ是レナリ、此會社ノ如キハ、其教學及ヒ勉力ヲ以テ
、中古ノ如ク全ク國家ヲ抑制セント欲シ、且ツ專ラ自己ノ門派ヲ張リ、他ノ門派ヲ壓セント欲シテ、
大ニ諸派ノ平和ヲ傷害スルニ至ル、但シ國家自己ノ氣力ノ剛壯ナルヲ知ラハ、此ノ如キ會社ノ權勢
ヲ恐怖スルコト、絶エテ無カル可シ、例ヘハ、フリードリヒ、デル、ゴローセ（按）普魯士ノ英主）ノ如キハ
、敢テエーライテンオルデンノ權勢ニ畏縮セザリキ、然ルニ國家ノ氣力微弱ニシテエーライテン
オルデンヲ恐怖スルコト甚シキニ至ルハ、動モスレハ自己ノ權利ヲ忘失シテ、遂ニ自己ノ勢力ヲ
以テ、全クエーライテンオルデンノ權力ニ抗衡スル能ハサル者ト爲スニ至ルナリ、○但シ若シエ
ーライテンオルデンノ權勢完全整備シ、且ツ其材能高博及財本富實ニシテ、能ク陰ニ民衆ノ心ヲ
得ルハ、遂ニ能ク國家ノ患害ヲ釀シ、其文明ヲ害スルカ故ニ、國家ハ必ス預メエーライテンオルデ
ンニ着目注意シテ、若シ此ノ如キ景況現ハハ、チ見ルハ、嚴ニ之ヲ防阻スルコト、宛モ狡猾ナル蛇ヲ
防クカ如ク爲ス可シ、凡ソ國家ハ自己ノ安寧及ヒ自己ノ權利ノ障害スル會社アルヲ知ラハ、斷然之
ヲ毀壞崩解スルノ權利ヲ握ル、固ヨリ疑フ可キニアラス、ヒエーライテンオルデンノ如キハ、教會
ノ爲メニハ實ニ身命ヲ抛テテ忠臣ナリ、故ニ教會ハ專ラ之ヲ愛慕スト雖、國教會ヲ設立セサル國ノ
爲メニハ、動モスレハ實ニ憎惡スヘキ仇敵ノ如クナルコトアリ、凡ソ國家ハ自ラ此ノ如キ會社ノ制度
規律ヲ設定スルノ權若ハ是等ノコトニ就テ、教會ノ商議ニ預カルノ權ヲ握ルコトナシト雖モ、會社若
教會ノ爲メニスルノ名義ヲ以テ、國家ノ權利ヲ毀害損傷スルコトアルニ方リテハ、嚴ニ之ヲ拒防スル

固ヨリ當然ナリト云フ可シ。

① 瑞士合邦大憲第五十八章ニ云「エースイテンノオルデン及ヒ之ト相結ヘル會社ハ、瑞士合邦ノ

内何レノ地ニ於テモ存在スルヲ許サス」ト
〔第三〕教會ノ大憲ヲ確定スルノ權モ、亦元來教會ノ自ラ掌握スル所ナリ故ニ國教會ヲ廢セシ國ニ於テハ、既ニ此ノ如キ權ヲ以テ、國家ノ掌握ス可ラサル者ト爲シ定メタリ、但シ若シ此大憲國家ノ認許ヲ得サルハ、決シテ國地ニ行ハル可ラサルヲ以テ必ス國家ノ權ヲ假ラサル可ラス、蓋シ國家自ラ此大憲改革ノ議ヲ檢査シテ、若シ之ヲ禁止セサルハ、始メテ眞實ノ大憲トナリ、但シ國家敢テ妨害スルコトキヤ否ヲ視テ、若シ此等ノ思害アレハ、其制定ヲ禁止スルノ權アルノミ、○從來國家此教會大憲上ニモ、彼ブラセー(前ノ第一ニ註ス)ノ強權ヲ施シ、加之此強權ヲ施スニ就テハ、陰ニ教會政令ノ一分ニモ預カリシカ、近今漸ク此強權ヲ棄テ、之ニ代フルニ唯教會大憲ノ制立改革ヲ預メ檢査スルノ權ヲ以テシ、而シテ其大憲若シ國家ノ爲メニ不可ナル者アル時ノミ之ヲ禁止スルコトナリシハ、蓋シ教會ニ會ノ關涉ニ最モ適當セル者ナラン。

〔第四〕教會ノ官吏臣僚(按)即チ教官ナリ)ヲ任用スルノ權利モ、亦教會ノ掌中ニ在ルヘキコト、固ヨリ疑フヘキニアラス、蓋シ是等ノ徒ハ皆教會ニ屬シテ、其用ニ役事スル者ナレハ、必ス教會ニ必要ナル精神ヲ具有シテ、全ク他會(按)蓋シ國家ヲ云フ)ニ屬スル者ト相異ナル所ナカル可ラス。○教徒ニ教官ノ爵位ヲ與フルニ就テハ、必ス其力ニ由テ其可否ヲ定ムルノ規則アリト雖モ、唯此規則ノミニテハ未ダ足レリト爲ス可ラス、殊ニ教會ノ用ニ適スヘキ人物ノ中ニ於テ、其所長ニ從テ其職務ヲ授クルハ、固ヨリ教會ノ權中ニアリ、○但シ教會ノ事トハ、密ニ相繫合スルコト多ク、且ツ邦土教會等ノ官吏ハ、兼テ國家官吏ノ權利及ヒ階級ヲ受領シテ、國家ノ優待ヲ得ルコト多キカ故ニ、教會ハ苟モ國家ノ好シセサル徒ヲ擧ゲテ、其官吏ト爲サ、ルチ真好ト爲ス可ク、且ツ國家ハ教會ヲシテ、未ダ實ニ其官吏ヲ授任セサルニ方リテ、先ツ其氏名ヲ告示セシメ、以テ之ヲ許可スルノ權アリ、○

但シ歐洲各國古今ノ因襲ニ隨テ、此條理ニ反セル規律數種アリ、例ヘハ或ハ國家教會官吏ヲ撰任スルノ全權ヲ握リテ、教會ニハ僅ニ其撰任ノ當否ヲ檢査シ、及ヒ教官タルノ爵位ヲ授クルノミノ權ヲ與フル權アリ、或ハ教會敢テ國家ノ檢査ヲ受ケスシテ、專ラ自由ニ其官吏ヲ授任スルノ國アリ(按)二種ノ規律ハ、共ニ條理ニ反スル者ナリ)而シテ殊ニ甲ノ制度(按)國家專ラ教會官吏ヲ撰任スルノ制度ナリ)ノ如キハ仍ホ國家自ラ教會ノ政令ニ關スルヲ證スルニ足ル者ト云フ可シ、但シ將來教會ニ會相分レテ、互ヒニ自己ノ自由及ヒ權利ヲ握ルニ至テハ、此ノ如キ制度ハ、必停止セサル可ラス。

〔第五〕現世國ニ於テ正義公道ヲ守護スヘキ劍及ヒ鞭ト稱スヘキ眞誠ノ司法權ハ、全ク國家ニ屬スヘキコト固ヨリ當然ナリ、故ニ獨リ國家之ヲ掌管ス可シ、但シ教道ノ旨ニ出ツル懲戒ノ法、及ヒ唯教會ノ制度ヲ保護スルカ爲ニ施ス可シ懲戒法ノ如キハ、當然教會ノ掌ルヘキ者ト云フ可キノミ、故ニ教會是等ノコトニ於テ、若シ司法權ヲ施スコトアルモ、國家ハ此權ヲ制定シ、且ツ之ヲ改革シ之ヲ限制シ、或ハ全ク停止スルノ特權ヲ握ルナリ、但シ教會ノ司法權ヲ施スヤ、或ハ唯互相和約ノ事(按)八卷第三款(第一)ニ出ツ)ニ關スルニ過キス、或ハ私判ノ法(按)八卷第三款(第二)ニ出ツ)ヲ用フルニ過キサレハ此例ニアラス。○既ニ今時ハ各國此特權ヲ用ヒテ屢ク之ヲ施行セリ、蓋シ教會ノ施刑權ヲ限制シ、且教會ノ司法權ヲ以テ、國家ノ司法權ニ屬スル者ト定メシヨリ以來ハ、教會純一ニ神道ノミヲ掌ル者トナリテ、眞ニ教會ノ教會タル所以ニ協フ者トナリタリ、加特力教會ニテ、悔罪ノ法(ペニテソツ)ト稱フル者ハ、其始ハ全ク懲戒法ニ類セル者ニシテ、決シテ罪犯ノ刑法ニハアササリキ、蓋シ此法ハ自己ノ過失ヲ悔悟セル者、之ヲ贖フカ爲メニ自ラ好テ喫苦スル者ナリキ、(按)數日間某食物ヲ禁斷スル等ノ法ヲ云フ)并ニキルヘンヤシ(按)教罰ノ義

刑罰法トナリタリ、○凡ソ教旨ニ背ケル者アルハ、教會唯其者ノ爲メニ天上ノ幸福ヲ祈願スルヲ拒

ニ、或ハ唯之ヲ其門徒ヨリ放逐スルカ如キハ、教會ノ當然施スヘキキルヘンバンニシテ、決シテ國家ノ正義公道ヲ守護スルノ務（按）國家ノ刑罰ヲ施スハ、即チ正義公道ヲ守護スルノ務ヲ行フナリト云フ可ラス。蓋シ教會ハ其門徒ノ實ニ教旨ヲ遵奉スルト否トヲ監視シテ、某ハ實ニ教旨ヲ遵奉スレハ、宜ク爲ニ天上ノ幸福ヲ祈願スヘク、某ハ實ニ教旨ニ背反スレハ、宜シク爲ニ之ヲ祈願セサ、可シト考定シ、且、某ハ教會ノ道ヲ毀傷シケレハ、宜シク之ヲ其門徒ヨリ放逐スヘシト決定スルノ權ヲ握ル、固ヨリ當然ナレハナリ、○但シ教旨ニ背テキルヘンバンナ被ル者アルハ、遂ニ國家其者ヲシテ終身其私權利ヲ失ハサレメシカ爲メニ、必ス之ヲ看護セサル可ラス、且教會當然此罰金ヲ握ルト雖モ、若シ一時瑣末ノ罪ニモ安ニ此罰金ヲ加フルハ、遂ニ凡人ノ權利ヲ傷害スルニ至ル必然ナレハ、決シテ輕ク施行スルヲ得サレハ、固ヨリ論ヲ俟タズ、去レハ實ニ教國ニ會ヲ分畫スルノ制度アルハ、此罰金ヲ施スノ權ハ必ス先ツ教會ノ掌中ニ在ルヘキヲ、亦固ヨリ辨テ俟タズ、○并ニ教會モ亦諸官同等シク、自己ノ官吏臣僚ヲ懲戒スルノ權アリ、官吏臣僚若シ其職務ヲ怠リ勤勉セサル時ハ、教會必ス之ヲ退黜シ、他人ヲ選舉シテ之ニ代ハラシメサル可ラス、但シ教會或ハ黜陟ヲ恣ニシテ、一個人ノ權利ヲ壓抑損害スルノ恐レナキ能ハス、故ニ國家ハ宜シク常ニ教會ヲ監督スルノ權ヲ握ル可シ、而シテ、其監督ノ方法一ナラス、例ヘハ或ハ教會職務ノ關係ニ由テ、其官吏ヲ退黜セント欲スルコトアル毎ニ、國家必ス教會ヲシテ之ヲ己レニ報知セシメ、以テ自ラ其可否ヲ通告スルアリ、或ハ既ニ退黜セラレタル官吏ニ、宛テ國家ニ告訴シテ、其保護ヲ願フノ權利ヲ授與スルアリ。

〔第六〕國家ハ邦土教會ノ爲メニ自ラ學校ヲ建造シ、或ハ其費用ヲ給與シテ以テ教徒ノ學習ヲ勸誘ス、但シ教徒學習ノ爲メニ設クル所ノ學校、縱令ヒ國家ノ建造ニ係ルモ、實ニ此學校ヲ獨リ教會ノ用ニ適スヘキ者トナスノ權並ニ教會ノ官吏タルニ堪フヘキ人物ノミヲ擢テ、此學校ノ神道教師ト爲スノ權ハ、固ヨリ教會ノ掌中ニ在ル可シ、○但シ教會自ラ教徒學習ノ爲メニ、學校（所謂教徒

學校）ブリーステルセミナール（按）建造スルハ於テハ、國家ハ必ス教會ノ教育ニ著意シテ、其方法實ニ少年生徒ノ心志ヲシテ、全ク國家ノ法制ニ背カサラシムルニ足ルヤ否マ、且ツ其教育實ニ神道上ノミニ止マラス、俱ニ現世國ノ用ニ適スヘキ學科上ニモ及ホシテ、實ニ生徒ヲシテ實賢明ノ教士トナラシムルニ足ルノミナラス、必ス兼テ善良ノ國民トナラシムルニ足ルヤ否ヲ監督シ、而シテ國家若シ是等ノコトニ於テ不可アルヲ知ラハ、必ス之ヲ改革セシムルノ權アリ、○方今加特力教派ノビショップ（按）高官）カ爲ス如ク、單ニ神道ノミヲ以テ、少年ノ教徒ヲ教育スルハ、遂ニ成人ノ齒ニ屆ルニ至ルモ、殆ト世事ヲ解スル能ハサル者トナリ、且ツ其精神才智遂ニ穎敏ノ力ヲ失フ、全ク魯鈍ノ者トナルニ至ル可シ、但シビショップ斯ク神道ノミヲ以テ少年ノ教徒ヲ教育スルトキハ、此徒ノ敬神ノ志ハ益々濃厚トナレ可シト雖モ、之レカ爲メニ遂ニ世事ヲ解セサル魯鈍物トナルカ故ニ、自ラ凡人ノ信仰ヲ失テ、殆ト教化ノ務メヲ盡ス能ハサルニ至ル可シ、是レ即チ得失共ニ存スト雖モ、蓋シ得決シテ失ヲ償フニ足ラサルナリ、是ニ於テ教徒學校ヲ評スルニ適切ナル語アリト云フ、故ハ風ヲ播種シタリ、必ス暴風ヲ收穫スルニ至ル可シ（按）ビショップノ教育ハ微風ノ如シト雖モ、生徒ノ得業ハ、遂ニ暴風ノ如クナル可シト云フ意ト。

〔第七〕教會ノ所有ハ教會ノ用ニ充ツルカ爲メ教會ニ授與セラレタル者ナレハ、全ク教會ニ屬シテ自己ノ用ニ充ツルノ權ナキハ、固ヨリ當然ナリ、去レハ此所有ノ管理ヲ以テ全ク教會ニ任スヘキヤ將國家自ラ教會ヲ看護シ、之ニ代ハリテ其所有ヲ管理スヘキヤノ議論ニ至リテハ、古來未ダ曾テ一定ノ說ヲナス、○加特力教會ノ如キハ、古來自ラ其所有ヲ管理スルヲ緊要ノコト爲セシト雖モ、輒近ニ至リテハ、國家自ラ教會所有ノ事務ニ關スルヲ緊要トシテ、大ニ教會ノ權ヲ限制シ、以テ教會所有ヲ監督スルコトナリシカ故ニ、教會此事ニ於テハ、已ムヲ得ス國家ノ指令ヲ受クルニ至

レリ、然ルニ波羅特士且教會ノ如キハ、自己ノ現世ニ於テ得タル所有、按一永遠不滅ノ天國ニ於テ上ノ安樂幸福ヲ云フナリ、テ管理スルノ權ハ、古來全ク國家ニ委託シ、而シテ偏ニ國家ニ依頼シテ其所有ノ看護ヲ請願シテ、去レ而今時ニ在リテ、教會ノ所有ハ、必ス先ツ教會ノ管理處分ニ任シテ、國家ハ唯其管理ノ方法及ヒ其増進ノ景況ヲ監視シ、而シテ教會若シ他事（按）教務ニ屬セサル事ヲ云フ、ニ於テ派費ヲ爲スコトアルハ、必ス之ヲ禁止スルノ權ヲ握ルノ法ヲ立ツルノ最モ緊要ナル可シ、

（第八）凡ソ學校ニ於テ、幼童ヲ教導スルコト、或ハ成人年齒ニ屆レル男ノ婚嫁ヲ爲スコト等ハ、教國二會ノ俱ニ最モ關係スヘキ者ナリ、是故ニ國家ハ宜シク此等ノ事ニ監督スヘシ、教會ハ宜シク此等ノ事ヲ審願ス可シ、但シ是等ノ事件ニ於テ、國家ノ權ト教會ノ權トヲ分別スルハ實ニ難シ、若シ此二權ヲ全ク離分セント欲スルハ、恐テクハ甚ク害アル可シ、蓋シ教國二會相結ヒ相謀リテ是事スルニアラサレハ、決シテ奏功アル可ラサレハナリ、○學校教導ノコトニ就テハ、殊ニ下款ニ於テ論ス可シ、婚嫁ノコトハ既ニ論說セリ、（卷ノ二）十九款ヲ參看スヘシ、○凡ソ是等ノ事ニ係ル法ヲ示令シ、及ヒ之ヲ保護スル等ノコトハ、國家殊ニ之ヲ掌ルヘク、又是等ノ事ヲシテ倫理ニ協ヒ、神道ニ合セシムル等ノコトハ、教會殊ニ之ヲ掌ルヘシ、

（第九）所謂國家ノ改正權利（按）國家自己ノ權ヲ以テ教會ノ改正ヲ謀ル權利ヲ云フ）ナル者アリ、而シテ之ヲ或ハ國家ノ監督權利ト相合スヘシト云ヒ、或ハ相分ツヘシト云フノ說アリ、此語ハ元來第十六世期教會改正ノ時ニ始メテ起リ、而シテ殊ニ波羅特士且ノ黨派國家ノ爲メニ謀リテ、國家ニ教會改正ノ大權ヲ委テタリ、蓋シ波羅特士且派國家ノ權力ヲ假リテ、舊派（按）加特力派ヲ云フ、ニ抗抵シ、以テ教會改正ヲ遂ケント欲シタレハナリ、加之當時加特力派ニ拘泥セル各國ト雖モ、亦此ノ如キ權利（按）改正權利ヲ云フ）ヲ握リタリ、但シ波羅特士且國ノ權利ニ比スレハ、大ニ限制

セラル、所アリキ、○加特力國及ヒ波羅特士且國、共ニ唯教會自己ノ操行ヲ放棄セス、自ラ改正ヲ謀ラサル時ニ於テノミ、國家教會ニ代ハリテ、改正ノ權利ヲ施行スルヲ以テ當然ト爲シタリ、後世國家ノ專權ヲ貴フノ論盛ナルニ至ルニ及ヒ、國家ノ非常權ナル此改正權利ヲ以テ、遂ニ國家ノ當然施行スヘキ常權ノ如クナリ、而シテ國家ハ必、此大權ヲ以テ、教會ヲ制馭スヘキ者ト爲サント欲スルニ至レリ、

眞誠ノ改正權利ハ元來教會ノ掌握スヘキ者ナリ、故ニ教會ノ改正ニ就テハ、教會ノ權國家ノ權ヨリ更ニ強大ナルヘキコト、固ヨリ當然ナリ、凡ソ眞誠ノ改正權利ト稱スル者ニ二種アリ、其一ヲ改正ノ陰權利及ヒ陰義務トス、即チ時勢ノ變遷ニ由テ生シタル教會ノ弊害、或ハ其禁戻ナル處分等ヲ改正スルヲ云フ、其二ヲ改正ノ陽權利トス、即チ時勢開明上進ノ度ニ隨テ、更ニ教會ノ完全具備ヲ求ムルヲ云フナリ、（按）蓋シ二種共ニ必ス先ツ教會ノ自ラ掌ルヘキ所ナリ、○然ルニ國家ハ唯此改正ヲ擁護補助スルノ權アルノミ、蓋シ國家ノ之ヲ擁護補助スルヤ、決シテ自ラ邦土教會ノ門徒トナリテ之ヲ爲スニアラス、若シ教會ノ風俗良善ヲ失フコトアルハ、遂ニ國家風俗モ亦敗壞スルニ至ランコトヲ恐ル、ト及ヒ國家ハ諸會社若シ暴戻ノ處分アルハ、則チ固ヨリ之ヲ防制スルノ權ヲ握レハナリ、凡ソ教會若シ熱眠スレハ、國家ハ必ス之ヲ醒起シ、教會若シ沈没スレハ、國家ハ必ス之ヲ扶起セサル可ラス、國家敢テ教會ヲ逐フテ其地位ヲ奪フカ如キハ、決シテ許ス所ニアラスト雖モ、其力ノ及フヘキ限りハ、專ラ正義公道ノ權柄ヲ以テ教會ヲ匡救スルヲ要ス、

長川新吾 校

國法汎論卷之九 下 目錄

- 第八款 國家ト學術トノ關涉
- 第九款 國家ト人民學校トノ關涉
- 第十款 職業學校、工藝學校、及ヒ學者學校
- 第十一款 大學校
- 第十二款 集賢館

國法汎論卷之九下

瑞士

イ、カ、ブルンチユリ 著
加藤 弘 之 譯

第八款 國教ト學術トノ關涉

デル、スタート、イム、ヘルヘルトニス、ツ
ール、サッセンシャフト、ウノド、クノスト、

〔第一〕國家ト學問トノ關涉ハ、神道トノ關涉ヨリモ、更ニ、親密ナリト雖モ、國家ハ學問ノ旨意上ニモ、亦敢テ關スルノ權ナシ、然ルニ國家學問ノ旨意上ニ關スルヲ以テ其本務トナシ、且學問ヲ以テ、國家ノ特別ニ掌ルヘキ者ト爲セル國往々之レアリ、支那ノ如キ最モ然リトス、中央ノ天國、(ヒムメルシニス、ライヒ、デル、ミッテ)按中國ノ天下ト云フノ義歟、ニテハ其皇帝ヲ以テ、兼テ學問ノ大權ヲ握レル大主トシ之ヲ尊敬シ、且、國家碩學鴻儒等ヲ擧ケテマンダリント稱シ、而シテ其階級ヲ分段シテ、尊卑ヲ定ムルノ權、他諸官吏ヲ任スルノ權ト全ク相同シ、○此國臣民ノ學問ヲ爲スヤ、政府確定スル所ノ方法規矩ヲ固守セサル可テサルノ法アリ、故ニ苟シテ此法ニ背ク者アルハ、則テ國法ニ背ケル罪犯トナルナリ、但シ斯ク學問ヲ束縛スルハ、元來國家ノ權ニ在ル可キコトニアラスシテ、大ニ學問ノ學問タル所以ノ理ヲ損害スル者ト云フ可シ、是ニ於テ學問ハ遂ニ淺近ニ止マリ、輕薄ニ陥リテ、決シテ性理ノ蘊奧ヲ詳密ニ探討シ、及ヒ古今ノ沿革ヲ自在ニ觀察スルノ用ヲ爲スニ足ラス、○凡ソ人ノ精神ハ、益々眞確ノ理ヲ究メント欲スル者ナレハ、必ス人々ニ一身ノ自由權ヲ許シテ、其精神ヲ自由ニ發動セシムルヲ甚緊要ナリ、蓋シ一身ノ自由權ハ、決シテ國家ノ授クル所ニアラス、又命スル所ニアラス、實ニ天神ノ人性ニ賦與スル所ナリ、學問モ亦神道ノ如ク、決シテ國家ノ造爲啓發ニ出ルニアラス、獨リ永遠不滅ノ人魂、常ニ天神ノ眞理ヲ渴望シ、之ヲ要求セント欲シテ、勉力勵精スルヨリ護ル所ノ果實ナルノミ、是故ニ國家ハ敢テ學問ヲ制馭スルノ權ナキコト、猶教道ヲ制馭スルノ權ナキカ如ク然リ、國家ハ敢テ學問ノ旨意ヲ制定スルノ權柄、及ヒ權利ヲ握ル能ハス、又人々眞理ヲ要求セント欲スル心志ヲ防制スルノ權利ヲ握

ル能ハス、人々學問ノ自由權ハ、實ニ天神ノ設立スル所ナリ、故ニ國家ハ必、此權ヲ敬重スルノ義務ヲ負擔セサル可ラス、○

○スビノサ(蘭人、一千六百三十二年ニ生レ、七十七年ニ死ス)カ著セル政治學ノ書ニ云、「人或ハ賞酬ヲ以テ勸誘セラレ、或ハ寵罰ヲ以テ驚嚇セラルト云フ、此、決シテ爲シ能ハサル所行アリ、而シテ此所行ハ、總テ政府ノ權利ヲ以テ制シ得可キ者ニアラス、蓋シ人タル者ハ、決シテ其思考ノ力ヲ放擲スル能ハサル者ナリ、例ヘハ或ハ賞酬ヲ以テシ、或ハ寵罰ヲ以テシテ、人ヲシテ「全部」ハ局部ヨリ大ナラサル可シト、思考セシメント欲スルモ、豈得ヘキノ理アラソヤ」ト、○普魯士ノ國憲第二十章ニ云、「學問ノ事ハ人ノ自由ニ任スト、輿地利ノ國憲ニ載スル所モ亦同シ、

〔第二〕然ルニ又國家ハ、學問ヲ全ク度外ニ措クヲ良好トシテ其制度ヲ立テント欲スルノ國盛之レアリト雖モ、是又決シテ取ルヘキノ論ニアラス、蓋シ國家ノ眞理、近世始テ明確トナリ、及其權柄始メテ整備セシハ、殊ニ中古ノ世ニ東縛セラレシ學問、近今ニ至リ漸ク羈縻ヲ脱シテ、自由ニ其力ヲ伸フルヲ得シニ由ルナリ、○方今國民ノ過半ハ殆ト學問ニ從事セズ、且ツ學問ノ功益ヲ悟ラサルカ如シト雖モ、殊ニ國事ニ關係アル民人(按)立法府議員ノ選擇ニ預ルヲ得ル民人ヲ云フ、即チ中等以上ノ民人ナリ)ノ如キハ、直ニ學習ノ事實ヲ獲テ、開化ノ人トナルコト、敢テ辨テ俟タズ、加之、下等貧賤ノ民衆スラ、尙自ラ學問ノ庇蔭ヲ蒙リ、且ツ隨テ學問ノ今日ニ功益アル所以ヲモ知ルニ至ルコト亦敢テ疑フ可ラス、○學問ノ國家及ヒ民人ニ緊要ナルヤ、此ノ如ク其大ナリ、然ルニ國家ハ學問ヲ度外ニ措テ、敢テ其勸導ニ勉勵スルヲ要セスト云フテ可ナランヤ、

〔第三〕是故ニ國家ハ必、學問ニ心ヲ用ヒテ、其上進ヲ補助セサル可ラス、中古ノ世ニハ教會專ラ學問勸導ノ一ニ從事シ、學校書院ヲ建造シテ之ヲ管轄シ、及ヒ書籍ヲ公布スル等ノ一ヲ掌リタリキ、

是故ニ中古ノ世ニ於テハ、教徒ノ學問勸導ニ功勞アリシコト、實ニ少カラスト雖モ、教徒ハ獨リ神道ノ稀少ナル區域内ニ於テ、人智ノ開明ヲ謀ラント欲シ、而シテ若シ神道ノ旨意ニ依ラス、他方ヲ以テ真理ヲ探求セント欲スル者アルトハ、大ニ之ヲ惡テ妨礙セシカ故ニ、實ニ學問ノ自由權ナル者ハ、絶テ之レアラサリキ、

然ルニ第十六世紀(一千五百年代ヲ云フ)ニ於テ、教會ノ改正アリシヨリ、學問ノ景況全ク一變セリ、蓋シ改正派專ラ精神ノ自由ヲ主張シテ、神道ノ宿弊ヲ矯正セシヨリ、學問ノ一モ亦必ス自由ナラサル可ラサルノ論、及ヒ勸學ノ事務ハ國家宜シク之ヲ掌ル可シト云フノ論、盛ニ發生シ、遂ニ全ク實際ニ行ハル、ニ至リタリ、但シ學問ノ景況一變セシハ、特ニ教會ノ改正ノヨリ由リテ然ルニアラス、既ニ其以前ニ於テモ、神道ノ教導ヲ旨トセス、專ラ他學科ノ教導ヲ旨トセル學校全クナカリシニハアラス、且ツ教會改正ノ後ニ至リテハ、絶テ改正ニ關係セサル加特力國ニ於テモ、亦同ク學問ノ景況變化スルニ至リタリ、○是故ニ往昔ハ教會專ラ主トナリテ、勸學ノ事務ヲ掌リ、國家ハ僅ニ之ヲ補助スルニ過キサリシカ、景況變化セシ以來ハ、國家專ラ主トナリテ、勸學ノ事務ヲ掌リ、教會ハ却テ之ヲ補助スルニ過キササル者トナレリ、即チ教會學問ヲ制馭スルノ權廢滅シテ、國家學問ヲ監督スルノ權起立シタルナリ、而シテ此監督ノ權ハ學問ヲ制馭スル權ト、全ク學問ヲ度外ニ措テ關セサル制トノ正中間ニ位スル者ナリ、○然ルニ二三ノ經綸者、スターツマン(按)經綸ノ材能アル人ヲ云フ)ノ論ニ、國家ハ銳意ニ勸學ニ心ヲ用フル(學校ノ外ニモ亦(按)學者ヲ獎勵シテ、專ラ眞確公正ノ道理ヲ照明ニナスノ書ヲ著述スルコトニ、勉力セシムル等ノ類ヲ云フ歟)ノ權ヲ有スルコト、甚ダ緊要ナリト云ヘリ、○去レ此權ヲ以テ、國家當然ノ權利トナスニ至ルハ、蓋シ後世ニ在ラン、

○ペルツ(獨乙人、一千七百九十五年ニ生ル)カ著セル、普國ミニステルス(一七五十七年ニ生レ、八百三十一年ニ死ス)ノ傳ニ、スターインノ論說ヲ舉ク、曰ク、方今ノ世ハ萬事暴權ト

壓抑トニ由ラサル者ナシト雖モ、〔按〕當時獨乙國全ク佛國ノ制馭ヲ受ケタレハナリ、此事自ラ廢絶シテ眞ニ自由權ノ行ハル、世、再ヒ來ルヲ渴望セサル可ラス、是故ニ人君タル者ハ、文學ヲ勸メ、教育ヲ勉メテ、以テ天下ノ公論ヲシテ、純清活潑ナラシムルヲ最緊要ナリ、○獨乙國ノ如キハ、人々學問ヲ嗜ムル心甚ク深ク、且ツ公學校ノ教育ヲ受クル人、甚ク多キカ故ニ、著述者ノ邦國ニ利害アル、他邦ヨリモ更ニ大ナリ、蓋シ獨乙人學問ヲ嗜ムノ深キハ、元來其性情靜穩ニシテ、且ツ思慮深密ナルト、及ヒ國憲ノ善良ナルトニ由ルナリ、且ツ獨乙ニテハ、學校書院ノ數許多ニシテ、學者ノ事業ヲ要スルコト多キカ故ニ、著述者ノ員數、他邦ヨリ更ニ多シ、是故ニ人君タル者ハ、著述者等ヲ獎勵シテ、専ラ眞確公正ノ道理ヲ世ニ昭明ニナスコトニ從事セシメ、以テ方今ノ暴權壓抑ヲ可トナセル暴惡說ヲ防制セシムルヲ要ス。

〔第四〕國家學問ノ事務ヲ掌ルノ方法數種アリ、而シテ或ハ陽ノ方向ヲ以テ勸導ヲ旨トスル方法、ホシチ一ヘ、ヘルデルン、デル、リヒツング、〕アリ、或ハ陰ノ方向ヲ以テ、限制ヲ旨トスル方法ヲガチ一ヘ、シヨレンケンデ、リヒツング〕アリ、

〔甲〕國家學事ニ功績アル者ニ榮譽ヲ授與スルキハ、其益甚ク少クラス、國家此政ヲ施行スルキハ、先自己ヲ尊敬シ、及ヒ自己ノ品行ヲ貴ウスルニ足リ、且ツ實ニ本人ノ功績ヲ賞酬シ、併セテ他人ヲ獎勵スルニ足ル、○普魯士國ノ將々獨乙全國ノ首領クアントスルノ勢ヲ得シハ、殊ニ學問ヲ尊重シ、及ヒ國內ニ偏ク學校ヲ興立シテ、以テ専ラ學問ノ勸導獎勵ニ心ヲ用ヒシカ故ナリ、然ルニ塊地利ハ概近獨乙ノ學問ヲ勸ムルコトニ心ヲ用ヒス、且ツ東方諸國〔按〕歐洲東方ヲ云フ、〕ヲ教化スルコトヲ怠リシカ故ニ、悲シイ哉遂ニ獨乙第一等ノ開明國タル聲譽ヲ墮スニ至レリ、○凡ソ人ノ精神ハ本人能ク之ヲ用ケルノ術ヲ如クハ、即チ自己ノ利トナリ、本人若シ能ク之ヲ用ケルコトヲ知ラザレハ、即チ

自己ノ害トナル者ナリ、學問モ亦然リ、國家能ク之ヲ用ケルノ術ヲ知レハ、宛モ忠勇果敢ノ強兵ニ異ナラスト雖モ、國家若シ之ヲ蔑視シテ用ケザルキハ、宛モ強ハ當ル可ラサル敵軍ノ如クナルヘシ、但シ國家學事ニ功績アル者賞譽スルニ就テハ、必ク先宜シク其眞偽ヲ辨別ス可シ、國家ハ唯公衆ノ安寧ヲ増進シ及ヒ眞確ノ理ヲ傳播シタル者ヲ賞ス可シ、凡ソ學事ノ功績愈盛ニ愈大ニシテ、國家及ヒ民人ノ爲メニ愈有益ナルニ隨テ、國家ハ愈高大ノ賞譽ヲ與ヘサル可ラス、○一個人精神ノ自由ヲ敬重スル國ニ於テハ、人動モスレハ、他人ヲ欺騙スル巧言ヲ吐キ、他人ニ疑惑ヲ生セシムル虛説ヲ唱ヘ、或ハ妄ニ他人ヲ毀謗非議スル等ノコトナキ能ハサルヲ以テ、國家ハ能ク意ヲ用ケテ之ヲ辨識ス可シ、而シテ縱令ヒ衆人等ノ惡所行ヲ以テ、是トスルコトアリ、國家ハ決シテ之ヲ賞譽ス可ラス、國家ハ敢テ是等ノ所行ヲ賞譽セザルヲ以テ、其義務ト爲サ、ル可ラサルノ理ハ、宛モ上ニ舉ケタル眞誠ノ功績ヲ賞譽スルヲ以テ、其義務ト爲サ、ル可ラサルノ理ト相同シ、

〔乙〕凡ソ學問ヲ勸導セント欲セハ、之レカ爲ニ數種ノ材料ナカル可ラス、是故ニ國家ハ其力ニ應ジテ、學習ノ用ニ供スヘキ諸器械諸品等ヲ備ヘテ、自由ニ之ヲ使用セシメ、或ハ學問上ノ經驗、試習セシメ、世ニ公布セント欲スル者アリテ、國家ノ補助ヲ要スルコトアレハ、國家公財ヲ捐テ、其業ヲ補助スルヲ好ト爲ス、

〔丙〕國家大學校ヲ建立シ、及ヒ其費用ヲ給ヒテ、大ニ知識ヲ開明スルノ處ト爲ス、但シ專ニ就テハ未款〔按〕即チ第十二款ナリ〕ニ於テ詳論ス可シ、○教部ニニステル〔按〕教導及ヒ學術ノ事務ヲ掌ル〕ハ、學問講求ノ方法如何ニ拘ハラズ、常ニ能ク之ヲ注視シ、及ヒ國內ニ於テ、學事ニ就テ、緊要ノ事生スレハ悉ク之ヲ報知セシメ、而シテ其事ノ次第景狀ニ著眼シ、及ヒ其事ノ國家民人ニ如何ナル關係ヲ生スヘキヤチ、探索スルヲ以テ、其職掌ト爲ス可シ、是レ即チ審ニ是等ノコトヲ自己ノ帳簿ニ記載スルカ爲メノミナラス、尙適宜ニ自己ノ事務ヲ施サソカ爲ナリ、

〔丁〕國家ハ唯功益アル學問ノミヲ勸導スヘキコト固ヨリ論ヲ俟ラス、去レヒ縱令ヒ功益ナク、或ハ眞確ナラザル可ク見ユル學問ト雖モ、亦必ス之ヲ保護セサル可ラス、○國家ハ各人奉スル所ノ神道ヲ

保護セサル可ラサルカ如ク、(但獨)基督教ヲ愛敬ス)學問ニ就テモ亦其人ノ自由權ヲ保護シテ、非
 議者、或ハ賤民等ノ爲メニ妨害ヲ受ルコトナカラシムルヲ要ス、縱令其學問理ニ合セサルコトアリ
 亦然リ、○彼ノ一人タル者ハ、自ラ眞確ナリトセル事ヲ自由ニ道ニ出スノ權利アリ、何者、人クル者ハ
 斯爲スヘキ義務ヲ負擔スレハナリト云ヘル語(按)本卷第二款(第二)ニ出テタル事ナリカ語ト
 文章少シク異ナレハ、恐ラクハ此語ヲ引キシナルヘシ、ハ此事ニモ正サニ適合ス、
 (戊)去レハ國家若シ陋惡鄙劣ナル學問ノ、公衆ノ爲メニ妨害アルヲ知ルルハ、彼限制ヲ旨トスル方
 法ヲ以テ、之ヲ防阻セサル可ラス、但シ唯實ニ國家ノ健全安寧、及ヒ民人ノ風俗行狀ノ爲メニ大害ア
 ルコト明瞭ニシテ、且其害決シテ自然ノ勢ニ由テ、壓制セラレサル時ニアラサレハ、國家敢テ自ラ
 手ヲ下シテ此ノ如キ學問ヲ停止セサルヲ要ス、何者、國家學問ニ手ヲ下スノ方法、若シ良善ナラ
 サルコトアル時ハ、實ニ學問ノ弊害ヲ除去スル能ハサルノミナラス、却テ妨害スルコト多クレハナリ、
 ○但シ若シ一個人、或ハ會社ノ學業、實ニ公衆ノ爲メニ妨害アルコト明瞭トナルニ至リテハ、國家速
 ニ從來ノ保護勸導ヲ止ムルハ、固ヨリ國家ノ全權ニ在リ、若シ此ノ如キ學業ヲシテ、愈盛ニ國家ノ
 法制ヲ毀損シ、公衆ノ安寧ヲ妨害セシメントカ爲メニ國家ヲシテ己レカ懲戒ニ均シキ學業ノ勸導ニ、公
 財ヲ給セシメント欲スルノ說アレハ、是レ大ナル謬見ナリ、

第五)國家ト技藝(クンスト)按)通常、建築、彫像、圖畫、音樂、詩歌等ヲ云フ)トノ關係モ、亦學問
 トノ關係ニ相同シ、故ニ國家ハ、敢テ技藝ノ旨意ニ關スルヲ得ス、唯技藝ニ係レル事務ヲ掌ルヲ
 得ルノミ、其技藝ノ世上ニ利害アルハ、學問ニ比スレハ、更ニ少シト雖モ、其功用ノ輒ク人情ヲ
 感動シ、及ヒ其體裁ノ美觀ニメ、速ニ人心ヲ娛マシムルハ、遂ニ學問ニ優ル、)建築雕刻ニ係ル物ハ
 敬神禮拜ニ於テハ、天神ヲ畏敬信仰スル赤心ヲ表スルニ足リ、國事及ヒ世事ニ於テモ亦甚佳麗ナ
 ル裝飾トナリ、及ヒ人心ヲ感激セシムルニ足ル、○國家ハ先ツ自己ノ形貌ヲ佳麗ニセサル可ラス、故
 ニ技藝ヲ以テ緊要トナスハ、固ヨリ當然ノ理ナリ、(按)蓋シ王居、政堂、城郭、堡寨等皆佳麗ナラサ

レハ、儼然クハ國威ヲ輝カスニ足ラサルヲ以テ斯云フ歟、(神道ノ技藝)レリギエーセ、クンスト
 (按)神道ノ祭典等アルニ方リテ催ス所ノ音樂演戲ノ類ヲ云フ歟、猶再考スヘシ、)既ニ數百年前ニ
 於テ、大ニ進歩シテ、極盛ノ地位ニ至リタリ、然ルニ國家ノ技藝(スタール)クンスト(按)國家
 盛典等アルニ方リテ、催ス所ノ音樂演戲ノ類ヲ云フ歟、猶再考スヘシ、)モ、亦太古希臘及ヒ羅馬ニ
 於テハ、神道ノ技藝ト同シク、之ヲ敬重シテ、其進歩ニ心ヲ用ヒシカハ、其後ニ至テハ、大ニ衰廢セリ、
 然ルニ近今再之ヲ興復セント欲スルニ至リ、且國家及ヒ技藝者、次第ニ此技藝ノ華麗ナラサル可
 ラサル所以ヲ悟ルニ至レリ、

往古雅典(按)希臘ノ一邦)ノ演戲ハ、政教ヲ裨補スルヲ旨トシテ催シタル者ナリキ、然ルニ近今
 ノ演戲ハ、殆唯私人ノ歡樂ニ供スルヲ旨ト爲スニ過キス、是故ニ方今邦國演戲ト稱スル所ノ演戲
 アリト雖、其實ハ決シテ然ラス、唯希臘ニ國事ニ益アルノミ、○方今邦國ノ大祭アルニ方リテハ、野
 鄙滑稽ナル音樂演戲甚盛ニシテ、真正ノ音樂演戲ハ、殆之ニ壓倒セラ、ル勢ヒナリ、
 衆民ヲシテ偉功盛業ヲ追想セシメント欲セハ、之レカ爲メニ旌績標(モスマント)ヲ建立シ、或ハ巨
 大佳麗ノ造營ヲ爲スニ如クハナシ、去レハ偉功盛業ヲ不朽ニ傳ヘンカ爲メニハ、國家必、旌績標ヲ建
 立シ、或ハ巨大佳麗ノ造營ヲ爲ス、實ニ緊要ナリト云フノ理ニ至リテハ、今時猶未、文明世界ニ
 偏シ明瞭トナレニ至ラス、(按)文明國ノ人民ト雖、未、悉、此理ヲ悟ルニ至ラスト云フノ意ナリ
 ○ヤーン 獨乙人、一千七百七十八年ニ、著書ニ云「各種ノ旌績標ハ大業及ヒ其賞譽ノ表率ナリ
 一ト、生レ、八百五十二年ニ死ス、」

第九款 國家ト人民學校トノ關係、
 (第一)幼童ハ、天然ニ其父母若クハ其親戚ノ管轄ニ屬スル者ナレハ、是等ノ徒、宜シク最初ノ教育
 ニ心ヲ用非可キコト、固ヨリ當然ニシテ、國家ハ敢テ最初ノ教育ニ心ヲ用非ルノ責ヲ負荷セズ、但シ貧

窮ナル孤兒ノ如キハ、國家若クハ邑ニ於テ、之ヲ教育スルコトニ必チ用非サル可ラスト雖モ、實ニ父母
 親戚ノ教育ニ模倣スルハ、最モ難クシテ、遠ク之ニ及フ能ハス、唯國家若クハ邑ニ於テ、實ニ綿密ニ
 意ヲ用非、深切ニ教育スルコトハ、稍父母親戚ノ教育ニ類似スルヲ庶幾ス可シト雖モ、實ニ全ク之ヲ
 模倣スルハ、決シテ能クス可キニアラス○蓋、父子相愛シ、血肉相親ヒ、親戚相親ムノ志情ハ、實ニ
 特殊ニシテ、國家ノ制度ト雖モ、決シテ之ニ模倣ス可ラサル者ナリ、往古斯巴爾達(按)希臘ノ一國
 一ニ於テハ、幼童七歳ニ屆レハ、必、父母ノ手ヲ離レテ、官府ノ教育ヲ受クル制度ナリシカ、蓋シ當
 時斯巴爾達國ノ政體、頗ル類セシカハ、民人ヲシテ強クテ身命ヲ國事ニ抛クシムルニアラサレハ、
 政體復シ盛強トナル能ハサルヲ慮リテ、此ノ如キ制度ヲ立テシナリ、而シテプラトン(按)希臘ノ碩
 學、紀元前四百二十九年ニ生レ、三百四十八年ニ死ス。モ亦大ニ之ヲ稱譽セシト雖モ、決シテ良善
 ノ制度ト云フ可ラス、○佛國一千七百九十三年(寬政五年)ニ立テシ議會ニ於テ、ミセル、レメル
 ナー(一千七百六十年ニ生レ、九十二年ニ殺サル、佛國頗爾黨巨魁ノ一人ナリ)モ亦是ニ類セル制
 度ヲ立テ、國家其權ヲ以テ、國內ノ幼童ヲ教育スヘキノ議ヲ起セリ、是ニ於テ、ロベスピエールモ
 亦大ニ之ヲ讚美シテ、ミセル、レメル、レメル、レメル、レメル、レメル、レメル、レメル、レメル、レメル、
 へリ、(按)佛國頗爾黨ノ時ニ於テハ、神道ヲ廢滅シ、其神ヲ蔑如シテ、人ノ聖靈ヲ以テ神ト爲セリ、
 故ニ此ノ如ク云ヒシナリ)凡ソ此議ニ從ヘハ、滿十二歳ニ屆レル男子、滿十一歳ニ屆レル女子ハ、
 悉皆公有ノ教育館ニ入ラシメ、公費ヲ以テ、之ヲ同式ニ育成スルヲ最モ緊要ト爲セリ、蓋シ親戚ヲ以
 テ彼ノ同一 身分、權利財產等ヲ悉皆同一トナシテ、絶エテ差異ナカラシメテト欲シタリ、
 犧牲ト爲スヲ緊要ト爲セシナリ、(按)天下兆民ヲ悉皆同一ナラシメ、之ヲシテ專ラ公共ノ事ニ盡
 カセシムルヲ旨トシテ、各人、各親戚ヲシテ敢テ各種ノ私事ヲ爲

カシメサラント欲シ、然レモ、議會遂ニ亡滅スルニ至リテ、此議モ亦共ニ亡滅シタリ、
 一身ノ自由權及ヒ父子親戚共ニ私事ヲ營ムノ權利ハ、全ク天神賜フ所ノ權利ナレバ、國家ノ之ヲ保
 護スルハ、其當然ノ義務ナルニ、國家却テ自ラ此權利上ニ手ヲ下シテ、之ヲ制セシト欲スルハ、大
 スル能ハサルコアル歟、若クハ之ニ從事スルコト怠ル時等ニ於テハ、國家自ラ是等幼童ノ教育ニ
 心ヲ用非ルコト甚ク緊要ナルカ故ニ、此事ニ於テ、當然ノ權利ヲ有スト云フ可シ、
 (第二)但シ近世ニ至リテハ、國家公衆利益ノ爲メ、教育ノ一端ヲ掌ルコトナリキ、凡ソ中古ノ世ニ於
 テハ、學校ハ全ク教會ノ管轄セル者ナリシカ、次第ニ國家ノ管轄ニ歸シ、加之、輒近國家漸ク管學ニ
 心ヲ用非、力ヲ盡シ、カ故ニ、遂ニ學問上ノ大權力ヲ握ルニ至リシカハ、教會ハ遂ニ之ヲ防拒スル
 コト能ハサリキ、蓋シ輒近ニ至リテハ、教會甚ク學問ノ務ヲ怠リ、且、學校ヲ以テ獨神道ノ用ニ供スル
 キ者ト爲シタレハナリ、而シテ此事ニ於テハ、波羅特士臣教會ノ罪モ、亦決シテ、加特力教會ニ讓ラ
 サリキ、○教會教育ノ事ヲ掌リシ間ハ、全ク人民學校ノ教育ヲ怠レリ、故ニ輒近國家此事ヲ掌ルニ
 及ヒテ、始テ此學校ノ教育ニ心ヲ用非ルコトナレリ、但シ學者學校(ケレ)ルテモ、
 如キハ、教會既ニ自ラ心ヲ用非シト雖モ、實ニ神道ヲ以テ、大ニ之ヲ束縛限制シタリキ、
 人民學校ノ旨トスル所ハ、幼童ヲ教育シテ、實ニ人タルニ進チサレトナシ、邦國人タル者トナシ、
 及ヒ敬神人タル者ト爲スヲ要ス、但シ當然父母親戚ハ、教育ニ屬スルコト、及ヒ特ニ某一職分ニ、
 係スルコトハ、決シテ人民學校ノ管轄スル所ニアラス、人民學校ハ唯國民一般互相ノ爲メニ必要ナル
 コトヲ以テ、教育ス可キナリ、○方今開明ノ世ニ在リシハ、諸般ノ事、頗ル精密ニシタレバ、故ニ各人必ス其
 國語ヲ誦讀シ、書記シ、及ヒ日常平易ノ算計ヲ爲シ得ルコト、蓋シ緊要トナリ、而シテ各人等ノ事ヲ爲ス
 ヤ、必ス容易輕快ナラザレハ、決シテ今日ノ用ヲ濟スニ足ラス、蓋シ是等ノ事ハ、即チ人民學校諸學科
 ノ基礎トナリ、及ヒ後來諸大學科ニ於テ、人智ヲ琢磨スル爲メ、最モ要ナル預科トナルヘキ者ナ
 リ、是故ニ國家若クハ邑ハ、人民學校ニ於テ、幼童ヲ同一ニ教育シ、而シテ至賤ノ者ト雖モ、共ニ教育

窮ナル孤兒ノ如キハ、國家若クハ邑ニ於テ、之ヲ教育スルコトニ必チ用非サル可ラスト雖モ、實ニ父母親戚ノ教育ニ模倣スルハ、最モ難クシテ、遠ク之ニ及フ能ハス、唯國家若クハ邑ニ於テ、實ニ綿密ニ意ヲ用非、深切ニ教育スルコトハ、稍父母親戚ノ教育ニ類似スルチ庶幾ス可シト雖モ、實ニ全ク之ヲ模倣スルハ、決シテ能クス可キニアラス○蓋シ父子相愛シ、血肉相親ヒ、親戚相親ムノ志情ハ、實ニ特殊ニシテ、國家ノ制度ト雖モ、決シテ之ニ模倣ス可ラサル者ナリ、往古斯巴爾達(按)希臘ノ一國ニ於テハ、幼童七歳ニ屆レハ、必シ父母ノ手ヲ離レテ、官府ノ教育ヲ受クル制度ナリシカ、蓋シ當時斯巴爾達國ノ政體、頗ル衰頹セシカハ、民人ヲシテ強クテ身命ヲ國事ニ抛クシムルニアラサレハ、政權復シ盛強トナル能ハサルチ慮リテ、此ノ如キ制度ヲ立テシナリ、而シテプラトン(按)希臘ノ碩學、紀元前四百二十九年ニ生レ、三百四十八年ニ死ス)モ亦大ニ之ヲ稱譽セシト雖モ、決シテ良善ノ制度ト云フ可ラス、○佛國一千七百九十三年(寬政五年)ニ立テシ議會ニ於テ、ミシェル、レメルナ(一千七百六十年ニ生レ、九十二年ニ殺サル、佛國顯聖黨巨魁ノ一人ナリ)モ亦是ニ類セル制度ヲ立テ、國家其權ヲ以テ、國內ノ幼童ヲ教育スヘキノ議ヲ起セリ、是ニ於テ、ロベスピエールモ亦大ニ之ヲ讚美シテ、ミシェル、レメルナノ此ノ如キ議ヲ起セシハ、蓋シ人ノ聖靈ノ致ス所ナリト云ヘリ(按)佛國顯聖ノ時ニ於テハ、神道ヲ廢滅シ、其神ヲ蔑如シテ、人ノ聖靈ヲ以テ神ト爲セリ、故ニ此ノ如ク云ヒシナリ)凡ソ此議ニ從ヘハ、滿十二歳ニ屆レル男子、滿十一歳ニ屆レル女子ハ、悉皆公有ノ教育館ニ入ラシメ、公費ヲ以テ、之ヲ同式ニ育成スルチ最モ緊要ト爲セリ、蓋シ親戚ヲ以テ彼ノ同一身分、權利財產等ヲ悉皆同一トナシテ、絶エテ差異ナカラシメテト欲シタリ

(按)佛國顯聖黨ハ、特ニ萬民同一ト云ヘルコト主張シテ、萬民ノノ神ノ犧牲ト爲スチ緊要ト爲セシナリ、(按)天下兆民ヲ悉皆同一ナラシメ、之ヲシテ専ラ公共ノ事ニ盡カセシムルチ旨トシテ、各人、各親戚ヲシテ敢テ各種ノ私事ヲ爲

サシメサラント欲シ、然レモ、議會遂ニ亡滅スルニ至リテ、此議モ亦共ニ亡滅シタリ、
 一身ノ自由權及ビ父子親戚共ニ私事ヲ營ムノ權利ハ、全ク天神賜マ所ノ權利ナレバ、國家ノ之ヲ保護スルハ、其當然ノ義務ナルニ、國家却テ自ラ此權利上ニ手ヲ下シテ、之ヲ制セシト欲スルハ、大ニ國法ノ理ニ背戾スル者ニシテ、其弊害モ亦少カラス、唯時アリ、父母親戚、其幼童ノ教育ニ從事スル能ハサルコトアル歟、若クハ之ニ從事スルコト怠ル時等ニ於テハ、國家自ラ是等幼童ノ教育ニ心ヲ用サルコト甚タ緊要ナルカ故ニ、此事ニ於テ、當然ノ權利ヲ有スト云フ可シ

(第二)但シ近世ニ至リテハ、國家公衆利益ノ爲メニ、教育ノ一端ヲ掌ルコトナリキ、凡ソ中古ノ世ニ於テハ、學校ハ全ク教會ノ管轄セル者ナリシカ、次第二國家ノ管轄ニ歸シ、加之、輒近國家漸ク管學ニ心ヲ用非、力ヲ盡シ、カ故ニ、遂ニ學問上ノ大權力ヲ握ルニ至リシカハ、教會ハ遂ニ之ヲ防拒スルコト能ハサリキ、蓋シ輒近ニ至リテハ、教會甚ク管學ノ務ヲ怠リ、且シ學校ヲ以テ獨リ神道ノ用ニ供スヘキ者ト爲シタレハナリ、而シテ此事ニ於テハ、波羅特士臣教會ノ罪モ、亦決シテ、加特力教會ニ讓ラサリキ、○教會教育ノ事ヲ掌リシ間ハ、全ク人民學校ノ教育ヲ怠レリ、故ニ輒近國家此事ヲ掌ルニ及ヒテ、始テ此學校ノ教育ニ心ヲ用非ルコトナレリ、但シ學者學校(ゲレール)トシテ、
 如キハ、教會既ニ自ラ心ヲ用非シト雖モ、實ニ神道ヲ以テ、大ニ之ヲ束縛限制シタリキ、人民學校ノ旨トスル所ハ、幼童ヲ教育シテ、實ニ人タルニシテ、
 及ビ敬神人タル者ト爲スチ要ス、但シ當然父母親戚ハ、教育ニ屬スルコト、及ビ特ニ某ニ職分ニ關係スルコトハ、決シテ人民學校ノ管掌ル所ニアラス、人民學校ハ、唯國民ノ一般互相ノ爲メニ必要ナルコトニシテ、教諭ス可キナリ、○方今開明ノ世ニ在リテハ、諸般ノ事、頗ル精密ニシテ、
 國語ヲ誦讀シ、書記シ、及ビ日常平易ノ算術ヲ爲シ得ルコト、甚タ緊要トナリ、而シテ各人、是等ノ事ヲ爲スヤ、必ク容易輕快ナラザレハ、決シテ今日ノ有用ヲ濟ス、不足トス、蓋シ是等ノ事ハ、
 基礎トナリ、及ビ後來諸大學科ニ於テ、人智ヲ琢磨スル爲メ、最モ要ナル預科トナルヘキ者ナリ、是故ニ國家若クハ邑ハ、人民學校ニ於テ、幼童ヲ同一ニ教育シ、而シテ至賤ノ者ト雖モ、共ニ教育

ヲ施シテ、遂ニ其才智ヲ育成スルノ政ヲ放擲スルヲ得ズ。○國家ハ此ノ如キ事務ヲ以テ、決シテ再
 ヒ教育ニ委託スルヲ許シ、何者上ニ舉クル所ノ誦讀、書記、算計等ノ如キハ固ヨリ神道ニ係レ
 ルコトニアラスシテ、全ク世俗ニ屬スルハ、實ニ明瞭ナレハナリ。往昔教育ニテ、専ラ教育ノ權ヲ握
 リシ頃ニハ、幼童ノ才智ヲ育成スルヲ旨トセシメテ、特ニ幼童ヲシテ、專ラ教育ノ事ニ練習セシム
 ルヲ旨トシ、或ハ之ヲ教會ノ用ニ役セシムルヲ旨トシテ、教育セシムル故ニ、幼童ノ才智、大ニ發達
 スルヲ得ザリシニ、輒近國家專ラ人民學校ノ教育ニ、心ヲ用キルニ至リシヨリ以來ハ、誦讀、書
 記、算計ノ初科、徧ク開明シテ、幼童ノ才智、大ニ發達スルヲ得ルニ至レリ。是レ蓋シ是等ノ初科、決
 シテ神道ニ係ルコトニアラスシテ、全ク世俗ニ屬スルコトナレハナリ。○但シ人民學校ニ於テ、幼童ニ誦
 讀、書記ヲ教授セシムルハ、唯衆民ニ有用ナル淺近平易ノ事理ヲ以テス可シ、凡ソ幼童ノ心志ヲ快活
 優美ナラシムルニ足ルヘキ事、幼童ヲシテ正善ノ徳ヲ愛慕シ父母ノ國ヲ親愛セシムルニ足ルヘキ
 事、日常平素ノ事ヲ辨識セシムルニ足ルヘキ事、及ヒ事ノ虛實ヲ識別スルノ眼力ヲ得ルニ足ルヘキ
 事、足ルヘキ事ノ如キハ、皆人民學校ノ教育ニ於テ、主旨トスル所ナリ。但シ大學科ノ一部ニ屬シテ
 幼童ノ了解シ難キ事、及ヒ徒ニ幼童ヲシテ尊大ノ心ヲ生セシムル事等ハ、決シテ教授ス可ラス。地
 理學、數學、及ヒ格物學等ノ一部分ニ屬シテ、專ラ議論ニ涉レル事等ハ、決シテ教授スヘカラス。人
 民學校ハ、尋常一様ノ實事ヲ教授スルヲ以テ主旨ト爲ス可シ、決シテ學者ノ議論考究ニ屬スル事
 ナ、教授ス可ラス。○獨乙及ヒ瑞士ノ如キハ、人民學校ニ心ヲ用キル、實ニ他各國ニ超ユト雖モ、惜
 イ哉從來ノ教育、適度ニ過キテ、漫ニ高尙ヲ貴ムカ故ニ、人民學校ニ於テ、教育ヲ受ケシ生徒等ノ
 心自ラ驕慢ヲ生シ、動モスレハ、工人或ハ製造人トナリテ、生計ヲ營ムヲ嫌ヒ、或ハ大ニ之ヲ恥ル
 ニ至リ、又ハ貴キ(縱令ヒ野郎ナルカ如シト雖モ)農業ヲ避ケテ、軍口貧賤ナル書吏タルヲ甘ニスル
 ノ弊害ヲ生シタリ。○昔時ハ幼童ノ教育、甚ク不及ナルヲ歎セシコトアリシニ、今時數國ニテ施ス所ノ
 教育ハ、全ク相反シテ、甚ク過度ナルノ弊ヲ生シ、大ニ幼童ノ育成ヲ害スルニ至レリ。例ヘハ猶幼童
 ナ養フニ健康ノ爲メ益アル淡薄ノ常食ニ代ワルニ、高價ナル美食ノ零碎ヲ以テシ、遂ニ幼童ノ脾胃

ヲ損敗スルカ如ク然リ。

但シ學校ノ教育ハ、畜ニ才智ノ育成ヲ以足レリト爲ス可ラス、必又心志ヲ優美正善ニ遷スルヲ要ス。
 人民學校ノ教育ハ、畜ニ才智勝レタル人物ヲ造出スルヲ以テ足レリト爲ス可ラス、必又幼童ノ心志
 ニ精神ノ種子ヲ播植シ、及神道ヲ尊敬シ、正徳ヲ愛慕スルノ情意ヲ起ルヲ要ス。○才智ヲ育成スルハ、
 國家ノ専ラ心ヲ用キヘキ所ニシテ、心志ヲ正善ニ遷ルハ、教會ノ専ラ心ヲ用キヘキ所ナリ。而シテ此
 事ハ、獨、教會ノ最モ長スル所ナリ。父ト母ト家内ニ於テ、相俱ニ子女ノ教育ニ從事スルカ如ク、國
 家ト教會ト、相俱ニ徧ク幼童ノ教育ニ從事スルコト固ヨリ當然ナリ。蓋シ教國ニ會相協同シテ、教育コ
 從事スルハ、實ニ良好ナル教育ヲ施スニ足ルト云フ可シ、然ルニ若シ全ク教國ニ會ノ協同ヲ止ム
 ルコトアルハ、遂ニ當然相合セルコト壞裂スルノ恐レナキ能ハス。其害タルヤ、家内ニ於テ父母相
 協同シテ、子女ヲ教育セシムルノ害ト、全ク相同シカル可シ。○教會ノ専ラ人民學校ヲ管轄スルノ權
 ナ奪ハシト欲スルノ論、輒近盛ニ起リシハ、殊ニ教會從來人民學校ヲ制數シテ、自己ノ利ノ爲メニ
 大ニ學問ヲ束縛限制セシムル所ナレハ、決シテ理ナシトハ云フ可ラス。去レテ教會ノ教育ニ關ス
 ル權力ヲ全ク奪フハ、遂ニ神道ノ教育ヲ缺クニ至ルカ故ニ、決シテ良好ノコト云フ可ラス。但
 教會若シ漫ニ神道ニ感觸シテ、學校ノ教育ヲ限制壓抑スルカ如キ弊ナキヤ否ヲ監督シテ、之ヲ防制
 スルハ、固ヨリ國家ノ主任ナリト雖モ、若シ教會ノ正善ナル方法ヲ以テ、盡力スルヲモ、共ニ防制
 セント欲スルハ、甚ク不可ナリ。○是故ニ國家學制ヲ總管スルノ權力ヲ握ルハ、固ヨリ當然ナリト雖
 モ、就中神道ノ事ニ就テハ、教會ヲシテ、正善ナル方法ヲ以テ盡力セシムルコト、最モ緊要ナリ。
 人民學校ハ、殊ニ幼童ヲ教育シテ、之ヲ真誠ノ人トシラシムルヲ以テ、主旨ト爲ス可シ。去レテ幼童徒
 ニ真誠ノ人トナリ得ルト雖モ、若シ其邦國人タルノ道ニ背クハ、甚ク可ナラサルヲ以テ、幼童ヲ
 ナル人トナラシム可シ。但シ此目的ヲ達スルハ、實ニ容易ナルコトニアラスト雖モ、凡ソ國俗ノ良否
 及ヒ國勢ノ盛衰等ハ、殊ニ其民人ノ幼時ニ於テ、發起セル愛國ノ志情ニ根サス者ナレハ、國家ハ、務

テ此目的ヲ達スルヲ以最急務ト爲スヲ要ス。○又基督教ヲ奉スル各國ニ於テハ、幼童ヲ基督教ノ
 道徳ヲ示シテ以テ神道教育ヲ意味ト爲シ、而シテ常ニ此事ニ心ヲ用キルヲ要ス、去レテ教會ヲ奉者
 ハ、此教育ヲ施シテ就テハ、必ズ自派ノ旨意ヲ專ニ主張スル者ナリ、是故ニ或ハ教派ノ異ナルヲ從
 テ、人民學校ヲ分テテ爾國ノ教派ニ從テ、神道ノ教育ヲ宗派ニ從テ、分テテ爾國ノ教派ニ從
 テ是等ノヨリ、各國教育方法ヲ便宜トシ、其他種々ノ景況トニ關係スル者ナリ、但シ此二種ノ制度ヲ
 就テ可否ヲ決定スルハ、全ク國家ノ權ニ在ルヘキヲ、固ヨリ論ナク、且國家ハ何ノ制度ニ拘ハラ
 ス、常ニ心ヲ用キテ、教會ノ互ヒテ其宗派ヲ主張シ、遂ニ相敵視スルニ至ルヲ防制スル爲權アリ、
 人民學校教師ノ員數、近年ニ至リテハ、大ニ増加セリ、是實ニ好徵ト云フ可シ、蓋シ許多ク生徒ヲ
 リテ教師足ラサルハ、教育法ヲ十分ナル能ハサレハナリ、且ツ國內ノ幼童ヲシテ、悉皆下等小學
 ノ教育ヲ受ケシメント欲セハ、必ズ許多ク學校ヲ立テ、及ヒ許多ク教師ヲ附カスンハ、亦可シ、獨
 乙及ヒ瑞士ニ於テハ、方今專テ下等小學ノ教育ニ心ヲ用キ、又佛國、英國、及ヒ其他ノ各國ニ於テモ
 漸ク此事ニ心ヲ用キルニ至リ、○人民學校教師ノ員數増加セシハ、教育ノ爲メニ大ニ利アリ、雖
 モ、此利ト共ニ又一弊害生シタリ、蓋シ近今師範學校（セミナール）ノ教育ニ於テ、動モカシハ、人
 民學校ニ不用ナルノ多ク、兼テ用非可ラサル高尚ノ學科ヲ以テシカハ、人民學校ノ教師ト
 ナルヘキ生徒、多クハ此猛烈ナル飲料ニ堪ニル能ハスシテ醉倒シ、頗ニ慢心ヲ生シ、隨テ愈々人民
 學校ノ緊要ナラサルハ、大學科ヲ講求セシトスルノ志情ヲ起ストナレリ、是ニ於テ人民學校
 ハ其必要ナル簡單ト、及ヒ健全ト、夫失テ、遂ニ過當ノ者トナルニ至レリ、○教師等多クハ其職務ノ身
 ウシテ且ツ限制セラル、所アリ（其實ハ緊要ニシテ、日貴重スヘキ者ナリト雖モ、且己カ
 學識ヲ其受クル所ノ僅金、以テ其職務ヲ行フ所アルヲ歎スルニ至リ、加之、教師等動モズル、自負
 心ヲ生シ、而シテ教育ノ新法ヲ創始シ、天下ノ形勢ヲ一新スルハ、特ニ我輩ノ任ナル所ナリト云
 ニ至レリ、實ニ二三ノ國ニ於テハ、人民學校ノ教師、專ラ騷擾ノ基ヲ開キ、加之、時アリテハ、頗

覆一新ノ基ヲ開キシ、亦絶テナキニアラス、去レテ人民學校ノ教師、高尚ナル學科ヲ講求ス
 ルガ爲メ、時アリテ非分ノ事ヲ謀ルカ、如キトアリト雖モ、其弊害ハ尙少ウシテ、輒近教師ノ員數増
 加セシカ爲メ、人民學校ノ面目ハ一新シ、下等民人ニ至ル迄之ニ由テ、頗ル開明ニ赴キ、功益ハ
 更ニ大ナリ、然ルニ世論或ハ大ニ此弊害ヲ憂ヒテ、學校ノ事ハ、寧昔時ノ如ク、教導ノ全權ニ任シ
 テ、束縛限制ノ法ヲ用キシ、ハルニ如カストナスト雖モ、恐クハ大ナル謬見ト云フ可シ、凡ソ開明進步
 ノ事ハ、其氣勢頗ル盛強ナレハ、其間亦自ラ弊害ノ生スルヲ免ル、能ハスト雖モ、多クハ自然ノ勢ニ
 鎮壓セラレテ、遂ニ消滅スル者ナリ、○但シ國家ハ實ニ人民學校教師ノ請願中ニ於テ、理ニ當レル
 者ハ、宜シク許容シテ、之ヲ准ス可シト雖モ、若シ理ニ當ラサル者アレハ、之ヲ拒絕スルハ、固ヨリ當
 然ナリトス。○
 普魯士國ハ人口一千五百萬アリテ、學校教師三萬人アリ、即、人口五百人ニ一人ノ比例ナリ、
 士ノ一二邦ニ於テハ、教師ノ比例尙更ニ多シ、
 （第四）國家ハ幼童ノ父母ニ強ヒテ、幼童ヲ學校ニ送ラシムルノ權アリ、蓋シ天下ノ衆童悉皆八
 者ノ知ルヘキ事國民タル者ノ解スヘキ事、及ヒ神道ニ屬スル事ヲ學習シテ、賢良ノ臣民トナルハ、
 國家ノ爲メニ甚ダ必要ナルヲ以テ、但シ國家ノ此權ヲ推カシ、唯此理ニ由ル者ナレバ、決シテ此外
 ニ其權ヲ施ス可ラズ、即、國家ノ此權ヲ稱シテ、強使就學ノ權シ、ハ、ツツウシク、云フ、但シ
 國家ノ權ヨリ立テテ、臣民ノ義務ヨリ立テテ、之ヲ就學義務ニシ、ハ、アリヒト、ト稱
 スレハ、更ニ大ニ強シ、○父母若シテ、其子女ノ教育ニ心ヲ用キテ、之ヲ私學ノ教師ニ托スレハ、國
 家決シテ此事ニ心ヲ用キルヲ要セカ、ルカ故ニ、敢テ強テ使就學ノ權ヲ施行ス可ラズ、但シ父母若シ
 懶惰シテ、絶テ其子女ノ小學ノ教育ヲ受ケシメサルハ、於テハ、國家必強、使就學ノ權ヲ施
 シ、父母ヲシテ、強テ其子女ヲ人民學校ニ送ラシメ、以テ子女ノ受教ノ權利ヲ保全スル、ハ、固ヨリ當

當然ナリ。○臣民悉皆就學ノ義務ヲ負フハ、悉皆護國ノ義務、
軍ニ入テ、國土ノ防護ニ從事スルノ義務ヲ云、
フ、護國軍ノ一ハ、卷之七第七款ニ詳ナリ。
ハイト(按)公事ニ參預スルノ自由權)(臣民此自由ヲ得ルヤ、其國既ニ全ク文明開化ナラザル可
ラス)ヲ有スルノ理ト、全ク相合ス。

○普魯士ノ國憲第二十一章ニ云、「父母及ヒ其代人ハ、其子女、或ハ托セラレタル孤子ヲシテ、必
人民學校ノ規則ニ遵テ、教導ヲ受ケシメサル可ラス」ト。○北亞米利加ニ於テ始メテ強ク使ハ就
學ノ權ヲ緊要ナル者トナセリ。千尼底吉(按)北亞米利加合衆國ノ一部ナリ)ニ於テ、一千六百五
十年(慶安三年)ニ制定スル所ノ憲法ニ云、「父母アル者ハ、必ク其子女ヲ學校ニ送ラサル可ラサ
ルノ義務アリ、而シテ父母若シ此義務ノ施行ヲ怠ルルハ、則ク罰金ヲ命ス可シ、但シ父母猶ほ
此義務ヲ施行セサルハ、政府強ク其子女ヲシテ學ニ就カシムルノ權アリ」ト。但シ馬沙諸
(按)亦合衆國ノ一部)ニテハ、既ニ一千六百四十八年(慶安元年)ノ憲法ニ、強ク使ハ就學ノ權ヲ
裁定シタリ。○然ルニ英國ニ於テハ、此權利ヲ用ルルコトナシ、且佛國ニ於テモ、教部ミニスル
ギツウ(一千七百八十七年ニ生ル)ハ、國家ノ此權利ヲ握ルルヲ以テ、不可ト云セリ。○獨乙及ヒ瑞士
ニ於テハ、必ク此權利ヲ用キ、蓋シ此兩國ニ於テ、教育ノ徧ク衆民ニ及フハ、國家殊ニ此權利ヲ握
ルカ故ナリ。

近今人民學校ノ教育ニ於テ、生徒ニ學費ヲ償フナカラスノ法ヲ立テタル國、儘之レアリト雖モ、此法
決シテ緊要ト爲ス可ラス。加之、人民學校ノ爲メニ却テ害アリトス。凡ソ父母タル者其子女ノ爲メ

ニ學費ヲ償フハ、固ヨリ當然ノ理ナリ、但シ第二ニハ國家及ヒ邑モ亦、學費ヲ償フノ義務ヲ負ハサ
ル可ラス。蓋シ天下幼童悉皆教育ヲ受ケルハ、國家ノ爲メニ甚ク緊要ナルヲ以テ、國家及ヒ邑等
公費ヲ以テ學校ヲ建テ、其需要ヲ給シ、并ニ教師ニ與フル俸金ノ數分ヲ公金ヨリ出シ、以テ父母
ノ費用ヲ減スルヲ要ス。○但シ父母若シテ其子女ノ爲メニ學費ヲ償ハシムルハ、學校ノ爲メニ
大利アリ、蓋シ此ノ如クナルハ、當ニ當然ノ理ニ合スルモノナラス。猶且ツ父母タル者自ラ學校
ノ隆盛ヲ欲スルニ至ルノ益アリ、何者、人多クハ、自己ノ金ヲ費サ、ル事ニハ、心ヲ用キスト雖モ、
自己ノ金ヲ費セル事ハ、厚シ心ヲ用キテ、其事ノ成全ヲ願フハ、人ノ常情ナレハナリ。○但シ父母
若シ貧窮ニシテ、學費ヲ償フノ力アラサレハ、國家若クハ邑ニ於テ、之ヲ償ハサル可ラスト雖モ、
其力アル父母ニモ、猶此義務ヲ免ルスカ如キハ、決シテ正理善道ニ合スト云フ可ラス。

私立ノ人民學校ト雖モ、國家必ス之ヲ庇護ス可シ、決シテ之ヲ障礙ス可ラス。何者、私立學校
モ亦、國家ノ教育ヲ裨ク、及ヒ其教育費用ヲ補フノ功アレハナリ。○但シ國家ハ必ス嚴ニ私立學
校ノ情勢ヲ監視シ、此學校ノ會社ヲシテ、決シテ幼童ノ心志ヲ損敗セシメ、及ヒ公衆ノ妨害ヲ生
セシム可ラス。而シテ此會社若シ是等ノ所行ニ由テ、國家ニ敵スルノ機現ハルレハ、國家ハ直ニ
其利刀ヲ以テ、此ノ如キ暴惡ノ根株ヲ裁斷シ、以テ之ヲシテ增長スルヲ得サラシム可シ。○エース
イテン(按)加特力教ノ一會社)ノ學校ハ、殊ニ此ノ如キ暴惡ヲ以テ、國家ニ敵スルノ禍心ヲ萌生
スルコトアリ、是故ニ此學校會社、若シ故ラニ眞理ニ背キ、幼童ヲ勸誘シテ、暴惡ヲ謀ラント欲スル
コトアラハ、決シテ之ヲ宥恕セサルヲ要ス。

○普魯士ノ國憲第二十三章ニ云、「教授ニ從事シ、及ヒ學校ヲ創立スルハ、各人ノ自由ニ任ス、但
シ其人自己ニ行狀、及ヒ學術共、人ノ師表タルニ足ル可キ所以ヲ、預メ其關係ノ官司ニ證セサル
可ラス」ト。

(第五)人民學校ノ下級ニ於テハ、未ク學問ノ自由ヲ與フ可ラス、凡ソ下級ニ於テ學習ス可キ事ハ、

下萬民皆之知ラサル可ラサル要ルノ事ナリ、故ニ其教師タル者、全權ヲ以テ教授スル可ク、敢テ生徒ヲシテ其可否ヲ論セム可ラス、加之、教師ト雖モ、決シテ各自ノ見ヲ以テ教授スルヲ許サス、必ス各教師相共ニ國家ノ指令ニ從テ教授スヘキヲ固ヨリ當然ナリ、○是故ニ下級ノ教授ニ就テハ、必ス預定セル學規アリテ、必ス之ヲ遵守セサル可ラス、決シテ各教師自ラ教授ノ規則ヲ定ムルヲ許サス、凡ソ下級ニ於テハ、威權、定規、及ヒ先例等ヲ以テ、殊ニ專要ノ者トナス。

第十款 職業學校(ベールフス、シヨール) 工務學校(テクニセ、シヨール) 及ヒ學者學校(ゲ

【第一】人民學校ハ天下ノ幼童ヲ、悉皆同一ニ教育スルノ用ヲ爲スト雖モ、上等ノ教育ニ至リテハ、人ノ職業ニ隨ヒ、及ヒ人々ノ智識開明ヲ要スル度ニ隨テ、其方法ヲ異ニス、是ヲ以テ某若干學校ハ、唯某若干職業ノ爲メニ設クルノミナリ、故ニ人々是等ノ學校ニ入ルト否ラサルトハ、決シテ就學義務ノ理ヲ以テ、推論ス可ラス、○國家ハ天下ノ幼童ヲ教育シテ、眞誠ノ人トナラシメ、及ヒ眞誠ノ邦國人トナラシムルヲ、甚ク緊要ナルヲ以テ之ヲ強ヒテ人民學校ノ教育ヲ受ケシムルノ權アリ、唯官吏ト各種ノ職業ニ至リテハ、多クハ學校ノ教授ヲ要セス、唯父母親戚ノ教育ニ任セテ可ナリ、唯官吏ト任用スルニ就キ、特別ノ職業ニ熟練スル者、若クハ特別ノ學識アル者ヲ撰ハサル可ラサル時、如キハ、國家必ス本人ニ命ジテ、本人ノ管テ學校ニ於テ、其業其學ニ練達セシ確證ヲ取ルノ權アリ、故ニ本人若シ曾テ其業其學ヲ教授スル所ノ公共學校(按)公共ノ爲メニ開ケル學校ヲ云フ)ニ於テ、教育ヲ受ケシコトナケレバ、必ス之ヲ選任セサルコト、固ヨリ當然ナリ、其他總令ヒ民人ノ私業ト雖モ、唯其業ニ練熟セシ者ノミニ、其施行ヲ許スル公衆利益ノ爲メニ緊要ナレバ、國家ハ必ス本人ノ其業ニ練熟セル確證ヲ取ルノ權アリ、但シ是等ノ時ト雖モ、亦規律外ノ處置ヲ爲スルコト、全ク之レナキニハアラス、何者、人々其業ニ練熟スルハ、決シテ唯學校教授ノ一方法ニ由ルニ止マラス、或ハ他ノ方法ニ由ルコトモ亦、之レアル者ニシテ、總令ヒ其方法ハ如何ナルモ、唯其業ノ練熟ヲ求ムルコト、緊要ナルバナリ。

(第二) 上等及ヒ中等ノ學校ハ、分テ三種トナス。

【甲】各務ノ職業學校(ベソングデレ、ベールフス、シヨール) 即チ農人ノ教育ヲ旨トスル所ノ農業學校、及ヒ工人ノ教育ヲ旨トスル所ノ手工學校ノ如キ是レナリ、而シテ是等ノ學校ハ、殊ニ第四等身分ノ徒(ヒールテル、スランド) 按テ殊ニ農民片ニ工商ニ從事スル小民ヲ云フ) ノ爲メニ設立スル所ナリ、故ニ其他ノ徒ハ、唯其學科ノ大旨ヲ講習スレバ、是レリトス、但シ總令ヒ第四等身分ノ徒ト雖モ、多クハ此學校ニ入ルヲ要セス、唯人民學校ニ於テ、尋常ニ練テ教育ヲ受クレンハ可ナリ。

【乙】高等工藝學校(ヘーヘレ、テクニセ、シヨール) 則チ總令ヒ眞誠ノ學者トナルヲ要セサルモ、猶高尙ナル工藝ノ學ニ練達セント欲スル徒ヲ、教育スル所ノ學校ナリ、故ニ殊ニ第三等身分ノ徒、即チ大臣、建築大工、製造大工、及ヒ其他術藝者等ノ爲メニ設置スル所ナリ。

【丙】學者學校(ゲレールテ、シヨール) 按テ又ギムナシムムト云フ) 此學校ハ、或ハ大學校(ウニベルシテート) ノ豫科學校トナリ、或ハ總令ヒ學問ヲ以テ、職業ト爲ルコトヲ欲セサルモ、實ニ今日ノ表則タル古代正雅ノ學ニ通セント欲スル徒ヲ教育スル者ナリ。

【第三】眞誠ノ職業學校ハ、高等工藝學校、及ヒ學者學校ト、大ニ相對ナル所アリ、何者職業學校ニ於テ、施ス所ノ教育ノ如キハ、決シテ學問上、眞實ノ理ヲ研究スルヲ旨トセス、唯其大旨ヲ知ルヲ以テ、是レリトナシ、而シテ常ニ專ラ實業ヲ研究スルヲ旨ト爲セハナリ、○是故ニ職業學校ニ於テハ、人民學校ニ於ケルカ如ク、專ラ教授ノ簡約ナルヲ貴フ、蓋シ職業學校ヲ以テ、或ハ唯人民學校ノ始ニテ實際ニ涉レル者ト視做スコトアレンハナリ、但シ此學校ハ農業、或ハ手工藝、專ラ一種ノ職業ヲ教授スルヲ旨トスルカ故ニ、實ニ人民學校ノ上ニ位スル者ナリ、○此學校ヲ以テ、唯高等工藝學校ニ進入スルノ階梯トナセル生徒ニハ、外國語ヲ教授スルコト緊要ナリト雖モ、其他ノ生徒ニハ、唯本國語、數學及ヒ體理學ヲ教授レハ、乃チ足レリ、而シテ是等諸科ト雖モ、唯農業手工等ノ用ヲ辨スルニ足ルヘキ、淺近平易ノ事ヲ以テスレハ可ナリ、且ツ諸生徒ヲ齊一ニ練熟セシメシムルカ爲メ、必ス教則ヲ嚴守シテ教導スルヲ要ス、此學校ニ於テハ、必ス嚴則ナカル可ラス、故ニ學習ノ自由(レルンフライハイト) 【按】生徒ノ欲スル科ノ教導ヲ受クル自由ヲ云フ) ハ、唯罕レニ之ヲ許ス可シ、且ツ教授ノ自由(レ

ルフライハイト(按)教師自己ノ意見ヲ以テ教授スルノ自由ヲ云フ)モ亦、實ニ預定セル教授物件(按)書籍器械等ヲ云フ)及ヒ教導ノ目的ニ由テ、限制セラル(按)規則ヲ以テ、預メ教授ノ書籍器械等、并ニ教授ノ目的ヲ一定スルカ故ニ、教師トイヘモ、全ク自己ノ意ヲ以テ、教授スル能ハサルナリ、○蓋シ此學校ハ、二個ノ功益ヲ顯ス、即チ一ハ初步農人ノ實驗ト、及ヒ徒弟ノ習練(其師ノ工場ニ於テ)ヲ補益シ、一ハ農人及ヒ徒弟等ヲシテ、學習ニ由テ、遂ニ自己ノ力ヲ以テ大ニ實業ニ長セシム、是故ニ國家此職業學校ヲ創立シテ、自由ニ入學ヲ許スルハ、許多下等人民ノ開明進歩ヲ補益スルコト、實ニ少カラス、

(第四)工藝學校ト稱スル者ハ、殊ニ學實學校(レアルギムナシウム)按一専ラ學問上ノ學習ヲ旨トセル學校ト、専ラ實驗上ノ學習ヲ旨トセル學校ヲ合併セル者ナリ、故ニ學實學校ト云フ、(衆藝學校(ポリテクニシエシニール)及ヒ術藝學校(キンストレルアカデミー)等ニシテ、更ニ高尚ノ學徒ヲ教授スル所ナリ、

學實學校及ヒ衆藝學校ニ於テハ、生徒ヲシテ、専ラ工作製造ノ實際ニ功益アル、學問ノ深理ヲ研究セシム、即チ數學、測量學、及ヒ物理學是レナリ、而シテ是等ノ學科ヲ、器械學、及ヒ化學ニ適用スルハ、即チ此學校學問上ノ學習ニ於テ、遂ニ達ス可キ目的ト爲ス、又工藝沿革ノ歴史ヲ習讀スルハ、實驗上ノ學習ノ基本トナル可キ者ニシテ、圖畫ノ術ハ、即チ此學校ノ要科ナリ、加之、此學校ノ生徒ヲシテ、今時ノ語學ニ習熟セシム可シ、但シ古語學ニ習熟セシムルヲ要セス、○此學校ノ教導ニ於テハ、實ニ實際ヲ以テ、目的トスルコトハ、忘ル可フサルコト固ヨリ論ナシ、去レモ學問上ノ教導ハ、最も緊要ナルヲ以テ、此教導ニ施スニ就テ、決シテ遺漏ナカル可シ、且ツ此教導ヲ施スニハ、之ヲ直ニ實際ニ試驗スヘキ、方法ヲ以テス可ラス、實ニ學問上ノ方法ヲ以テ、生徒ヲシテ、高等工藝學ヲ自在ニ活用スヘキ才識ヲ得セシムヘキノミ、故ニ其後ニ至リ、生徒各實際ニ從事スルニ及ヒテ、始メテ各其業ヲ圖ニスルナリ、

此學校ノ上級ニ至リテハ、殆ト大學ト相類スル所アリ、既ニ成長セル生徒ハ、自己ノ意見ニ從テ、學習セント欲スル志情盛ナルカ爲メニ、此生徒ニハ、下級ノ生徒ニ許サ、ル自由權ヲ授與ス、但シ下級生徒ニ至リテハ、必ス其教師ヲシテ、嚴ニ之ヲ管制セシメ、安ニ學習ノ自由權ヲ與ヘシム可ラス、且ツ縱令上級生徒ニ授與スヘキ自由權トイヘモ、決シテ工藝學校當然ノ目的ヲ超ユルヲ許サズ、殊ニ教學ノ教導ニ至リテハ、嚴ニ其科目ノ順序ニ循ハシムルコト、實ニ緊要ナリ、○且ツ教師ノ生徒ヲ教導スルヤ徒ニ講義ノミヲ用ヒ、遂ニ生徒ノ其事理ヲ了解セシヤ否ヲ試ミサルモ、教導ノ爲ニ、甚タ不可ナルヲ以テ、教師ト生徒トノ間ハ、必シ親シク交ラシムルヲ善シトス、并ニ教導ノ事、學問上ノ研究ニ屬スル愈々多クレハ、教師ヲシテ、其意見ニ從テ、自由ニ教導ヲ施サシムルコト、愈々緊要ナリ、是故ニ上級ニ於テハ、下級ノ如ク命ヲ下シテ、教授物件ヲ限定シ、或ハ教則ヲ設立ス可ラス、

術藝學校(キンストレルアカデミー)按)彫像、圖畫等ヲ教授スル學校ヲ云フ、)ノ如キモ亦其地位、右ノ二學校ニ相同シ、但シ此學校ニ於テハ、先ツ實驗上ノ學習ヲ主トシテ、學問上ノ學習ハ之ニ次ク者トス、○或ハ此學校ヲ以テ、既ニ衆藝學校ノ業ヲ卒ヘシ年長生徒ノ、更ニ練熟スヘキ學校ト爲スコトアリ、即チ(巴里ノエコール、デ、ボーザール)按)學校ノ名、即チ美術學校ノ義、)ノ如キ是レナリ、

(第五)學者學校ハ、先ツ第一ニ拉丁語、次テ希臘語、及ヒ歴史等、凡ソ古代ノ學ヲ以テ、教育スルヲ基本ト爲ス、故ニ此學校ニ於テハ、高尚ナル學問ヲ以テ、生徒ニ今時文明ノ因テ起レル根原ヲ知ラシメ、而シテ太古始メテ文化ヲ宣播セシ英雄豪傑ノ大志勇膽ニ倣ハント欲スル志ヲ振起セシムルコト緊要ナリ、且ツ此學校ニ於テ、生徒ヲシテ往古以降數百千年ノ變遷沿革ニ通曉セシムルハ、徒ラニ生徒ノ知識ヲ導テ、往古數百千年前ノ地位ニ止マラシメント欲スルコトアラス、此變遷沿革ニ由テ、古今ノ知識ノ開明ヲ悟ラシメ、而シテ、其自由ノ限力ヲ以テ、更ニ開明進歩ヲ營マシメント欲スルカ爲メナリ、○凡ソ今時知識ノ大ニ開明進歩セシムルハ、其本源、全ク希臘羅馬ニ出ルコト明カニシテ、宛カモ神道教育ノト進、全ク基督教ノ傳播ニ由レルカ如ク然リ、是故ニ今日ノ表則トナルル古代正

雅ノ學ヲ研究スルノ徒ハ、自ラ古今世道ノ變遷沿革ニ著眼シ、希臘羅馬ノ世ニ出テシ、英雄豪傑ノ大志ヲ繼テ、更ニ世道ノ開明進歩ヲ裨益セサル可ラス、但シ曾テ希臘羅馬ノ學ニ由ラス、全ク他ノ方法ニ由テ學習セル徒ト雖モ、或ハ其功益ヲ奏スルコトナキニシモアラスト雖モ、此ノ如キ徒ノ學識ハ決シテ完全ナル者ニアラス、故ニ真誠ノ學識アル人ヨリ之ヲ視レハ、大ニ缺乏スル所アリ、○凡ソ希臘羅馬ノ學ノ如キハ、自ラ優美正大ナル所アル者ナレハ、知識ヲ開達セシムルニハ、實ニ缺ク可ラサル者ナリ、蓋シ此學ハ少年ノ精神ヲシテ、其年齒ニ隨テ發揚セシメ、其心志ヲ振起シテ、優美壯大ナラシメ、及ヒ其發揚力ヲ強大ニサシムル者ナリ、然ルニ曩昔ハ學者學校ニ於テ、唯古代正雅ノ語學ノミヲ專一トシテ、其他ノ學ニ心ヲ用キサルノ弊アリキ、則テ生徒ニ古代ノ華麗ナル財寶ヲ與フヘキ學校ニ於テ、却テ之ヲ奪フ者ト云フ可シ、故テ以テ、或ハ古學ヲシテ、絶エテ今日開明進歩ノ用ヲ濟スニ足ラサル虛學トナラシムルニ至レリ、然ルニ近世ニ至リテハ、各國皆此種ノ學校ニ於テ、古代止雅ナル語學ノ外、猶各其國語ヲ精密ニ研究セシメ、及ヒ文學ヲモ共ニ學習セシムルコトナリ、加之時アリテハ其他數學、物理學、如キ、實物學、并太古、中古、及ヒ新世ノ歴史ヲモ共ニ教授スルコトナリキ、是故ニ今時ニ至リテハ、此種ノ學校ニ於テ、諸學科ヲ以テ、少年ノ知識ヲ育成スルヤ、備レリト云フ可シ、蓋シ今時ノ制度ノ大ニ昔日ニ優ル所以ナリ、且ツ學識ハ全ク整備スルコト甚ク緊要ナルヲ以テ、此種ノ學校ニ於テ、基督神道ノ理ヲモ、兼テ亦研究セシメサル可ラス、但シ近世ニ至リテハ、或ハ教授ノ學科頗ル剩多コシテ、小年輩、遂ニ之ヲ學習スルニ堪ハサルノ弊ヲ生シタリ、是レ眞ニ憂フヘシ、今時少年ノ軀體、動モスレハ軟弱トナリ、精神、動モスレハ疲勞放曠ニ至ルハ、蓋シ學習甚ク過度ナルニ由ルナリ、生徒ノ年齒、及ヒ其階級ニ應ジテ、學習ノ規律ヲ規定シ、而シテ教師ヲシテ、常ニ其勤惰ヲ監督セシメ、敢テ此規律ニ背ク能ハサラシムルヲ要ス、決シテ自由ニ學習スルヲ許ス可ラス、必ス學校ノ嚴則ヲ設ケ、生徒ヲシテ、實ニ自重敢勉ノ心ヲ振起セシムルヲ要ス、決シテ放恣懶惰ナラシム可

ラス、○學科ハ必ス綿密ニ定立シ、而シテ殊ニ本科(殊ニ拉丁語學ノ研究)及ヒ歴史ノ學習ヲ主トス、但シ希臘語學ノ研究ハ、或ハ頗ル許ス可アリ、ハ、必ス學科ニセサル可ラストシテ、決シテ生徒ノ自由ニ任スルコトナカル可シ、此學校ノ教師及ヒ生徒等、若シ大學校(ウニヘルシテト)ニ於テ用キル學習ノ方法、及ヒ自由ヲ以テ、此學校ニ轉用セント欲スルカ如キハ、自己ノ爲メニ害アリ、蓋シ此學校ハ、素ト少年ノ氣力ヲ増大強盛ニナスヲ目的ト爲ス者ナルニ、若シ徒ニ大學校ノ學習方法、及ヒ自由ヲ用キルハ、決シテ此目的ニ達スル能ハサルハ、必然ニシテ、加之、其學業未熟ナルカ爲メニ精神遂ニ不健ヲ生スルニ至ル、故テ以テ他日繼令ニ大學ノ教育ヲ受クルモ、其學業決シテ眞ニ熟達スルヲ得ヤ、必然ナリ、

第十一款 大學科(ウニヘルシテト)

(第一) 大學校ハ其初メ唯以太利ニ於テ、僅ニ一二學科ノ爲メニ、創立セシ者ナリシカ、近今ニ至リテハ、諸學科ヲ以テ、人材ヲ教育スル所ノ盛大全備ノ學校トナレリ、而シテ獨乙國ニ於テハ、殊ニ然リトス、是故ニ其初メニ在リテハ、唯法ヲ結合セル學社タルニ過キカリシカ、近今ニ至リテハ、眞ニ學問研究ノ大學校トナレリ、凡ソ學問ノ蘊奧ヲ能ク研究スルニ堪ユル者ハ、既ニ學者學校ノ業ヲ卒ヘテ、強壯ナル精神力ヲ得タル、弱年生徒ニ過キサルノミ、故ニ此生徒ノミ獨リ大學校ニ入りテ、大學生(スツデント)トナルヲ許ス可シ、是ヲ以テ大學校ニ於テハ、生徒始メテ入學セント欲スルニ當リ、心ス其業ヲ考試シテ其優劣ヲ判シ、而シテ未タ大學生タルノ學力ヲ備ヘサル者ハ、必ス落第セシメ、入學ヲ許サ、ルコト甚ク緊要ニシテ、且ツ又大學校ノ品價ヲ全ウスルニ足ルト云フ可シ、○但シ弱年生徒若シ眞ノ大學生タルヲ願ハス、唯此學ニ於テ、一二ノ講義ヲ聽聞シ、而シテ其渴望セル大學ノ業實ヲ獲ンコトヲ請願スルコトアラハ、其學力ノ優劣ヲ考試スルヲ要セス、之ヲ許スモ妨ケナシトス、去レテ此種ノ生徒ニハ、決シテ大學生ノ稱ヲ與フ可ラス、凡ソ大學生タル者ハ、徒ニ一二ノ講義ヲ聽クニ堪ユル學力アル

ヲ以テ足レリト爲ス可ラス。必ス大學諸生徒ノ列ニ加ハリテ實ニ大學ノ規則ヲ踏ミ、其業ニ從事スルノ學力アラスンハ不可ナリトス。○巴里ノユルレーヂ、デ、フ、ラ、ン、セ、ー、ト云ヘル自由高等學校）
 フライエ、ホーフ、シュール（按）尋常ノ學規ヲ用非サルカ故ニ自由學校ト云フナリ）ノ如キハ元來弱年生徒學習ノ爲メニ設立セル諸科學校ニシテ、實ニ高等學校タルノ品價ヲ備ヘ、且ツ漸ク盛大ニ赴クノ勢アリ、去レテ此學校ハ實ニ學問ニ由テ、職業ニ熱達セント欲スル徒ヲモ共ニ教導スル所。大學校トハ全ク相異ナリ。
 （第二）高等ノ學ヲ修ムルニ至テハ、精神ノ自由權ヲ、十分ニ備フル。甚々緊要ナルヲ以テ、大學校ニ於テハ、必ス學問上ノ獨立權ヲ與ヘサル可ラス。而シテ學問上ノ獨立權ヲ與ヘンニハ、必ス先ツ學校ニ、學問會社タルノ獨立權ヲ與フルヲ要ス。然ルニ此事ニ就テハ、中古ト新世ト、其制度互ヒニ相異ナリ。蓋シ中古ノ如キハ學校ニ學問會社タル獨立權ヲ與フル。甚々シキニ過キテ、學校ヲシテ遂ニ全ク不羈獨立ノ者トシ認メ、而シテ之ヲ保護セリ。去レテ此ノ如キ制度ハ、今世國家ノ理ニハ、全ク相反スル者ナリ。何者、今世國家ノ權ハ全ク合一ニシテ、諸公會社ヲ舉ゲテ盡ク其部下トナスヲ緊要ナレハ、縱令ヒ高等ノ學校ト雖モ、國家威ニ之ヲ監督眷顧セサル可ラサレハナリ。英國ニテハ、中古以降近世ニ至ル迄、大學校ニ大ナル自由權ヲ與ヘタリシカ。此國ニ於テスラ、近今ニ及ヒテハ、國家自ラ學校ノ大權ヲ收メテ、專ラ之ヲ自己ノ掌中ニ握ルノ緊要ナルヲ知ルニ至レリ。但シ大地各國ニ於テハ、國家夙ニ學校ヲ全ク其部下トナスノ制度ヲ用非ルトナレリ。○中古ニ於テハ、教會專ラ學校ヲ管制スルノ權ヲ握リシカ也。近今ニ至リテハ、全ク此權ヲ國家ニ推讓セサル可ラサル勢トナレリ。但シ諸學科中、獨リ神學科ノ如キハ特ニ教士ヲ教育スルノ科ニシテ、專ラ教會ニ關係アルカ故ニ、時アリテハ、國家ノ權ヲ以テ、教會ヲシテ此科ノ事ニ關シテ、共ニ監視ノ權ヲ握ラシメ、或ハ教會ヨリ此等ノ事ヲ國カニ請願スルアリトス。去レテ中古ノ世ニ於テハ、教會縱ニ學問ノ自由ヲ限制セシカ故ニ、方今ニ至リテハ、國家學問上ノ事ニ於テハ、甚々教會ノ議ヲ聽クヲ欲セサルニ至レリ。

大學校ノ實ニ學問會社タル獨立ノ權今仍存スル者、及ヒ日後モ宜シク保存スヘキ者ハ、左ノ數條ニ舉グルカ如シ。

- 〔甲〕大學校ハ、自ラ其私有物ヲ所持シ、及ヒ之ヲ掌理ス。但シ國家ニ於テ必ス之ヲ監督ス、凡ソ學校ハ斯自己ノ私有ヲ掌理スルノ權アルカ故ニ、時アリテ、國家ノ財用窮乏スルコトアリトシ、是ニ由テ決シテ其災害ノ學校ニ及フコトナリ、加之、決シテ國家ノ救助ヲ仰カスシテ、自由ニ存在スルヲ得ルナリ。
- 〔乙〕大學校ハ、自ラ司法ノ權ヲ握ル。但シ方今ノ世ハ中古ト異ニシテ、國家ノ權盛大ナルコトヲ要スルカ故ニ、學校ノ司法權モ、亦必スト分ニ國家ノ管內ニ屬シ、及ヒ其限制ヲ受クサル可ラス。是故ニ此權モ唯形貌上ニ存シ、其實ハ懲戒ノ權タルニ過キサル。
- 〔丙〕大學校ハ、國家ヨリ尊敬ヲ受クルコトヲ望ムノ權（外部ニ權力ヲ施行スル能ハス、唯學問上ノ大權ヲ握ルカ故ニ、國家ヨリ尊敬ヲ受クルヲ得ルナリ）及ヒ自己ヨリ學士ニ榮譽ヲ與フルノ權アリ、而シテ、此ニ事共ニ、必スシモ其當ヲ得ル能ハス。或ハ大ニ誤レルコトアリキ、既ニ大學校ニ於テ學者ノ諸品階ハ勿論大學士（ドクトール）ノ稱號スラ、猶之ヲ濫リニ學識陋劣ナル徒ニ授與セルコト儘之レアリ、然ルニ國家ハ宜シク大學校ノ此ノ如キ濫賞ヲ、制止スヘキコト當然ナルニ、敢テ之ヲ施爲セスシテ、却テ大學校ヨリ品階ヲ授與セシ學者ヲ卑シ、尊敬ヲ致スヲ欲セサルニ至レリ。是ニ於テ義ト智トヲ貴ヒ、不義ト無智トヲ賤ムノ基本、遂ニ壞ル、ニ至レリ。○各國ニ於テ大學校ノ位次ヲ定メ、其學士教官ノ品階ヲ立ツル方法ノ如何ヲ察スルキハ、其國ノ學問智識ヲ貴フノ道實ニ當ヲ得ルヤ否ヲ窺フヲ得ルナリ。
- 〔丁〕大學校自ラ其代者ヲ國民會議ニ列セシメ、其學識ヲ以テ、世道開明ノ事ヲ論セシメ、及ヒ憲法ノ利害得失ヲ議セシム。

（第三）大學校ノ學科ヲ四大類ニ區分スルハ、即チ當然ノ理勢ニ出ル者ナリ。○智學科（ヒロソヒシエ、ハクルテート）（按）即チ四大類ノ第一科ナリ）ハ、猶數小科ニ區分ス、即チ第一小科ヲ心性哲學

ソヒト云フ。然レモ其字義廣狭ノ差ハアルヲ以テ、其義ニ由テ譯字ヲ異ニス、

科ハ當テ學者學校ニ於テ教授スルコトナリ、此大學校ニ於テ、始メテ教授スル者ニシテ、實ニ各種ノ大學科ニ入ルノ門戸ト云フヘキ者ナリ、又第二小科ハ博文學(ヒロ、ギョー)按)即チ第二小科ナリ、ト稱スル者ニシテ、博ク文學ヲ研究スル所ノ學科ナリ、又第三ノ小科ハ、史學(ゲシヒテ)ニシテ、博ク古今萬國ノ變遷沿革ヲ通論シ、及ヒ各國ノ興敗存亡ヲ詳論スル學ナリ、并ニ第四小科ヲ數學(マテマナツク)第五小科ヲ物理學(ナツールネツセシヤフト)ト云フ、但シ大學生此ノ中、多數ハ是等ノ學ヲ以テ、他ノ學科ニ入ルヘキ餘科トナシ、唯少數ノ生徒ノミ、此學ヲ以テ、實ニ其本科トシテ、專心ニ學習スルナリ、○智學ノ外、更ニ高尚ナル職業ノ爲メニスル學科尙三類アリ、(按)前ノ智學ト相合シ四類トナルナリ、而シテ此三大學科ハ、智學ノ上ニ位スル者ナリ、即チ此三大學科ノ第一(按)前ニ出セル智學ヨリ算スルハ、即チ第二科ナリ、一ハ神學科(テオロギシエ、ハクルテト)ニシテ、教會ノ爲ニ設ク、而シテ方今開明ノ世ニ在リテ、教士ノ爲メニ緊要ナル高等神學ヲ教授シ、以テ教士ヲシテ、能ク宣道教化ノ師タルニ堪フル學識ヲ得セシムル者ナリ、○第二(按)即チ第三科ナリ)ハ往昔ハ法學科(コリスヤシエ、ハクルテト)ト稱シケレド、近今ハ國家ノ事ニ關スル學問ノ範圍甚ク廣博トナリシ以來、時アリテ法學科ト、豫備ノ國家學科ト、ハクルテト、イム、エソゲルン、シソ(按)博ク國家學ト云フモ共ニ含有ストナ分カチテ、二類トナセリ、何ト雖モ、茲ニハ、法學ヲ除クカ故ニ、狹義ノ國家學ト云フナリ

者法ノ學習ト政治(ポリツ、イキルトシヤフト)及ヒ經濟(スターツサルトシヤフト)ノ學習トナ、區分スルコトナリケレハナリ、蓋シ此區分ハ、實際上司法ト政令トノ分畫アルニ由ル者ナレド、其方分全ク至當ヲ得スシテ、或ハ所謂經濟學科ヲ、嚴ニ法學科ト離分シ、或ハ經濟學科ヲ眞ニ國家學中ノ一科トシテ、是ラサル者トシテ、殆一技術ノ如ク視做スニ至レリ、是故ニ大學生ノ中、多數ハ法學科ニ從事シテ、經濟學科ヲ學習スル者ハ實ニ僅々少數ナルニ至レリ、○然ルニ法學ト國家學(按)政治經濟ノ學ヲ云フ)トハ、元來全ク合一ナルヘキ者ナリ、是故ニ先ツ此二科ノ全ク合一ナル

ヘキ所以ノ理ヲ知リテ、實ニ之ヲ合一ナル者トナシ、然後ニ元來法ト政ト、及ヒ司法ト政令ト相分カル、所以ノ理ニ基ツキ、始メテ其學習ノ方法ヲ立ルチ緊要トナス、但昔時未ク此二科ヲ區分セサルキニ於テハ、ハ々專ラ政學ヲ研究スルヲ務メ、法學ハ殆ト研究セサルノ弊害ナカリシニハアラサリキ、去レテ素ト合一ナルヘキ法ト政ノ學科ヲ、故ラニ區分セサルモ、此弊害ヲ除去スルニ於テ、決シテ難カラサル可シ、○第三(按)即チ第四科ナリ、一ハ醫學科(メデチニシエ、ハクルテト)ト云フ、即チ疾病ノ理ヲ究メ、及ヒ其醫療ノ術ヲ求ムル學科ナリ、○大學校ニ於テハ、此四大學科教授スルカ故ニ、其教授ヲ受ケテ、有用ノ人トナル者ハ、即チ神學士、法士有司、醫士及ヒ教師(按)智學科ヲ研究セシ者殊ニ教師トナルナリ)ナリ

「第四」國家自ラ學問ニ關係スルノ事務ハ、博士(プロヘツソル)按)大學校ノ教師ナリ)ヲ委任スルヲ以テ、最先トス、而シテ國家ハ實ニ博士タルニ堪フヘキ人物ヲ舉ゲテ、之ニ眞誠ノ學習ヲ誘導スヘキ大任ヲ委託スルヲ要ス、○新ニ一名ノ博士ヲ舉ゲント欲スルニ方リテハ、必ス在任ノ博士等ニ、其入チ選擇スルノ權利、及ヒ政府ノ選舉セント欲スル人物ヲ可否スルノ權利ヲ與フ可シ、何者、現今學問ノ景況、及ヒ其義務ヲ詳悉シテ、其景況ト要務トニ適應セル人物ヲ求ムルハ、此博士等ノ最モ長スル所ナレハナリ、○去レテ政府必ス此博士等ノ選フ所ニ從ハサル可ラスト云フノ制度ヲ立ツルハ、甚ク不可ナリ、何者、此博士等、或ハ粗漏輕率ニ選擇シ、或ハ親疎愛憎等ノ私情ニ掩ハレテ、濫ニ選擇ヲ誤ルノ恐レアレハナリ、是故ニ政府ハ必ス博士等ノ選擇ヲ自由ニ考試シテ、取捨スルヲ要ス、蓋シ學校ノ盛衰ハ、到底教導ヲ掌ル人物ノ善惡當否ニ由ル者ニシテ、其選舉若シ誤ルハ、學校ノ大害之ヨリ生シテ、遂ニ除去ス可ラサルニ至ル必然ナレハナリ

然ルニ大學非職教師(アリハトドツメント)ノ如キハ、教導ノ官吏タルニアラス、唯教導ニ從事スルノ許可ヲ受ケシ者ナルカ故ニ、其地位官吏タル博士トハ、全ク相異ナリ、是故ニ非職教師タル者總テ緊要ナル學科ノ教導ヲ掌ルニ就テハ、博士等ニ之ヲ眷顧シ、及ヒ四大科ノ教導ヲ掌ルニ就テハ、本任博士、緊要ナル學科ニハ、假任博士ヲ置ク、例ヘハ、歐洲各國ニテ日本語支那語等ヲ教授

スル教師ハ、皆本任教師ニテ、常ニ之ヲ眷顧スルヲ要ス。○博士弱年ナル學者ノ學力ヲ考試シテ、實ニ大學校ノ教師タルニ堪ル者ト認許スルハ、之ニ大學校ノ教導ニ從事スルヲ許可スルモ、決シテ害アラストス。是故ニ非職教師ノ教導ニ從事スルヲ許可スルハ、總テ博士等カ任スル所ナリ。凡ソ獨乙ニテハ選舉ヲ受ケテ、博士トナルヘキ人材陸續輩出シテ、絶ユルコトナシ、蓋シ獨乙大學校ノ頗ル他國ニ優リテ、大ニ人材ノ教育ニ利アル所以ナリ。○非職教師ヲシテ、大學校ノ事ニ係レル會議ニ加ハリテ博士ト共ニ商議セシムルハ、甚ダ不可ナル制度ト云フ可シ、必ズ博士ヲシテ非職教師ヲ監督セシムルヲ善シトス。若シ此制度アラサルハ、大ニ害アリ。

〔第五〕教師(按)博士及ヒ、非職博士ヲ云フ、教導ヲ施スニ、如何ナル方法ヲ以テ講義スルモ、必ズ本人ノ意ニ任スヘキコト當然ナリ。若シ國家ノ權ヲ以テ、其方法ノ規矩ヲ設立スルハ、甚ダ不可ナリ。故ニ大學校ニ於テハ、必ズ教導自由ノ制ナカル可ラス。○ササニ(獨乙)人、一千七百七十九年ニ生レ、八百六十一年ニ死ス。凡ソ現今開明セル學問ヲ、書籍上ニ托セス、實ニ之ヲ教師ノ精神トナシテ、生徒ヲ誘導シ、而シテ生徒ノ精神亦自ラ其誘導ニ感應スルヲ視テ、之ヲシテ愈其力ヲ振興セシメ、以テ遂ニ自ラ奮發シシムルコト、甚ダ緊要ナリ。ト云ヒシハ、實ニ確切ナル論ニシテ、何等ノ事ハ、徒ニ書籍ニ依頼セル教導ニテハ、決シテ爲シ得ヘキコトニアラス。是故ニ大學校ノ教導ニ於テハ、必ズ教師ヲ以テ、自己ノ意見ヲ以テ、生徒ニ學問ノ蘊奧ヲ示シテ、之ヲ誘導セシムルコト、甚ダ緊要ナリ。若シ國家ノ權ヲ以テ、教導ノ嚴規ヲ設ケ、教師ヲシテ自ラ信セサル方法ヲ以テ、教導ヲ掌ラシメント欲スレハ、甚ダ理ニ戻リテ、其功益ナキヤ必然ナリ。○蓋シ大學校ニ於テ、學問習得ノ一、及ヒ教導ノ一ハ、總テ人々精神ノ自由ニヨリテ成ルヲ得ヘキノミ、是故ニ或ハ大學校教授ノ書籍ヲ定メ、或ハ其方法ヲ立ルカ如キハ、決シテ許ス可ラサルコトナリ。去レテ教導ノ自由權モ、亦他ノ自由權、如ク、必ズ限制スル所ナカル可ラス。是故ニ學校ノ目的ニ從テ、其自由ノ規矩ヲ立テ、及ヒ之ヲ限制スルヲ要ス。

〔甲〕大學校ニ於テ、當然設立遵守スヘキ教導制規ト云フハ、殊ニ教師自由ニ口授ヲ以テ講義スル

ノ制ナリ。然ルニ若シ師弟ノ間、尋常一樣ノ講讀筆記ヲ以テ、教授學習スルハ、之ニ由リテ、大學校ノ大學校タル所以ハ、全ク泯滅シ、唯精神ナキ機械上ノ學習ニ陥リ、遂ニ生徒ヲシテ奮發勉力スルコト能ハサルシムルニ至ル、殊ニ近今出版ノ術別ケシヨリ、機械上ノ學習更ニ盛ナルニ至レリ。○是故ニ每事教師ノ自由權ヲ妨害スルコト不可ナルハ、固ヨリ、論ヲ俟クスト雖モ、教導ノ方法ハ、自由ナル口授法ヲ用非、決シテ尋常ノ講讀筆記法ヲ用非ナルヲ常規ト爲シ定ムルヲ要ス。是故ニ非職教師、若シ肯テ自由ナル口授法ヲ信用セサレハ、決シテ自ラ博士ニ選任セラル、ノ望ヲ與ス可ラス。

是故ニ自由ニ口授スルノ法ハ、實ニ大學校教導ノ本則ナリト雖モ、此法モ亦未ダ完全ノ者トスルニ足ラサル所アリ。何者、縱令此法ヲ用非ルト雖モ、師弟ノ間、意ノ如ク言語ヲ接スルコトナキカ故ニ、師弟共ニ全ク其意ヲ盡ス能ハス、教師ハ唯聽講者(按)即チ生徒ヲ云フ)ノ眼色及ヒ面觀等ニ由テ、他實ニ吾カ講義ヲ了解セルヤ否ヲ測リ知ルノミニシテ、絶エテ聽講者ノ疑問ヲ聽カサルヲ以テ、教授學習ノ事、常ニ隔靴ノ憾ヲ免ル、コト能ハサレハナリ。○是故ニ若シ教師自ラ生徒ヲ補助シテ、教授セシ事ヲ丁寧ニ復習セシメ、以テ誤解スルコトナカラシムルノ制アレハ甚ダ、可ナリ。然ルニ獨乙ノ大學校ニハ、此ノ如キ制アラサルヲ以テ、前條ノ如キ弊害最モ著明ナリ。故チ以テ教師動モスレハ、自己ノ教授スル處、實ニ許多生徒ノ力ニ應セサル高尙ノ事ナリヤ、將許多生徒ノ既ニ熟知セ、淺近ノ事ナルヤチ、曉得セサルニ至リ、且ツ許多生徒モ亦徒ニ講義ヲ聽クヲ以テ足レリトシテ、敢テ復習研究セント欲スルニ至ラス。○此弊ヲ矯メント欲セハ、義席ノ外ニ、猶又復習席ヲ設ケ、而シテ此席ニ於テ生徒ヲシテ教師ノ補助ヲ受ケテ、復習セシメ、而シテ師弟ヲシテ親シク言語ヲ以テ問答應對セシムルヲ真好トス。獨乙ノ大學校ニ、於テハ、此ノ如キ復習席ヲ設ケ、此ノ如キ學習ノ方法ヲ設クルコト實ニ至要ト云フ可ク、而シテ國家亦是等ノ事ニ心ヲ用ヒ力ヲ盡スヲ要ス。但シ景況ニ隨テ、其施行ノ方法ヲ異ニスルハ、決シテ難カラズ。

〔乙〕教導スヘキ事理モ亦、決シテ國家ノ指揮スヘキコトニアラス。國家ハ唯常ニ教導ニ注意シテ、決シテ緊要ナル學科ノ教導ヲ意ラサラシムルノ權アリ、且ツ教師ニ教導ノ自由權アリト雖モ、之ヲ以テ決シテ教導セリルノ自由ト爲ス可ラス。○但シ各科ノ博士ハ、自ラ欲スル所ノ事ヲ講議スルノ權アリ、而シテ總令ヒ殆ト他科ニ屬スヘキ事ヲ教授スルコトアリ。之ヲ禁止セサルヲ以テ通則トナス。獨乙ノ大學校ニ於テハ、非職教師モ亦、通常此ノ如キ自由權ヲ受ク、去レハ非職教師若シ一種ノ事（按）一科中ノ一種ノ事ナリ）ノミニ熱心セシメテ明瞭ナル時ニ方リテハ、本科博士ノ權ヲ以テ、非職教師ノ權ヲ限制シテ、唯其一種ノ事ノ教授ノミニ從事セシムルコト當然ナリ。

〔丙〕教師若シ教導自由ノ權ヲ恣行シテ、大ニ學問ノ妨害ヲ生スルニ方リ、大學校ノ創立者、及ヒ其掌務者ナル國家之ニ容喙シテ、其恣行ヲ防制セシムルハ、如何ナル時機ニ於テシ、及ヒ如何ナル方法ヲ以テスルヲ、當然ト爲スヤト云。ル疑問起ルコトアリ、而シテ論理上ニ於テ之ニ答フルハ、甚ク難カラスト雖モ、實際上ニ於テ、此ノ如キ時機、及ヒ此ノ如キ方法ヲ決定セント欲セハ、必ス先ツ綿密ニ其事情ヲ考思シ、及ヒ能ク自由ノ道理ニ着眼セサル可カラズ。頗ル難事ト云フ可シ。○教師專ラ眞理ヲ究メテ、教育ヲ施スト云フハ、其中或ハ眞理ニ背ケル謬見ナキ能ハス、然レニ謬見アルニ方リ、國家直ニ其說ニ容喙シテ之ヲ禁止セント欲スルカ如キハ、最モ正理ニ反ストス。蓋シ謬見ハ、學問研究ノ嚮導トナル者ニシテ、必ス學習ノ事ト相離レズキ者ナリ、凡ソ教師若シ謬誤ヲ吐露スルニ方リテ、決シテ學問上ノ大權ヲ握ル能ハサル國家、其不可ヲ督シテ、之ヲ禁止セント欲スルハ、豈之ヲ正理ニ合フト爲ス可ケンヤ、但シ若シ教師ノ學識甚ク淺陋ナルハ、少ク見ユルハ、於テハ國家別ニ眞正ノ學識アル教師ヲ選任シテ、教授ヲ掌ラシメ、以テ眞偽ノ一教師ヲシテ、自由ニ相競ハシム可シ。

○心性學問ニ於テ、諸派教師ノ議論全ク相別ル、ト多シ、但シ國家ノ權トイヘハ、人ノ謬見ヲ禁止スルコトハ、決シテ能ハサル所ナリ。

然レハ大學校ノ教導若シ公然ト、國家法制ノ基本ニ妨害アルハ（例ハ、教師其教導ニ於テ、頗獲（レ）ホルコトオン）ヲ謀ルヲ以テ、國家治安ノ眞正ナル原則ナリトシテ論議シ、或ハコムムニスムス（按）

私有財産等ヲ始メ、人世萬緒ノ事ヲ、務メテ均一ニナスノ制度）ヲ以テ、眞正ノ私法トシテ論議スルカ如シ、或ハ其教導全ク學校ノ要旨ト相反スルハ（例ハ、神學ノ教導ニ於テ、基督敎ヲ毀壞スル論ヲ發スルカ如シ）又ハ教師ノ講義不正ニシテ、遂ニ世間ノ風俗ニ傷害アル等ニ於テハ、國家ハ管ニ正論ヲ以テ、此種惡論ヲ制壓スルノミナラス、必又權力ヲ以テ之ヲ禁止スルノ權利ヲ施行スヘキコト、固ヨリ當然ナリ、是故ニ教導ノ方法、若シ國家及ヒ學校ノ妨害トナルハ、於テハ、教導自由ノ權利モ全ク其用ヲ爲サ、ルニ至ルナリ。○凡ソ博士ノ教導ヲ掌ルハ、實ニ公衆ノ爲メニスル所ナレハ、公衆ノ秩序、及ヒ安寧ヲ保全セシカ爲メニ、此自由權ヲ限制スルハ、固ヨリ、己ムヲ得サ、ルノ理ト云フ可シ。蓋シ國家他日ノ盛衰存亡ハ、實ニ今日少年輩ノ知識開明如何ニ由ル者ナレハ、國家ハ必ス其教師ヲ選用スルコトニ、最モ意ヲ用ササル可ラス。然ルニ此用意或ハ粗濶ニシテ、不真ノ教師ニ教導ヲ委スルハ、其教導遂ニ不正ニ流レテ、却テ少年輩ノ才德ヲ毀損スルニ至ルハ、必然ナリ、而シテ此決シテ少年ノ罪ニアラス、實ニ國家自ラ犯ス所ノ罪ナリ、豈微マサル可ケンヤ。

○但シ總令ヒ實ニ己ムヲ得サルコトアリテ、教導自由ノ權ヲ限制スルトモ、眞正ニシテ、且緊要ナル教導自由ハ、必ス意ヲ用サテ限制セサルヲ要ス。蓋シ此自由權ヲ限制スル害タルハ、教師自ラ教導自由ノ權ヲ恣行スルノ害ヨリモ、更ニ甚シキニ至ル可シ。其他國家ハ決シテ瑣小ノ事故ヲ以テ、其自由權ヲ限制ス可ラス、唯此自由權ノ弊害、實ニ巨大トナリテ、容易ニ除去ス可ラサルハ、於テノミ己ムヲ得ス限制ヲ用サ可シ、但シ著述者ノ自由權ハ、決シテ教導自由ノ權ト同シク限制ス可ラス。著述者ニハ必ス更ニ大ナル自由權ヲ與フルヲ要ス。○但シ教導ノ自由權ヲ限制ス可キト否トハ、決スルハ、條理上ニ於テハ、甚ク難カラズト雖モ、實際ニ涉リ、其是非ヲ審判スルニ至リテハ、大ニ難事ナキ能ハス。蓋シ此自由權ニ就テ、若シ爭論起ルコトアルニ方リテハ、不羈ニシテ且學識アル博士（ゲシユナルチ）ノ判定ニ任スルヲ好シトス。然ルハ決シテ政府ニ向テ、管理ノ不平ヲ唱ル者アリナシ。

〔第六〕生徒受教ノ自由ハ、其理宛カモ教師教導ノ自由ト相同シ、是故ニ受教ノ自由モ亦宜シク學

校ノ目的ニ從テ限制ス可ク、且ツ此自由ヲ以テ決シテ教授ヲ受ケタルノ自由ト視做ス可ラス、○凡ソ弱年ニシテ、學問ノ蘊奧ヲ究メント欲スル大學生ハ、必ズ自由權ヲ保有セサル可ラス、蓋シ此自由權ハ、學事勉勵ノ爲メニ、勇氣ト歡樂ヲ増益シ、及ヒ博學ノ徒ヲシテ未タ曾テ窺ハシメサル、寶庫ヲ開ク爲メノ管鑰ヲ與フル者ナリ、是故ニ生徒如何ナル教師ノ教授ヲ受クヘキヤ、或ハ如何ナル學科ヲ研究スヘキヤ等ノ一ヲ撰定スルハ、全ク自己ノ所見ニ隨テ可ナリ、且ツ大學校ニ於テハ、決シテ聽講ノ規則ヲ立ツ可ラス、下等學校ノ如キハ、此規則アリ、學習ノ爲メニ大益アリト雖モ、大學校ニ於テハ却テ害アリ、○但シ教師等自己ノ意見ヲ以テ、生徒ノ學習ス可キ事ノ前後緩急等ヲ示教スルハ當然ノ一ト云フ可ク、加之、實ニ未タ事ニ慣レサル生徒ヲ補助シテ、之ヲノ學習ノ事ニ就テ、其弊害ヲ免レシメント欲スレハ、此事誠ニ緊要ナリ、蓋シ榮譽ト自由トハ、大ニ學習訓練ノ事ヲ獎勵スルノ具ナリ、故ニ此二者ハ固ヨリ放縱ナラシム可ラスト雖モ、又妄ニ之ヲ輕視シ、或ハ之ヲ認許セサルカ如キハ、大ニ不可ナリ、

第十二款 集賢館(アカデミー)

(第一)國家、人材教育ノ爲ニ設置スル所ノ最上等ノ學校ハ、即チ大學校(ウニベルシテート)ニシテ、又學事ノ爲ニ設クル最上等ノ處ハ、即チ集賢館ナリ、但シ其實ニ至リテハ、或ハ茲ニ説クカ如クナラサレドモ、素ト此二個ノ學院ヲ建ツルノ旨意ハ、當ニ此ノ如クナル可シ、佛國ニ於テハ、リシエリウ(二千五百八十五年ニ生レ、六百四十六年ニ死ス)及ヒ路易第十四(千六百三十八年ニ生レ、四十三(即位)年ニ即位シ、七百十五年ニ死ス)夙ニカチ斯ニ盡シテ、盛大高尚ナル集賢館ヲ設ケシカモ、他各國ノ集賢館ハ、未タ曾テ佛國ノ如ク盛大ナルニハ至ラサリキ、獨リ獨乙ニテハ、ライブニツ(二千六百四十六年ニ生レ、七百十六年ニ死ス)專ラ辛苦艱難ヲ侵シテ、新ニ集賢館ノ創立ヲ企テシカモ、能ク其志ヲ繼テ、之ヲ全ウスル者アラサリキ、佛國ノ集賢館スラ猶且ツ其事業創立ノ時ニ方リテ、考定セシ旨意ニハ、遠ク及ハサリキ、

況ンヤ、獨乙、英國、以太利、峨羅斯等ニ於テハ、其遠ク之ニ及ハサルハ固ヨリナリ、○集賢館ノ始メテ起リタル、猶斯ノ如ク遲ウシテ、實ニ今日ノ勢漸ク之ヲ盛大ニナスヘキノ時ナリ、故ニ此志ヲ達セント欲セハ、全ク改革ヲ施ス一恐ラクハ緊要ナラン、今日若シ力ヲ盡シテ大改革ヲ謀ルキハ、蓋シ大功ヲ奏スル一、至難ト云フ可ラス、但シ今日ヨリ其奏功ノ景況ヲ測定セント欲スルハ、決シテ能ハサル所ナリ、世人或ハ集賢館從來ノ事業ヲ論シテ、絶エテ觀ルニ足ル者アラスト云フト雖モ、是甚タ失當ノ論ト云フ可シ、但シ學者ノ各個ニ爲セル事業、及シ學者數名相結ヘル義會ニテ施セル事業ノ如キハ、或ハ大ニ功益ヲ興フ一アリト雖モ、此學者輩俱ニ集賢館ノ事業ヲ施スニ至リテハ、其功益觀ルニ足ル者多カラスシテ、却テ私ニ施セル事業ノ功益ニ及ハサルノ弊アルヲ免レズ、國家ハ特ニ集賢館ヲ以テ諸學院ノ最上等ト爲フト雖モ、其奏功ニ至リテハ、決シテ其地位ニ適セサルノ弊實ニ之レアリ、○斯高尊ノ地位ヲ占メ、榮譽ヲ帶ヒタル集賢館ニシテ、其事業ノ功益獨リ甚ク大ナラサルハ何ソヤ、蓋シ集賢館ハ、實ニ何物タルヤノ理、未タ明カナラサルカ爲メ歟、抑、未タ實ニ集賢館ノ趣旨ニ適スヘキ制度アラサルカ爲メ歟、

人多クハ集賢館ヲ以テ、唯賢儒碩學ノ輩、自ラ好テ會社ヲ結ビ、而シテ互ニ學事ヲ討論琢磨シ、及ヒ世人ノ儀表トナリテ、世ノ開明ヲ勸誘スル者トナシ、而シテ其事業タルヤ、學校ニ於テ專ラ生徒ノ教導ヲ掌ル者トハ、全ク相異ニシテ、唯名儒碩學輩、自己ノ意ニ從テ、互ヒニ其發揮スル所ヲ受授シ、學業ヲ獎勵シ、及ヒ裨益シ、以テ學問ノ區域ヲ大スルヲ旨トスヘキ者ト爲セリ、

去レドモ此ノ如キ所見ハ未、其眞理ヲ盡セリトナス可ラス、凡ソ學問ニ係レルコトハ實ニ一個人ノ精神ニ屬スル者ニシテ、獨リ一個人ノ精神、能ク之ヲシテ發生セシメ、及ヒ能ク之ヲシテ進歩セシムルニ、未、曾テ會社ノ合力、能ク學問上ニ新發明ヲ爲セシコトアルヲ開カス、唯一個人其私業ノ勉勵ニ由テノミ、能ク學問ノ寶貨ヲ増殖シ、且能ク學問ノ開明ヲ裨益セタルノミ、○是故ニ集賢館ニ於テ、賢儒碩學ノ會同ニ由テ、新發明ヲ爲シ、及ヒ學問ノ寶貨ヲ増殖セシコトハ、未タ曾テ之レアラズ、唯集賢館學士ハ、或ハ草莽學者ヲ裨助シ、博學院(按)學術ニ要スル書籍器械、及ヒ物品等ヲ貯貯

スル處ヲ云フ)ヲ建立セシメ、或ハ草莽學士ニ集賢館建ツル所ノ博學院ニ就テ、學術ノ研究ヲ爲
 スヲ許シ、或ハ公費ヲ以テ、草莽學者ノ學業上ニ要スル費用ヲ補償シ、或ハ公費ヲ以テ、私人著
 述スル所ノ書ヲ出版スル等、以上總テ大ニ草莽學者ノ學業ヲ裨益スルノ功アリ、去レヒ之ヲ要スル
 ニ、是等ノコトハ、皆以テ集賢館ノ本務ト云フニ足ラスシテ、或ハ私人ノ力ト雖モ、亦能ク之ヲ辦スル
 キノミ、是故ニ集賢館、總令ヒ僅ニ是等ノコトニ力ヲ盡スモ、未ダ曾テ直ニ學問ノ進歩ニ力ヲ盡セリ
 ト云フニ足ラス、實ニ直ニ學問ノ進歩ニ力ヲ盡スコトハ、全ク一個人ニ任スルヲ要ス、決シテ集賢館
 ノ主掌ト爲ス可ラス、○是故ニ若シ學問ノ區域ヲ増大スルコトヲ以テ、眞ニ集賢館ノ主掌ト認定スル
 所ハ、其事業ノ功益、實ニ觀ルニ足ルヘキ者ナク、決シテ一個人ノ私業ニ優ル所アラサルヲ以テ
 恐ラクハ集賢館ノ聲價ヲ以テ、殆ト賤小卑低ナル者ト爲スニ至ル可シ、
 是故ニ吾輩ハ、必ス他ノ事業ヲ以テ、集賢館領學會社ノ聲價ニ適セル職掌ト爲サント欲ス、凡ソ學問
 ノ事、輒近始メテ教會ノ看護ヲ脱セシ以來、未ダ能ク學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アル
 ナ見ス、若シ學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アリテ、且其制度、實ニ真正ヲ得レハ、絶エテ學問
 ノ自由ヲ妨害セズシテ、却テ天下學事互相ノ連絡ヲ通察シ、且學事ト公私諸事トノ關涉ヲ詳密ニ
 探索シ、及ヒ之ヲ尊重スルヲ得可シ、並ニ國家ノ權威ニ屬スヘキ學事監督、及ヒ其存願ヲ補助シ、此
 般ノ事ヲシテ、正理ニ合スルコトヲ得セシムルハ、甚ク難キニアラサルナリ、○右論スル所ノ諸件
 ノ如キハ、實ニ今日ニ在テ、國家人民ノ文化開明ヲ増進スルカ爲メニ、頗ル緊要ナルコト云フ可シ
 然ルニ今時ノ如キハ、上件ノ諸事ヲ掌ルヘキ者、未ダ猶アラサルカ故ニ、諸學事互相ノ連絡、及ヒ學
 事ト公私諸事トノ關涉等全ク消滅シテ、互ヒニ隔絶シ、互ニ分離スルニ至レリ、蓋シ精神靈魂ハ、人
 毎ニ自ラ相異ナル所少カラスト雖モ、必ス又互ニ一致合同スル所アル者ナリ、然ルニ斯諸學事ノ連
 絡、及ヒ學事ト公私諸事トノ關涉消滅シテ、互ニ隔絶分離スルカ如キハ、實ニ人性ニ戾リ、且國家ノ
 要務ニモ、相反スル者ト云フ可シ、
 凡ソ學問ノ開明進歩ヲ促シ、及國家人民ノ公益共利ヲ増進サント欲セハ、必ス右論スルカ如ク、天下學

林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アラサル可ラス、而シテ此統括者ハ、敢テ各個學士ノ事業ヲ補
 足贊成スルヲ以テ、其務メト爲スヲ要セス、必ス國家ト學問トノ關係ヲ省察管理シ、而シテ偶々諸學
 事ノ連絡、及ヒ學事ト公私諸事トノ關涉消滅シテ、互ニ隔絶分離スルニ至レテ、能ク此連
 絡關涉ヲ保全スルヲ以テ、其務メトナスヲ要ス、○且ツ此統括者ハ、必ス其中央ノ凸處ニ位シテ、常
 ニ左ノ數件ヲ掌理スルヲ緊要ト爲ス、即チ天下學事ノ景狀ヲ洞視監察シ、學問ノ盛衰隆替ヲ起ス所
 ノ原因如何ヲ探索シ、學問上ニ功勞アル者ヲ尊重シ、學問ノ上進ヲ補助スルニ、國家ノ補助ヲ要ス
 ルコトアレハ、之ヲ助補シ、實ニ學問ノ妨害トナルヘキ者ヲ調除シ、學事ノ私會社、或ハ碩學鴻儒等
 ト相接シ、及ヒ學問ノ爲メニ博學院ヲ設ケ、更ニ盛大ニナス諸件ヲ云フナリ、○蓋シ若シ右等ノ事
 ナリテ、集賢館學士ノ職掌トナスノ制度ヲ立ルルハ、集賢館學士ハ、即チ教育部員(クルツースミニス
 テリウム)〔按〕神道及ヒ諸學術ノ事務ヲ掌ル者ヲ云フ〕ノ參議官ノ如キ者ニシテ、例ヘハ議政官)ス
 ターツテ(按)卷之七第六款ニ詳ナリ)タル者、君主ノ參議官トナリテ、立法施政ノ商議ニ加ハ
 ルカ如シ、是故ニ若シ此意ヲ以テ集賢館ノ學士ヲ選任シ、以テ其職務ニ從事セシムルニ至ラハ、此
 學士等ハ、實ニ天下學林ノ上位ヲ占ムルノ名アルノミナラス、其實モ亦眞ニ此名ニ適合スト云フ
 可シ、
 從來存スル所ノ集賢館ニハ、某二三ノ學科ヲ缺キ、唯專ラ數學及ヒ物體理學ト、史學及ヒ心性理學ト
 ナ主的ト爲ス、去レモ此制度ハ甚ク可ナラス、余カ見テ以テスレハ、集賢館實ニ天下學林ノ中央ニ凸
 處ヲ占メテ、常ニ天下ノ學事ヲ洞視監察セント欲スルルハ、其館ノ制ヲ設定スル、必ス學問ノ大要
 種類ト、及ヒ其制度トニ從ハサル可ラス、然ルニ從來集賢館ニ於テ、學問研究ノコトヲ旨ト爲スカ故
 ニ此館ノ實際ニ功益ヲ爲スコト甚ク僅々ナルノ大弊ヲ生シタリ、但シ此館ノ設置スルノ本意タルヤ、
 決シテ其學士ヲシテ、直ニ學問ノ開明ニ從事セシムルカ爲メニアラスシテ、總テ世道ノ上達ヲ省察
 セシムルカ爲メナリト云フノ理明瞭トナレハ、從來ノ制度ハ、決シテ此本意ヲ達スルニ足ラザリシ
 者ナルコト、亦自ラ明瞭ナル可シ、
 是故ニ專ラ國家ノ治體ニ著限シテ、集賢館ヲ設置スルルハ、(佛國ノ集賢館ハ、稍々此目的ヲ以テ設

立スル者ナリ。學問文事ニ於テ、卓絶ノ名ヲ得タル輩ハ、總テ其學科流派ニ拘ハラズ、必ス之ヲ拔擢セサル可ラス、神學者法學者ノ如キモ或ハ之ヲ除キ、或ハ徒ニ之ヲ員外ニ置ク可ラス、若シ此ノ如クスルハ、之ニ由テ遂ニ學問ト實地トノ關係ヲ毀損スルニ至ル可シ、何者、神學者、法學者ノ如キモ、亦必ス世道ノ開明上進ニ於テ、大ニ利害ヲ生スル者ナレハナリ、蓋シ國家ハ齒ニ大小學校ノ教導ヲ省察シテ、之ヲシテ世道ニ利アラシムルヲ以テ足レリト爲スノミナラス、必ク亦賢儒碩學ノ相合セル集賢館ヲシテ、實ニ世道ニ利アラシムルヲ要ス。

集賢館ノ事業ハ、大抵左ノ諸學ニ隨テ區分ス可シ、即チ第一物體理學、但シ醫學亦或ハ之ニ屬スヘシ、第二心性理學、但シ殊ニ博文學、及ヒ學制ニ係レルコトニ專テ關係ス、第三政治學、史學、但シ國家學及ヒ法學亦此科中ニ屬ス、第四神學、但シ殊ニ學問開明ノ次第ニ著意スルヲ旨トス、第五美文學、(シテニテ、リテラツル)按シ殊ニ詩學ヲ云フ)但シ國家從來此學ヲ以テ殆ト無益ノ者ノ如クナスト雖モ其利益タル、決シテ少ナカラス。

(第三)若シ集賢館從來ノ職掌及ヒ編制ヲ改メテ上章ニ論スルカ如ク爲スルハ、其學士ノ講義法モ亦隨テ改革セサル可ラス、ヤロコップグリム(獨乙人、一千七百八十五年ニ生ル)ノ論ニ、凡ソ將來事業ノ萌芽ヲ産出シ、及ヒ學問ノ爲ニ豐富ノ材料ヲ育成スルハ、集賢館ノ講義ヨリ優ル者アラスト云ヒシカハ、此說實ニ當レリト云フ可ラス、但シ集賢館出版ノ舊籍中記載スル所ノ新奇ノ論說等ハ決シテ忽視ス可ラスト雖モ、是等ノコトハ、決シテ集賢館ノ要務ト云フニ足ラス、是故ニ凡ソ集賢館學士ノ講義ハ、專ラ各學科開明進歩ノ次第ヲ明白ニ指示シ、及ヒ學問ノ實際上ニ利害ヲ生スル如何學問ノ得失如何等ヲ確實ニ辨明スルヲ主旨トスヘシ。○但シ集賢館ニ於テハ、決シテ、講義ヲ以テ要務トナス可ラス、蓋シ講義ヲ以テ要務トナスカ如キハ、彼ノ專ラ學問ノ進歩ニ從事シ、且シ學問ノ開明ニ由テ、眞誠ナリト認定セラレシコトヲ、廣ク傳播スルヲ旨トナセル集賢館(按シ從來ノ集賢館ヲ云)ニ於テ、專ラ撰取(按シ明論確說ヲ撰取ナルヲ云フ)ト陳說(按シ集賢館學士等、自ラ明論確說ナリトスル所ヲ陳說スルヲ云)トヲ以テ、其要務トナスヨリモ、更ニ不可ナリトス。

譯者曰、本款ノ意甚タ錯雜シテ、殆ト解シ難キカ如シト雖モ、之ヲ要スルニ、集賢館ハ自ラ學問上ノ發明進歩ニ從事スルコトナリ、特ニ學問ノ景況ヲ省察シ、及ヒ學問ト實際トノ關係ヲ眷顧シ、而テ學問ヲシテ、實ニ世道ノ上進、人智ノ開明ニ裨益セシムルコトヲ以テ、其主務ト爲スヘキ所以ヲ論說スルナリ。

大井潤一 校

23/10/40

明治十三年十一月十八日 縦刻御届
同 年 同 月 刻 成

出 版 人

大坂府 平民

岡 島 真 七

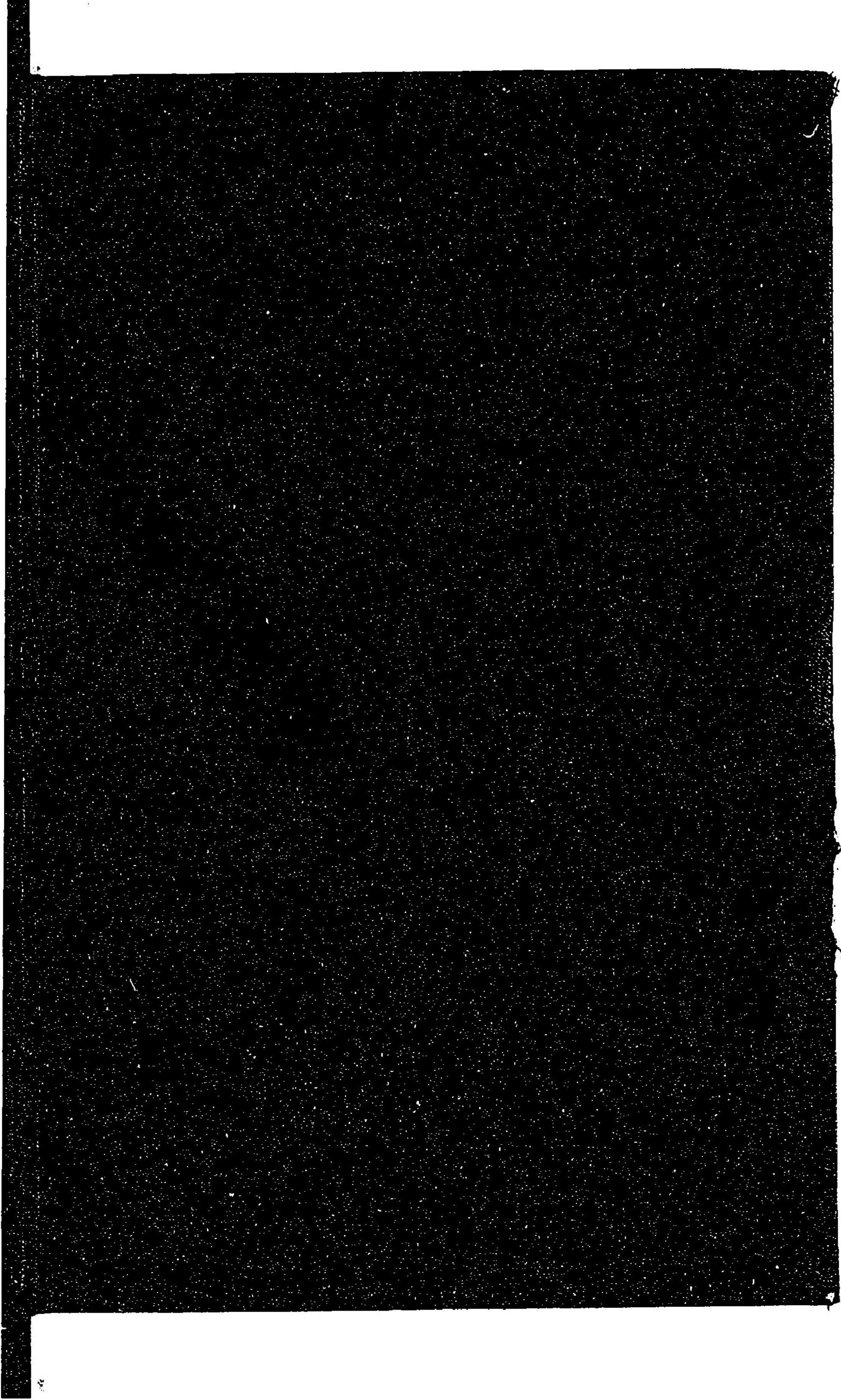
大坂府下東區本町四丁目五十
九番地

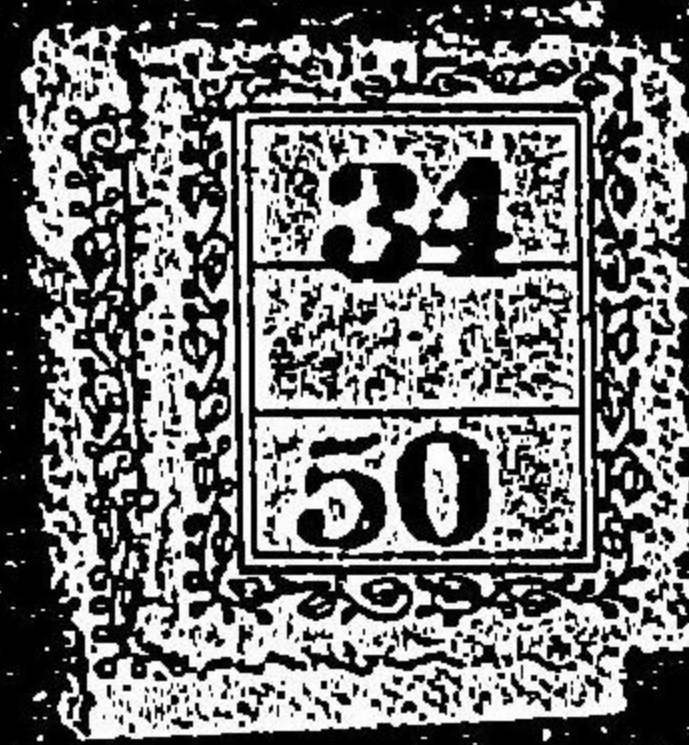
印 刷

岡 島 活 版 所

大坂府下東區本町四丁目六十
番地

34
50





031560-000-7

34-50

国法汎論 首巻, 巻6-9

ヨハン・カスパルト・ブルンチュリー / 著

M13

BBE-0174

